

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 38

令和3年度発掘調査報告

(第2分冊)

武蔵大路周辺遺跡

佐助ヶ谷遺跡

令和4年3月

鎌倉市教育委員会



武蔵大路周辺遺跡（扇ガ谷三丁目 451 番の一部地点）2 区 2 面
かわらけ出土状況（写真上が西）



佐助ヶ谷遺跡（佐助一丁目 601 番 6 地点）1 C 区 2-3 面出土 漆器蓋

ごあいさつ

本市は、市城の6割以上が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、遺跡が眠る土地の上で多くの市民が生活を送っています。そのため、家屋や店舗の新築や建替え等に伴い、遺跡に影響を及ぼす工事が行われることも多くあります。このように、私たちが日々の生活を送っていく上でやむを得ず失われる埋蔵文化財について、記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅の建築等に係る発掘調査を実施しています。本書は平成30年度～令和3年度に実施した、個人専用住宅の建築等に伴う発掘調査4か所の調査記録を掲載しています。そのうち、若宮大路周辺遺跡群の調査では、疫病除けのまじないに使う蘇民将来札が出土しました。鎌倉時代の人々も疫病に立ち向かって生きていたことが良く分かる資料です。

このように、本書に収めたひとつひとつの調査成果は様々な内容ですが、いずれも武家政権発祥の地であり、今もその歴史を継承し文化を発信する鎌倉の貴重な文化遺産です。これらの成果を広く知っていただくとともに、研究資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、関係者の皆様に深いご理解を賜るとともに、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

令和4年3月25日
鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は令和3年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第2分冊）である。
- 2 本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第2分冊 目次

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の令和元令和2年度発掘調査地点一覧	IV
調査地点位置図	V
3 武蔵大路周辺遺跡 (No.194) 扇ガ谷三丁目 451 番の一部地点	
第一章 調査に至る経緯	7
第二章 遺跡の位置と歴史的環境	7
第三章 調査の経過と方法	13
第四章 基本土層	14
第五章 検出遺構と出土遺物	18
第六章 調査成果のまとめ	153
付編1 武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体	156
付編2 武蔵大路周辺遺跡の花粉分析、プラントオパール分析、寄生虫卵分析	161
4 佐助ヶ谷遺跡 (No.202) 佐助一丁目 601 番6 地点	
第一章 調査に至る経緯	249
第二章 遺跡の位置と歴史的環境	249
第三章 調査の経過と方法	253
第四章 基本土層	253
第五章 検出遺構と出土遺物	255
第六章 調査成果のまとめ	316

本誌掲載の令和元年・令和2年度発掘調査地点一覧

第2分冊

	遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	遺跡種別	調査面積	調 査 期 間
3	武蔵大路周辺遺跡 (No. 194)	扇ガ谷三丁目451番の一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市 城館跡	96.35	令和元年12月10日 ～令和2年5月8日
4	佐助ヶ谷遺跡 (No. 203)	佐助一丁目601番6	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡 社寺跡	113.00	令和2年9月1日 ～令和2年12月25日

鎌倉市全図

令和3年度の緊急森林調査地点(1~5)
本書掲載の平成30年度~令和3年度発掘調査地点(①・③・④)
※遺跡名は一覧表を参照 1と②は同地点のため②は省略



武蔵大路周辺遺跡 (No. 194)

扇ガ谷三丁目 451 番の一部地点

例 言

1. 本報告は、鎌倉市扇ガ谷三丁目451番の一部において実施した、「武蔵大路周辺遺跡」（鎌倉市 No.194 遺跡）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は令和元年12月10日から令和2年5月8日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、96.35 m²である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者	押木弘己
調査員	菅野知子、廣田倫子
作業員	小日照男、鯉沼 隼、寺尾征夫、高柳雅一、小林貞明、新倉恒勝、深谷敏之、横山勝雄、和田 隆（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）
調査協力	株式会社 斉藤建設
資料整理・報告書作成	押木、菅野、廣田、伊丹まどか、岩崎卓治、太田しのぶ、岡本夏菜、小川さやか、菊川 泉、清水由加里、須佐直子、須佐仁和、梅岡ケイト、正木恵子、村松彩美、吉田桂子
4. 本報告の執筆は、第一章を米澤雅美が、第二章～第六章を押木が行った。また、表4の遺物観察表における漆器文様の名称は、伊丹の所見に拠った。
5. 資料整理および本報告の作成は、鎌倉市文化財課分室で行った。
6. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「MO1903」とし、出土品への注記などに使用した。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（JGD2011- Ⅸ系）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09' 25"ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水糸高は、海抜値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
 - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年—東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要 第56号 第4部 人文・社会・自然科学編』鶴見大学
 - ◆瓦質土器：河野真知郎 1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈川 第2集』神奈川県考古学会
 - ◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』大宰府市教育委員会 2000
 - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史 別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県 2012
 - ◆遺物観察表（表3）のうち、かわらけ胎土の分類記号（A～E）は以下の内容を示す。

A	: 粉質	B	: 泥質	C	: 精良・硬質	D	: 泥質・精良	E	: 砂質・硬質
---	------	---	------	---	---------	---	---------	---	---------

これらはいずれも在地産土器であり、基本的に白色針状物質（骨針化石）・泥岩粒・雲母片などの混入物を含むが、個体ごとに有無・多寡もある。大よそE・D→B・C→Aという順で新しくなり、Cは所謂「薄手丸深型」に、Aは所謂「戦国タイプ」に使用される。

目次

本文目次

第一章 調査に至る経緯	7
第二章 遺跡の位置と歴史的環境	
第1節 遺跡の位置と沿革	7
第2節 周辺の発掘調査成果	10
第三章 調査の経過と方法	
第1節 調査の経過	13
第2節 調査の方法	14
第四章 基本土層	14
第五章 検出遺構と出土遺物	
第1節 検出遺構	18
第2節 出土遺物	31
第六章 調査成果のまとめ	
第1節 調査の課題	153
第2節 出土かわらけと遺跡の年代	153
第3節 築地状遺構について	154
第4節 出土遺物の特徴	155
第5節 まとめ	155
付編1 武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体	156
付編2 武蔵大路周辺遺跡の花粉分析、プラント・オパール分析、寄生虫卵分析	161

表目次

表1 武蔵大路周辺遺跡群（扇ガ谷三丁目451番の一部）発掘調査にかかる届出等の文書	7	表3 出土遺物カウント・計量表	95～105
表2 周辺の主な調査地点	10	表4 出土遺物観察表	106～152

挿図目次

図1 調査地点の位置	9	図10 6面全体図	26
図2 調査区配置図	13	図11 6b面全体図	28
図3 土層断面図（上段）	15	図12 7面全体図	29
図4 土層断面図（下段）	17	図13 8面全体図	30
図5 1面全体図	19	図14 出土遺物（1）	34
図6 2面全体図	21	図15 出土遺物（2）	35
図7 2b面全体図	22	図16 出土遺物（3）	36
図8 2b面下全体図	24	図17 出土遺物（4）	37
図9 5面全体図	25	図18 出土遺物（5）	38

图 19 出土遗物 (6)	39	图 47 出土遗物 (34)	67
图 20 出土遗物 (7)	40	图 48 出土遗物 (35)	68
图 21 出土遗物 (8)	41	图 49 出土遗物 (36)	69
图 22 出土遗物 (9)	42	图 50 出土遗物 (37)	70
图 23 出土遗物 (10)	43	图 51 出土遗物 (38)	71
图 24 出土遗物 (11)	44	图 52 出土遗物 (39)	72
图 25 出土遗物 (12)	45	图 53 出土遗物 (40)	73
图 26 出土遗物 (13)	46	图 54 出土遗物 (41)	74
图 27 出土遗物 (14)	47	图 55 出土遗物 (42)	75
图 28 出土遗物 (15)	48	图 56 出土遗物 (43)	76
图 29 出土遗物 (16)	49	图 57 出土遗物 (44)	77
图 30 出土遗物 (17)	50	图 58 出土遗物 (45)	78
图 31 出土遗物 (18)	51	图 59 出土遗物 (46)	79
图 32 出土遗物 (19)	52	图 60 出土遗物 (47)	80
图 33 出土遗物 (20)	53	图 61 出土遗物 (48)	81
图 34 出土遗物 (21)	54	图 62 出土遗物 (49)	82
图 35 出土遗物 (22)	55	图 63 出土遗物 (50)	83
图 36 出土遗物 (23)	56	图 64 出土遗物 (51)	84
图 37 出土遗物 (24)	57	图 65 出土遗物 (52)	85
图 38 出土遗物 (25)	58	图 66 出土遗物 (53)	86
图 39 出土遗物 (26)	59	图 67 出土遗物 (54)	87
图 40 出土遗物 (27)	60	图 68 出土遗物 (55)	88
图 41 出土遗物 (28)	61	图 69 出土遗物 (56)	89
图 42 出土遗物 (29)	62	图 70 出土遗物 (57)	90
图 43 出土遗物 (30)	63	图 71 出土遗物 (58)	91
图 44 出土遗物 (31)	64	图 72 出土遗物 (59)	92
图 45 出土遗物 (32)	65	图 73 出土遗物 (60)	93
图 46 出土遗物 (33)	66	图 74 出土遗物 (61)	94

写真図版目次

図版 1

1. I 区 表土掘削前 (北西から)
2. I 区 表土掘削状況 (南西から)
3. I A 区 1 面 全景 (北から)
4. I A 区 1 面 全景 (西から)
5. I A 区 1 面 全景 (北東から)

図版 2

1. I A 区 1 面 全景 (南から)
2. I A 区 1 面 土坑 1 (西から)
3. I A 区 1 面下 全景 (北から)
4. I A 区 1 面下 全景 (北東から)
5. I A 区 1 面下 木組み 1 (西から)

図版 3

1. I A 区 2 面 全景 (北から)
2. I A 区 2 面 木組み遺構 (北西から)
3. I A 区 2 面 木組み遺構 (南西から)
4. I A 区 2 面 南北築地状遺構下 (南東から)

図版 4

1. I A 区 2 面 全景 (北から)
2. I A 区 2 面 全景 (北東から)
3. I A 区 2 面 木組み遺構 (南西から)
4. I A 区 2 面 作業風景 (南西から)

図版 5

1. I A 区 2 面下 全景
(木組み護岸取り外し後・北から)
2. I A 区 5 面 泥岩塊集積 (北東から)
3. I A 区 5 面 泥岩塊集積 (東から)
4. I A 区 5 面上 遺構プラン (東から)
5. I A 区 5 面上 遺物出土状況 (瀬戸入子)

図版 6

1. I A 区 5 面 全景
(遺構プラン検出時・北から)
2. I A 区 5 面上 南部遺構プラン (西から)
3. I A 区 5 面上 南部遺構プラン (東から)
4. I A 区 5 面 北東部遺構プラン (東から)
5. I A 区 5 面上 遺物出土状況 (漆器碗)

図版 7

1. I A 区 5 面 全景 (北から)

2. I A 区 5 面 全景 (西から)
3. I A 区 5 面 南部 (東から)
4. I A 区 5 面 囲炉裏状痕跡 (西から)
5. I A 区 5 面上 遺物出土状況 (飾り板)

図版 8

1. I A 区 6 面 全景 (北から)
2. I A 区 6 面 南東部 (北東から)
3. I A 区 6 面 北西部 (北から)
4. I A 区 6 面 全景 (南西から)
5. I A 区 6 面 遺物出土状況 (漆器碗)

図版 9

1. I A 区 6 b 面 全景 (北から)
2. I A 区 6 b 面 全景 (西から)
3. I A 区 6 b 面 切石敷き遺構 (南から)
4. I A 区 6 b 面 南部炭層 (南から)
5. I A 区 6 b 面 北東部 (東から)

図版 10

1. I A 区 7 面 全景 (北から)
2. I A 区 7 面 全景 (西から)
3. I A 区 7 面 全景 (南から)
4. I A 区 7 面 木材出土状況 (東から)
5. I A 区 7 面 曲物出土状況 (西から)

図版 11

1. I A 区 7 面下トレンチ 全景 (南から)
2. I A 区 7 面下トレンチ南部 西壁土層断面
3. I A 区 7 面下トレンチ北部 西壁土層断面
4. I A 区 埋め戻し後 (南西から)
5. II 区 表土掘削状況 (北東から)

図版 12

1. I A 区 北壁土層断面
2. I A 区 東壁土層断面

図版 13

1. I A 区 2 面 木組み 1 下部角材 (北東から)
2. I A 区 西壁土層断面
(2 面 木組み 1 の落ち込み部分)

図版 14

1. II 区 表土除去後 (北から)
2. II 区 2 面 全景 (北から)

図版 15

1. II区2面 北部(北西から)
2. II区2面 東西築地状遺構(西から)
3. II区2面 東西築地状遺構(西から)
4. II区2面 東西築地状遺構断面(西から)
5. I B区・II区2面 全景(西から)

図版 16

1. I B区・II区2面
(上空から、写真上が北)
2. 南東区画2面 遺物出土状況
3. 南東区画2面 遺物出土状況
4. 南東区画2面 遺物出土状況
5. 南東区画2面 遺物出土状況

図版 17

1. I B区・II区2面(北西上空から)
2. 第1回空撮状況(2020年3月13日)
3. II区2面下(制限深度まで、北から)

図版 18

1. II区 2面下(制限深度まで、東から)
2. II区北壁 土層断面(南から)
3. II区北壁 土層断面
(2面かわらけ集中層、南から)

図版 19

1. I B区2 b面 全景(上空から、写真左が北)
2. I B区2 b面 全景(北から)

図版 20

1. I B区2 b面 東西築地状遺構下部(西から)
2. I B区2 b面 遺物出土状況
3. 北東区画2 b面(北から)
4. 南東区画2 b面(東から)
5. I B区2 b面 出土遺物
6. I B区2 b面 遺物取り上げ作業

図版 21

1. 北東区画2 b面(北から)
2. I B区2 b面下(西から)
3. 北東区画2 b面下 泥岩塊検出状況(北から)
4. 南東区画2 b面下 木組み遺構(北西から)
5. I B区2 b面下 遺物出土状況

図版 22

1. I B区6面上 遺物出土状況

2. I B区6面上 遺物出土状況

3. I B区6面上 遺物出土状況アップ

4. I B区6面上 遺物出土状況

5. I B区6面 全景(北から)

図版 23

1. I B区6面 全景(西から)
2. I B区6面 切石列・木組みなど(南西から)
3. I B区6面 木組み遺構 側面(西から)
4. I B区6面 竹垣(南東から)
5. I B区6面 竹垣アップ(南から)

図版 24

1. I B区 大雨後の冠水状況(2020年4月14日)
2. I B区7面 北半部(西から)
3. I B区7面 遺物出土状況(北西から)
4. I B区7面 遺物出土状況
5. I B区7面 遺物出土状況
6. I B区7面 遺物出土状況
7. I B区7面 遺物出土状況
8. I B区5面下～5面 遺物出土状況

図版 25

1. I B区7面 全景(西から)
○の位置で鋤先が出土
2. I B区 大雨後の冠水状況(2020年4月19日)
3. I B区7面 全景(北から)
4. I B区7面 北半部(北西から)
5. I B区7面 木組み遺構(北から)

図版 26

1. I B区7面 北半部(北から)
2. I B区7面 北半部(東から)

図版 27

1. I B区7面 溝1木組み護岸(西から)
2. I B区7面 溝1土層断面(西から)
3. I B区7面 溝1木組み護岸(北から)
4. I B区7面 溝1木組み護岸アップ(北から)
5. I B区7面 溝1木組み護岸(北西から)
6. I B区7面 溝1木組み護岸(北東から)
7. I B区 埋め戻し作業状況(北東から)
8. I B区 埋め戻し作業終了後(東から)

図版 28～75 出土遺物

第一章 調査に至る経緯

平成30年12月、当該地における土木工事について事業者より鎌倉市教育委員会文化財課へ相談があった。その内容は、現地地表下650cmに達する柱状改良工事を行う個人専用住宅建設の計画であった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、事前に行なった確認調査の結果、現況地盤面より深さ60cmで中世遺物包含層、100cmで遺構を確認し、更に下層まで遺跡が残存していることが確認された。その結果により、当該工事計画が埋蔵文化財に影響を及ぼすことが避けられないとの判断に至った。

平成31年4月22日付で事業者より文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出を受理した。これに対して、平成31年5月22日付で神奈川県教育委員会教育長より発掘調査を実施する旨の指示が通知され、当該地の埋蔵文化財については発掘調査を実施して、記録保存の措置を図ることとなった。事業者は令和元年11月29日付で鎌倉市教育委員会に発掘調査依頼書を提出し、発掘調査は令和元年12月10日に開始し、令和2年5月8日に終了した。

表1 武蔵大路周辺遺跡（扇ガ谷三丁目451番の一部）発掘調査にかかる届出等の文書

文書種別・内容	文書番号	日付	発信者	受信者	備考
確認調査	依頼	平成31年1月11日	事業者	鎌倉市教育委員会	
	実施	平成31年4月11日・12日			
文化財保護法93条	提出	平成31年4月22日	事業者	神奈川県教育委員会	
	通知	文遺第61022号 令和元年5月22日	神奈川県教育委員会	事業者	
出土品の手続き	発見届	令和2年5月14日	鎌倉市教育委員会	鎌倉警察署	
	保管証	令和2年5月14日	鎌倉市教育委員会	神奈川県教育委員会	
	認定と帰属	文遺第51006号 令和2年5月29日	神奈川県教育委員会	鎌倉市教育委員会 土地所有者	

第二章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と沿革

本調査地は鎌倉市扇ガ谷三丁目451番の一部に所在する。扇ガ谷地区は鎌倉旧市街の北西部に位置し、滑川の支流である扇川が形成した谷戸を中心に、ここから樹枝状に派生した支谷群で構成される。鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』に「扇谷」の名は見えず、「亀谷」が当地域の古地名であったとされる。鎌倉時代末期の『崇顕（金沢貞顕）書状』には「扇谷」からの出火に関する記述が見え、この時は「亀谷」～「浄光明寺西畑」まで順焼したという。『吾妻鏡』には、「亀谷辻」が建長三年十二月三日条に、ほぼ同じ場所と目される「武蔵大路下」が文永二年（1265）三月五日条に記載され、それぞれ鎌倉中で商売を許可された町屋（小町屋）免許地の一つとなっていたことが記されている。文字通り武蔵国方面へと抜ける要路の沿道に、幕府公認の商業地が存在していた状況が窺える。

今回の調査地は、数ある支谷のうち「亀谷」の開口部に所在する（図1-★）。図1に見るように、亀谷は扇ガ谷でも中心的位置を占める谷戸であり、現況では北に登る急峻な切り通し道を越えて、山内の長寿寺脇に至る。谷戸の幅は200m、奥行きは900mほどで、本地点近く、岩船地藏堂前の丁字路が上述した「亀谷辻」に当たるものと考えられている。扇ガ谷全体の「扇の要」ともいえる位置にあり、

こうした地勢の条件が、先に述べた交通の要衝に、延いては往來の頻繁な商業地へ、という地域的性格を形成していったことが推察される。こうした特性は鎌倉開府以前に遡つてであろうことは、源頼朝の父・義朝が「亀谷御旧跡」『吾妻鏡』治承四年（1180）十月七日条）なる居館を構えていたことから窺える。現在の亀谷山寿福寺境内がその比定地であり、ここを起点に、ほぼ真東に延びる六浦方面への道路と、現在の今小路を南に下り、旧鎌倉郡衙→古東海道を經由して、三浦半島から海路房総半島へと通じるルートが発しており、ここから、房総をはじめとする南関東各地に進出、権益確保を目論む義朝の意図が透けて見えそうである。

もう一つ、鎌倉時代の扇ガ谷地区を特徴付ける要素として、幕府草創期から京下り官人が多く足跡を残したことを指摘できる。早くには、源頼朝の側近である中原親能が「掃部頭亀谷家」に所在したことが『吾妻鏡』正治元年（1199）五月五日条に見え、彼の後裔である大友氏の宿所が扇谷の開口部、今の相馬天王社（地点d）の前面付近に所在していたことが、幕府滅亡直後の作成とされる『浄光明寺敷地絵図』の考証によって指摘されている。摂家・親王將軍の時代には、彼らに従って多くの廷臣が鎌倉へ下向するようになり、飛鳥井氏や堀川氏が泉谷・亀谷に住し、鎌倉歌壇の指導者と仰がれた冷泉為相は扇谷の邸宅を鎌倉の拠点として京都との往來を重ねたという。扇谷の南側尾根上には、為相の墓が残る（地点e）。正和四年（1313）には、將軍守邦親王の御所が焼亡したため、北条基時の「亀谷亭ニ御座り」という。扇ガ谷は鎌倉から北・西へ向かう出入り口の一つであり、京都との往還にも至便な土地であったことが、こうした京下り官人らの定着に影響を与えたのかもしれない。往來が盛んな賑わいある地区であった反面、支谷に一步足を踏み入れると、飯御所にもなり得る閑静な屋敷空間が広がっていたことが想像できる（大澤 2018）。

南北朝時代の当地域は、鎌倉公方の補佐役である関東管領を務めた上杉氏のひとつ、扇谷家が拠点としたことで知られる。同家自体は管領職に就くことはなかったが、鎌倉府に奉公する有力武家として、応永二十三年（1416）に起こった上杉禪秀の乱によって大懸家が没落すると、鎌倉府での勢力を強めて行ったとされる。扇谷家の始まりは頼定（1351？～1380）の代とされ、その子氏定は、禪秀の乱では扇谷から化粧坂に出陣して防戦していることから（『鎌倉大草子』）、15世紀初頭までには当地に拠点が置かれていたことが指摘されている。享徳の乱（享徳三年＝1454）を皮切りに、その翌年に鎌倉府が崩壊すると、扇谷上杉氏も鎌倉から相模国糟屋（神奈川県伊勢原市）に拠点を移して戦国期の関東を舞台に活躍するが、なお鎌倉にも屋敷を残していたようである。

本地点の北に接する大乗山薬王寺は、寛永年間（1624～1644）、前駿府藩主である徳川忠長の菩提を弔うために梅立寺として創建され、後に現在の寺名に改められたという。また、前身寺院として夜光寺が存在したと伝わる（図1-地点a）。

本地点の南にある岩船地藏堂も、年未詳ながら江戸時代前期の建立と伝えられ、源頼朝の息女である大姫を供養する目的であったとも伝わるが、定かでない（地点b）。

また、本地点が立地する谷戸は「勝縁ヶ谷」とも呼ばれ、かつて、この最奥部には坂中山正円寺という寺院が存在したという（地点c周辺か）。勝縁寺や莊遠寺といった様々な表記があり、坂中観音堂なども呼ばれたという。永仁四年（1296）に窟堂からの類焼を被ったといい、このことから鎌倉時代後期までの創建であったと推定されている（大三輪 2018）。

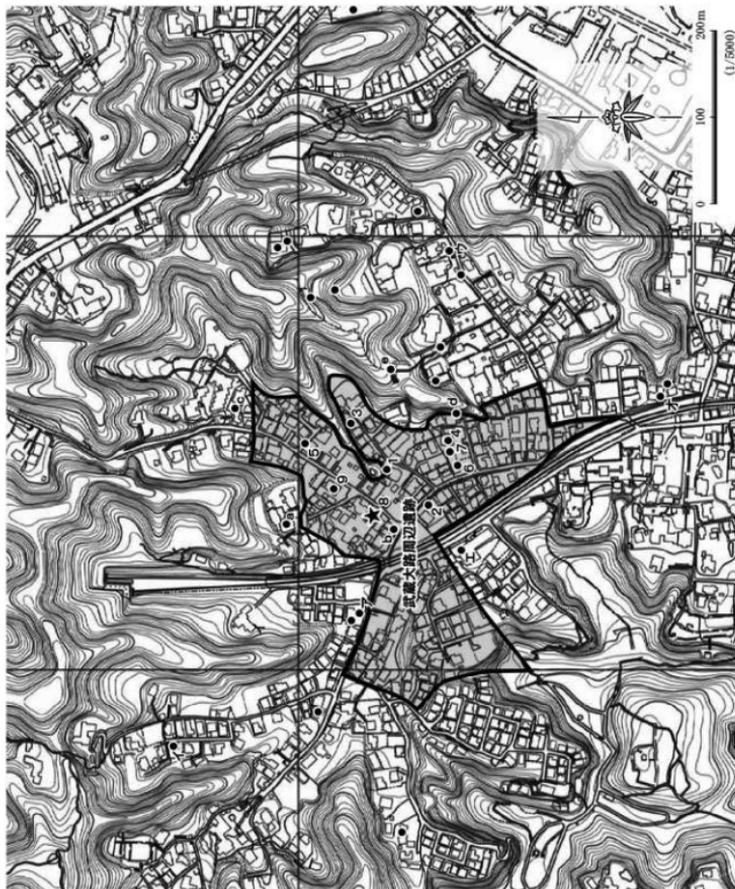


図1 調査地点の位置

第2節 周辺の発掘調査成果

武蔵大路周辺遺跡での発掘調査の件数は少なく、令和3年12月現在、9地点を数えるに過ぎない。大規模開発が少ない地域のため比較的小面積の調査が主体で、また、各地点が離れていることもあり、遺跡全体の性格を言及できるまでには調査成果の蓄積は進んでいない。

調査が比較的集中しているのは、相馬天王社と扇川とに挟まれた3地点(図1-地点4・6・7)で、地点4では、13世紀後半～15世紀前半にかけて、5期に及ぶ土地利用の変遷が明らかにされている。1期が最も新しく、礎板列という形での建物をはじめ、切石列や道路状遺構、基壇などの遺構群が検出された。各遺構は一定の軸線に則って構築されており、基本的には現扇川の流路と、これに沿った市道と近似した方向軸を示していたようである。1期遺構面上の遺物包含層からは厚手・外反器形を呈する「戦国タイプ」かわらけが出土しているが、実年代としては戦国時代まで下ることなく、14世紀後半～

表2 周辺の主な調査地点(番号は図1に対応)

No.	地番	調査年度 (開始年度)	面積 (㎡)	所収文献
武蔵大路周辺遺跡 (No. 194)				
1	扇が谷三丁目	1980年度		『掘り出された鎌倉』(扇の井西やぐら) 鎌倉考古学研究所・江ノ電百貨店 1980
2	扇が谷二丁目 382番1	1988～ 1989年度	180	『武蔵大路周辺遺跡群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会 大河内勉 2000
3	扇が谷二丁目 307番	1999年度	67	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 宗基秀明・宗基富貴子 2001
4	扇が谷二丁目 298番イ	2000年度	122	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 瀬田哲夫 2002
5	扇が谷三丁目 407番2他6筆	2003年度	51	『武蔵大路周辺遺跡発掘調査報告書』(株)博通 滝澤品子 2004
6	扇が谷二丁目 297番1	2012年度	180	『かまくら考古第15号』NPO法人鎌倉考古学研究所 齋木秀雄 2012
7	扇が谷二丁目 297番4、298番1	2012年度	180	『第24回 鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』NPO法人鎌倉考古学研究所 齋木秀雄 2014
8	扇が谷三丁目 451番の一部	2019 ～ 2020年度	96.35	本報告
9	扇が谷三丁目 444番	2021年度	110	調査中(2021年12月現在)
法泉寺跡 (No. 182)				
ア	扇が谷四丁目 518番8	2010年度	38	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどか・2018
清涼寺跡 (No. 183)				
イ	扇が谷四丁目 556番4外	2005年度	65	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどか・2012
多宝寺跡 (No. 187)				
ウ	扇が谷二丁目 260番1	2019年度	75	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書37(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2021
智岸寺跡 (No. 186)				
エ	扇が谷四丁目 380番1外	1987～ 1988年度	720	『扇が谷地域を学ぶⅡ』NPO法人鎌倉考古学研究所 宮田 眞 2019
上杉定輝跡 (No. 188)				
オ	扇が谷二丁目 195番2	2008～ 2009年度	24	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 山口正記 2014
その他の史跡				
a	薬王寺			
b	岩船地藏堂			
c	正円寺跡(推定)			
d	相馬天王社			
e	浄泉為相墓			

15世紀前半に位置付く資料とされる。後述するように、今回の調査地（図1-地点8）では資料が僅少な時期であり、扇谷上杉氏が拠点を置いた時期とも重なる点、注目される成果である。遺構にともなう出土かわらけは、「薄手丸深」という内湾器形の資料が中心で、14世紀中葉に展開した遺構群と考えられている。2期は14世紀前半に比定され、板壁建物や塀、石囲い遺構、竅穴状遺構、土間状遺構などが検出し、遺構軸線は1期と同様である。かわらけなどの焼き物類のほか、優美な漆器をはじめとする多様な木製品が出土している。3～5期はトレンチによる部分的な調査のため、明確な様相は把握されていないが、遺構軸線は1・2期と同様に見える。遺物様相から求められる年代観は、3期が14世紀前半、4・5期が13世紀後半とされる。5期の確認トレンチでは手づくねかわらけも少量ながら出土しており、中世における土地利用の開始期が、13世紀前半にまで遡る可能性を示している。地点6・7は、正式報告書が刊行されていないため調査成果の全容は明らかでないが、概報・速報資料によって概略を掴むことはできる。地点6では中世に属する7枚の遺構面が検出され、一部、地表下330cmで検出した中世基盤層の上面を8面としたという。1面が最も新しく16世紀とされ、2面の一部が15世紀、2～5面が13世紀後半～14世紀、6～8面が13世紀前半～中頃に比定されている。概報は14～15世紀とされる2面の全体図を掲載しており、東西道路や南北に流れる切石積み護岸の溝、囲炉裏を付設した板壁建物などの展開が見て取れる。石積み溝は、現行の扇川および市道と並行し、溝幅は1mほどで、東西兩岸とも凝灰岩の切石（鎌倉石）を5段分積み上げている。東西道路とともに15世紀代の所産とされ、調査者は扇川の旧流路という認識を示している。扇ガ谷地区では法泉寺跡・清涼寺跡・多宝寺跡などで14～15世紀の切石積み溝が確認されており、この時期、当地区の広範囲にわたって河川や道路側溝の大規模な改修が行われた様子が窺える。おそらく、谷戸内の崖面に多くのやぐらが穿たれたことと、石材の産出～供給の動向は関係しているのであろう。扇谷上杉氏による拠点形成に加え、各寺院の興隆も関わって地域の再開発が運動的に進んだのかもしれない。13世紀中頃～14世紀代の遺構面では多様な漆器や木製品が出土したといい、地点4と近似した内容を推察することができる。地点7でも、13世紀中頃～15世紀に及ぶ9枚の遺構面が確認され、地表下290cmの中世基盤層上面を9面としている。15世紀とされる2面では、切石積み護岸の側溝をとまなう東西道路が検出され、地点6の2面東西道と連続するものとなるのか、注目される。13世紀後半頃に比定される5面では囲炉裏をもつ板壁建物が検出され、切石を敷き並べた方形区画も検出されている。石敷き近くからは金銅製の尼像（女性神像）が出土しており、石敷き遺構が堂宇の施設の痕跡であった可能性も指摘されている。両地点ともに興味深い成果が挙っており、早急な正式報告書の刊行が望まれる。

上記3地点と本地点との中間に位置する地点2では、地表下80cmまでという深度規制の中、2枚の中世遺構面が検出され、上層の1面は14世紀後半頃に、下層の2面は14世紀前半頃に比定されている。2面では切石敷きと建物が整然と展開し、瀬戸入りや白かわらけに加え、文様意匠の豊かな漆器など、注目すべき遺物が多い点、報告書では指摘されている。経費の都合で図示された遺物が一部に留まってしまったとのこと、残念に思う。

本地点の北東100mに位置する地点5では、地表下150cmまでの深度規制の中、2枚の中世遺構面が検出されている。上層の1面では、現行の亀谷坂へと向かう道路に並行する凝灰岩の切石列（石垣）が検出され、遺物様相から14世紀後半～15世紀に比定されている。2面ではビット・土坑を中心とする遺構群が検出され、調査面積に比して遺物の出土量が多いという。かわらけは「薄手丸深」が大部分を占め、大・中・小の法量分化が明確である点が指摘されている。

J R横須賀線を挟んで地点2の相向かいに位置する智岸寺跡（エ）では、岩盤を削平した二段の平場

が確認され、そこから掘り込まれた溝や土坑といった遺構が検出されている。上段平場では、東西方向に延びる溝1で、切石の蓋石を並べ置いた希有な構造が確認されているが、大型の切石を多用している点は、当地域に共通する普遍的な在り方といえる。下段平場では、上段との境となる崖面に接する形で東西2間×南北3間の柱穴列が検出され、崖面には龜状の小横穴が穿たれていた。正式報告書が未刊行なので遺物様相や年代観は知り得ないが、JR線を境に岩盤（尾根筋）と低湿地（開析谷戸）とに土地条件が分かれる点は、中世の景観復元を試みる上で注目される。

見てきたように、調査成果の蓄積が薄く、また地表下3m以下の中世基盤層を確認するには調査条件の制約をとまなうため、現時点では中世における土地利用の開始時期と、その具体的様相について十分には把握できていない。遺跡範囲は上杉定正邸跡になるが、扇ガ谷が南東に開ける地点オでは、地表下2.7mの中世基盤層上面である8面において、遺構埋土中から手づくねかわらけが少量ながら出土していることから、この消失以前となる13世紀前半のうちには、点的にでも土地利用が始まっていた様子が窺えよう。なお、同地点ではトレンチ調査ながら中世基盤層のさらに下位の土層から9世紀代に遡る土師器・須恵器や瓦が1ヶ所にまとまって出土している。全体の器形が分かる遺存良好な資料も何点か含まれており、平安時代における生活空間が近在していたことを示唆していよう。西に向かって寿福寺と対面する位置にある点、前述した義朝旧跡に先行する考古資料として意義ある発見と評価したい。

参考文献（表1掲載分以外）

特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所 2018『扇ガ谷地域を学ぶⅠ 資料集』

- ・大澤 泉「扇ガ谷地域の歴史Ⅰ—鎌倉と京のネットワーク—」
- ・大三輪龍哉「扇ヶ谷（東側地域）の社寺」
- ・宮田 眞「扇ガ谷地域の発掘調査Ⅰ」

特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所 2019『扇ガ谷地域を学ぶⅡ 資料集』

- ・大澤 泉「扇ガ谷地域の歴史Ⅱ」
- ・大三輪龍哉「扇ヶ谷（西側地域）の社寺」
- ・宮田 眞「扇ガ谷地域の発掘調査Ⅱ」

杉山一弥 編著 2019『図説 鎌倉府 構造・権力・合戦』戎光祥出版

他、表2に掲げた各調査報告書の遺跡概観を参考とした。

第三章 調査の経過と方法

第1節 調査の経過

今回の発掘調査は、個人専用住宅の建設にともなうもので、新規建物の基礎施工部分（Ⅰ区）およびカーポート新設部分（Ⅱ区）を調査対象とした。Ⅱ区については、工事による掘削深度が現地地表下110cmで取まることから、概ねこの深さに該当する、標高15.3mまでを調査対象とした。掘削による発生土を敷地内に仮置きする都合から、Ⅰ区をⅠA・ⅠB区に分割し、ⅠA→Ⅱ→ⅠB区の順で調査に着手した。各区、表土掘削は重機で行い、これより以下の土層は人力で掘削した。ⅠB区とⅡ区の表土掘削は同時に実施し、Ⅱ区の調査を終えた後、この部分にⅠB区の掘削発生土を置く方法で調査を進めた。

ⅠA区の表土掘削は令和元年12月10・11日に行い、令和2年2月19・20日にⅠA区の埋め戻しとⅠB+Ⅱ区の表土掘削を行った。3月6日にⅡ区の調査を終了、4月30日にⅠB区の埋め戻しを行い、

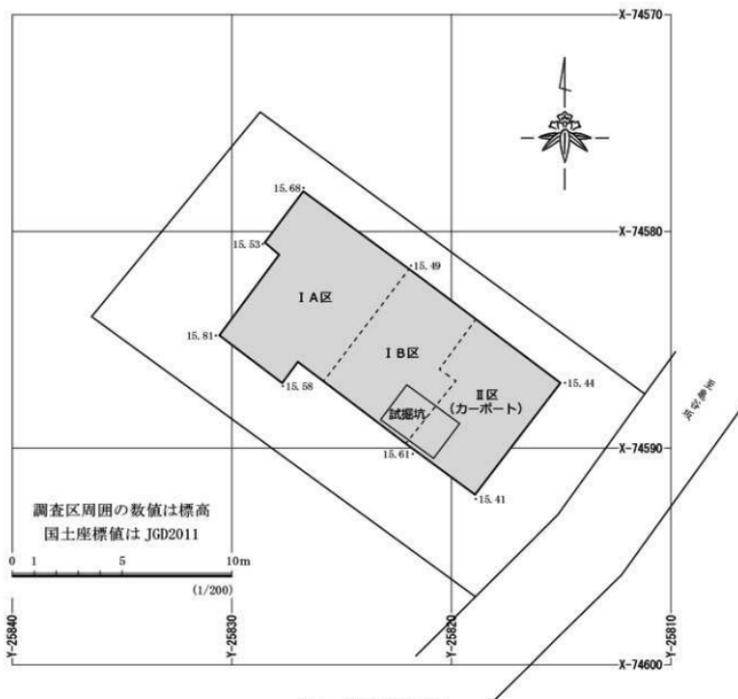


図2 調査区配置図

5月8日には一部補足の測量作業を行い、調査用具を撤収して、現地での調査工程は全て終了した。この後、出土品・記録類の整理作業に着手し、令和2年度上半期には漆器・木製品の洗浄と分類・実測作業を、下半期～3年度上半期は土器類の洗浄と分類・実測、次いで挿図・写真図版・表組の作成という順で作業を進めた。報告書原稿執筆は10月末に至って本格的に着手し、半月ほどの期間を要した。一連の整理作業は、文化財課分室で行った。

第2節 調査の方法

各区とも、掘削を進めるごとに写真撮影・測量図作成などの記録作業を行った。測量には国家座標系(JGD2011)の基準軸を用い、市道上に打設された都市再生街区三角点2004Aと同節点2503Aの2点間間係を起点に、光波測距儀を用いた開放トラバース測量によって調査敷地内に基準点を移した。垂直座標(標高)は、2503A(14.822m)を起点に、光波測距儀によるレベル測定を繰り返して、現地敷地内まで移動した。平面図の測図作業は、国家座標軸に準じた測量方眼を設定し、光波測距儀から得た測定値を1/20縮尺の方眼紙に落とし込む方法で進めた。写真撮影はデジタルカメラとフィルムカメラを併用したが、主体に用いたのは前者で、後者はカラーネガフィルムを装填して補助的な利用に留めた。

なお、今回の調査では、安全面への配慮から止むを得ず未調査範囲が生じることとなった。

第四章 基本土層

現地表面の標高は15.4～15.7mを測り、北西側が高い。表土=現代耕作土層は褐色砂質土で、40～60cmの厚さを測る。これを除去すると、中世遺物包含層であるⅡ層・暗褐色土層が検出された。以下、中世の整地土であるⅢ層が積み重なり、地表下約3mの標高12.5mでⅣ層・黒色粘質土の堆積が確認された。従来、鎌倉の発掘従事者が「ネチャ」と称してきた土で、ごく少量の中世遺物を含む。Ⅴ層・暗灰色シルト質土は中世基盤層(中世以前の自然堆積層の意、以下同)で、標高12.1mで確認された。Ⅲ層下部～Ⅴ層はⅠA区においてのみ、部分的なトレンチ調査によって確認できたに過ぎず、今回の調査では土層断面の観察による確認にとどまり、面的広がりやの把握には至らなかった。

Ⅲ層は、幾重にも構築された整地面と、その上部に堆積した間層との繰り返しで構成され、間層には炭や砂、有機質腐植土(マグソ)のみで構成されるものもあった。ⅠA区の整地層は薄く硬質に造られ、山砂(砂質凝灰岩)を硬く叩き締めて構築されていた。

Ⅲ層は2.4mの厚さに及び、この中で大別10枚の整地面が構築されていたが、出土遺物の様相には顕著な変化を見て取ることができなかつたため、大よそ13世紀後半～14世紀中葉にわたって、比較的短い期間で整地面の更新が進んだものと推察できる(図3・4にトーン表示)。

土層説明 (図3に対応)

基本土層 (各図共通)

- I. 褐色土 砂質土。粘性ややあり。現代耕作土。
 I' 褐色土 I層をベースに、II層を踏み込む。
 I'' 褐色土 ローム土による現代整地土。
 II. 暗褐色土 締まりややあり。中世遺物包含層。
 III. 黄灰～青灰色土 破砕された泥岩、または砂岩による中世整地土。
 IV. 黒色土 粘質土。中世土器片ごく少量 (ネチャ)。
 V. 暗灰色土 シルト質土。中世基盤層か。

A-G-B-C-D

1. 黄褐色土 泥岩ブロック投げ込み。
 2. 暗褐色土 有機質腐植土 (マグソ) + 砂。
 3. 暗灰色土 粘質土。
 4. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。
 5. 暗褐色土 泥岩粒少量。
 6. 暗灰色土 有機腐植土 (マグソ)。
 7. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ) + 砂。
 8. 暗黄褐色土 泥岩ブロック多い。
 9. 灰色土 微細な灰粒主体。
 10. 黒色土 粘質土。
 11. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。木片・貝殻片多い。
 12. 暗灰色土 粘質土。
 13. 暗黄褐色土 泥岩ブロック多い。
 南北築地状遺構の築成か。
 14. 暗黄褐色土 泥岩ブロック多い。
 南北築地状遺構の築成土か。
 15. 暗褐色土 粘質土。
 16. 黄褐色土 粘質土多い。
 17. 黄褐色土 泥岩ブロック主体。
 18. 黒褐色土 炭粒多い。
 19. 暗褐色土 粘質土。
 20. 黄灰砂 微細砂。流水にともなう堆積層か。
 21. 暗灰色土 粘質土。微細砂混入。かわらけ多量。
 付編2の試料 No. 3採取層。
 22. 暗黄褐色土 泥岩ブロック多い。
 南北築地状遺構の築成土、または崩落土か。
 23. 黄褐色土 泥岩ブロック主体。南北築地状遺構の築成土か。
 24. 暗灰色土 泥岩粒 + 砂による整地土。
 25. 暗灰色砂
 26. 暗黄褐色土 泥岩ブロック主体。
 27. 暗灰色砂
 28. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。
 29. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。
 マグソ土処理土、または下層の堆積土か。
 30. 暗褐色土 砂質土。
 31. 暗褐色土 砂質土。
 32. 暗褐色土 粘質土。かわらけ多量。
 33. 暗褐色土 粘質土。
 34. 暗褐色土 砂質土。
 35. 黄灰色土 細密な泥岩粒による整地土。
 36. 暗褐色土 粘質土 + 砂。
 37. 黄灰色土 細密な泥岩粒による整地土。
 38. 黄灰色土 泥岩ブロック主体の整地土。
 39. 黒色土 粘質土。炭粒多い。
 40. 黄灰色土 細密な泥岩粒による整地土。
 41. 暗褐色土 砂質土。
 42. 黒褐色土 炭粒多い。
 43. 灰色土 粘質土。
 44. 暗灰色土 粘質土。
 45. 黄褐色土 泥岩ブロック多い。
 46. 暗褐色土 粘質土。炭粒多い。
 47. 暗褐色土
 48. 暗灰色土 砂質土。
 49. 暗褐色土 粘質土。炭粒多い。付編2の試料 No. 2採取層。
 50. 黒褐色土 炭粒多い。
 51. 暗褐色土 泥岩粒多い。
 52. 黒灰色土 粘質土。炭混入。かわらけ多量。
 53. 暗灰色土 泥岩粒多い。
 54. 暗灰色土 泥岩ブロックやや多い。
 55. 黒色土 腐植土。
 56. 黒色土 腐植土 + 砂。
 57. 黒灰色土 粘質土。
 58. 黒色土 腐植土。
 59. 青灰色土 泥岩ブロック主体の整地土。
 60. 暗褐色土 人頭大以上の泥岩ブロックの投げ込み。
 6面井戸1 (池状遺構) の埋土。
 61. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。ハマグリ殻多い。
 62. 黒褐色土 粘質土。炭粒多い。
 63. 暗褐色土 泥岩ブロック + 砂。
 64. 黒褐色土 粘質土。炭粒多い。
 65. 黄褐色土 泥岩ブロック主体。

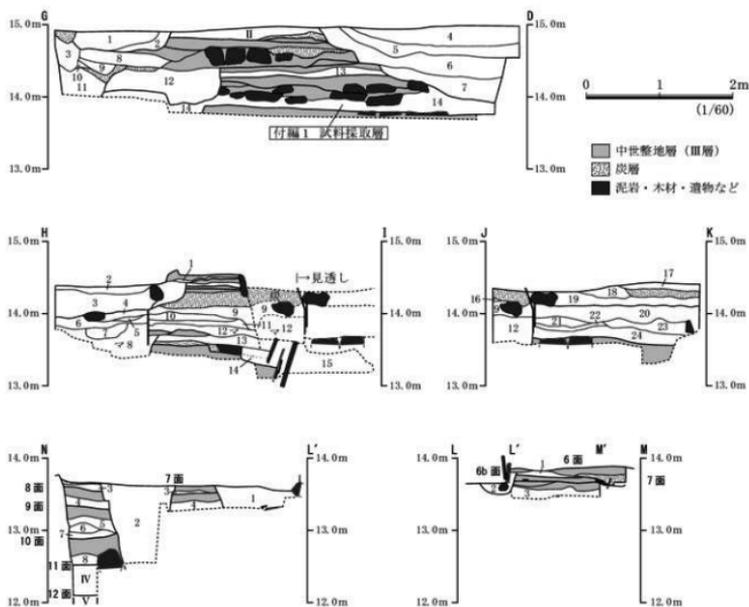


図4 土層断面図 (下段)

土層説明 (図4に対応)

G-D

1. 褐色土 粘質土。1面土坑 2。
2. 褐色土 粘質土。1面土坑 2。
3. 暗褐色土 炭混じり。
4. 暗黄褐色土 泥岩粒多い。
5. 灰色土 粘質土+泥岩粒。
6. 黒褐色土 粘質土。かわらけ片多い。
7. 暗褐色土 砂質土。
8. 暗灰色土 締まりあり。
9. 暗黄褐色土 泥岩粒多い。
10. 暗褐色土
11. 暗褐色土 砂質土。軟質。
12. 暗褐色土 砂質土。
13. 黒褐色土 粘質土。
14. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。付編1の試料採取層。

H-I・J-K

1. 黒灰色土 粘質土。
2. 黒灰色土 粘質土。かわらけ多い。
3. 黒灰色土 軟質。
4. 黒灰色土 泥岩ブロック多い。
5. 暗黄褐色土 泥岩粒多い。
6. 黒灰色土 粘質土+細砂。
7. 暗黄褐色土 泥岩粒多い。
8. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。
9. 暗灰色土 粘質土+砂。
10. 黒灰色土 粘質土。
11. 黒灰色土 粘質土。
12. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。
13. 暗灰色土 粘質土。
14. 暗灰色土 有機質腐植土 (マグソ)。

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 15. 青灰色土 泥岩ブロック主体。 | 2. 黒色土 炭主体。7面土坑1埋土。 |
| 16. 暗黄褐色土 泥岩粒主体。 | 3. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）。 |
| 17. 暗褐色土 粘質土。 | 4. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）+粘質土。 |
| 18. 暗黄褐色土 泥岩ブロック多い。 | 5. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）。 |
| 19. 暗灰色土 砂質土。 | 6. 暗黄褐色土 泥岩粒主体。整地層か。 |
| 20. 暗黄褐色土 泥岩ブロック多い。 | 7. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）。 |
| 21. 黒灰色土 粘質土。 | 8. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）。 |
| 22. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）。 | L(L') -M (M') |
| 23. 黒灰色土 有機質腐植土（マグソ）ハマグリが多い。 | 1. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）。 |
| 24. 暗灰色土 砂質土。泥岩粒多い。 | 2. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）。 |
| M-L' | 3. 暗灰色土 有機質腐植土（マグソ）。 |
| 1. 黒色土 泥岩ブロック主体。1面井戸1 | |

第五章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

今回の調査では、中世（鎌倉時代後期～南北朝期）における多くの整地面が検出された。

1面～2b面下では、東西・南北の両築地状遺構を境界とした土地の区画性が見て取れ、整地や土地利用の状況に差異が見られたことから、本報告では南北築地の西側となるⅠA区の西部を「北西区画」、東西築地を挟んだⅠB区+Ⅱ区の北部を「北東区画」、南部を「南東区画」と呼称することとした。北西区画では硬質で薄い整地面が繰り返し構築されており、北東・南東区画の軟質な整地面とは様相を異にしていた。2b面下より下位、つまり築地状遺構が構築される以前の整地状況については、概ね各区とも共通していると考えられたが、細密な層序には違いもあることから、完全には整合させることができなかった。ⅠA区の3・4面については、ⅠB+Ⅱ区に直接対応する面を見出すことができなかったため、標高値を基に「2b面」と「2b面下」に集約させ、3・4面は欠番とした。

以下、上層から順に、各遺構面の様相を説明する。

(1) 1面の遺構（図5）

標高14.6～14.8m前後で、表土層を除去したところで検出された。整地面としては土質が軟弱で、面上では土坑・ピットなどが散見されたほか、2面の築地状遺構が部分的に顔を覗かせていた。ⅠA区東部では、2面の南北築地状遺構の構築材であったと見られる凝灰岩の切石とブロックが崩落した状態で検出されており、ⅠB～Ⅱ区では、破砕泥岩を突き固めた東西築地状遺構の基底部分が検出された。両築地状遺構は、表土層ないし中世後期以降の堆積と思しき土層の直下で検出されたことから、築地としての機能・実態を失った後、上部の構築物は削平を受けたことが推察される。

北西区画では、凝灰岩のブロックを投げ込んだ大型の方形土坑を確認し、井戸の名称を付したものの完掘には至らず、また、掘割できた限りでは井戸枠も検出されなかった。

ピット、土坑は築地状遺構を切っているものもあり、築地削平後に穿たれたものであることが分かる。ⅠA区の土坑1は東西180cm×南北90cmの長方形プランを呈し、確認面からの深さは25cmほどで底面はフラットであった。ⅠA区の土坑2と北東区画の土坑1は、埋土が炭化物を主体としていた。

調査区全域においてピットは少なく、それぞれが小規模で、列をなすところも認められなかった。

北西区画で検出された溝2・3は非常に浅い窪みとして確認されたもので、意図的に構築された遺構であったかは明確でない。

1面の出土遺物は少ないが、瀬戸窯産陶器や瓦質土器などから、大よそ南北朝～室町前期に時期比定できよう。

(2) 2面の遺構(図6)

標高14.3～14.8mで確認された。北西区画では南に向けて、北東・南東区画では、東と南に向けて検出レベルが低くなる。南北・東西の築地状遺構が機能していた時期で、築地を境に異なる土地利用状況が認められた。

両築地状遺構は丁字形に交わるが、この結節部が丁度ⅠA区とⅠB区との境に位置したために一体的には把握ができなかった。南北築地状遺構の大部分はⅠA区で検出され、西辺の基礎部分には、高さ20cmほどの縦板を横木と杭で抑えた土留め板が遺存していた(図7上段)。N44°Eで延び、縦板の下端レベルは標高14.3mを測る。木材の東に接して凝灰岩の切石・ブロックが並び、ⅠA区東辺でも切石列が部分的に残り、両石列を繋ぐ直交方向の石列も4列が確認されている。これらは南北築地の土台部材と考えられ、標高14.4mの整地面上に据えられていた。北西区画では、切石列および土留め板を埋め込む形で整地面が形成されていたことから、築地の構築・補修など工事の諸段階に合わせて、比較的短期間のうちに整地面の更新が図られたことが推察できる。

東西築地状遺構はⅠB～Ⅱ区で検出され、基底部幅は70～100cmを測る。細かな破砕泥岩(土丹)と黒色粘土を数cm～15cmの厚さで交互に突き固めた「版築」工法で造作され、各土層の上面は平坦に整えられていた。版築土最下層の下部には炭混じりの粘質土層が10～20cmの厚さで堆積し、この下位には堅固な整地面が確認できたことから、火災後における土地の再造成に当たって構築された可能性がある。この種の遺構については道路・通路としての性格を見出すことも可能であるが、構築用材である泥岩(土丹)の破砕が徹底している点など、鎌倉で検出される一般的な道路遺構に比べて造作が非常に緻密であった点を考慮して「築地状」と表現した。基底部のみ遺存していたことから、上部構造や本来の高さについては全く不明である。築地両サイドにおける出土品構成からは、瓦葺きであったとは考えられず、土か草葺き程度の簡素な頂部構造であった可能性が高い。

北東・南東区画では北西区画ほどには堅固な整地面が確認できず、東西築地状遺構の両サイド1.5mほどの幅では整地面上の粘質土中に、完形資料を主体とする多量のロクロかわらけが廃棄されていた。完形に準じる資料だけでも千点近くに上り、破片資料も合わせた総重量から換算すると、数千個体分が出土ことになる。常滑片口鉢Ⅱ類や瓦質土器火鉢、漆器なども出土しているが、ごく少量に留まり、また破片資料が大部分を占め、全体形を把握できる資料は殆どなかった。ここからの出土遺物は、図20～35に掲載した。粘質土については、花粉等の分析を行った(付編2)。

(3) 2b面の遺構(図7)

2面の一枚下層を2b面としたが、築地状遺構などの主たる構成遺構は2面と同一のものが使用されており、短期間での整地面の更新を窺わせる。Ⅱ区は掘削の制限深度を超えることになるため全体的な掘り下げは行わず、「2b面下」に位置付く東西石列(築地基礎か)などの部分的な検出に留めた。

北東区画と南東区画では、2面かわらけ集積の下層に、もう1層のかわらけ集積が検出された。上層の集積と同時に廃棄されたものであるのか、別の廃棄行為にともなう痕跡であるのか、双方のかわらけが同型式であったため明確でないが、現地では区別して取り上げたことから、本報告でもそれに準じて

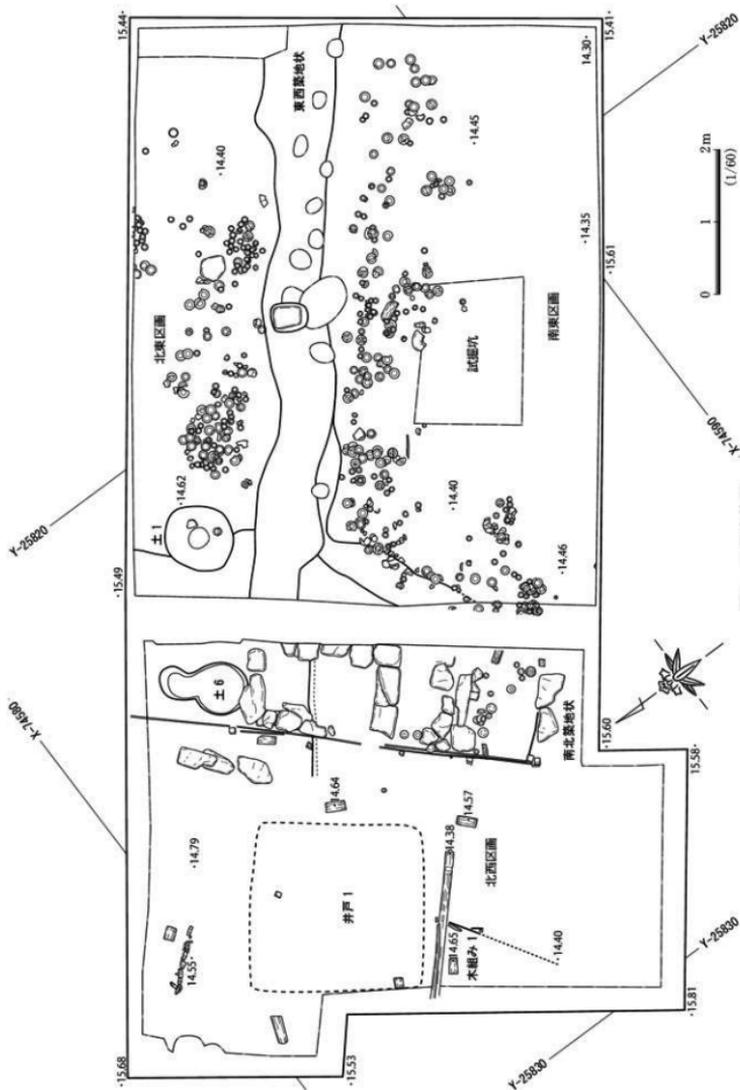


図 6 2面全体図

図示した（図36～39）。

北西区画は全域的に硬質な整地地面が形成されており、面上では短い板材を立て並べた囲炉裏状遺構が検出されている。囲炉裏で確定できれば建物の内部空間であった可能性も想定できるが、基礎構造を示す遺構が検出されていないため、断言はできない。

（4）2 b 面下の遺構（図8）

東西・南北築地状遺構の基礎部分が設置されたレベルを2 b 面下とした。南北築地の基礎は、標高14.3～14.4 mに設置され、南北方向の土留め板と東西・南北に並ぶ石列で構築されていた。土留め板の西側となる北西区画では堅固な整地地面が広がっていたが、建物の痕跡を示す柱穴などは確認できていない。

東西築地については、版築土南縁から1 mほど南に隔てたラインに沿って、凝灰岩の切石・ブロックが並んでいた。標高14.0～14.1 mの平坦面上に据わっており、石材は20～25 cmの厚さをもつ。Ⅱ区では、深度制限のため石列の上面を検出したレベルで掘り下げを止めた。ⅠB区の西端に当たる南北築地との接続部分では、凝灰岩ブロックが乱雑に並べられていた。東方へ長くは続かないことから、接続部付近に限っての基礎構築物と考えられる。これら基礎石の上端レベルである標高14.3 m前後から版築土が積み上げられていたが、東西石列と対となる版築土北側の基礎構築物は確認できなかった。南に向けて下がる地形に対応した措置であったかもしれないが、合理的工法なのかは定かでない。

ⅠB区南端部では、幅10 cm程度の横板を杭で抑えた木組み遺構が検出された（図3-1断面図C-D）。横板の上端は、標高14.2 m前後を測る。検出範囲が限定的であることから、どのような性格を有する構築物なのかは不明である。

（5）5面の遺構（図9）

既述の通り、現地調査のⅠA区3・4面は欠番とした。

5面は標高13.7～14.2 m前後で検出された堅固な整地地面で、北西側の確認レベルが最も高く、東と南に向けて低くなる。ⅠA区では小規模なピットや囲炉裏の痕跡と思しき木組み遺構などが検出され、この付近が建物の内部空間であった可能性が考えられる。ⅠA区の南東隅では人頭大の凝灰岩ブロックを乱雑に寄せ集めた落ち込みが検出され、これに続くものか、ⅠB区南西隅でも大型の凝灰岩ブロックが確認されている。ブロックを取り外した後の底面標高は、13.82 mを測る。性格については不明だが、2面南北築地状遺構の基礎か、または築地の前身施設に関わる痕跡としての可能性を考えておきたい。落ち込み西脇の整地面上では、ハートマーク様の「猪の目」文様を左右対称に配した板材（飾り板？）が出土している。確実な「猪の目」文様自体、鎌倉では初めての発見となる。

ⅠB区では、比較的堅固な整地地面上に板材が横たわっていたが、明確な構築物ではなく、性格は不明である。

（6）6面の遺構（図10）

標高13.6～13.9 m前後で検出された。ⅠA区では、「コ」字形に配された木組み遺構や、その西側に接して整えられた凝灰岩の切石敷き遺構、硬く叩き締められた土間状の整地地面（三和土）などが検出され、建物の内部空間を構成する遺構であった可能性がある。ⅠB区では、中央を東西に横断する竹垣を境とした空間構成の違いが見て取れ、竹垣以北では並行・直交する切石列や板を立て並べた板壁状遺構1などが確認され、竹垣以南は大型の落ち込みが検出されている。

竹垣はN39°Wに延び、直径3～4 cm程度の竹材を練らに並べてあった。根元部分だけが遺存していたため、上部の構造は不明である。杭（柱）と横木で簡便な枠組みを作り、杭の間に竹材を並べ隙間

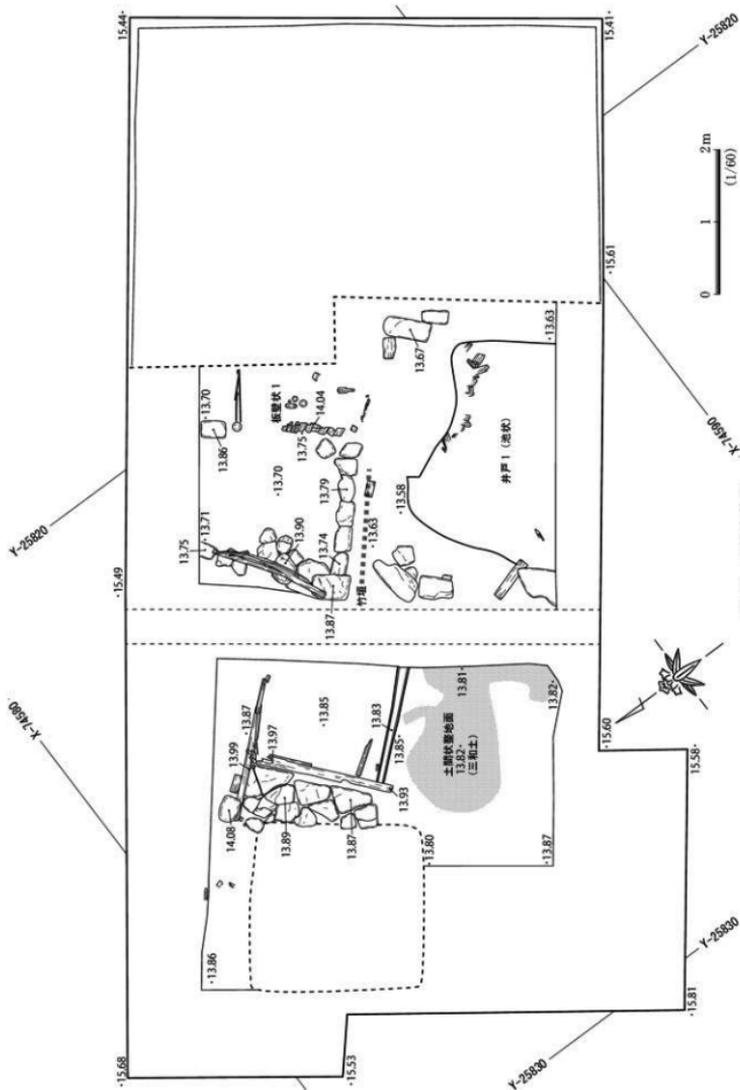


图 10 6面全体图

を埋めたのだろうか。切石列も、竹垣と同じ軸方向で延びる。板壁状遺構 1 は、南北 80 cm ほどの範囲に幅 10 cm ほどの板材を立て並べて構築されており、基底部の標高は 13.7 m ほど、高さは 20 ~ 30 cm を測る。東西石列が途切れる部分から北に向けて延びていた。板壁の北端部から 50 cm 北では厚さ 1 cm の横板が東西方向に埋め込まれてあった。これら遺構個々の性格や相互関連については、明確には分からない。板壁状遺構 1 の東側には有機質腐植土（マグソ）の堆積が見られ、この層から漆器や木製品が出土している。マグソについては、大型植物遺体の分析を行っている（付編 1）。

竹垣以南の落ち込みは、東西 3.2 m、南北 2 m 以上を測る大規模なもので、本報告では現地調査時の名称に基づいて井戸 1 との名称を付した。掘方の北岸に沿って板材を乱雑に立て並べてあっただけで、井戸枠の存在は確認できていない。落ち込み内には人頭大ほどの凝灰岩ブロックが乱雑に投げ込まれており、本遺構の廃絶にともなって人為的に埋め立てられた痕跡と見なせる。安全面への配慮から完掘はできなかったが、井戸と確実視できる証拠もないことから、比較的浅い池などの施設であった可能性も考えられる。

(7) 6 b 面の遺構 (図 11)

I A 区の 6 面下でのみ確認された整地面で、面上に広がる薄い炭層や、泥岩ブロックを集積した落ち込みといった遺構が検出されている。泥岩集中は 6 面の「コ」字状木組みの内部に位置し、炭層は 6 面土間状整地面の直下で検出されている。炭層については非常に小規模な広がりに過ぎず、周囲に焼けた形跡も見られなかったことから火災痕跡とは見なせない。

(8) 7 面の遺構 (図 12)

標高 13.6 ~ 13.7 m で検出され、堅固な整地面は確認できたものの、明確な空間構成を把握するには至らなかった。I A 区では、北半部で板材が一定方向に並んで出土し、かわらけや木製品もともなって出土している。南半部では土坑 1 が検出され、トレンチによる部分的な掘削に留めたことから、確認面から 110 cm の深さまでしか測定できなかった。埋土は、炭化物が主体の単一層であった。

I B 区では、6 面東西竹垣の直下で同方向に延びる溝 1 が検出され、この南岸には櫓状板組み護岸が遺存していた。抑え材の板杭は東に傾いており、土圧など西からの力が加わったものと見られる。溝の埋土および北側整地面上では完形のロクロかわらけや漆器碗・皿がややまとまって出土している。東・西とも調査範囲外に続き、西側延長部が I A 区では確認できていないことから、調査未実施部分で終結、または南・北のどちらかに屈曲した可能性が考えられる。

I B 区の北東角では有機質腐植土（マグソ）を埋土とする土坑が検出された。完掘はできなかった。

(9) 8 面以下 (図 13)

8 面は、I A 区でのみ、トレンチ調査によって部分的に確認された。標高は、13.4 m 前後を測る。遺構は検出されなかった。

9 面以下は、トレンチ深掘り部分の土層断面でのみ確認された。9 面と 10 面は破砕凝灰岩を堅固に突き固めた人工の整地面と見られ、9 面が標高 13.3 m 前後、10 面が 12.9 m 前後を測る。

11 面は、IV 層・黒色粘質土層の上面に設定した。標高は、12.5 m 前後を測る。IV 層は、鎌倉の発掘従事者が「ネチャ」と呼称する土で、通常はごく少量の中世遺物片を包含するが、本地点では、確実に IV 層からの出土と限定し得る遺物は皆無であった。

12 面は、V 層・暗灰色シルト質土層の上面に設定した。標高は、12.1 m 前後を測る。V 層は、中世基盤層と目される。現地表面から 3.5 m という深い位置で、非常に狭い範囲での確認に留まった。

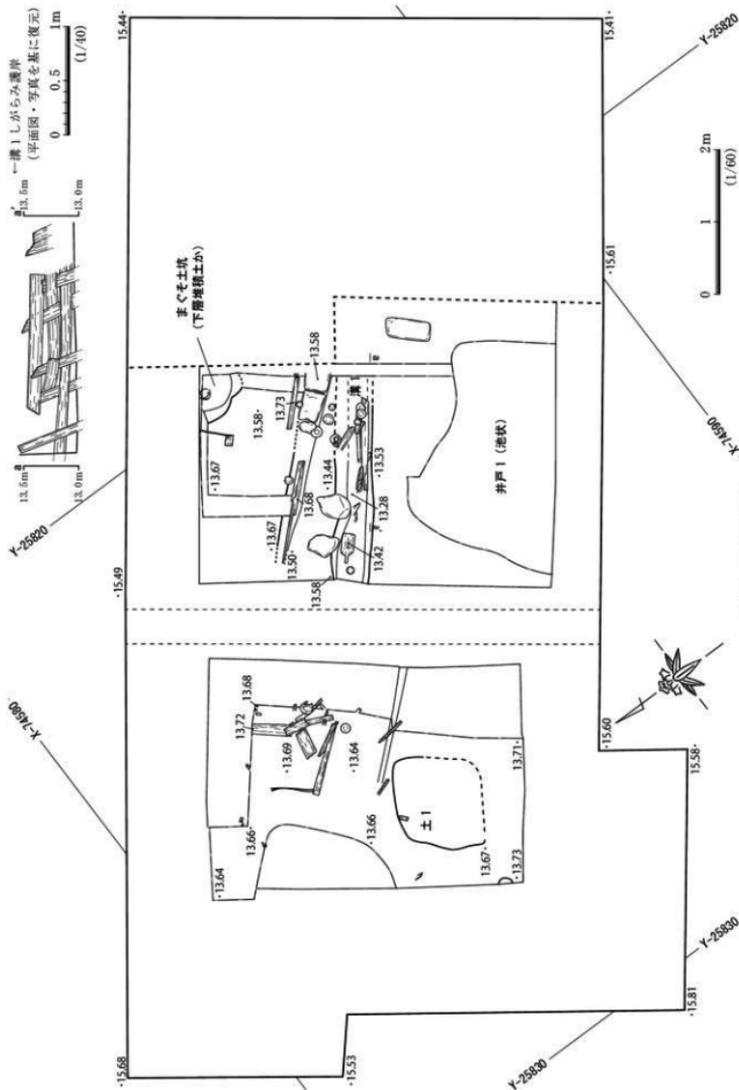


図 12 7 面全体図

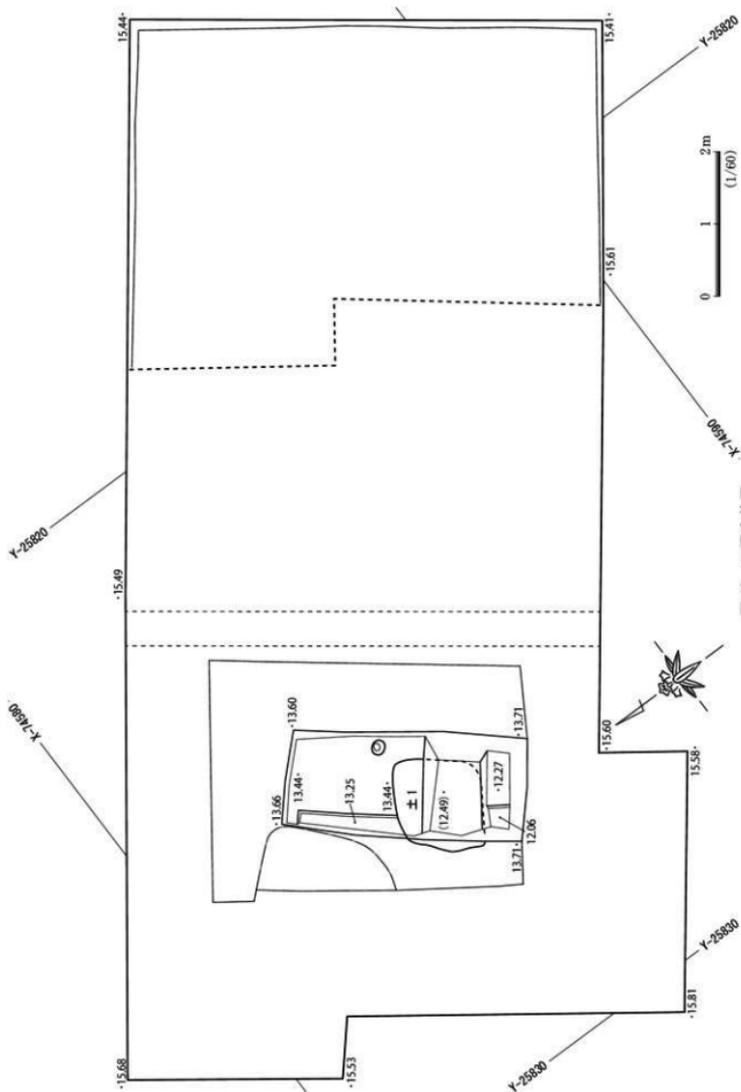


图 13 8 面全体图

第2節 出土遺物

以下、上層から順に、出土遺物について概略を説明する。層位・遺構ごとの出土量については表3のカウンティング・計量表を、遺物個々の具体的内容については表4の観察表を参照されたい。

なお、遺物挿図については、作図工程の違いにより、出土層位・遺構などが同じであっても、土器・陶磁器類や石・金属製品などは図14～49に、漆器・木製品類は図50～74に分けて掲載した。挿図・表4の遺物番号は1～1566の通し番号を付したが、原稿の作成過程で重複や漏れが生じたことにより、本来図示すべき場所に配置できなかった資料がある。これらについては、通し番号とは別に補遺番号を付して、図28(補1～6)、図46(補7・8)、図56(補9～11)に掲載した。以下の記述では、挿図番号を省略して、遺物番号のみ表示することとする。

(1) 確認調査・表土などの出土遺物

表土～1面上の出土遺物には、外反基調のかわらけ(15・28・29)や、古瀬戸の中期様式後半～後期に属する平碗(16)・卸皿(31)が含まれることから、資料数は限られるものの、14世紀中葉～後半を大よその下限年代に当てることが可能である。周辺の発掘調査では、一定の普遍性をもって「鎌倉府」時代の考古資料が確認されているので、本地点では、当該期の層位が削平で失われてしまった可能性が高い。30の瀬戸入子は、底部外面の3ヶ所に、粘土を外縁側に向けて削り寄せた、簡素な脚部を作り出している。

(2) 1面の出土遺物

43は小片だが、龍泉窯系青磁の酒会壺口縁部である。44は瀬戸のすり鉢B類で、古瀬戸後期様式の後半以降に位置付けられ、他の1面遺構出土遺物に比べ、大幅に新しい時期の所産である。50～55は南北築地状遺構の基底部下から出土したロクロかわらけで、正確には2面よりも古い時期に位置付けるべき資料である。49は銭銘が不鮮明だが、五銖銭であることは判読できた。

1面下～2面では、72の瀬戸折縁深皿が後Ⅱ期頃に当たり、15世紀初頭前後が年代的下限とできるものの、構成の主体をなすロクロかわらけは、そこまで下らないだろう。75～87は、いびつな形状の資料も含むが、黒の碁石と判断して掲載した。91は龍泉窯系青磁碗の小片で、鎌倉では出土数の少ない、Ⅳ類の可能性がある。92の瀬戸入子は、30と同様の作り方で短小な三足を付けている。

(3) 2面の出土遺物

164～388は北東区画かわらけ集積から出土した資料で、345～388は下層からの出土である。北東区画2面上の99～106と112～148も本来は、下位のかわらけ集積にともなうものであった可能性が高い。ロクロかわらけが圧倒的多数を占め、その他では、常滑7型式の片口鉢Ⅱ類(341～343、379～381)や銅銭が散見される程度である。ロクロかわらけについては、基本的に口縁部の左右両端を通して実測でき、口径復元の必要がない個体に限定して図化した。大・中・小の三法量に区別でき、さらに細分できる要素も見て取れる。小さめの底部から内湾する体部へと移行する器形が主体を占め、水籤された胎土で成形技術が優れた「薄手丸深」タイプ(C)も、一定量が出土している(表4参照)。口縁部に油煤が付着した、灯明皿としての使用痕跡を残す資料が多く、特に小皿と中皿に、その傾向が強く見て取れた。法量の違いによる、使用方法・目的の差異を見出せようか。常滑の片口鉢Ⅱ類は全て破片資料であるので、生産年代から使用・廃棄に至る一定の時間的経過を考慮する必要がある。口縁の

肥厚化が進んでいないので7型式=E類(藤澤・山本2015)と見なすのが妥当と思われるが、従来は14世紀前半に比定されていた当型式について、近年は13世紀第4四半期に遡らせる見方も支持されている(藤澤・山本前掲)。ここに上限年代を置き、一括廃棄されたであろう、ロクロかわらけが当集積遺構の下限資料であることを考慮すれば、大よそ14世紀前半頃に廃棄の年代観を求めることが可能となる。379は、内面の口縁部下に焼成前のヘラ描き記号「X」が残されている。

389～471は南東区画の2面上で出土したが、これらも本来的には、下位のかかわり集積に帰属する資料であったろう。454は、ほぼ全体の器形を知り得る瓦質土器の火鉢Ⅲ類。453も同じだが、口縁部のみが意図的に打ち欠かれていた。二次利用に供するためであろう。ともに掌程度の破片となって、各所に散在した状態で出土している。

472～741は、南東区画のかかわり集積で出土した。714～741は、下層からの出土である。基本的な遺物構成は北東区画と同じで、完形に準じるロクロかわらけが圧倒的多数を占めている。676は常滑片口鉢Ⅱ類で、口縁部の肥厚具合から8型式(F類)に相当しよう。677と678は同一の資料で、瓦質土器の火鉢。I B類か。内面の口縁下に菊花文を連続押印している。内面への施文は、類例が少ない。726は小壺の肩部小片で、外面に櫛描き文が施される。黒味がかった焼き上がりで、珠洲窯産であろう。

南北築地状遺構のI B区側整地面上(または築成土中)からは、銅銭4枚が錆によって固着した状態で出土している(補2～5)。このうちの2枚は崇寧通寶の当十銭(補4・5)で、膨大な量の銅銭が利用された中世の鎌倉にあっても、類例に限られる資料である。

(3) 2 b面の出土遺物

742～825は北東区画の、826～914は南東区画のかかわり集積で出土した。ともに、資料の大部分をロクロかわらけが占める。2面のかわりけとの間に、顕著な型式差は見取れない。小皿に灯明皿の比率が高い点も、同様である。

916～952は、I B区の西壁崩落土から採集した遺物で、確実な帰属層位は掴めていない。遺存度の高さや出土量から見て、南東区画2面のかわりけ集積に連続する可能性が高いものと考えている。

2面下～5面の掘り下げにともなう遺物は、958～969・987(最上層)、988～1027(上層)、1028～1057(中層)、1058～1065(下層)に示した。特筆すべきものは少ないが、1049・1050に図示した常滑片口鉢Ⅱ類は4つの破片が接合したものだが、このうち1片にだけ研磨具として再利用した痕跡が見取れた(1049左と1050)。手近にある廃棄物利用の証拠といえよう。ほか、漆器は1189～1192に掲載した。

(4) 5面以下の出土遺物

5面上、およびこれ以下の層序では有機質腐植土の堆積が随所に見られ、この層中を中心に、残りの良い木製品・漆器が多く出土している。漆器椀・皿の文様には、繊細で優美な作例が多く見て取れる。

1170は、全体の器形が分かる瓦質土器の火鉢Ⅲ類で、6 b面下～7面という下位の層序にあっても、2面上南東区画で出土した453・454と同一型式である点、ロクロかわらけと同様に、顕著な型式差＝年代差がないことを示しているよう。

1264は獅子頭を象った木製品で、呪術具としての形代類に属するだろうか。上顎部の造形に持ち手となる板状部分が付く。鼻梁～頭部の表現が見えず、この部分に2ヶ所の貫通孔があることから、頭部だけの部材を組み合わせ、紐や木釘などで固定したのかもしれない。もしくは、下顎部と組み合わせるための造作であろうか。同じ形の類例が、石川県西川島遺跡群にあるが(河野2001)、鎌倉では初めての発見である。

1269は、植物の茎を束ねたもので、現地での発見時には、束ねるための縄が遺存していた(写真図

版 22- 2・3)。

1349 は「猪の目」を左右対称に配置した板材。飾り板か。

1461・1496 は墨書のある経木折敷片。1461 は文字や花押状の墨痕に加え、同一の筆致を繰り返したような墨痕が表裏両面に残っており、習書や筆慣らしに用いられたものと考えられる。1496 の墨痕は薄く、仮名様の筆致と思われるものの、判読はできていない。

1522 は溝を切った同形状の部材を 2 つ重ね合わせることで、中央部に菱形断面の貫通孔が横断する形態に作っている。両部材を縦に貫通する小孔が 2 ヶ所に設けられ、ここに紐か木釘を用いて固定したのだろう。正確な用途は不明だが、横断孔に棒状部材を挟み込んで使用したものと考えられる。囲炉裏の自在鉤を高さ調節するための「小猿鉤」に類する資料ではないか、という意見も聞いたが、現行品とは形状が大きく異なることから、可能性の指摘に留めておく。類例は、若宮大路周辺遺跡群の 2 地点で出土している (小林ほか 2000・後藤 2022)。

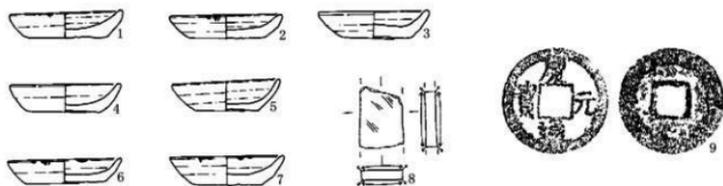
1540 は脚付き台。3 枚の板材を、柄組みで下駄状に組み立てている。全く同形状の出土例を知らず、具体的な用途は不明。

参考文献 (発表年順)

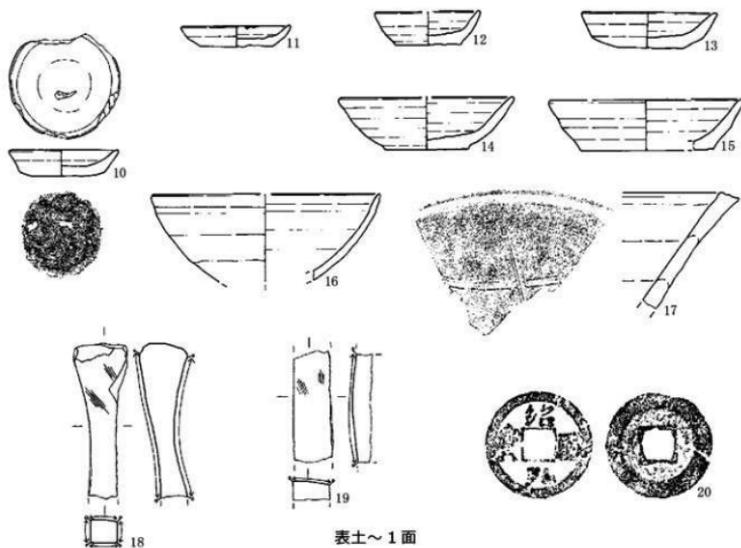
小林重子ほか 2000 「若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 小町一丁目 198 番 6」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会

河野眞知郎 2001 「さまざまな祭祀・呪術」小野正敏ほか編『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
藤澤良祐・山本智子 2015 「付編 中世常滑窯編年の再検討— 5 型式期以降を中心に—」『上県 2 号窯跡 第 9 次発掘調査概要報告書』愛知学院大学文学部歴史学科

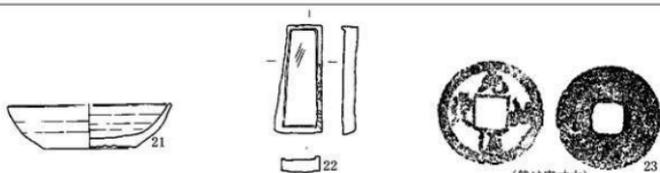
後藤 健 2022 「若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 雪ノ下一丁目 161 番 43」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 38 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会



確認調査 (試掘)・排土山



表土～1面



Ⅱ区 表土～1面・耕作痕

(銭は実寸大) 0 5 10cm
(1/3)

図14 出土遺物(1)

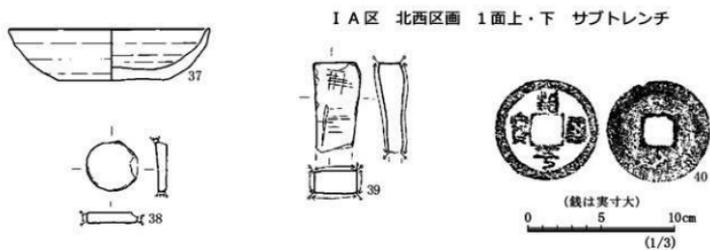
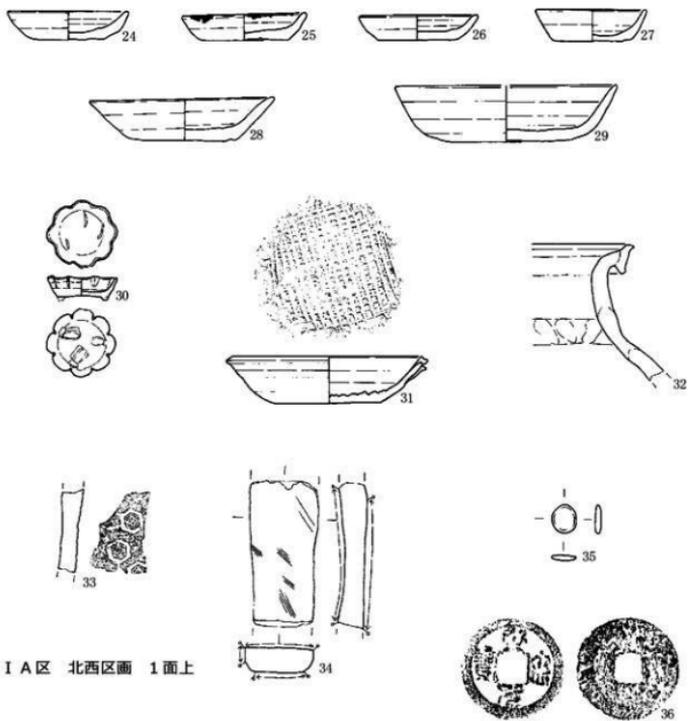
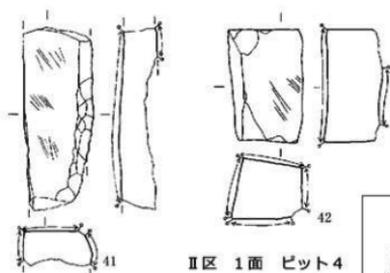
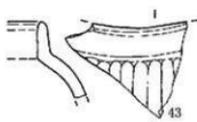


図 15 出土遺物 (2)



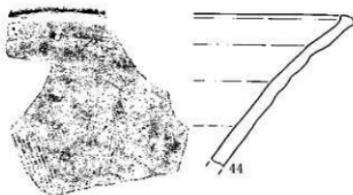
Ⅱ区 1面 ピット4



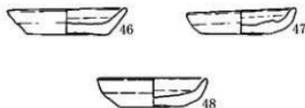
Ⅱ区 1面 土坑2



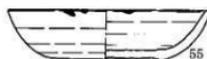
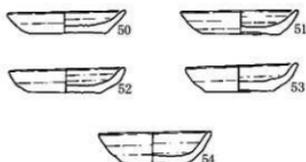
Ⅱ区 1面 土坑3



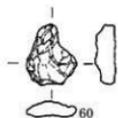
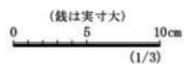
ⅠA区 1面 土坑2



ⅠA区 北西区画 1面 井戸1



ⅠA区 1面
南北築地状遺構



ⅠA区 北西区画 1面 遺構外

図16 出土遺物(3)

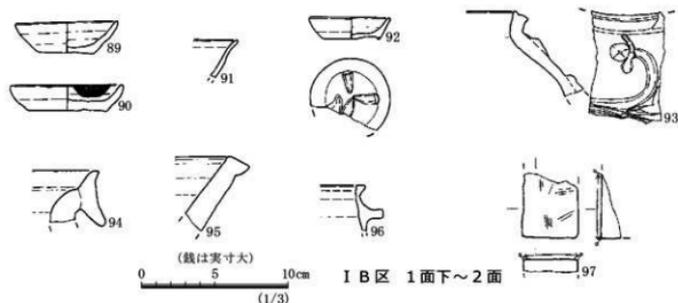
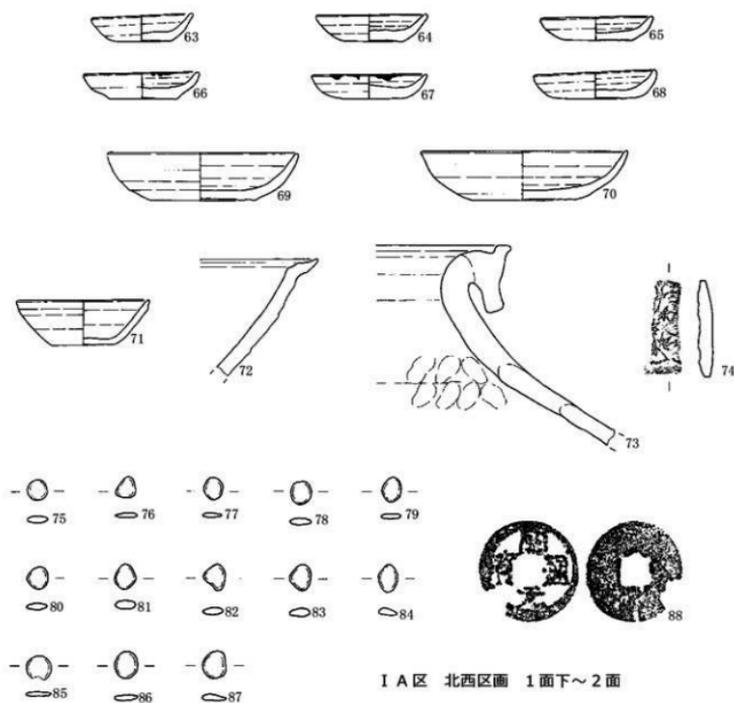
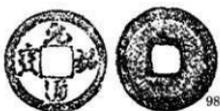
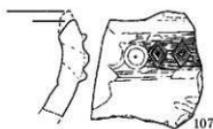
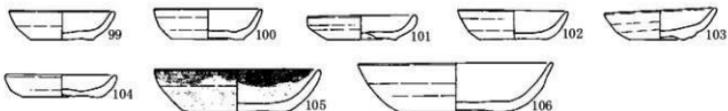


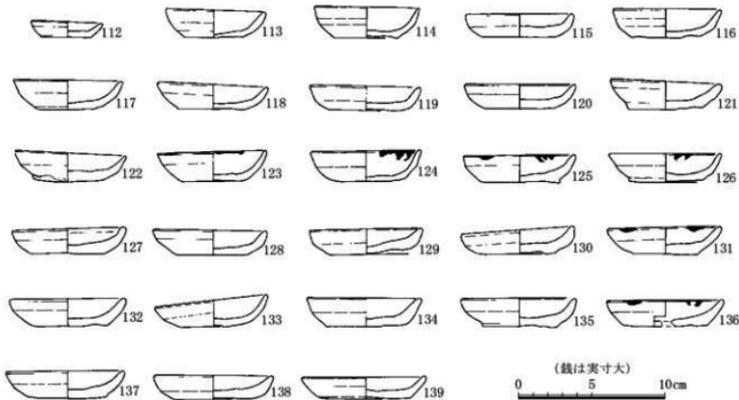
图 17 出土遺物 (4)



Ⅱ区 1面 ヒット2
(2面調査時検出)



ⅠB区 北東区画 2面上



Ⅱ区 北東区画 2面上

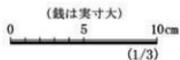
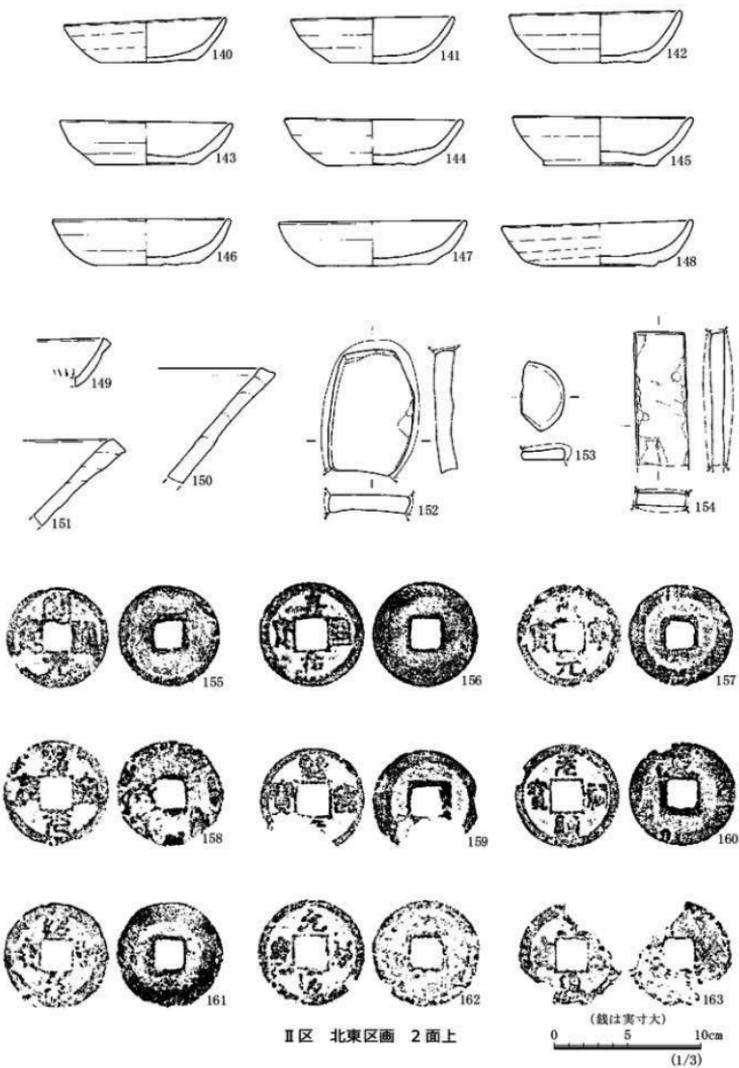
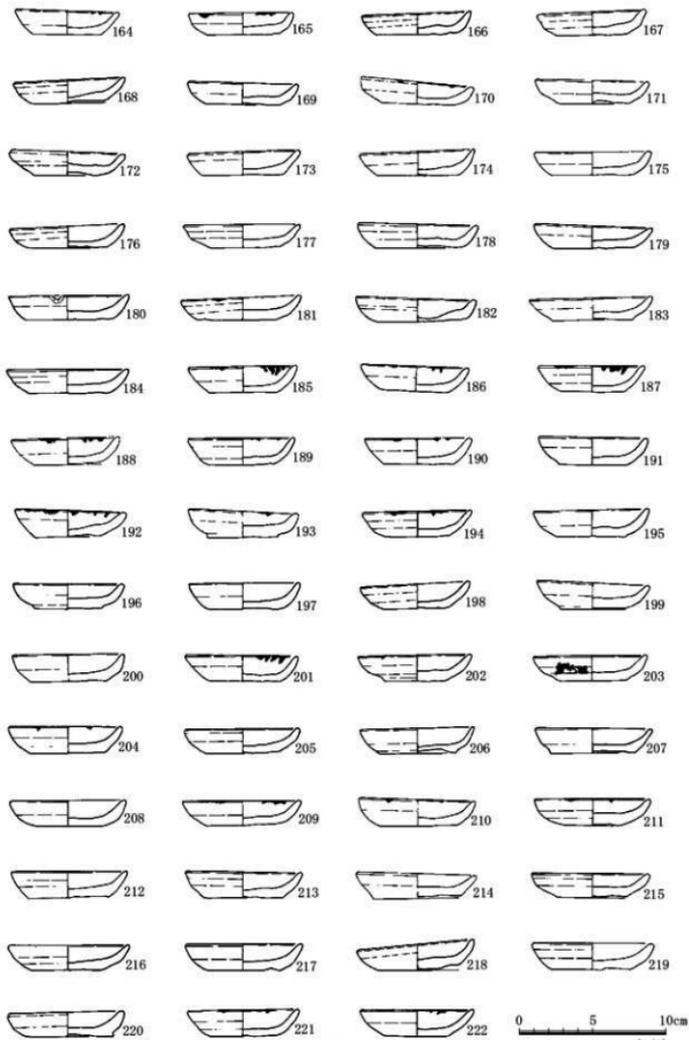


図 18 出土遺物 (5)

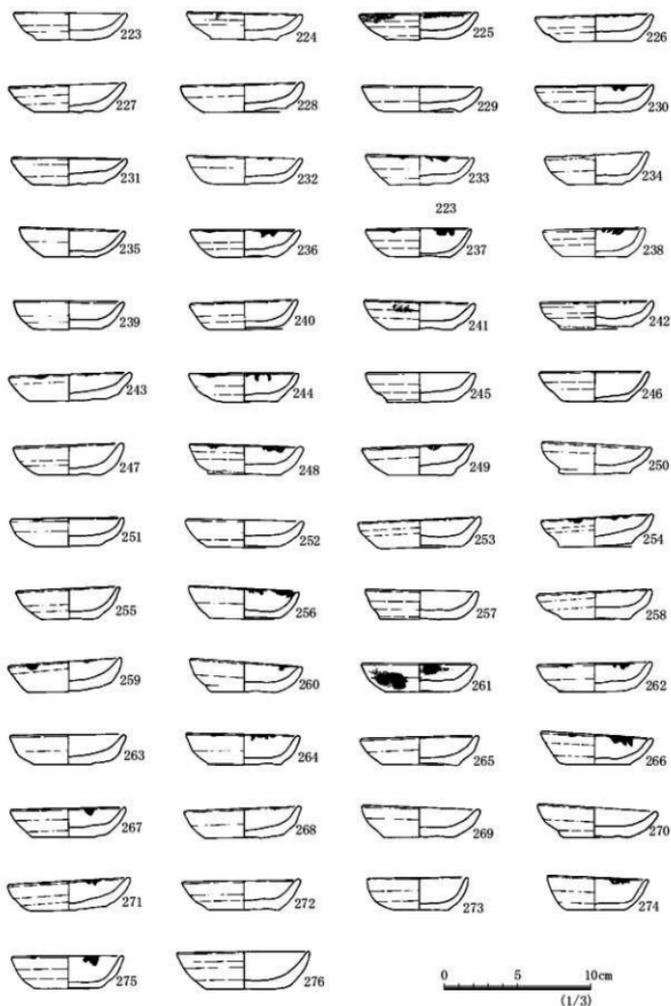


Ⅱ区 北東区画 2 面上

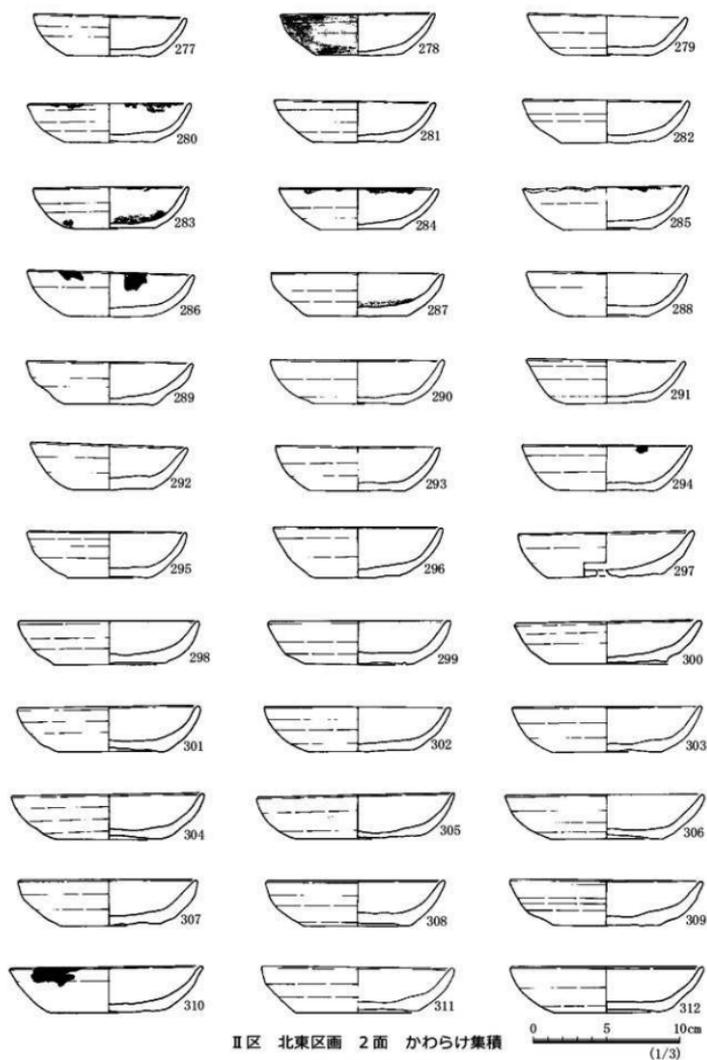
图 19 出土遺物 (6)



Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積
 図20 出土遺物(7)



Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積
 図 21 出土遺物 (8)



Ⅱ区 北東区画 2面 かわけ集積

図 22 出土遺物 (9)

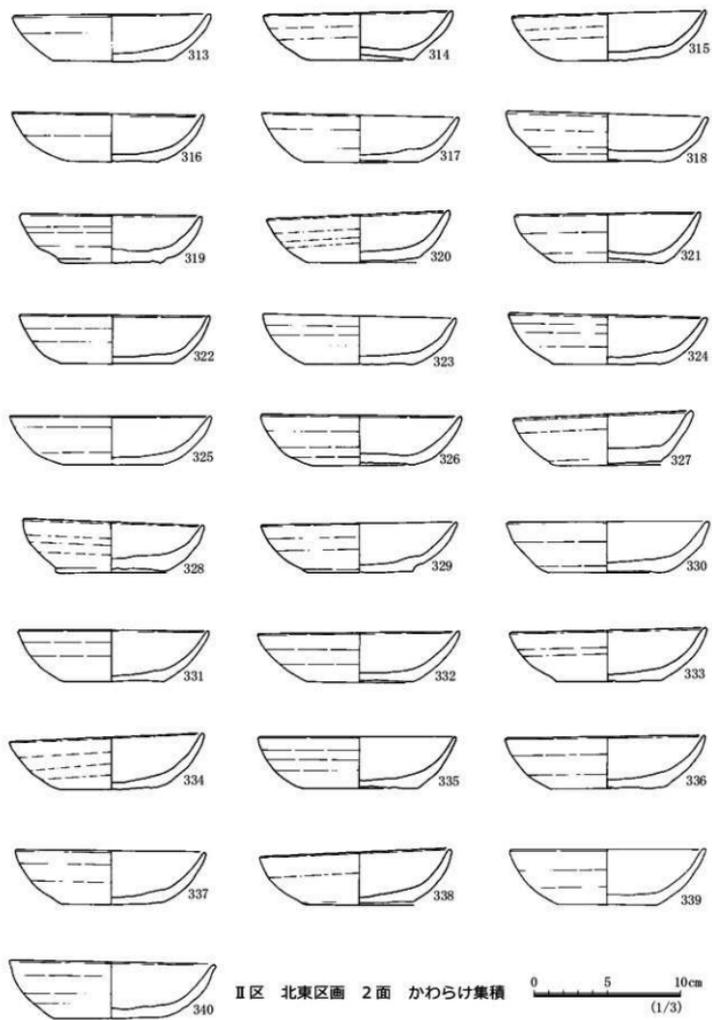
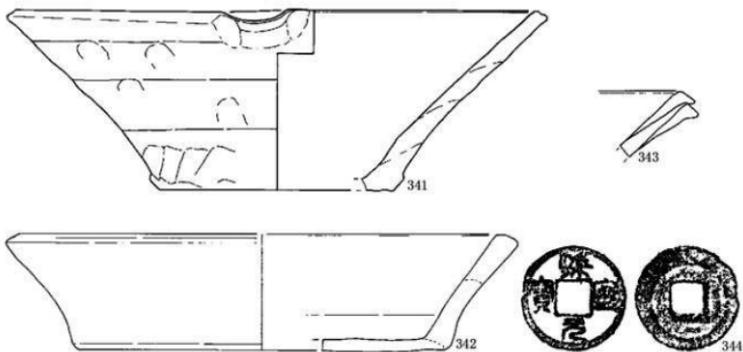
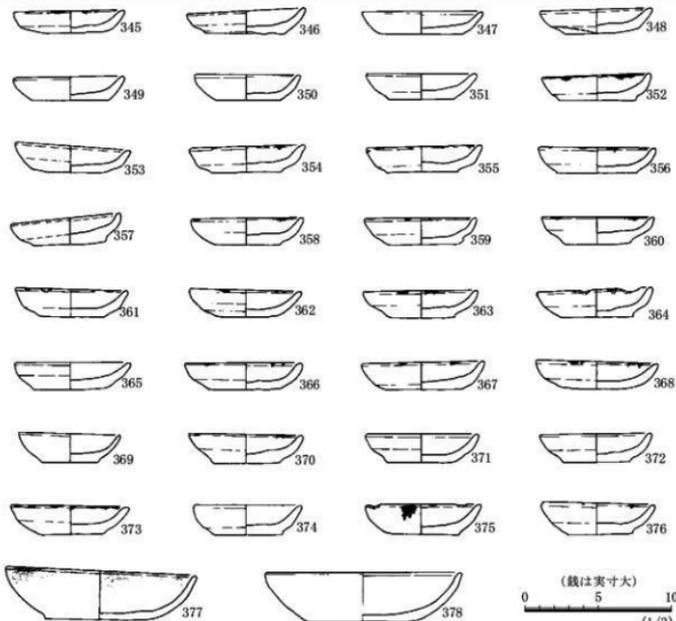


図 23 出土遺物 (10)

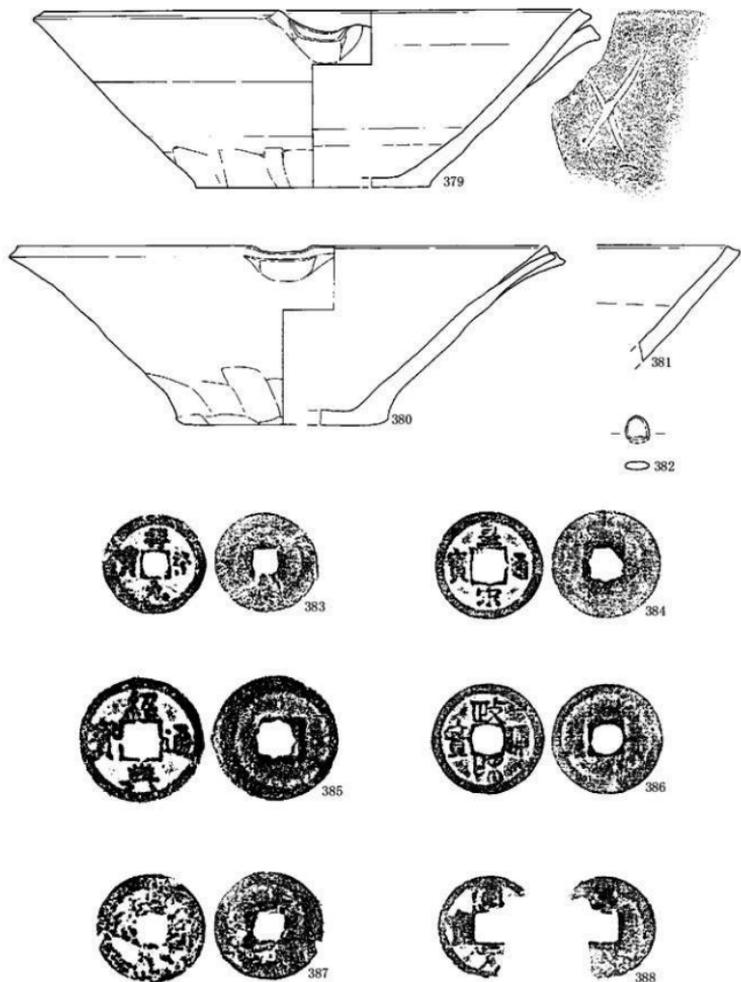


Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積



I B・Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積(下層)

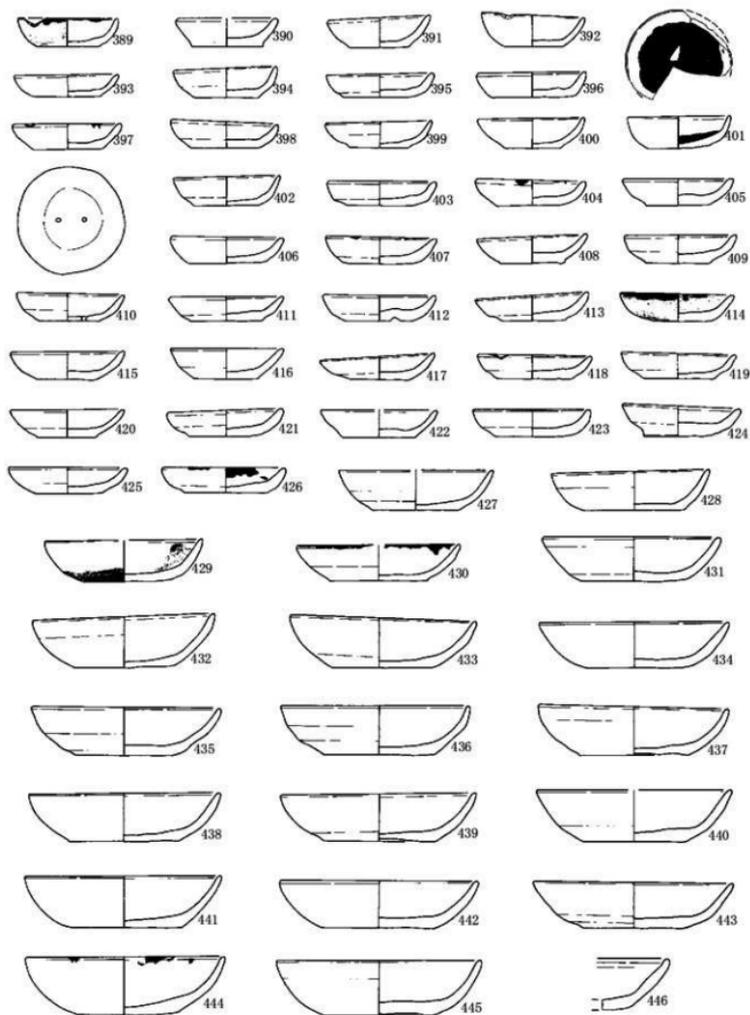
図 24 出土遺物 (11)



Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積(下層)

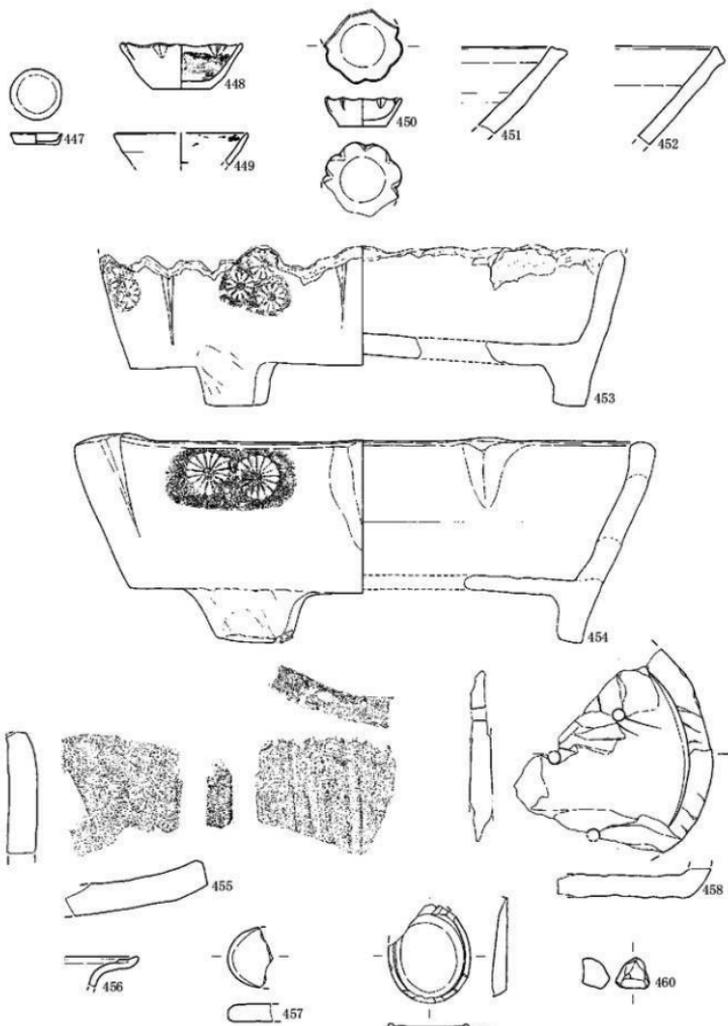
(銭は実寸大) 10cm
0 5 (1/3)

图 25 出土遺物 (12)



I B·II区 南東区画 2面上

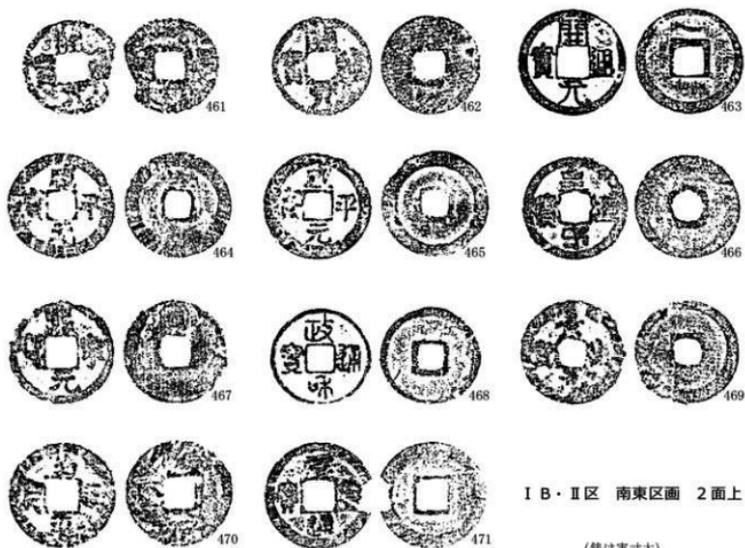
图 26 出土遺物 (13)



I B·II区 南東区画 2面上

图 27 出土遺物 (14)

0 5 10cm
(1/3)



I B・II区 南東区画 2面上

(銭は実寸大)
 0 1 2cm
 (1/1)



I B区 2b面下～5面(下層)



補2



補3



補4

I B区 2面
 南北築地状遺構上
 (築成土か)



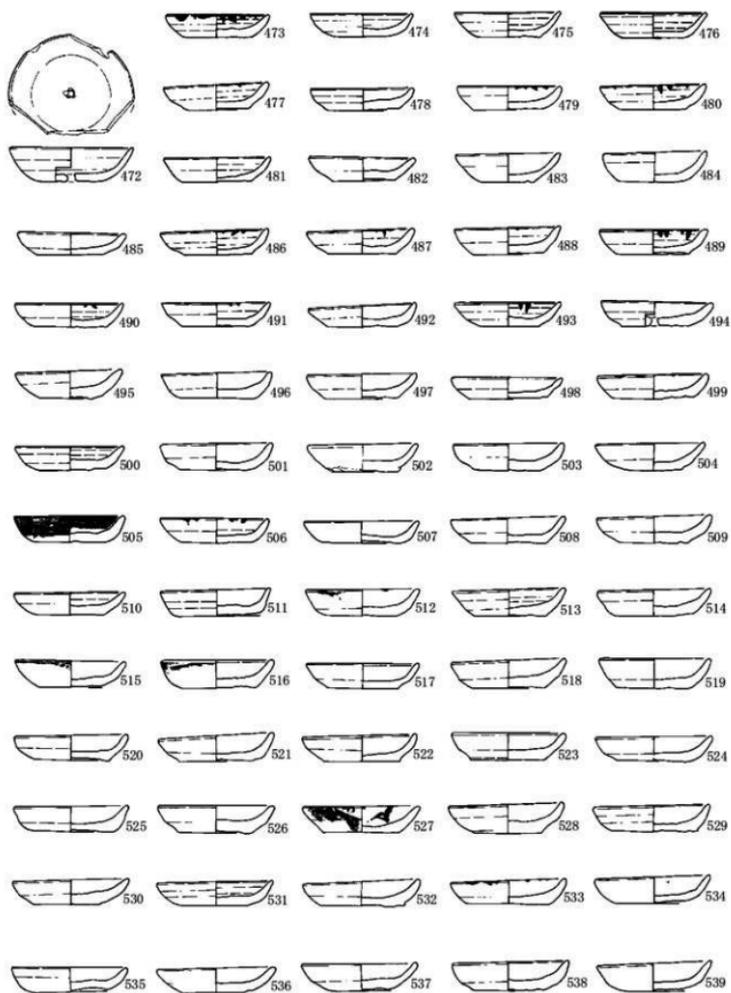
補5



補6

I B区 南東区画 2面
 かわらけ集積周辺 崩落土

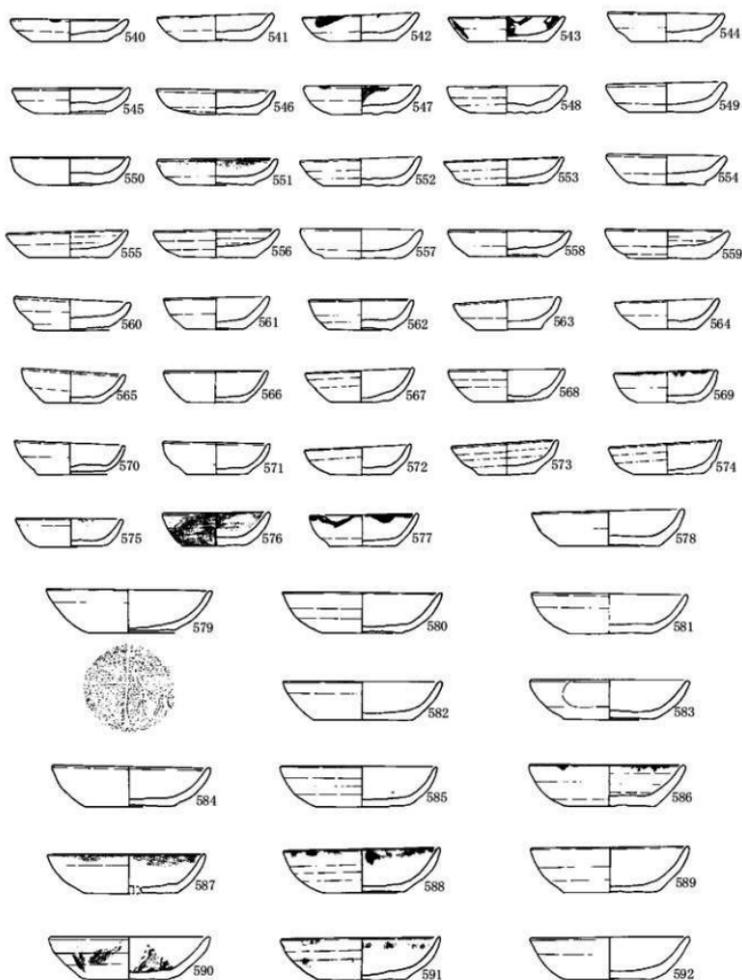
図28 出土遺物(15)



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積

0 5 10cm
(1/3)

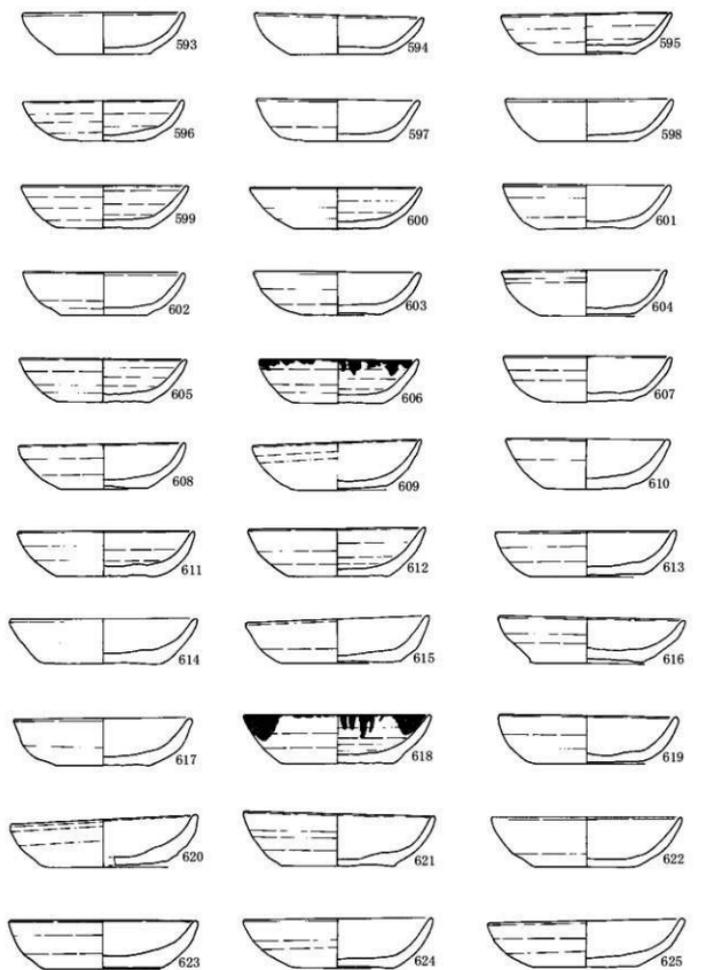
図 29 出土遺物 (16)



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積

0 5 10cm
(1/3)

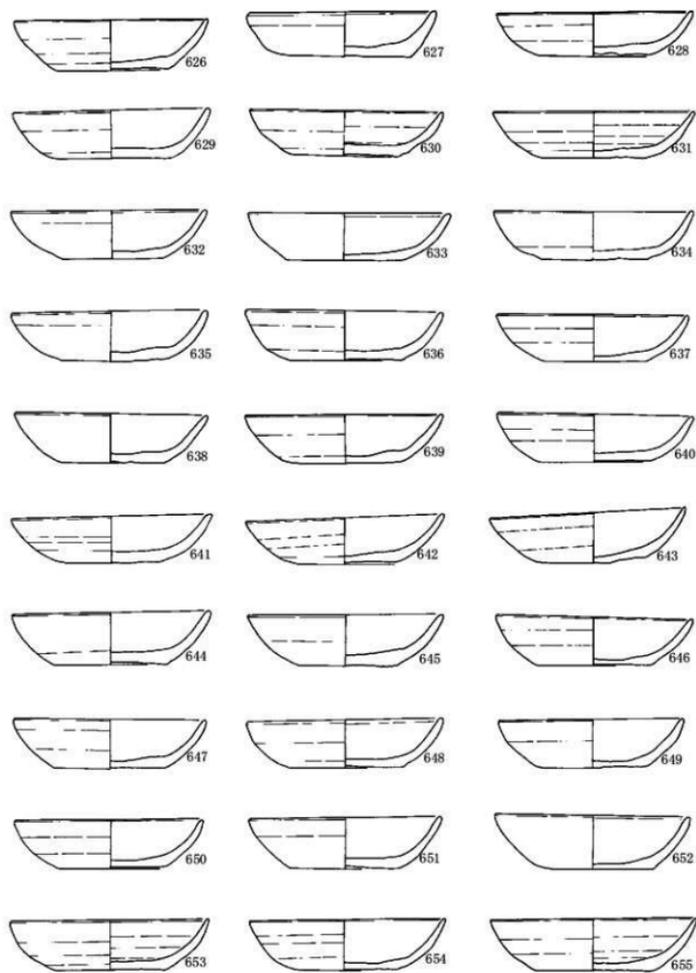
図 30 出土遺物 (17)



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積

0 5 10cm
(1/3)

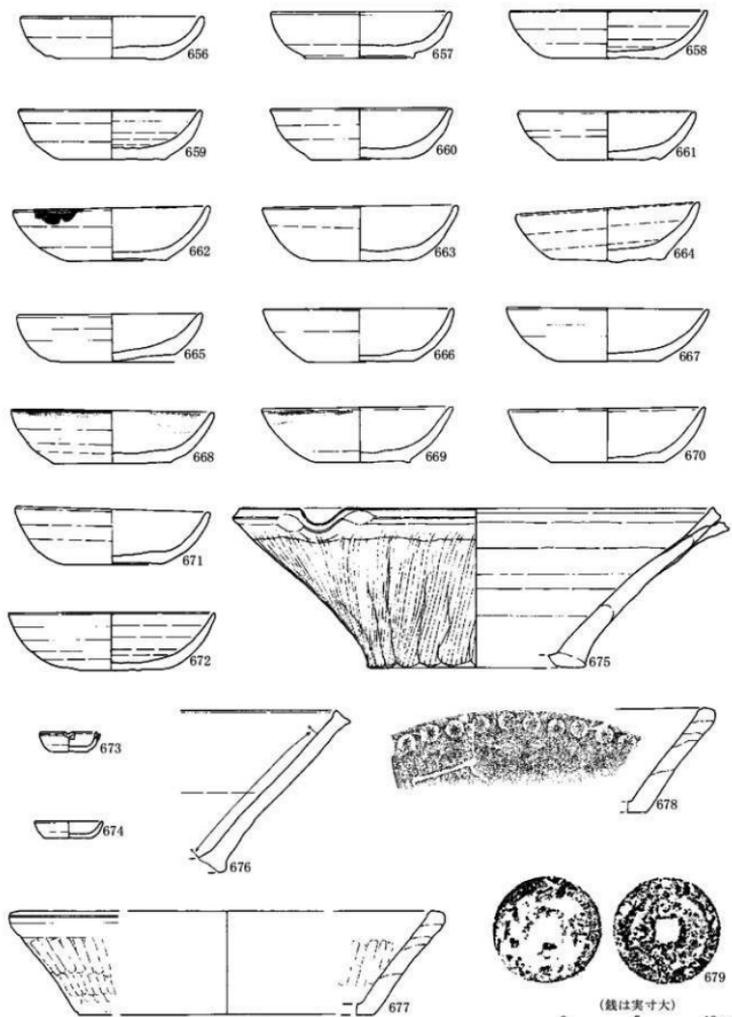
図31 出土遺物 (18)



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積

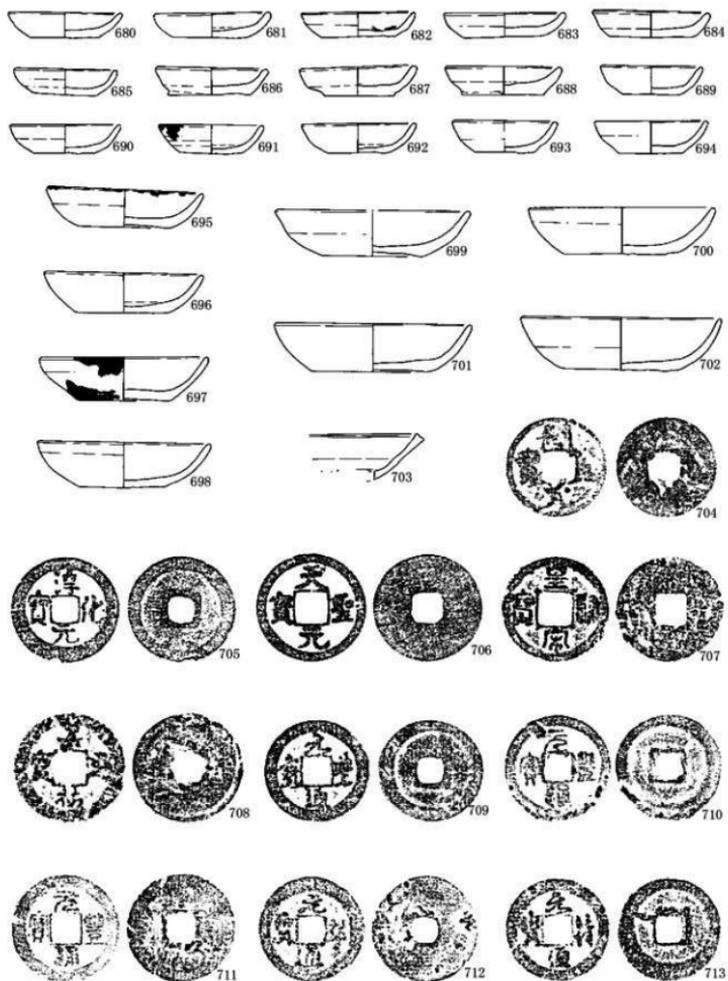
0 5 10cm
(1/3)

図 32 出土遺物 (19)



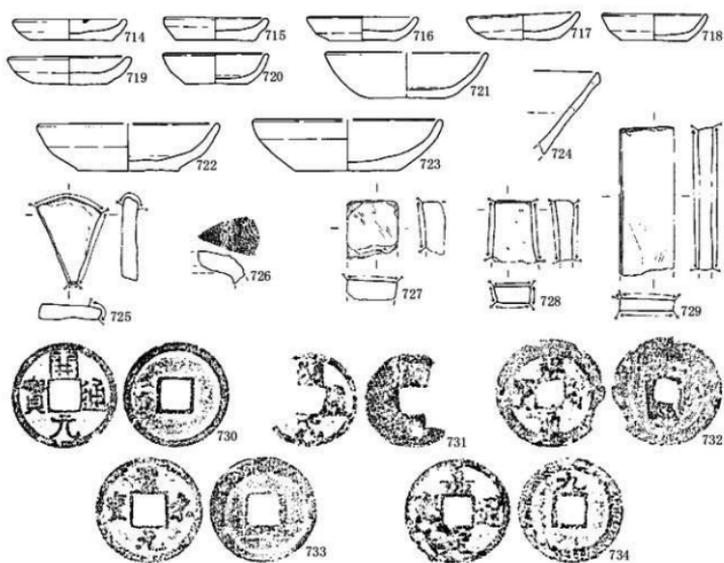
I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積

図33 出土遺物 (20)

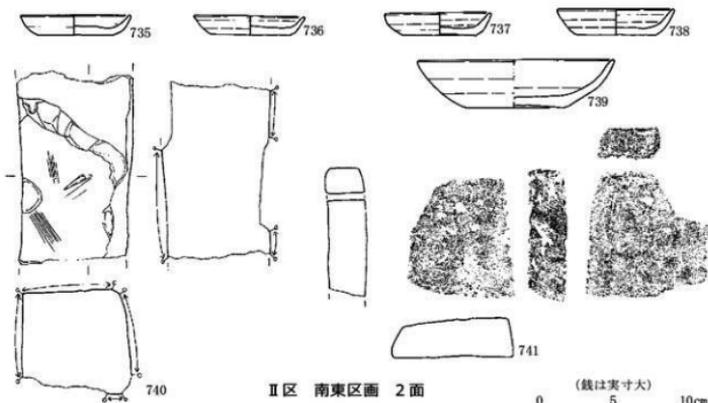


I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積

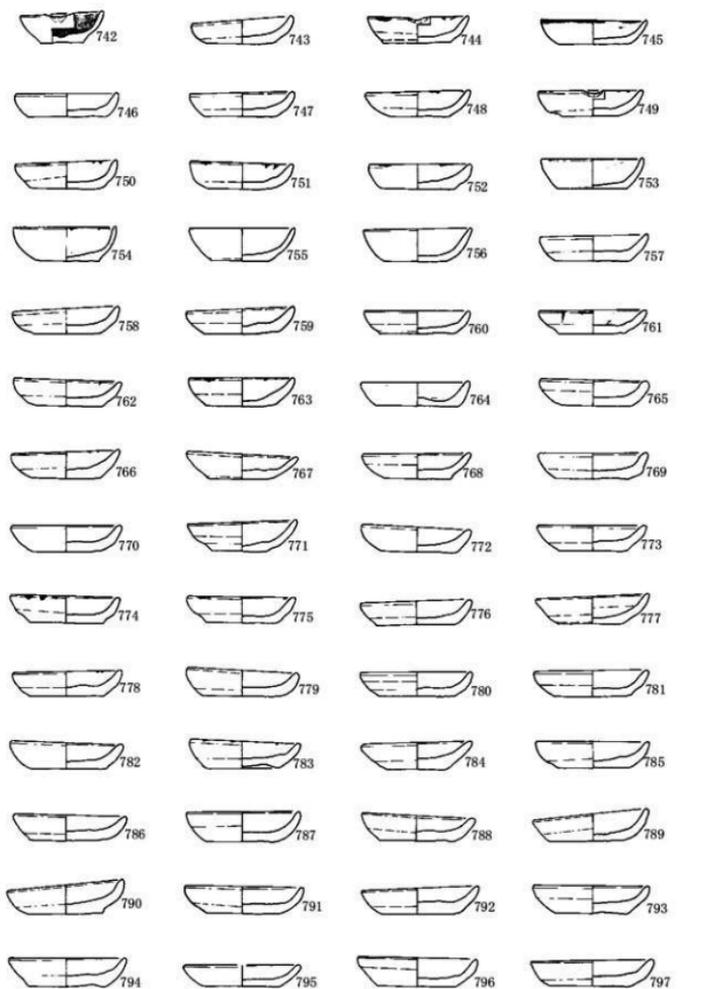
図 34 出土遺物 (21)



I B区 南東区画 2面かわらけ集積 (下層)



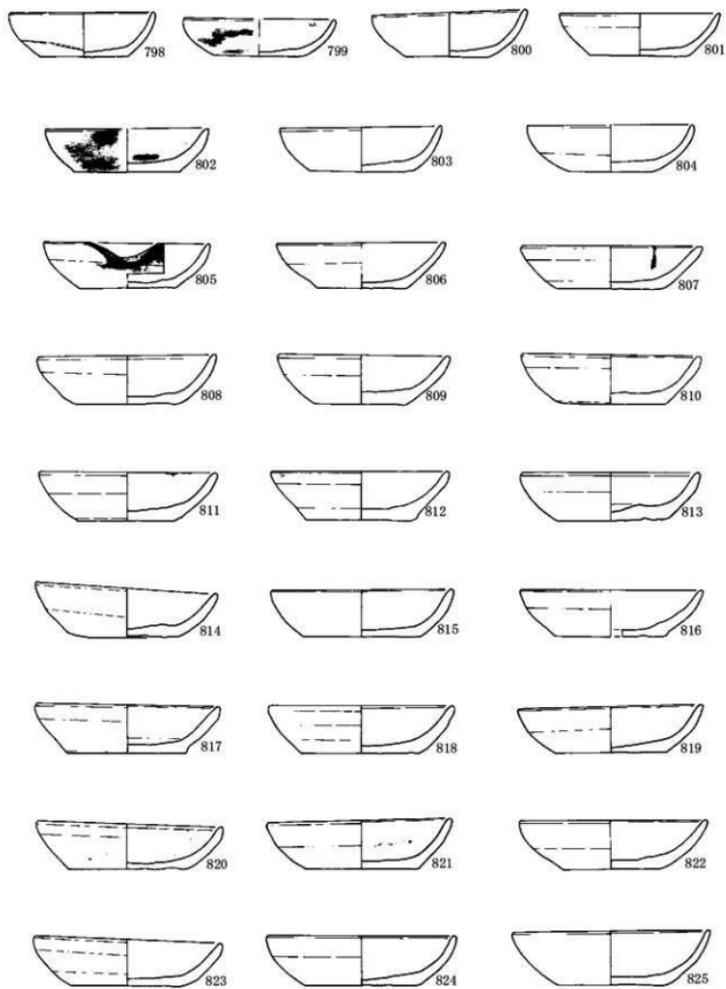
II区 南東区画 2面
かわらけ集積 (下層)
図 35 出土遺物 (22)



I B 区 北東区画 2b 面 かわらけ集積

0 5 10cm
(1/3)

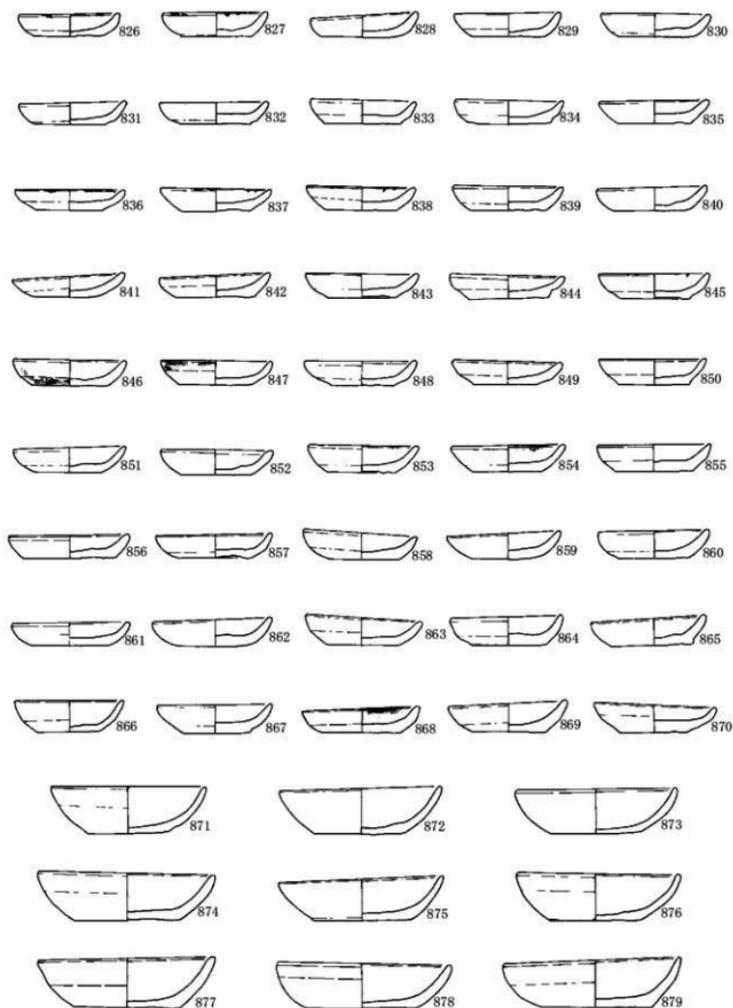
図 36 出土遺物 (23)



I B 区 北東区画 2b 面 かわらけ集積

0 5 10cm
(1/3)

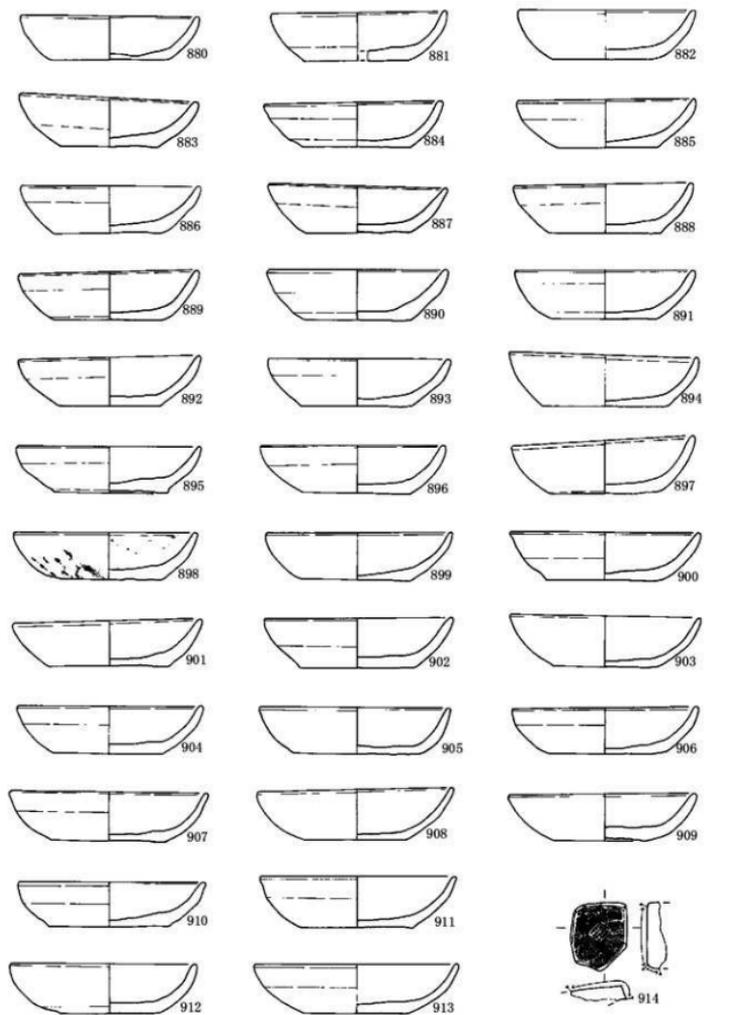
图 37 出土遺物 (24)



I B 区 南東区画 2b 面 かわらけ集積

0 5 10cm
(1/3)

図 38 出土遺物 (25)

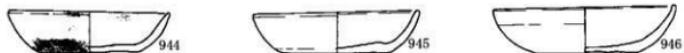
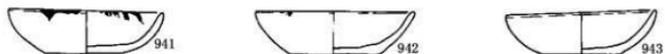
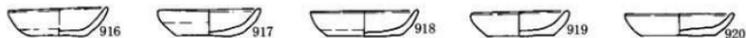


I B 区 南東区画 2b 面 かわらけ集積

图 39 出土遺物 (26)

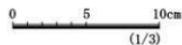


I B 区 南東区画 2b 面
かわらけ集積下 まくそ層



I B 区 南東区画 2b 面上 かわらけ集積周辺 崩落土

図 40 出土遺物 (27)

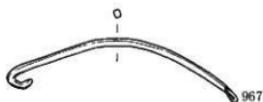
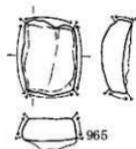
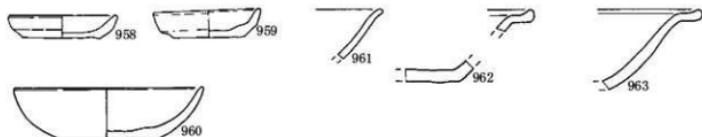




I B 区 2b 面 遺構外



I B 区 2 面・2b 面下 サブトレンチ



I A 区 北西区画 2 面下～5 面 (最上層)

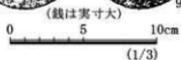
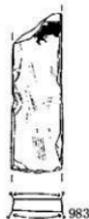
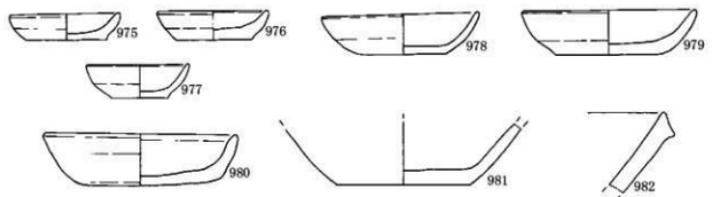


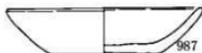
図 41 出土遺物 (28)



I B 区 2b 面 南北築地状遺構上 土坑 1 (炭プラン)



I B 区 2 面 東西築地状遺構 築成土 (基底部まで)



I B 区 2b 面下
~ 5 面 (最上層)



I A 区 北西区画 2b 面下 ~ 5 面 (上層)

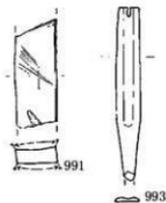
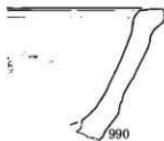


図 42 出土遺物 (29)

I A 区 南北築地状遺構下 2b 面下～5 面 炭層（上層）

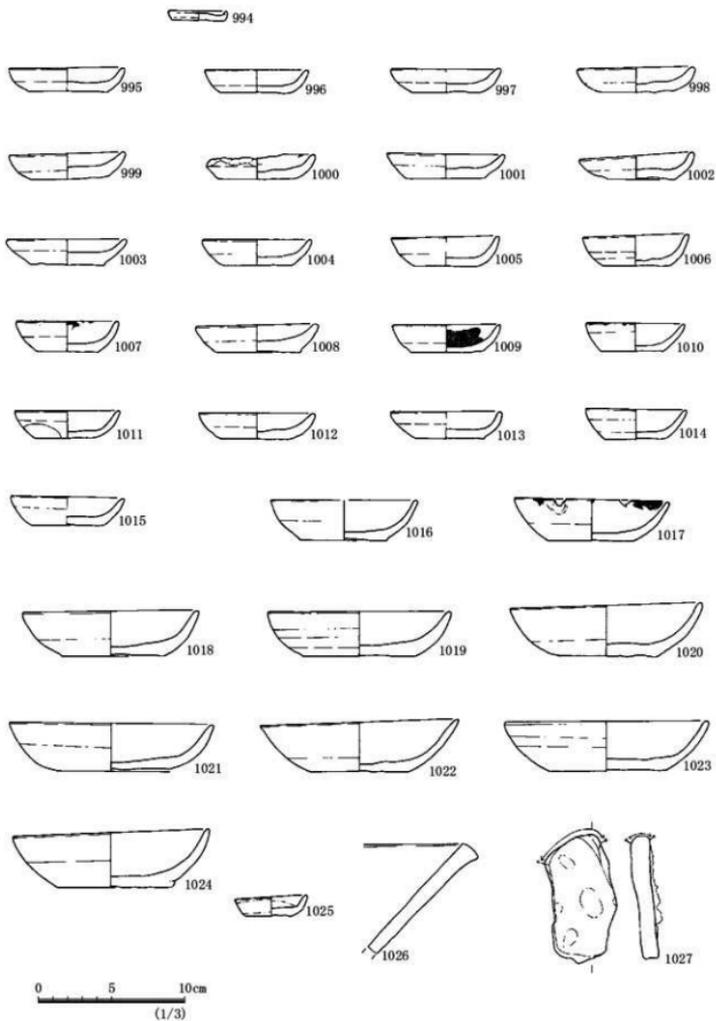
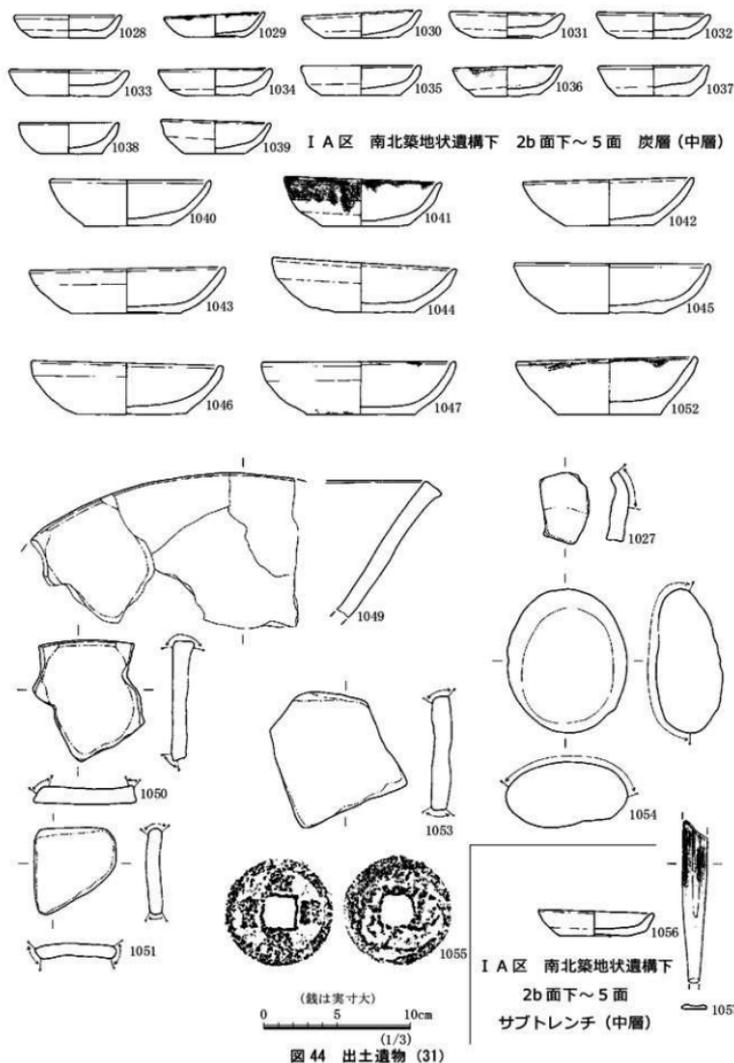
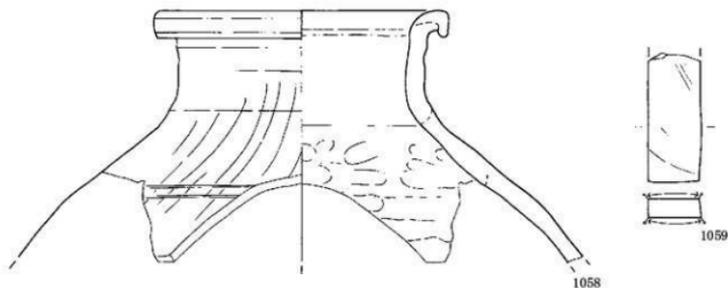
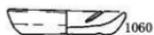


图 43 出土遺物 (30)

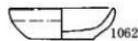
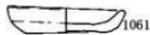




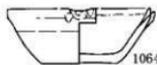
I A 区 北西区画 2b 面下~5 面 (下層)



I A 区 南北築地状遺構下
2b 面下~5 面 地割れ状痕跡



I A 区 南北築地状遺構下
2b 面下~5 面 泥岩集積 (下層)



I A 区 南北築地状遺構下
2b 面下~5 面 (下層)



I A 区 5 面 囲炉裏 1

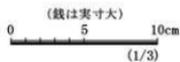


図 45 出土遺物 (32)

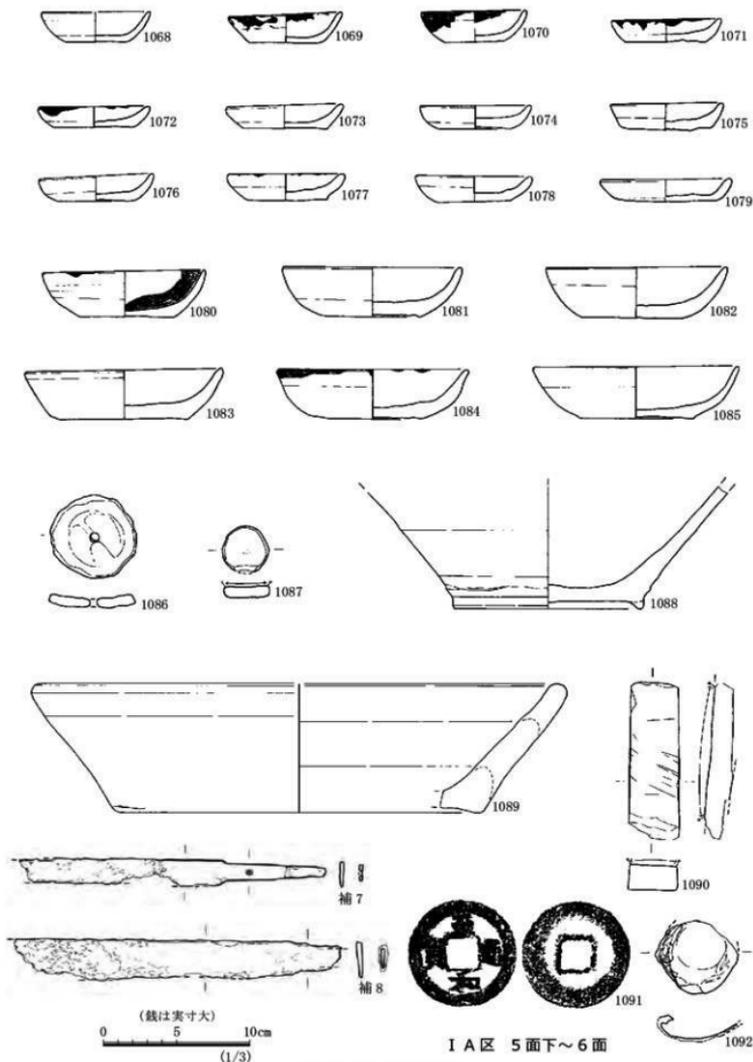
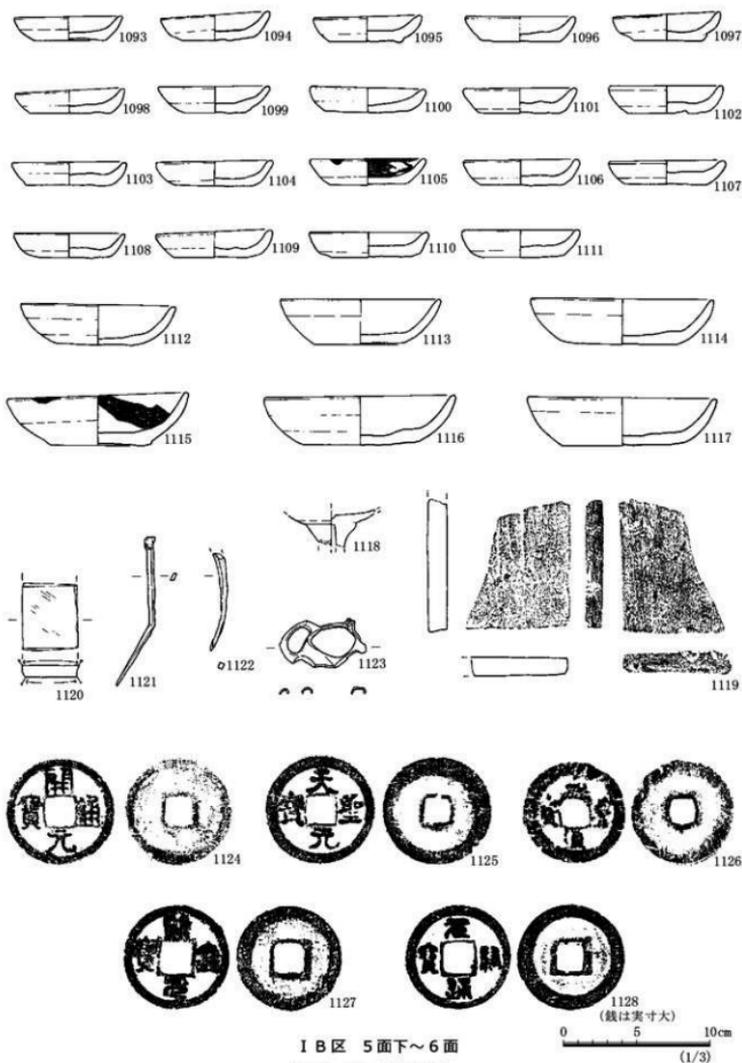
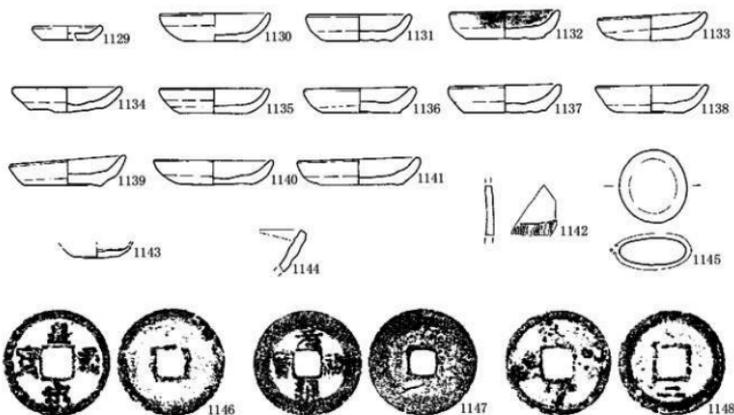


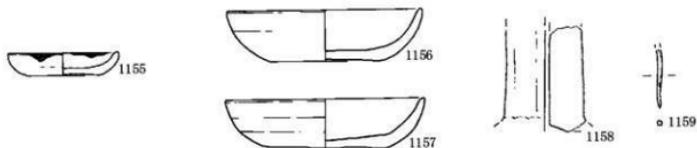
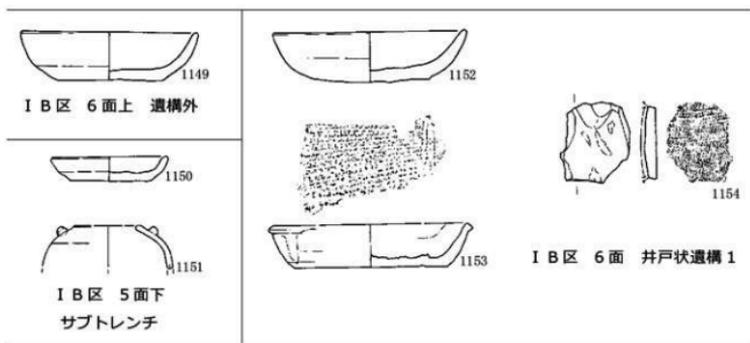
图 46 出土遺物 (33)



I B区 5面下~6面
 图 47 出土遺物 (34)



I B区 5面下~6面



I B区 6面 板壁建物状遺構 埋土



図 48 出土遺物 (35)

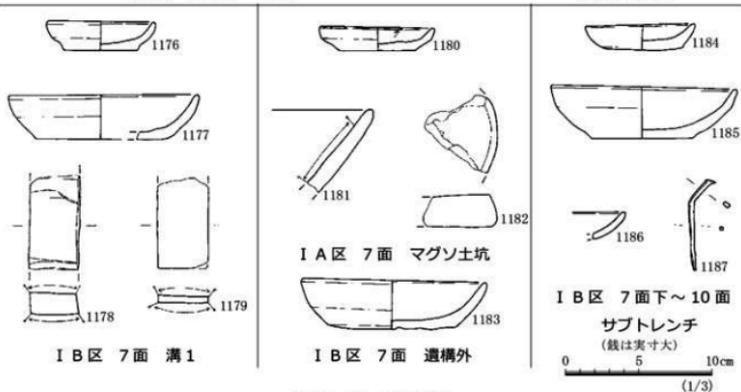
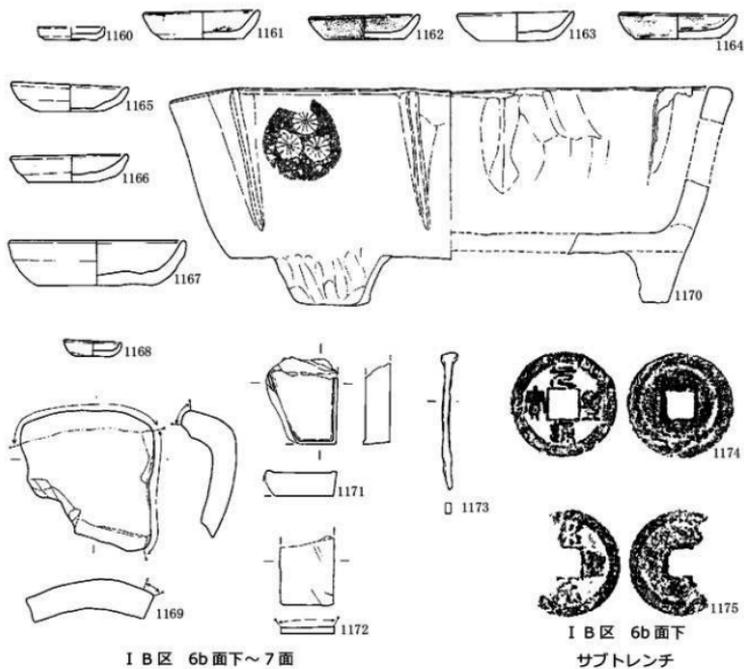


図 49 出土遺物 (36)

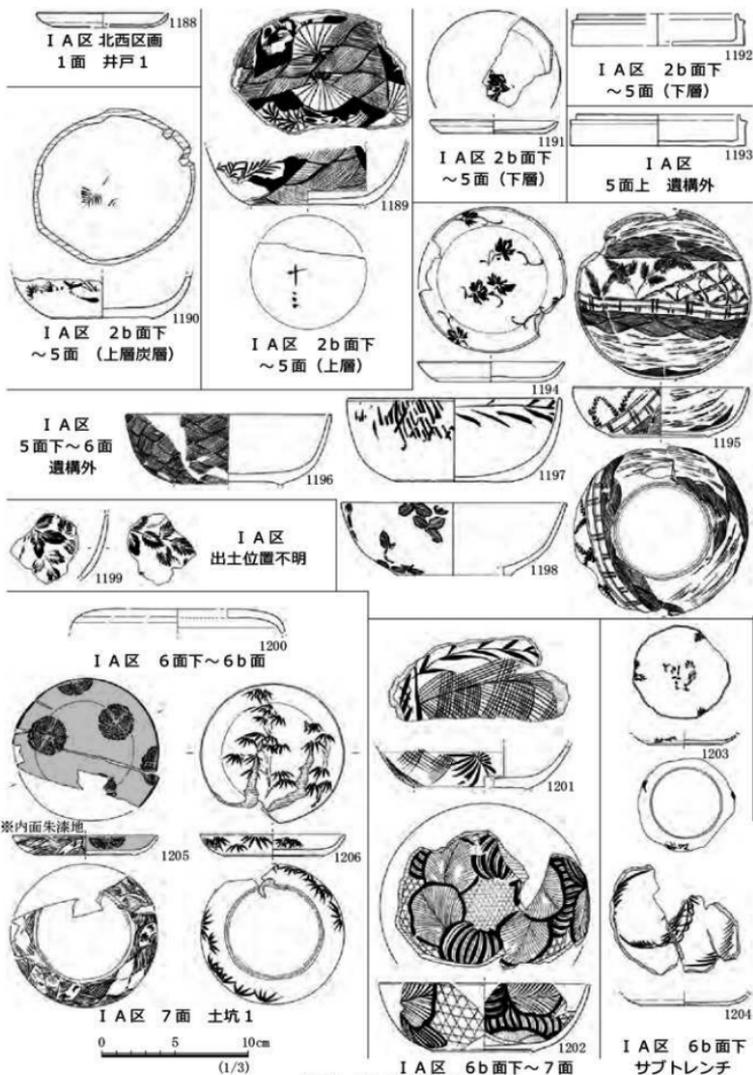


図50 出土遺物 (37)

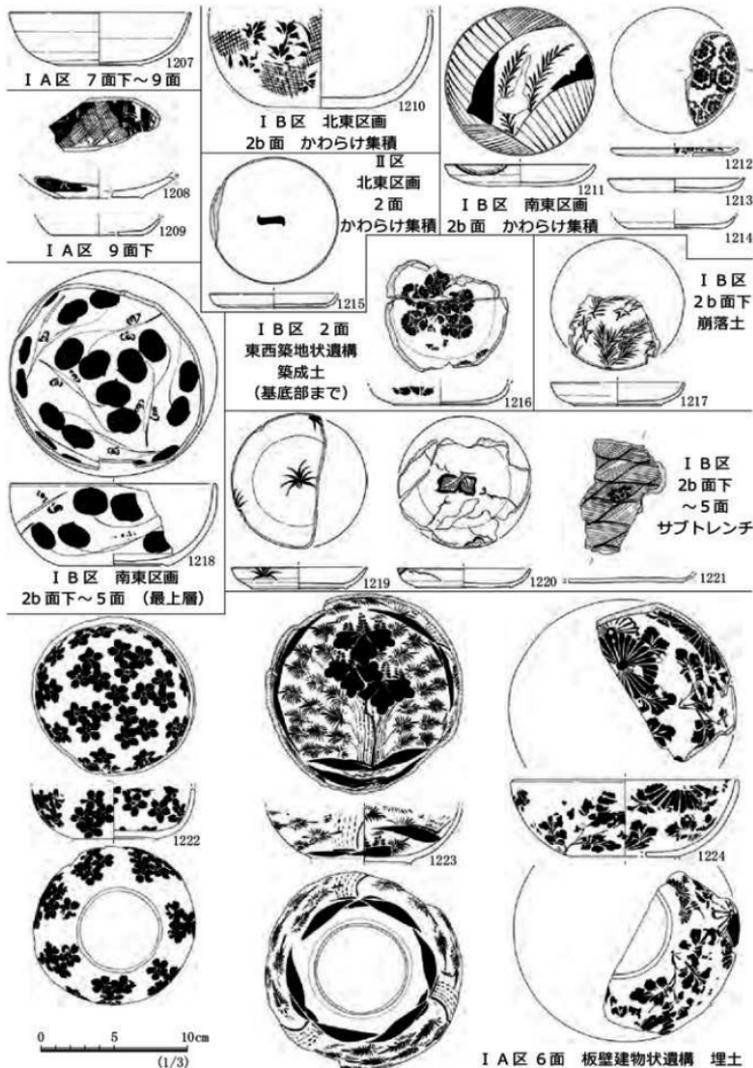


図 51 出土遺物 (38)

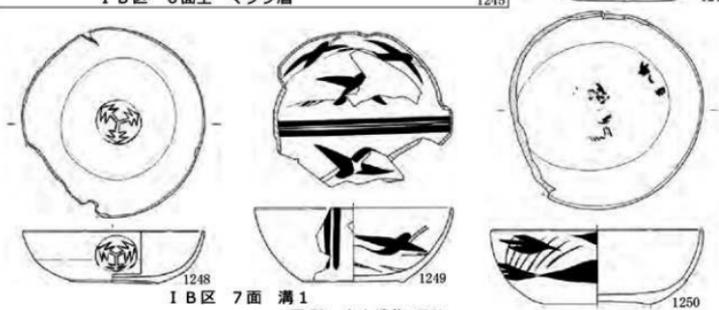
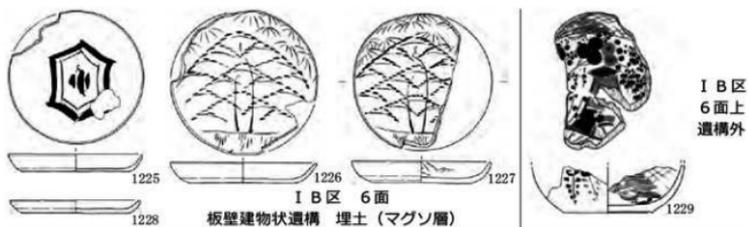
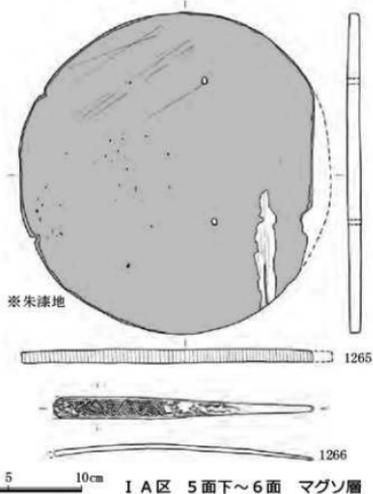
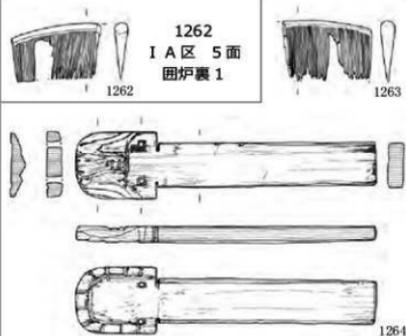
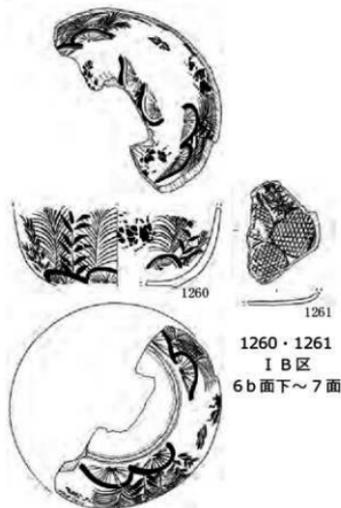
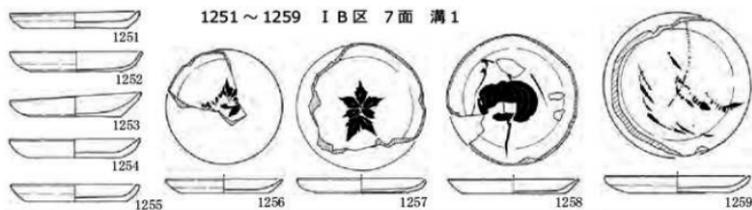
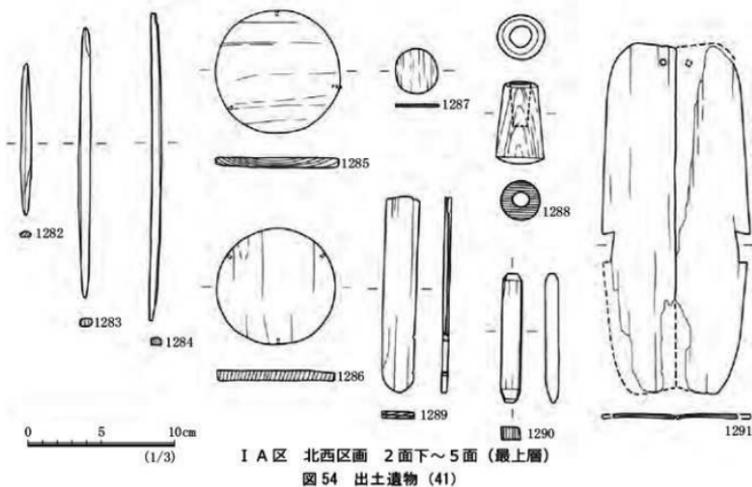
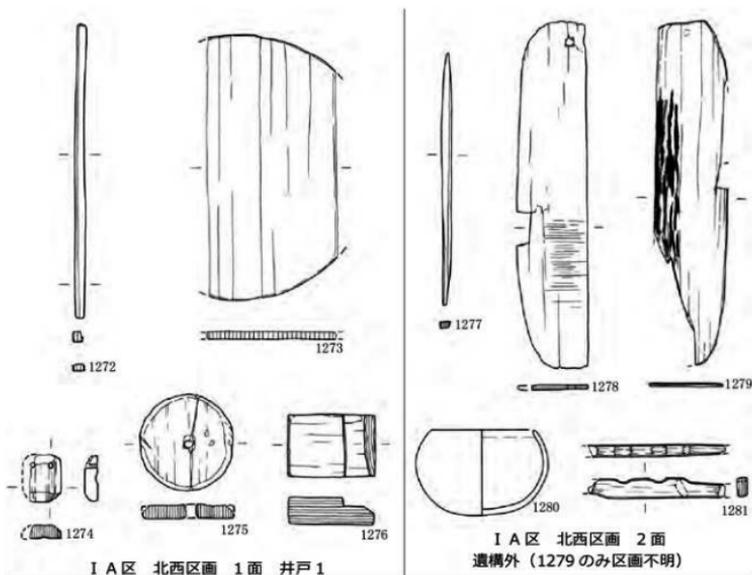
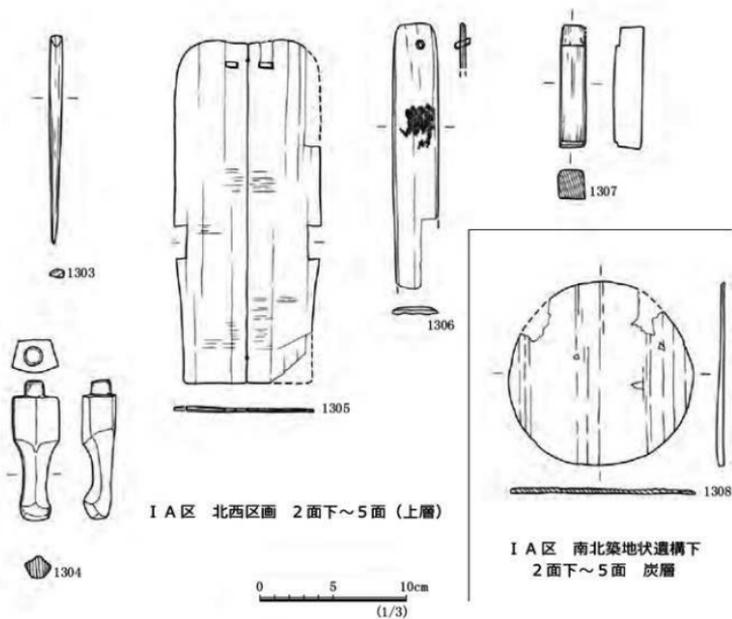
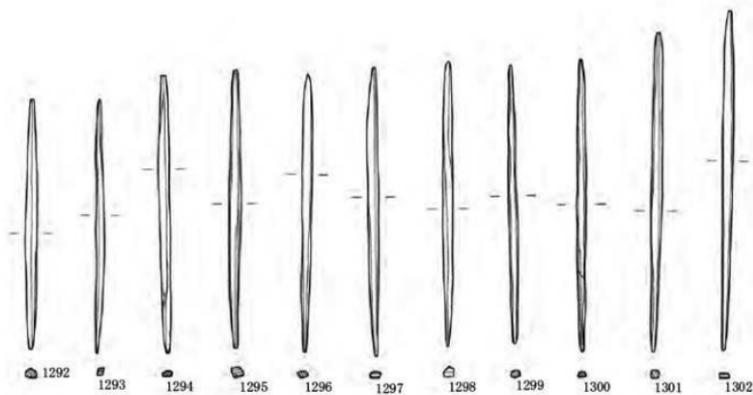


図 52 出土遺物 (39)



0 5 10cm
(1/3)
図53 出土遺物(40)





I A 区 北西区画 2 面下~5 面 (上層)

I A 区 南北築地状遺構下
2 面下~5 面 灰層

图 55 出土遺物 (42)

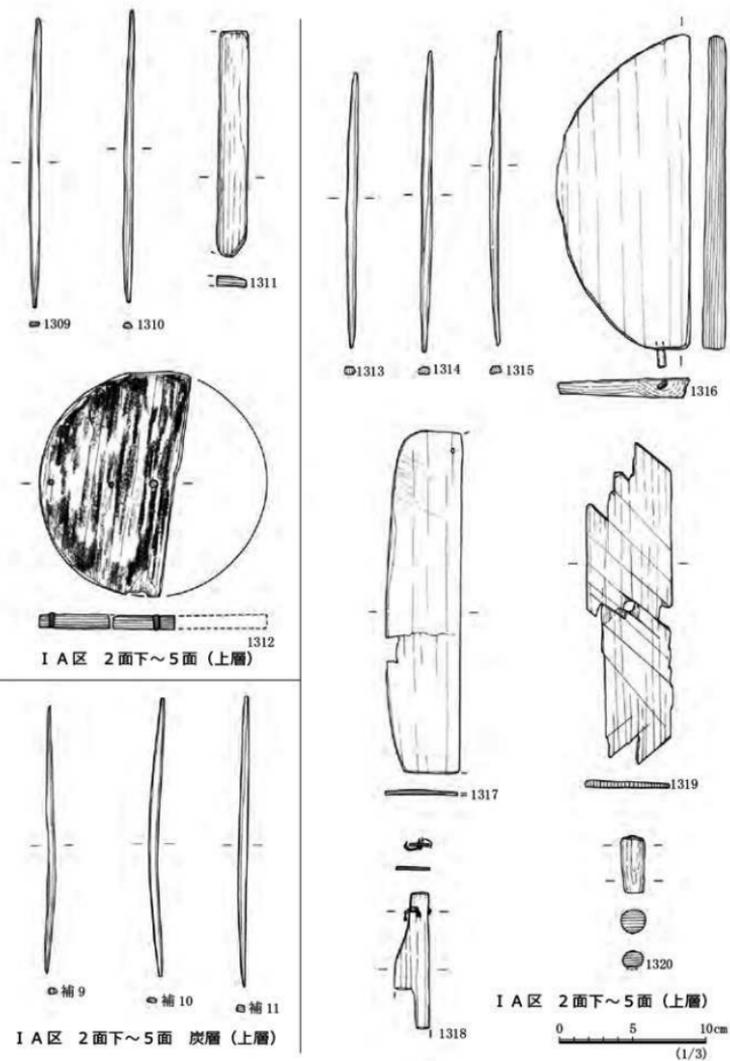


图 56 出土遺物 (43)

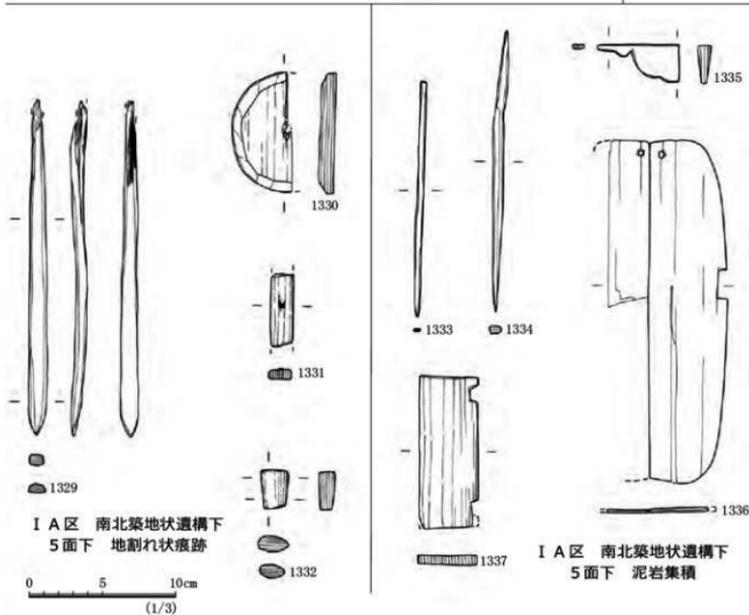
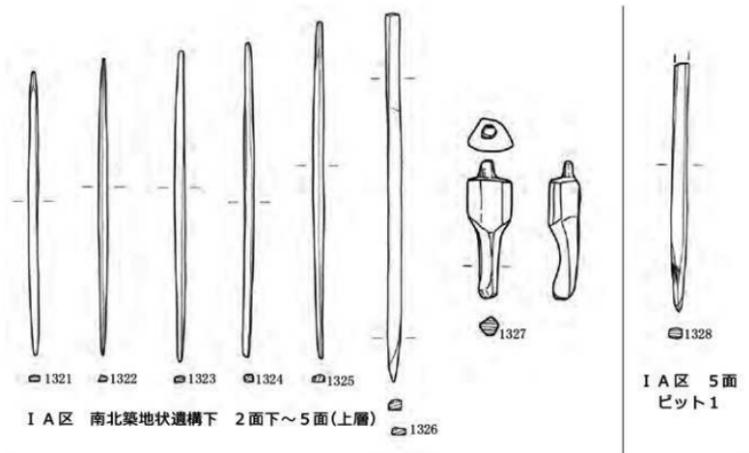


図 57 出土遺物 (44)

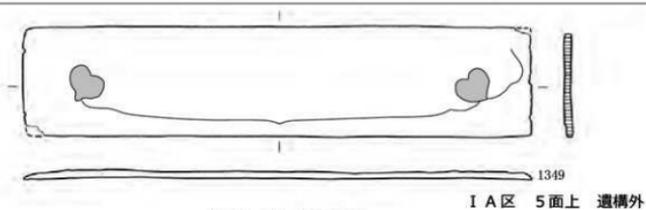
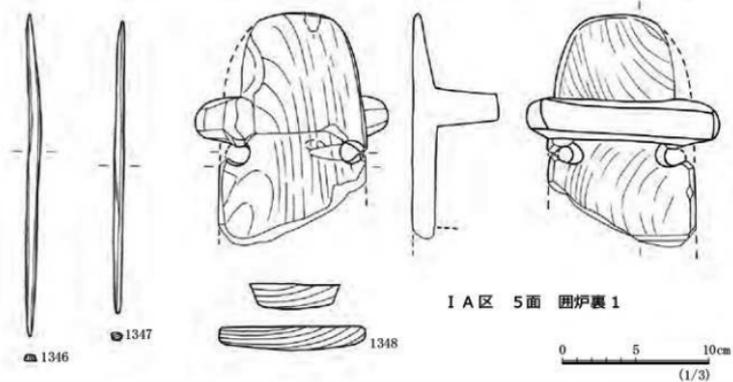
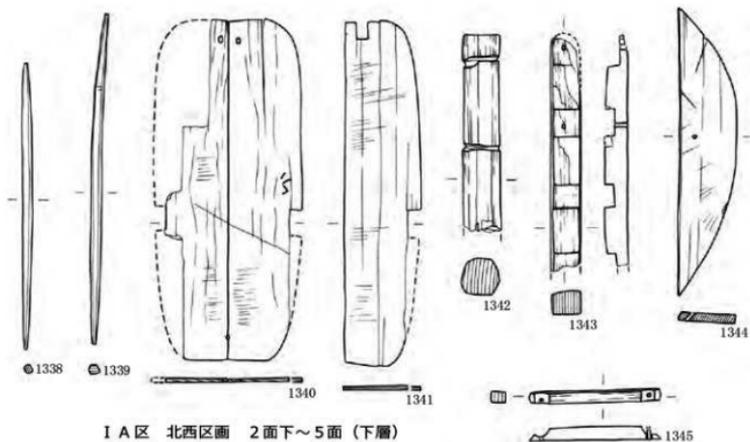
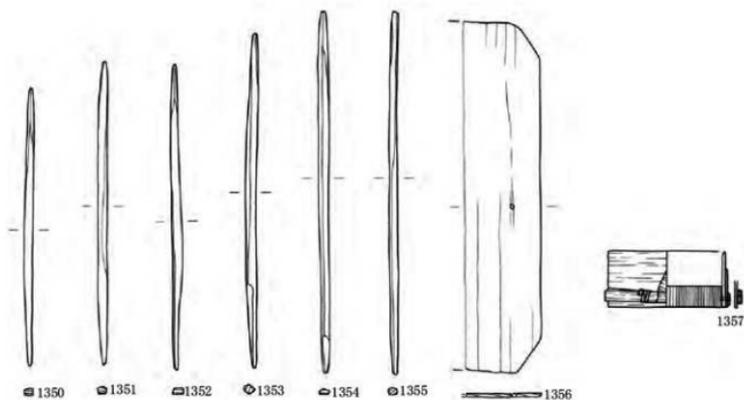
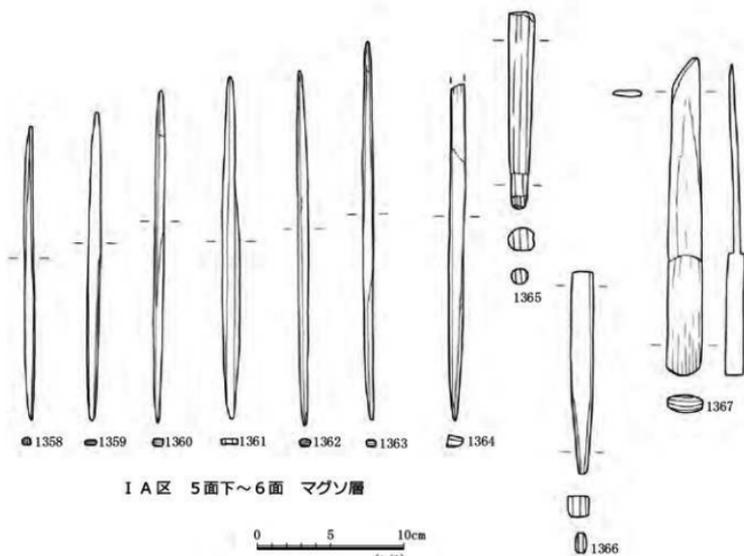


图 58 出土遺物 (45)



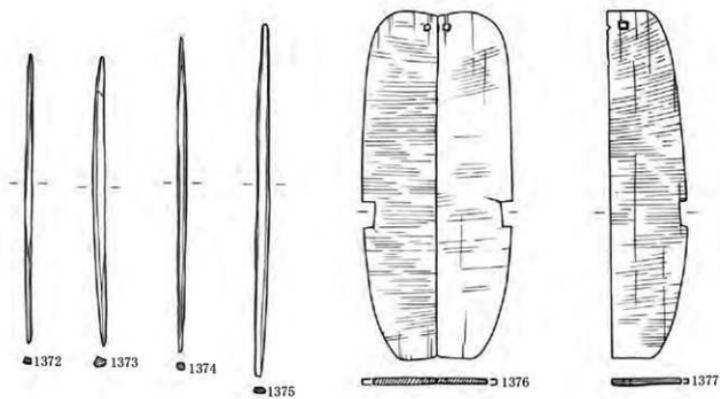
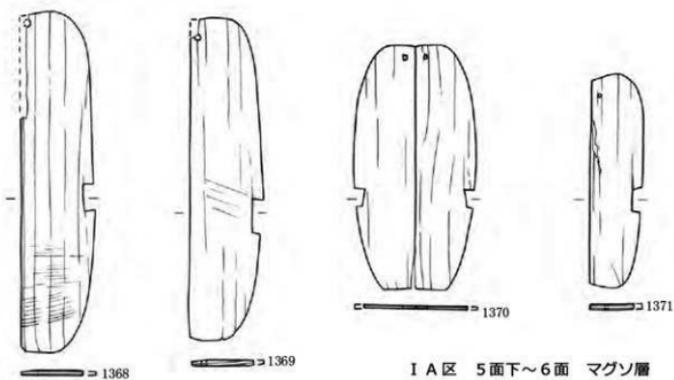
I A 区 5 面下~6 面



I A 区 5 面下~6 面 マグソ層

0 5 10cm
(1/3)

図 59 出土遺物 (46)



0 5 10cm
(1/3)

図 60 出土遺物 (47)

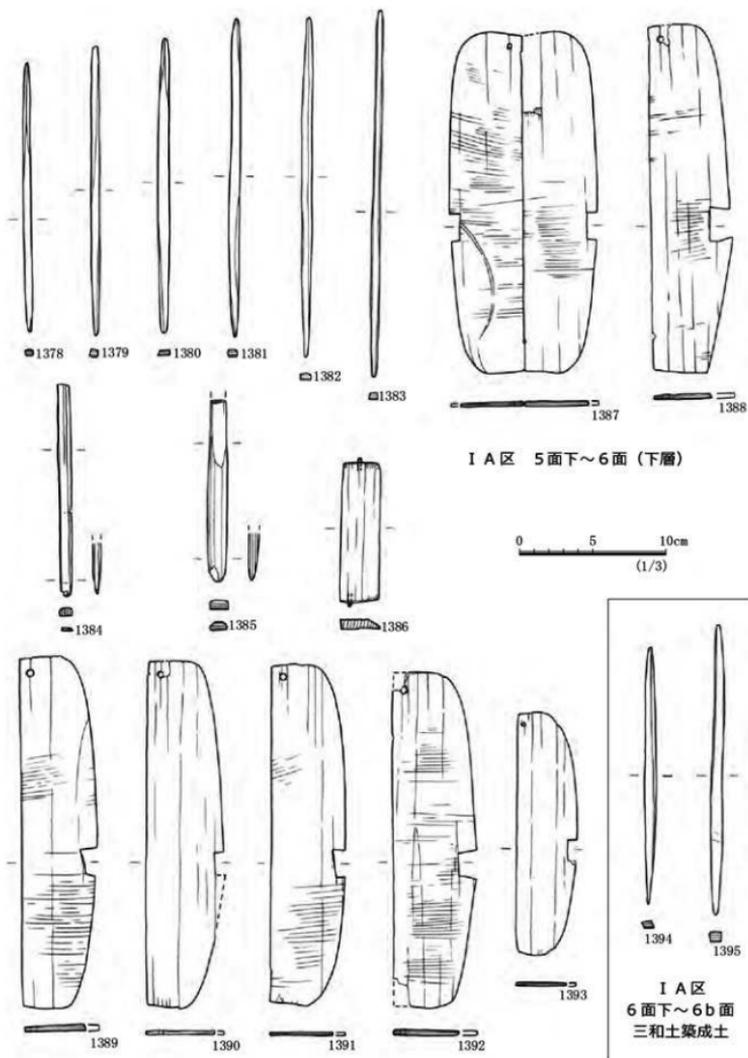
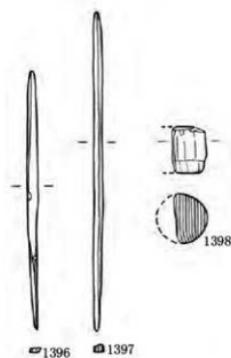
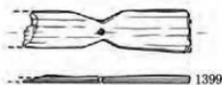


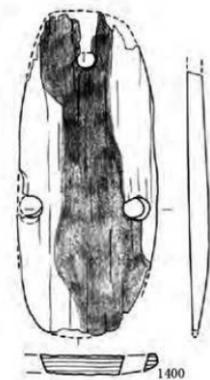
图 61 出土遺物 (48)



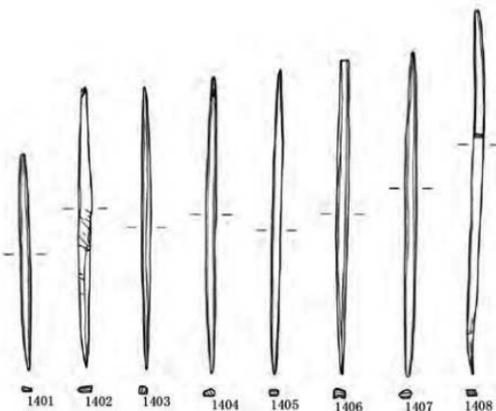
1396 1397



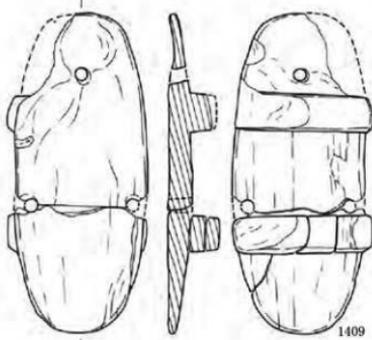
I A 区 6 面下~6b 面



I A 区 6b 面上



1401 1402 1403 1404 1405 1406 1407 1408

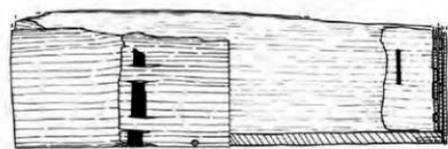
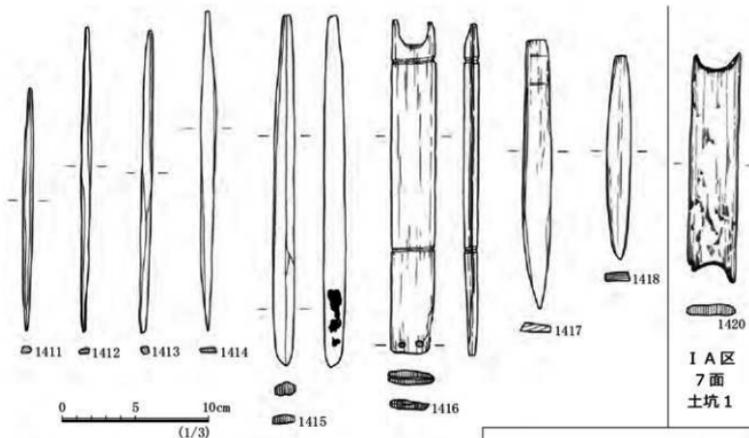


I A 区 6b 面下~7 面

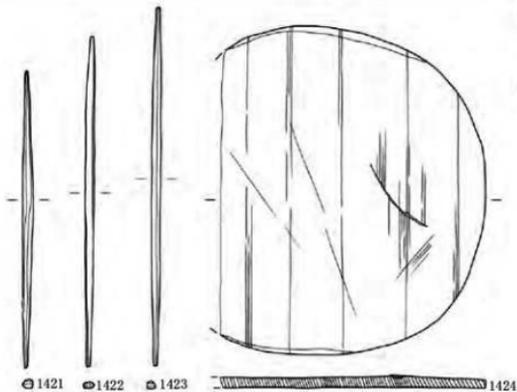
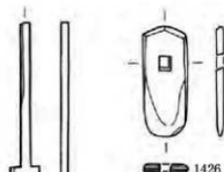


1410

图 62 出土遺物 (49)



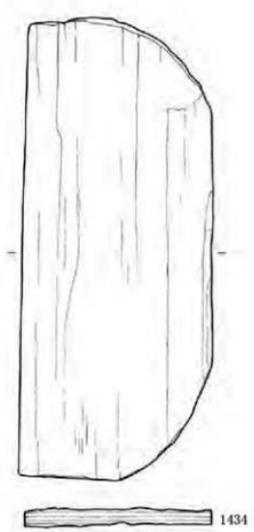
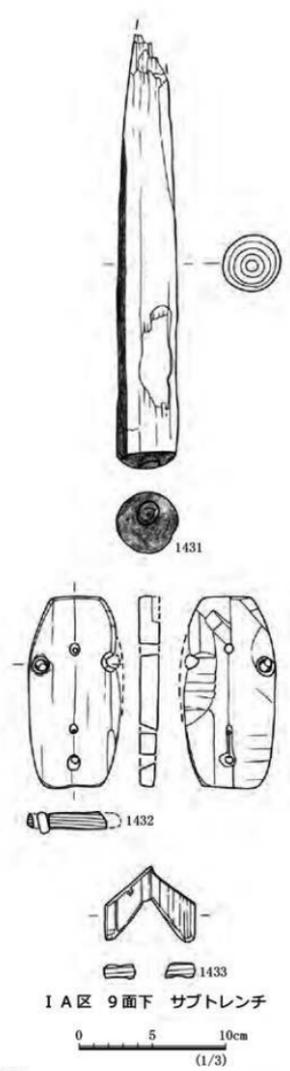
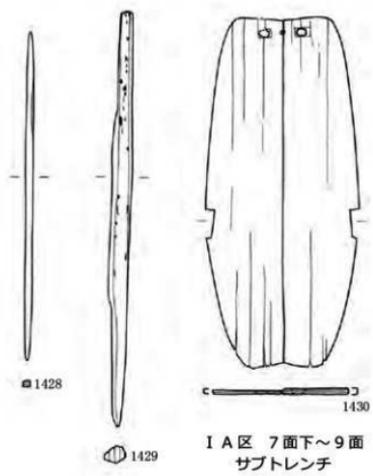
I A 区 6b 面下~7 面



I A 区 7 面下~8 面 サブレンチ

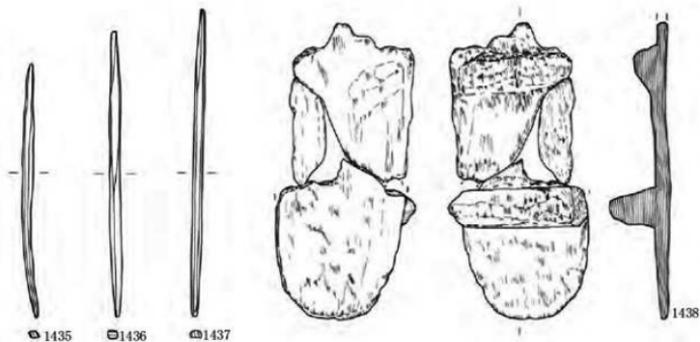
図 63 出土遺物 (50)





I B 区 南東区画 2 面 かわらけ集積

図 64 出土遺物 (51)



1435 1436 1437

I B区 北東区画 2b面 かわらけ集積

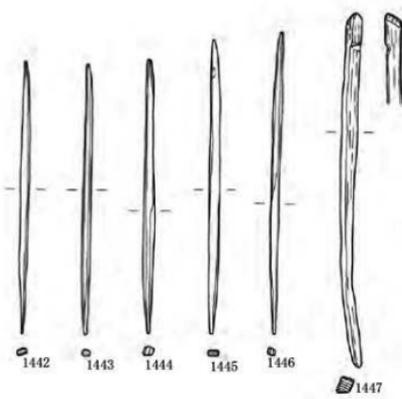


1439
I B区 南東区画
2b面 かわらけ集積



1440

I B区
南北築地状遺構下
2面下 灰層

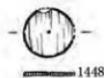


I B区 北東区画 2b面下~5面 (最上層)



1441

I B区 南北築地状遺構下
2面下 (崩落土)



1448

0 5 10cm
(1/3)

图 65 出土遺物 (52)

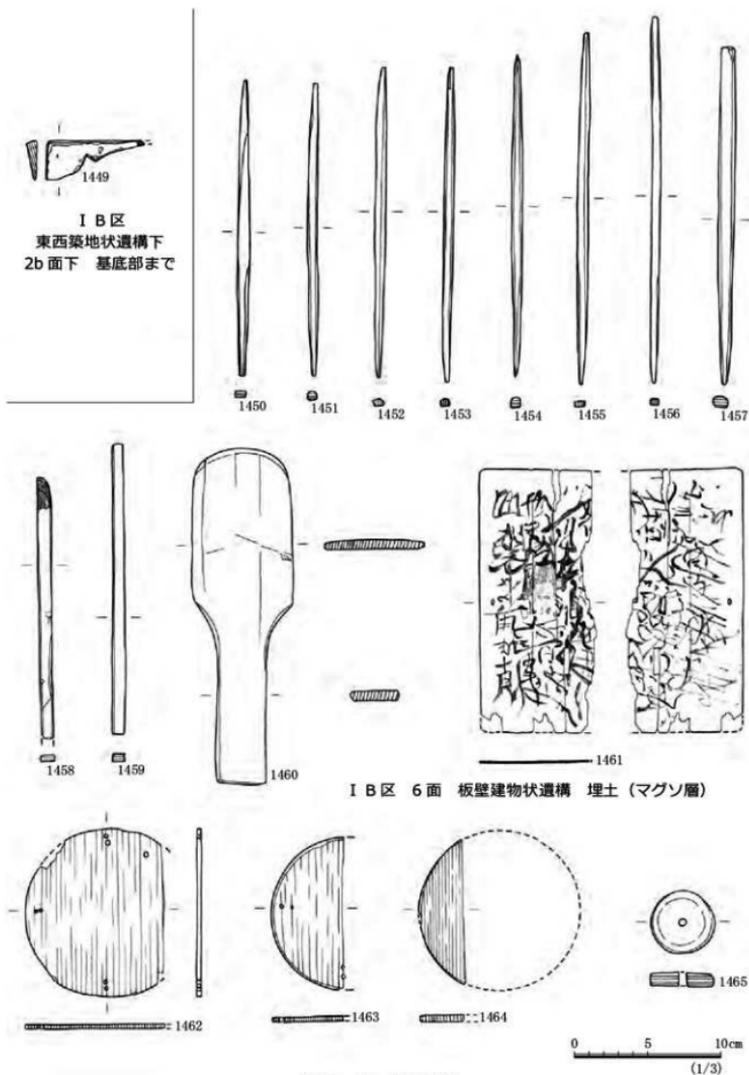
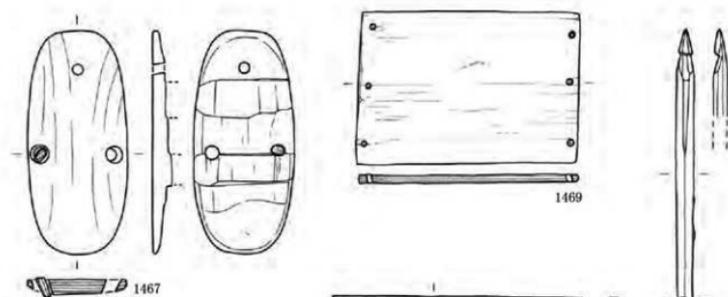
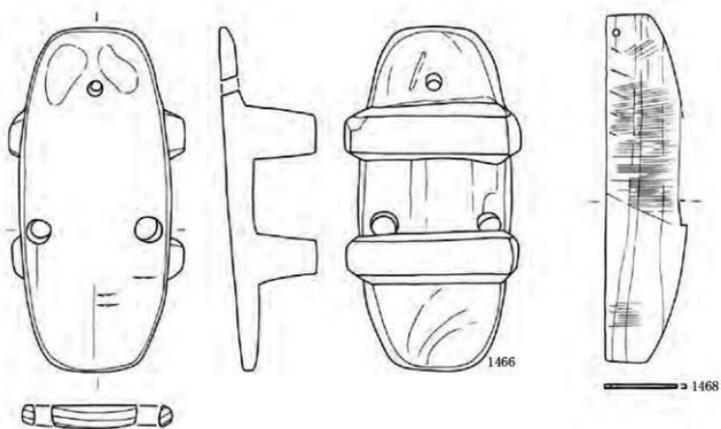
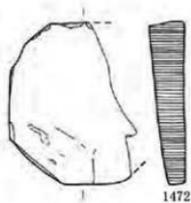


図 66 出土遺物 (53)

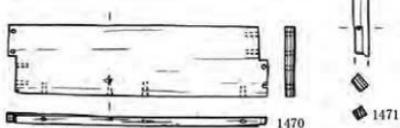


1467

1469



1472



1470

1471

I B区 6面 板壁建物状遺構 埋土 (マグソ層)

0 5 10cm
(1/3)

図 67 出土遺物 (54)

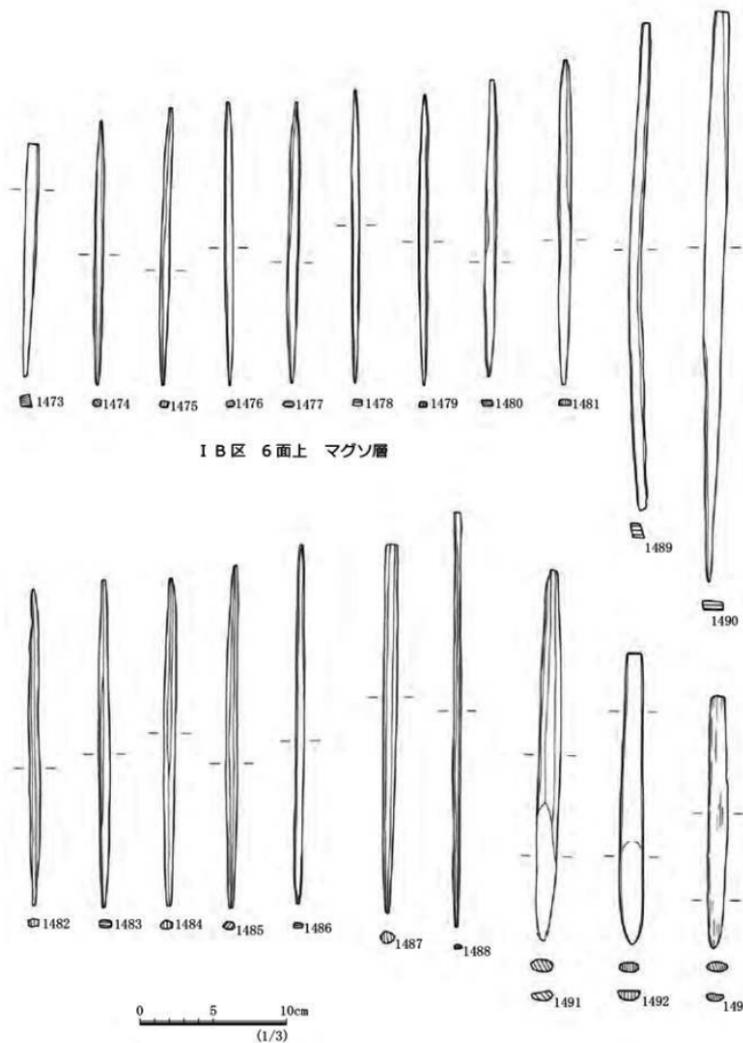
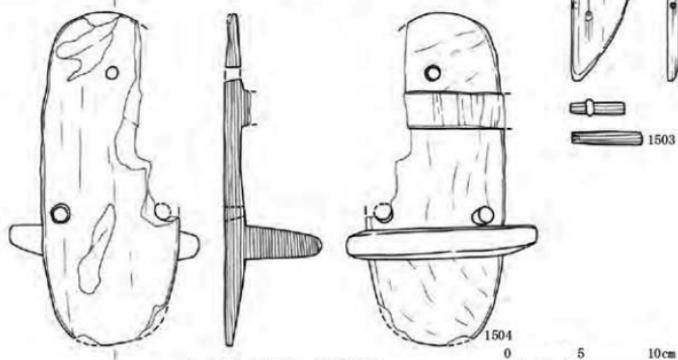
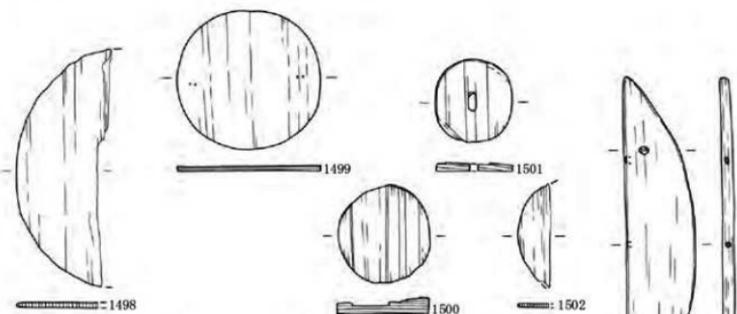
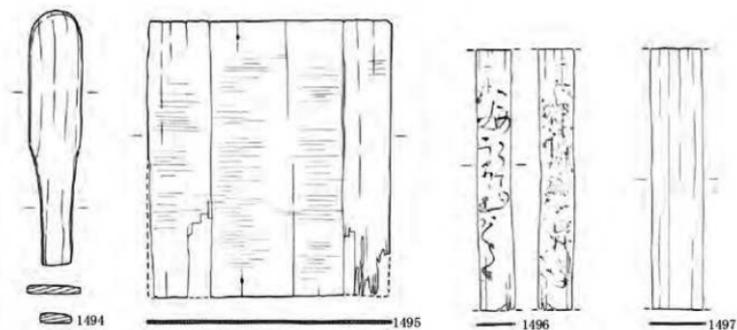
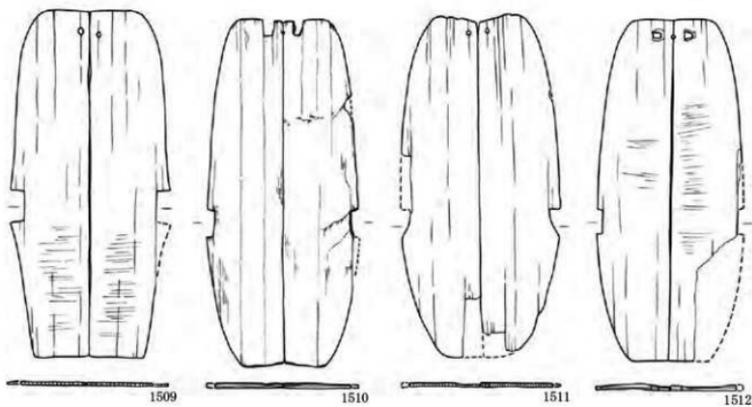
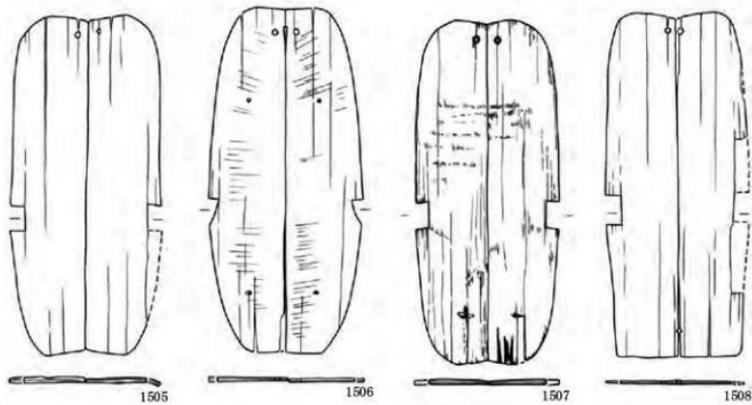


図 68 出土遺物 (55)



IB区 6面上 マグソ層

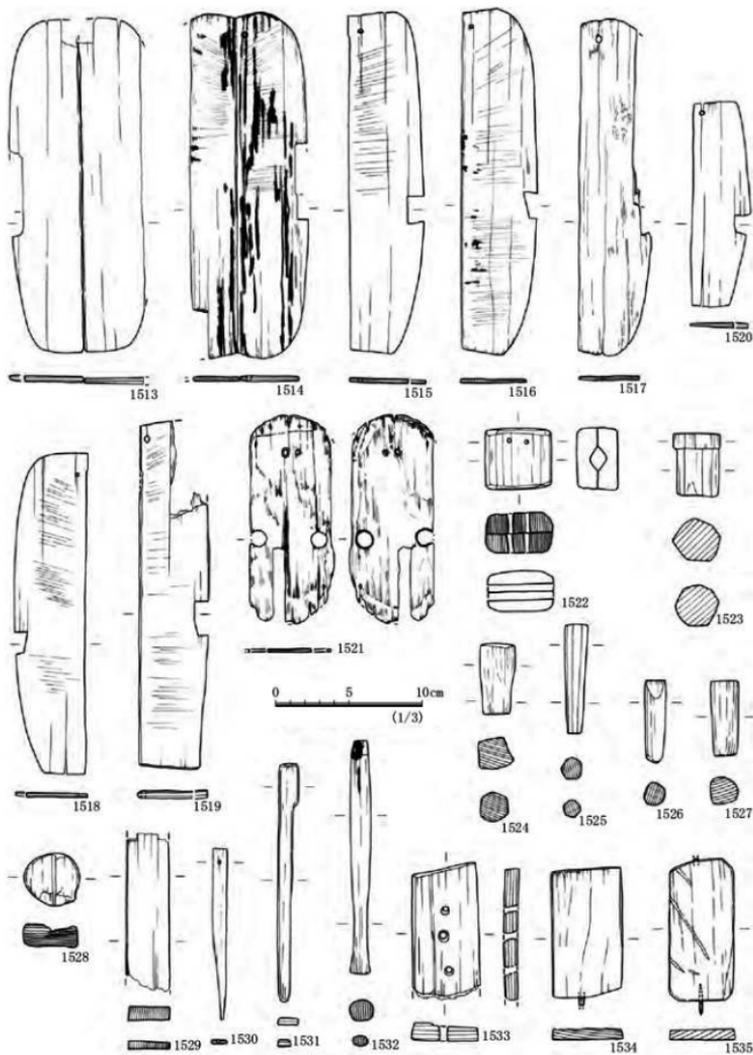
図 69 出土遺物 (56)



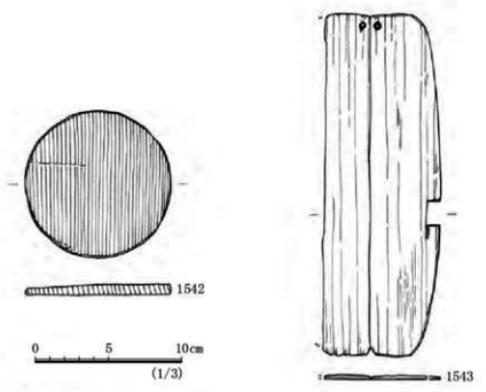
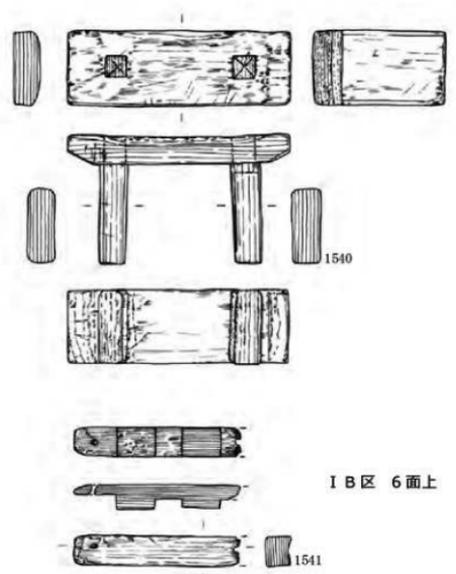
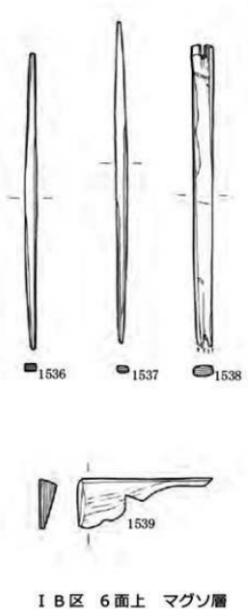
I B 区 6 面上 マグソ層

0 5 10cm
(1/3)

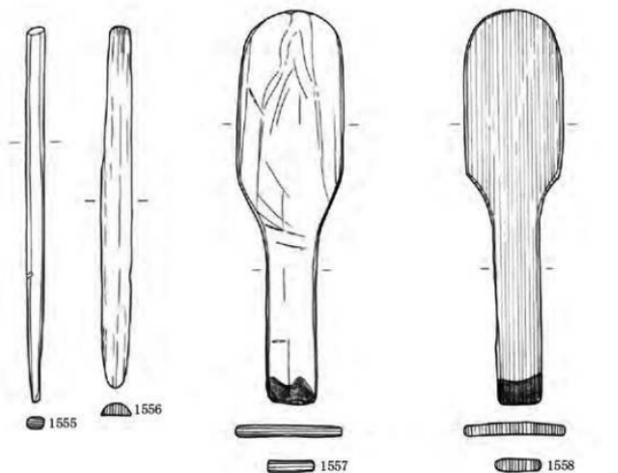
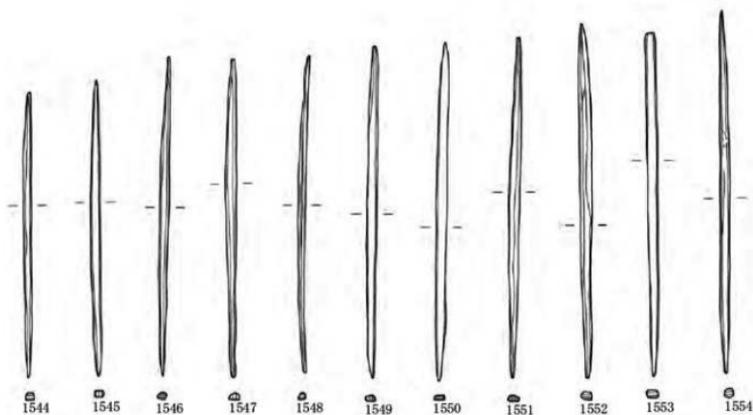
図 70 出土遺物 (57)



I B区 6面上 マグロ層
 図 71 出土遺物 (58)



I B区 6面下~7面
 図 72 出土遺物 (59)



I B 区 7 面 溝 1

图 73 出土遺物 (60)

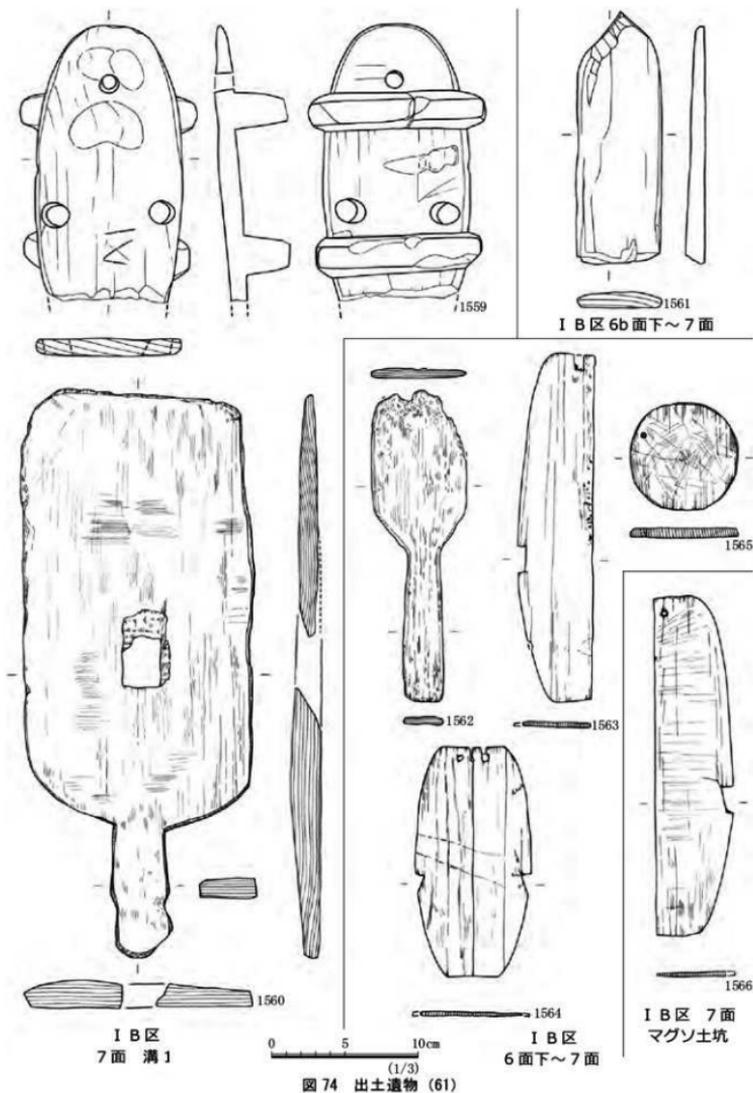


表3 出土遺物カウント・計量表

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
調査区全域 表土～1面				
ロクロかわらけ	小			770
	大・中			3036
	小片			182
	A大・中A			277
	A' 小			83
	C小			137
	C中			70
白かわらけ?	C大・中			97
	小片		1	5
搬入土器				
ロクロかわらけ	大		1	55
龍泉窯系青磁	碗	I B	1	18
		II	1	90
		IVか	1	4
瀬戸	平碗		1	37
	碗・皿		3	17
	折縁深皿or洗		1	29
	瓶類		1	19
	片口鉢	I	2	60
常滑	片口鉢	II	6	491
	小壺		2	83
	甕		22	1375
備前	播鉢		1	176
瓦器	坏		1	3
瓦質土器	火鉢	III	2	75
	火鉢		2	123
肥前系磁器	染付碗		1	2
石製品	中砥	上野	2	167
銅製品	銭		1	3
調査区全域 埴土山				
ロクロかわらけ	小			88
	大・中			287
	小片			6
	C大・中			140
瀬戸	平碗		1	40
	片口鉢	I	1	84
常滑	甕		1	44
	山茶碗		1	3
瓦質土器	火鉢	I A	1	87
銅製品	銭		1	3
I A区 北西區面 1面上 遺物包含層				
ロクロかわらけ	小			5415
	大・中			18947
	小片			9103
	A' 大			167
	C大・中			755
	転用円盤			9
白かわらけ?	小片		6	14
	鐙付鍋		6	84
搬入土器	鍋・釜		5	41
I A区 北西區面 1面上遺物包含層				
白磁	皿	IX	2	10
			1	1
	碗		1	3
青白磁	碗・皿	IX	1	2
	梅瓶		1	2
龍泉窯系青磁	梅瓶		2	27
	碗	III	2	23
	碗・皿		1	5
龍泉窯系青磁	碗・皿		2	8
	坏	III	1	5

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)	
I A区 北西區面 1面上遺物包含層					
瀬戸	入子		7	44	
	平碗		5	49	
	灰輪天目碗		1	12	
	折縁深皿		4	77	
	卸皿 (中皿まで)		6	238	
	直縁大皿		1	13	
	碗・皿		1	1	
	すり鉢		1	5	
	瓶子		1	47	
	水注		1	15	
	花瓶か		1	112	
	瓶類		1	8	
	壺か		1	7	
	鉄製品	釘		1	6
	常滑	片口鉢	I	3	127
片口鉢		II	10	604	
片口か			1	33	
広口壺 (6a)			1	316	
備前	甕 (6aまで)		46	2141	
瀬戸美濃	すり鉢		2	93	
近世陶磁器	染付碗		1	2	
瓦質土器	小片		5	12	
	火鉢	I B	1	28	
		I	4	212	
		III	12	367	
		IV	1	32	
		14	400		
瓦	平瓦	女瓦F	1	77	
瓦?	器種不明		1	15	
石製品	基石か		4	7	
	碓	鞍馬か	1	142	
	仕上げ砥	鳴滝	1	18	
	中砥	天草	1	180	
		伊予	1	20	
		砥沢	1	54	
	火打石	石英	3	38	
	軽石		1	42	
	鉄製品	釘		1	8
	銅製品	銭		4	12
木製品	箸		1		
	棒状		1		
I A区 北西區面 1面 井戸1					
ロクロかわらけ	小			336	
	大・中			1854	
	小片			272	
	C小			26	
	ロクロかわらけC			156	
	ロクロかわらけC			156	
手づくねかわらけ	大			11	
白かわらけ?	片		1	1	
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	9	
尾山型	山茶碗		1	14	
常滑	片口鉢	I	8	312	
	甕	II	1	71	
瀬美	甕		24	987	
瓦質土器	火鉢		1	138	
自然遺物	種子		5		
石製品	碓	鳴滝	1	16	
	仕上げ砥	鳴滝	1	3	
銅製品	銭		1	2	
	漆器皿		1		
木製品	漆器不明		1		
	箸		4		
	折敷		4		

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 北西區面 1面 井戸1				
木製品	曲げ物底板か		1	
	円板		1	
	角棒状		7	
	棒状		7	
	板状		1	
	八角形板		1	
	端材		1	
部材		2		
I A区 北西區面 1面 溝2				
ロクロかわらけ	小			3
ロクロかわらけ	大・中			88
I A区 北西區面 1面 溝3				
ロクロかわらけ	大・中			53
ロクロかわらけ	小片			59
I A区 北西區面 1面 土坑1				
ロクロかわらけ	小			6
ロクロかわらけ	大・中			115
ロクロかわらけ	小片			67
龍泉窯系青磁	碗			1 2
瀬戸	折縁深皿か			2 19
	柄付片口			1 12
常滑	片口鉢	I		1 24
		II		1 17
	甕			1 29
瓦質土器	火鉢			2 43
自然遺物	種子			1
I A区 北西區面 1面 土坑3				
ロクロかわらけ	小片			6
I A区 北西區面 1面 ビット2				
ロクロかわらけ	小			16
ロクロかわらけ	小片			7
常滑	甕			1 52
I A区 北西區面 1面 ビット3				
ロクロかわらけ	小			19
ロクロかわらけ	大・中			63
ロクロかわらけ	小片			66
I A区 北西區面 1面 ビット4				
ロクロかわらけ	小片			9
I A区 南北築地状遺構上 1面 土坑2				
ロクロかわらけ	小			4
ロクロかわらけ	大・中			20
ロクロかわらけ	小片			118
瀬戸	折縁深皿			1 5
	すり鉢 (後IVか)	B		2 187
常滑	片口鉢	II		1 7
瓦質土器	不明			1 4
鉄製品	釘			1 1
I A区 北西區面 1面下～2面 整地層				
ロクロかわらけ	小			710
ロクロかわらけ	大・中			5666
ロクロかわらけ	小片			1994
ロクロかわらけ	小			85
I A区 北西區面 1面下～2面 整地層				
ロクロかわらけ	C中			52
ロクロかわらけ	C大・中			592
搬入土器	鍋・釜			10 38
	不明			1 2
白磁	碗	IX		1 6
青白磁	梅瓶			1 3
龍泉窯系青磁	碗	I		1 10
		IV?		1 12

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 北西區面 1面下～2面				
瀬戸	入子			4 28
	卸皿			2 9
	折縁深皿 (後II項)			1 107
	折縁深皿 (中II～III)			1 4
	折縁深皿or洗			1 27
	柄付片口か			1 29
	片口鉢	I		5 230
片口鉢	II		3 203	
常滑	甕 (5型式まで)			31 2269
	甕 (8型式)			1 2
不明陶器				1 1
石製品	滑石スタンプ	銅転用		1 35
	基石			13 23
瓦質土器	火鉢	I		2 89
		IA		1 50
		III		2 135
銅製品	銭			1 2
木製品	角棒状			1
	棒状			1
漆器	不明			2
自然遺物	種子			3
I A区 北西區面 2面 木組み1埋土				
ロクロかわらけ	小			49
	大・中			729
	小片			194
	C大・中			329
白かわらけ	小片			1 3
常滑	小壺			1 240
	甕			1 120
備前	すり鉢			1 75
瓦質土器	火鉢			1 75
石製品	中砥	上野		1 30
木製品	漆器柄か			1
	箸			7
	草履芯			1
	筆置き?			1
	部材			1
I A区 北西區面 2面 木組み1北 (裏込め?)				
ロクロかわらけ	極小			6
	大・中			59
	不明			1 4
自然遺物	種子			1
I A区 南北築地状遺構下 2面上				
ロクロかわらけ	C' 大			176
I A区 南北築地状遺構下 2面上 炭層				
ロクロかわらけ	内折れ極小			9
	小			1969
	大・中			7221
	小片			2592
	C小			380
	C中			407
	C大・中			869
	C' 小			45
C' 中			136	
I A区 南北築地状遺構下 2面上 炭層				
白かわらけ	小片			2 6
龍泉窯系青磁	碗	III		1 8
瀬戸	入子			4 53
	片口鉢	II		10 932
	片口			1 58
常滑	甕 (5型式)	5型式		1 1184
	甕			8 494

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 南北築地状遺構下 2面上 炭層				
常滑	転用研磨具	片口皿片	1	86
		甕片	1	123
		I B	2	180
瓦質土器	火鉢	III	2	299
			4	152
石製品	碗石	鳴滝	1	42
		仕上げ砥	2	26
		磨り石	1	291
銅製品	銭		1	3
			2	
木製品	漆器皿	漆器柄	1	
		漆器不明	5	
		曲げ物底板	1	
		棒状	5	
		角棒状	2	
		板状	1	
自然遺物	種子	ハマグリ	1	6
		獣骨	2	5
I A区 南北築地状遺構下 2面 土坑5				
ロクロかわらけ	小			106
		大・中		438
		小片		46
I A区 南北築地状遺構下 2面 ビット5				
ロクロかわらけ	小			32
		大・中		40
		小片		13
I A区 南北築地状遺構下 2面 ビット6				
ロクロかわらけ	小片			11
		C小		104
I A区 北西區面 2面下～5面 (最上層)				
ロクロかわらけ	小			540
		大・中		3944
		小片		812
		C大		162
搬入土器	鉢・釜		1	8
			1	10
白磁	壺		1	12
			1	5
龍泉窯系青磁	坏	III (大)	1	7
			2	258
瀬戸	折縁深皿 (中皿～皿)		1	80
			2	162
常滑	壺	I	4	104
		II	4	162
		III	26	1803
			1	52
瀬美	甕	転用研磨具	1	186
			4	186
瓦質土器	火鉢	I B	1	63
		III	3	244
瓦質質	黒縁坏		1	7
			1	15
鉄製品	銭		2	5
			1	19
銅製品	漆器柄		1	4
			19	
木製品	折敷		1	4
			19	
I A区 北西區面 2面下～5面 (最上層)				
木製品	草履芯		3	
		曲げ物底板か	4	
		箱底板	1	
		円板	1	
		軸端	1	
		形代	1	

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 北西區面 2面下～5面 (最上層)				
木製品	杆か	角棒状		4
		棒状		3
		端材		13
		栗核		1
		種子		14
I A区 北西區面 2面下～5面 (上層)				
ロクロかわらけ	小			473
		小片		321
		大・中		2056
		C小		48
		C中		101
		C大・中		652
手づくねかわらけ	小			16
				6
龍泉窯系青磁	坏 (大)	III	1	10
			1	8
瀬戸	入子		1	6
			1	6
常滑	片口鉢	I	1	118
		II	2	136
瀬美	甕 (6aまで)		24	1175
			2	344
瓦質土器	火鉢	III	1	55
			2	67
石製品	中砥	伊予	1	44
			1	6
銅製品	銭		1	3
			1	
木製品	漆器柄	漆器不明	1	
		磨脚	1	
		箸	35	
		折敷	8	
		栓	1	
		草履芯	1	
		曲げ物 底板	3	
		角棒状	4	
		棒状	15	
		板状	6	
自然遺物	用途不明	部材	1	
		端材	1	
		種子	12	
I A区 北西區面 2面下～5面 (下層)				
ロクロかわらけ	小			221
		大・中		924
		小片		89
		C大・中		47
		C' 小		95
		C' 中		44
				25
瀬戸	入子		4	76
			2	58
常滑	広口壺	I	1	1068
			17	1020
瓦質土器	火鉢	I A	1	93
		I B	2	195
石製品	仕上げ砥	出別	1	42
		鳴滝	1	10
鉄製品	釘		1	4
			1	
木製品	漆器柄	漆器合子身	1	
		漆器不明	1	
		漆塗り雲形	1	
			1	

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 北西区画 2面下~5面 (下層)				
木製品	箸		11	
	折敷		2	
	草履芯		7	
	調度具か		1	
	曲げ物底板か		2	
	角棒状		2	
	棒状		1	
板状		6		
I A区 北西区画 2面下~5面 (下層マグソ層)				
ロクロかわらけ	小			84
	大・中			210
	小片			29
常滑	片口鉢	I	1	28
瓦質土器	火鉢	III	1	24
石製品	中砥	天草	1	44
木製品	円板		1	
	栓か		1	
	串状		1	
	板状		1	
I A区 南北築地状遺構下 2面下~5面				
ロクロかわらけ	楕小			4
	小			978
	大・中			3265
	小片			703
	小			164
	C小			54
	C中			1494
C'小			40	
白かわらけ	手づくね小片		2	6
瀬戸	銅皿		1	130
常滑	甕		12	488
	転用研磨具	薬片	3	151
瓦	丸瓦 (くすべ)		1	43
木製品	漆塗り膳脚		1	
	箸		11	
	角棒状		5	
	棒状		1	
	板状		2	
	種子		1	
	自然遺物	種子		1
I A区 2面下 サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小			50
	大・中			1035
	小片			185
手づくねかわらけ	小片		1	5
青白磁	瓜形水注か		1	2
同安楽系青磁	碗か		1	10
瓦質土器	火鉢	IB IIA	6 6	469 660
	片口鉢	II	2	165
常滑	甕 (6型式まで)		15	1053
瓦質土器	火鉢		3	29
鉄製品	不明		1	40
骨製品	筭		1	7
木製品	箸		28	
	折敷		1	
	箱か		1	
	草履芯		2	
	栓		1	
	串状		1	
	板状		1	
角材		1		

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 5面 面上				
木製品	漆器碗		1	
I A区 北西区画 5面 開掘裏状遺構1				
ロクロかわらけ	大・中			213
銅製品	銭		1	4
木製品	箸		1	
	横断		2	
	下駄		1	
I A区 北西区画 5面 ビット1				
ロクロかわらけ	大			9
木製品	串状		1	
I A区 北西区画 5面 ビット2				
ロクロかわらけ	大・中			12
自然遺物	種子		1	
I A区 5面下~6a面				
ロクロかわらけ	小			405
	大・中			3098
	特大			98
	小片			766
	転用円盤		1	8
	C小			101
	C大・中			248
搬入土器	小片		3	13
白磁	碗	IX	1	5
同安楽系青磁	碗	I-1b	1	5
瀬戸	入子		1	10
常滑	片口鉢	I	2	30
	甕		13	937
瓦質土器	火鉢	IC	1	753
銅製品		IIA	4	365
木製品	銭		1	4
	漆器皿		2	
	箸		63	
	折敷		2	
	下駄		1	
	草履芯		9	
	へら状		3	
串状		15		
円板		1		
角棒状		5		
用途不明 (板状)		4		
用途不明 (角材)		1		
部材		4		
漆喰			1	58
自然遺物	種子		5	
	竹皮		1	
I A区 5面下~6a面 マグソ層				
ロクロかわらけ	小			590
	大・中			1996
	転用円盤			24
	小片			154
	C小			36
	C中			101
	C大・中			291
C'小			37	
手づくねかわらけ	小			63
白かわらけ	小片		1	1
龍泉窯系青磁	碗	II	1	7
常滑	片口鉢	I~II	1	764
		II	3	111
	甕		7	591
瓦質土器	火鉢	IIA	1	159
石製品	砥石		1	107

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)	
I A区 5面下~6a面 マグソ層					
木製品	漆器皿		1		
	漆器碗		5		
	漆塗り横櫛		1		
	箸		64		
	折敷		4		
	草履芯		6		
	栓		2		
	獅子頭(形代か)		1		
	刀形		1		
	円板		1		
	串状		21		
	へら状		1		
	角棒状		5		
	部材(板状)		6		
	用途不明(棒状)		6		
角材		1			
貝		1	7		
I A区 5面下 サプトレンチ					
ロクロかわらけ	小			89	
	大・中			268	
	C小			21	
白磁	碗	IX	1	8	
常滑	甕		3	100	
瓦質土器	火鉢		1	20	
鉄製品	刀子		2		
骨製品	水注か		1	51	
木製品	筭		1		
	漆器碗		2		
	箸		16		
	草履芯		2		
	串状		1		
	板状		1		
	杭		2		
	種子		9		
	I A区 6a面 三和土面上				
	ロクロかわらけ	小			12
大・中				66	
常滑	片口鉢	I	1	41	
木製品	箸		2		
	角棒状		2		
	部材(板状)		1		
自然遺物	種子		2		
I A区 6a面下~6b面 貼り増し整地層					
ロクロかわらけ	小			111	
	大・中			592	
	小片			239	
	C大・中			22	
	小片			4	
白かわらけ	小片		2	4	
龍泉窯系青磁	坏	III(大)	1	29	
常滑	片口鉢	II	2	101	
木製品	甕		8	94	
	漆器皿		1		
	漆器碗		1		
	漆器合子蓋		1		
	漆器小片		2		
	箸		7		
	形代か		1		
	角棒状		2		
	用途不明(板状)		2		
	用途不明(棒状)		5		
	角材		1		
	自然遺物	種子		30	

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 6b面下~7面				
ロクロかわらけ	小			238
	大・中			1759
	小片			300
	C小			19
	C大・中			231
	C'小			46
龍泉窯系青磁	碗	II	1	5
		III	4	31
	坏	III~4	1	16
白かわらけ	手づくね		1	4
白かわらけ?	小片		2	5
常滑	片口鉢	I	1	62
	甕	II	3	139
	転用研磨具	広口壺片	17	1040
石製品	滑石鑪		1	208
	仕上げ砥		1	617
	鳴滝		1	10
木製品	漆器皿		3	
	漆器碗		3	
	漆器小片		11	
	箸		24	
	草履芯		1	
自然遺物	用途不明(棒状)		1	
種子			33	
	樹皮か		1	
I A区 6面下~7面				
ロクロかわらけ	大・中			48
木製品	箸		2	
	草履芯		1	
	曲物		1	
串状		1		
I A区 6b面下 サプトレンチ				
ロクロかわらけ	極小			9
	小			88
	大・中			474
	小片			23
	C大・中			61
白かわらけ	小片		1	2
龍泉窯系青磁	坏(大)	III~4	1	19
常滑	片口鉢	II	1	169
甕			10	465
石製品	滑石片	西後杵	1	9
木製品	漆器皿		1	
	漆器小片		2	
	漆器碗		1	
	漆塗り横櫛		1	
	箸		14	
	杵か		1	
	漆筒か		1	
形代か		2		
角棒状		3		
串状		1		
自然遺物	種子		16	
I A区 7面 面上				
ロクロかわらけ	大・中			259
木製品	曲げ物		1	
	下駄		1	
	板状		1	
I A区 7面 土坑1				
ロクロかわらけ	小			100
	大・中			365
	小片			51
	C大・中			33

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 7面 土坑I				
常滑	片口鉢 (60型式まで)	II	2	82
	甕		10	626
骨製品	笄		1	5
壁土?			1	38
	漆器皿		2	
	箸		2	
木製品	下駄		1	
	草履芯		1	
	籽		1	
自然遺物	種子		1	
I A区 7面下~8面				
	小			92
ロクロかわらけ	大・中		1	237
	小片		1	77
	C大・中		1	130
白かわらけ	手づくね		2	20
	小片		2	2
白磁	碗	IX	1	6
常滑	片口鉢	I	4	247
	甕		8	153
	箸		13	
	曲げ物底板		1	
木製品	草履芯		1	
	鋤形代		2	
	へら状		1	
I A区 7面下~8面				
	巾状		1	
	角棒状		2	
木製品	棒状		2	
	柄		5	
	部材		1	
自然遺物	種子		5	
I A区 7面下 サブトレンチ				
	小			26
ロクロかわらけ	大・中			659
	小片			116
	C大・中			23
白かわらけ	手づくね	伊豆か	1	7
龍泉窯系青磁	碗	III	1	19
瀬戸	入子		1	19
	片口鉢	I	1	64
		II	2	68
常滑	小壺		1	25
	甕		8	302
	漆器碗		1	
木製品	漆塗り横櫓		1	
	箸		6	
	草履芯		1	
木製品	円板		1	
	角棒状		2	
	棒状		3	
自然遺物	種子		6	
I A区 8面下 サブトレンチ				
ロクロかわらけ	小			4
	大・中			12
常滑	甕		12	658
石製品	滑石鍋	西彼杵	1	75
木製品	箸		1	
I A区 9面下 サブトレンチ				
	小		1	10
ロクロかわらけ	大・中		1	285
	小片		1	29
陶入土器?	小皿		1	3

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I A区 9面下 サブトレンチ				
龍泉窯系青磁	碗	II	1	22
		III	1	7
	片口鉢	II	1	56
常滑	甕		1	66
			20	1639
龍美	甕		1	229
	漆器皿		2	
	箸		3	
	すり粉木か		1	
	下駄		1	
木製品	角棒状		3	
	棒状		1	
	角棒状		3	
	用途不明(卵柱形)		1	
	角材		1	
	部材		1	
自然遺物	種子		4	
I A区 10面下 サブトレンチ				
	小			43
ロクロかわらけ	大・中			98
	小片			51
	C大・中			14
手づくねかわらけ	大			85
常滑	片口鉢		2	19
	甕	I	8	409
I A区 10面下 サブトレンチ				
木製品	箸		2	
	形代か		1	
自然遺物	種子		1	
I A区 11面下~12面 (ネチャ)				
ロクロかわらけ	小片			3
鉄製品	釘		1	3

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
1B-II区 確認調査 (試掘) 時				
ロクロかわらけ	小			402
	大・中			671
	C小			26
	C大・中			253
	C' 中			65
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	12
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	86
	小壺		1	33
	甕		4	446
瓦質土器	火鉢		1	36
石製品	仕上げ砥	備水	1	18
木製品	漆器碗		1	—
1B-II区 確認調査坑 埋め土				
ロクロかわらけ	大・中			115
1B-II区 現代ゴミ穴				
ロクロかわらけ	小			5
	大・中			106
	小片			26
青白磁	梅瓶		1	2
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	15
1B-II区 1面上 表土掘り耕作痕				
ロクロかわらけ	小			86
	大・中			459
	小片			232
	C中			72
瀬戸	瓶類		1	24
常滑	甕 (7型式まで)		3	122
石製品	碓	鳴滝	1	45
銅製品	銭		1	3
1B-II区 1面 土坑1				
ロクロかわらけ	大・中			31
	小片			28
	C大・中			6
常滑	甕		1	18
1B-II区 1面 土坑2				
ロクロかわらけ	小			7
	大・中			385
	小片			152
	C小			67
白磁	皿	Ⅸ	1	2
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	3
常滑	酒会壺		1	56
	片口鉢	I	1	39
1B-II区 1面 土坑3				
ロクロかわらけ	小			44
	大・中			110
	小片			28
	C小			9
銅製品	銭		1	27
	銭		1	3
1B-II区 1面 ビット1				
ロクロかわらけ	小片			4
1B-II区 1面 ビット2				
ロクロかわらけ	大・中			19
ロクロかわらけ	小片			31
1B-II区 1面 ビット3				
ロクロかわらけ	小片		1	9
1B-II区 1面 ビット4				
ロクロかわらけ	小			4
石製品	中砥	天草	2	457
1B-II区 1面 ビット5				
ロクロかわらけ	小片			10

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
1B-II区 2面上 精査時				
ロクロかわらけ	小			31
	大・中			176
	小片			72
	C大・中			58
瀬戸	碗・皿		1	2
	小壺か		1	13
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	11
1B-II区 全体 2面上 粘質土層				
ロクロかわらけ	小			118
	大・中			479
	小片			110
輸入土器	罍付鍋		1	55
瀬戸	瓶類		1	11
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	45
	甕 (6a型式まで)		4	330
1B-II区 北東区画 2面 かわらけ集積				
ロクロかわらけ	極小			14
	小			9761
	中			233
	大・中			23659
	小片			3629
	C小			570
	C中			2056
	C大・中			4956
	C小片			48
	C' 小			1831
C' 中			471	
C' 大・中			2235	
	転用円盤		1	11
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲか	1	1
	細皿 (前Ⅳ～中Ⅱ)		1	30
瀬戸	細皿		1	5
	直線大皿か		1	7
	花瓶		2	31
尾張型	山茶碗		1	6
常滑	片口鉢	I	1	96
		Ⅱ	19	2083
	甕		12	491
	転用研磨具	甕片	1	99
瓦質土器	火鉢	I A	2	102
		I B	6	549
			5	425
	風車か		1	99
石製品	仕上げ砥	鳴滝	2	106
	基石		1	2
石材	石英棒		1	41
銅製品	銭		13	38
木製品	棒状		1	—
1B-II区 南東区画 2面 かわらけ集積				
ロクロかわらけ	内折れ極小			2
	小			13077
	中			1652
	大・中			41459
	大 (取板転用)		1	45
	小片			8874
	C小			1352
	C中			3477
	C大・中			7949
	C' 小			457
C' 中			1036	
C' 大・中			3579	
白かわらけ?			9	29
撥入かわらけ?	皿か		1	14

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)			
1B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積							
搬入土器	南伊勢系 鉢		2	19			
搬入土器	鐔付 鉢		1	43			
搬入土器	鉢・釜		7	69			
白磁	皿		1	1			
青白磁	梅瓶		1	6			
龍泉窯系青磁	碗	I	2	31			
		II	1	6			
		III	2	12			
		IVか	1	5			
			1	2			
			1	2			
船載施軸陶器	泉州窯系緑釉盤		1	26			
		入子	12	141			
		鉦皿 (前皿か)	1	5			
瀬戸	鉢・皿	鉦皿 (前IV~中I)	3	53			
		中皿	2	8			
		広口壺 (中I~III)	1	85			
		片口鉢	I II	3 28	119 3017		
常滑	壺		2	34			
		壺 (7型式まで)	61	4671			
瓦質土器	火鉢	IA	16	686			
		IB	2	198			
		I	4	782			
		III	10	9246			
			3	130			
瓦器質	火鉢 (内面押印)	IB	2	292			
		黒縁環か	1	22			
瓦	平瓦	碓	高島碓	1	224		
				3	7		
				1	16		
	石製品	仕上げ砥	鳴滝	産地不明	1	5	
					1	29	
				中砥	天草	1	12
					1	117	
				滑石 鉢	西被杵	2	281
					1	40	
				滑石 鉢転用品		2	684
基石		3	6				
鉄製品	火打石	石英	1	11			
銅製品	釘		2	14			
銅製品	銭		22	78			
土製品	内盤		1	14			
木製品	漆器皿		1				
木製品	板状		1				
自然遺物	種子		7				
1B・II区 南東区画 2面 ビット1							
ロクロかわらけ	小			17			
		大・中		25			
		小片		16			
白かわらけ	手づくね大		1	6			
常滑	壺		1	29			
1B・II区 南北築地伏遺構上 2面 土坑1 (炭充填土坑)							
ロクロかわらけ	小			268			
		大・中		1173			
		小片		579			
		C小		106			
		C中		127			
		C大・中		317			
1B・II区 南北築地伏遺構上 2面 土坑1 (炭充填土坑)							
常滑	片口鉢	II	7	600			
		小壺	3	29			

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)	
1B・II区 南北築地伏遺構上 2面 土坑1 (炭充填土坑)					
常滑	壺		1	48	
瓦質土器	火鉢	IB	1	276	
			1	38	
銅製品	銭		1	3	
1B区 2面 南北築地伏遺構 築成土か					
銅製品	銭		5	30	
1B・II区 2面 東西築地伏遺構 築成土					
ロクロかわらけ	小			1207	
		大・中		8898	
		小片		2148	
		C中		16	
		C大・中		745	
瀬戸	平碗		1	6	
		鉦皿 (前III~IV)		1	20
		折縁深皿or洗か		1	13
尾張型	山茶碗		1	7	
		片口鉢	I II	1 4	12 801
常滑	露口壺		2	125	
		壺 (6a型式まで)	25	1785	
東播系須恵器?	鉢		1	250	
瓦質土器	火鉢		3	241	
		丸瓦 (くすべ)		1	163
瓦	仕上げ砥	鳴滝	1	60	
		中砥	天草	2	51
鉄製品	釘		5	6	
鉄製品	釘隠し		1	1	
銅製品	銭		2	6	
		漆器皿		3	
		漆器小片		2	
		漆塗り雲形か		1	
		箸		32	
		草履芯		1	
		栓		1	
		へら状		1	
		棒状		4	
		角棒状		5	
		板状		2	
		用途不明		1	
		部材		1	
自然遺物	種子		4		
1B・II区 北東区画 2面 かわらけ集積					
ロクロかわらけ	小			4284	
		大・中		96	
		小片		16320	
		C小		1427	
		C中		170	
		C大・中		893	
		C'小		1604	
		C'中		116	
龍泉窯系青磁	碗	II	1	103	
		III	1	13	
		環	III (大)	1	17
瀬戸	入子		1	27	
		四耳壺		1	155
常滑	片口鉢	II	4	2665	
		壺	3	119	
瓦質土器	火鉢		4	92	
鉄製品	碗か		1	16	
銅製品	銭		7	19	
木製品	漆器輪		2		
		箸		26	
		下駄		1	

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)	
I B・II区 北東区画 2b面 かわらけ集積					
木製品	角棒状		2		
	棒状		2		
	板状		3		
	部材		1		
	端材		1		
自然遺物	種子		3		
I B・II区 南東区画 2b面 かわらけ集積					
ロクロかわらけ	小			3944	
	中			220	
	大・中			14961	
	小片			1781	
	C小			436	
	C中			596	
	C大・中			1723	
	小片		I	2	
	白磁	皿	IX	4	
	瀬戸	入子		3	
尾張型	山茶碗		3	97	
常滑	片口鉢	I	5	150	
	甕	II	1	82	
			22	790	
	転用研磨具		1	27	
珠洲か	小壺		1	11	
瓦質土器		IA	1	92	
		IB	2	398	
		III	2	84	
瓦	製斗瓦	平瓦片	1	263	
石製品	粗砥	天草	1	1155	
	中砥		1	23	
	仕上げ砥	鳴滝	1	31	
		奥殿	1	71	
銅製品	銭		5	13	
木製品	漆器皿		2		
	漆器不明		3		
	箸		94		
木製品	板杓子		1		
	曲げ物底板か		1		
	栓		1		
	串状		4		
	部材		5		
自然遺物	種子		2		
I B・II区 南東区画 崩落土 (2b面上の粘質土層が主体か)					
ロクロかわらけ	小			1446	
	中			97	
	大・中			2377	
	小片			116	
	C小			261	
	C中			767	
	C大・中			1473	
	C' 小			49	
	瀬戸	瓶類		1	37
	常滑	片口鉢	II	3	352
	甕 (6a型式まで)		11	682	
瓦質土器	火鉢	III	1	92	
			2	84	
瓦器質	黒縁環		1	4	
銅製品	銭		1	4	
木製品	漆器皿		2		
	漆器柄		1		
	漆器不明		3		
	箸		3		
	へら状		1		
	棒状		2		
	板状		6		

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I B・II区 南東区画 崩落土 (2b面上の粘質土層が主体か)				
木製品	用途不明		1	
自然遺物	種子		1	
I B・II区 北東区画 2b面下～5面 (最上層)				
ロクロかわらけ	小			1019
	大・中			2497
	小片			147
	C小			62
	C中			293
	C大・中			1831
龍泉窯系青磁	碗	III	1	8
瀬戸	入子		1	15
常滑	片口鉢	II	2	42
	甕		1	182
瓦質土器	火鉢	IA	1	57
銅製品	銭		3	9
木製品	漆器皿		3	
	箸		32	
	草履芯		1	
	円板		1	
	角棒状		2	
	棒状		2	
I B・II区 北東区画下 2b面下～5面 (上層マゾソ層)				
ロクロかわらけ	小			1688
	中			88
	大・中			8677
	小片			663
	C中			124
白かわらけ?			2	6
白土器	高坏		1	38
龍泉窯系青磁	碗	I	1	17
		II or III	1	11
瀬戸	入子		1	6
常滑	片口鉢	II	1	27
	甕		22	2390
瓦質土器	火鉢	IA	16	686
		III	4	180
瓦	平瓦		1	126
石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	30
鉄製品	釘		3	10
銅製品	銭		2	9
	不明		1	4
	漆器皿		9	
	漆器不明		2	
	漆器柄		1	
	箸		234	
	折敷		23	
	墨書折敷		1	
	板杓子		1	
	曲げ物底板か		4	
木製品	円板		2	
	下駄		2	
	草履芯		19	
	小猿狗 (横木) か		1	
	建具		2	
	栓		5	
	箱		2	
	へら状		3	
	串状		3	
	角棒状		53	
棒状		36		
板状		9		
杖		1		
部材		9		

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I B-II区 北東区面下 2b面下~5面 (上層マグソ層)				
木製品	端材		5	
自然遺物	栗殻		1	
	種子		24	
I B-II区 北東区面下 2b面下~5面 (下層)				
	小		17	
ロクロかわらけ	大・中		389	
	小片		7	
	C大・中		25	
常滑	壺		1	16
石製品	砥石	合掌寺	1	109
	漆器皿		1	
	箸		3	
木製品	棒状		2	
	板材		1	
自然遺物	種子		1	
I B-II区 南東区面下 2b面下~5面 (最上層)				
	棒小		5	
ロクロかわらけ	小		972	
	大・中		991	
	小片		210	
白かわらけ?	小片		1	8
瀬戸	大子		1	10
	銅皿 (前田か)		1	8
常滑	片口鉢	II	1	14
	壺 (6b型式まで)		5	238
銅製品	銭		3	9
I B-II区 南東区面下 2b面下~5面 (上層マグソ層)				
	小		300	
ロクロかわらけ	大・中		2413	
	小片		106	
	C小		35	
	C大・中		88	
白かわらけ	手づくね小片		1	7
白磁	合子蓋		1	7
龍泉系青磁	碗	III	2	26
	坏	III	1	4
高麗青磁	壺		1	6
瀬戸	入子		1	6
	銅皿		1	191
	片口鉢	I	5	145
	壺		2	79
常滑	壺 (6b型式まで)		20	1450
東海系陶器	壺		1	27
瓦質土器	火鉢	I a	1	34
石製品	磨石か		1	65
鉄製品	釘		2	17
	漆器皿		8	
	漆器碗		4	
	漆器不明		1	
	漆塗り雲形		1	
	箸		250	
	折敷		2	
	曲げ物底板		7	
木製品	釘付き台		1	
	箱		1	
	草履芯		7	
	角棒状		22	
	へら状		2	
	串状		1	
	棒状		16	
	板状		17	
	杭		2	
	部材		7	

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I B-II区 南東区面下 2b面下~5面 (上層マグソ層)				
木製品	端材		1	
植物製品	ブラシ状		1	
自然遺物	種子		4	
I B-II区 全域 2b面下~5面 (上層)				
	小			113
ロクロかわらけ	大・中			365
	小片			126
	C大・中			288
龍泉系青磁	碗	III	1	17
	坏	III-4	1	10
常滑	小壺		5	142
	壺		10	274
瓦質土器	火鉢	I B	2	291
銅製品	銭		4	76
	銭		1	4
木製品	箸		8	
	形代か		1	
I B-II区 全域 2b面下~5面 (下層)				
	小			48
ロクロかわらけ	大・中			180
	C大・中			148
常滑	片口鉢	II	1	47
瓦質土器	火鉢	I B	1	133
銅製品	銭		1	15
	銭		1	3
	箸		33	
	折敷		1	
	円板		1	
木製品	草履芯		1	
	角棒状		1	
	棒状		1	
	板状		1	
自然遺物	種子		1	
I B-II区 6面 板壁建物状遺構				
	小		1	96
ロクロかわらけ	大・中		1	252
	小片		1	12
	C大・中		1	380
鉄製品	釘		1	1
土製品	輪割口か		1	104
	漆器皿		3	
	漆器碗		5	
	漆器小片		2	
	箸		54	
	折敷		2	
	板杓子		1	
	下駄		2	
	曲げ物底板か		6	
木製品	有孔円板		1	
	草履芯		1	
	箱か		2	
	棒状		1	
	角棒状		2	
	棒状		7	
	八角形板		1	
	板状		2	
	部材		1	
I B-II区 6面 板壁建物状遺構				
木製品	角材		3	
	板材		1	
自然遺物	栗殻		4	
	種子		2	

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I B・II区 6面 井戸1 (池状遺構)				
	小			9
ロクロかわらけ	大・中			267
	小片			7
青白磁	梅瓶		1	1
瀬戸	鉦皿		1	17
常滑	片口鉢	I	1	27
	甕		3	214
瓦質土器	火鉢		2	108
瓦	転用研磨具か	平瓦片		1
	漆器皿		1	
	漆塗り雲形か		1	
	箸		53	
木製品	折敷		1	
	板杓子		1	
	下駄再加工作品		1	
	角棒状		6	
	棒状		1	
自然遺物	種子		1	
I B・II区 6面下～7面				
	小			6
	大・中			500
ロクロかわらけ	小片			26
	C中			77
	C大・中			9
龍泉窯系青磁	碗	III-1b	1	12
瀬戸	入子		1	10
瓦質土器	火鉢	I B	1	80
石製品	碗	赤間	1	83
	仕上げ砥	鳴滝	1	16
鉄製品	釘		1	9
	漆器皿		1	
	箸		3	
木製品	円板		1	
	板状		3	
	部材		2	
I B・II区 6面下～7面 マグソ層				
	小			196
ロクロかわらけ	大・中			1110
	小片			18
	C大・中			197
白かわらけ	小片		1	3
白磁	合子蓋		1	3
瀬戸	入子		1	4
常滑	甕		5	201
東濃型	山茶碗		1	4
漆製品	烏帽子		2	
	漆器皿		1	
	漆器碗		4	
	箸		66	
	折敷		3	
	曲げ物底板		1	
木製品	円板		1	
	下駄		1	
	草履芯		5	
	角棒状		2	
	棒状		6	
	板状		6	
	部材		1	
I B・II区 6面下～7面 マグソ層				
自然遺物	種子		24	
I B・II区 7面上				
ロクロかわらけ	小			51
	大・中			106

種別- 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I B・II区 7面上				
木製品	曲げ物		1	
	小			315
	大・中			2073
ロクロかわらけ	小片			177
	C小			17
	C中			94
	C大・中			327
白かわらけ	手づくね		13	54
白磁	碗		1	2
龍泉窯系青磁	碗	II	1	5
	片口鉢	I	4	63
		II	1	9
常滑	甕 (6h型式まで)		4	231
石製品	仕上げ砥	鳴滝	2	27
		奥殿	2	81
骨製品	不明		1	
漆製品	烏帽子		1	
	漆器皿		14	
	漆器碗		4	
	漆塗り横柄		1	
	箸		83	
	折敷		1	
	板杓子		2	
	下駄		1	
	草履芯		2	
木製品	鋤先		1	
	栓		1	
	漆べらか		1	
	円板		1	
	へら状		2	
	角棒状		3	
	棒状		8	
	板状		3	
	部材		3	
	端材		1	
自然遺物	種子		12	
I B・II区 7面 マグソ土坑				
	小			8
ロクロかわらけ	大・中			73
	小片			16
常滑	甕		2	106
金属製品	銭		2	6
	箸		1	
木製品	墨書折敷		1	
	草履芯		2	
	角棒状		1	
	棒状		1	
自然遺物	種子		2	
I B・II区 7面下 水抜きトレンチ				
	小			28
ロクロかわらけ	大・中			412
	C中			29
白かわらけ	手づくね		1	4
白磁	碗・皿	X	1	2
常滑	片口鉢	I	3	41
	甕		1	60
銅製品	銭		1	2
木製品	箸		2	
I B・II区 7面下 水抜きトレンチ				
木製品	折敷		2	
木製品	へら状		1	
木製品	板状		1	

表4 出土遺物観察表

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/肌面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図14 1	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.8	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図14 2	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.2	1.6	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図14 3	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.8	1.9	55	B	黄灰	ナデ	板状	
図14 4	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.2	1.9	[42]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図14 5	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.2	4.4	2.0	[26]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図14 6	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.4	1.6	[37]	B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図14 7	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.8	2.0	1	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図14 8	石製品	砥石	両端欠	[4.3]	3.0	0.8	[18]		白			備水仕上り 2面使用
図14 9	銅製品	鏡	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					慶元通寶 南宋1195年
図14 10	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.3	5.8	1.8	[45]	B	黄橙	ナデ	ケズリ	底部焼成後穿孔 外底面調整は焼成前
図14 11	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.0	1.5	44	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図14 12	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	(7.0)	4.4	2.3	[31]	B	黄橙	ナデ	板状	
図14 13	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	9.0	5.0	2.5	[83]	B	橙	ナデ	板状	A' 外面黒変
図14 14	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2	(11.8)	(5.6)	3.6	[67]	B	橙	ナデ	板状	
図14 15	埋入土器	ロクロ かわらけ・大	1/5	(13.0)	(9.0)	3.5	[55]		灰黄	ナデ	—	A 外面黒変
図14 16	国産陶器	瀬戸 平輪	口〜 体片	(15.4)	—	[6.0]	[72]		淡黄			内底面に重ね焼き痕
図14 17	国産陶器	常滑 片口鉢	口片	—	—	[8.0]	[181]		暗褐			II類
図14 18	石製品	砥石	一端欠	[10.6]	3.6	1.6	[114]		灰黄			上野中砥 4面使用
図14 19	石製品	砥石	両端欠	[7.7]	2.5	[1.4]	[53]		灰緑			上野中砥 15c以降カ
図14 20	銅製品	鏡	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					紹聖元寶 北宋1094年 行書
図14 21	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	(11.0)	6.2	3.0	[72]		黄橙	ナデ	板状	C
図14 22	石製品	硯	完形	7.5	3.2	0.9	45		灰黒			鳴滝硯 鎌倉手
図14 23	銅製品	鏡	完形	径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.2	3					元祐通寶 北宋1086年 行書
図15 24	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	8.2	5.2	2.0	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 25	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	6.0	1.8	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 26	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.4	1.8	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 27	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.4	2.2	[49]	B+C	灰黄	ナデ	板状	
図15 28	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	7.0	2.9	[196]	B	黄橙	ナデ	板状	
図15 29	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	(15.0)	8.0	3.9	[167]	C+E	橙	ナデ	板状	A'
図15 30	国産陶器	瀬戸 入子	完形	4.7	3.4	1.6	16		灰			内底面に紅付着
図15 31	国産陶器	瀬戸 御盥	ほぼ 完形	13.0	7.0	3.3	[199]		淡灰緑			中皿期
図15 32	国産陶器	常滑 広口壺	口片	—	—	[9.5]	[316]		灰黒			6a型式
図15 33	在地土器	瓦質土器 火鉢	胴片	—	—	[5.8]	[30]		黒灰			外面亀甲・花菱文スタンプ
図15 34	石製品	砥石	両端欠	[10.1]	4.7	1.7	[149]		明赤灰			天草中砥 3面使用

() = 測定値 [] = 推定値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 胎土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図15 35	石製品	基石 ^a	完形	2.0	1.7	0.4	2		灰黒			
図15 36	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					照寧元寶 北宋1068年 篆書
図15 37	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.5	7.4	3.6	[169]	C+E	橙	ナヅ	板状	
図15 38	土製品	かわらけ転用 円盤	ほぼ 完形	3.5	3.5	0.7	9		橙			
図15 39	石製品	砥石	一端欠	[6.3]	2.9	1.6	[53]		灰緑			上野紙次中紙 4面使用
図15 40	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					治平通寶 北宋1064年 篆書
図16 41	石製品	砥石	両端欠	[12.7]	4.8	2.4	[206]		灰			天草中紙 4面使用
図16 42	石製品	砥石	完形	7.9	4.8	4.3	251		灰			天草中紙 4面使用
図16 43	舶載磁器	青磁 酒壺 ^a	口小片	—	—	[5.3]	[56]		灰緑			気泡、貫入
図16 44	国産陶器	瀬戸 すり鉢	口小片	—	—	[10.5]	[187]		暗褐			B類
図16 45	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					
図16 46	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.0	5.4	1.8	[51]	B	黄灰	ナヅ	板状	
図16 47	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.2	5.4	1.6	[44]	B	黄灰	ナヅ	板状	
図16 48	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.6	2.0	[53]	B	黄灰	ナヅ	板状	
図16 49	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 1.0	厚さ 0.1	2					五銖 後漢AD24年
図16 50	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.4	1.5	[48]	B	灰黄	ナヅ	板状	
図16 51	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.2	1.6	44	C+E	黄橙	ナヅ	板状	
図16 52	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.0	1.7	48	B	灰黄	ナヅ	板状	
図16 53	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.8	50	B	灰黄	ナヅ	板状	
図16 54	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.2	2.3	[44]	C	灰黄	ナヅ	板状	
図16 55	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.5	7.8	3.5	176	C+E	黄橙	ナヅ	板状	口縁部煤付着
図16 56	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.1	4.8	1.6	[42]	B	橙	ナヅ	板状	口縁部煤付着
図16 57	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.0	1.8	[43]	B	黄灰	ナヅ	板状	
図16 58	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.8	1.8	[51]	B	灰黄	ナヅ	—	外面の一部黒色に変色
図16 59	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.2	3.8	2.2	[35]	C+B	橙	ナヅ	板状	口縁部煤付着
図16 60	石製品	火打石	—	[4.2]	[3.4]	[1.4]	[16]		白色半透 明			石英
図16 61	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					天禧通寶 北宋1017年 真書
図16 62	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図17 63	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.8	4.0	1.8	[32]	B	灰黄	ナヅ	板状	
図17 64	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	4.6	1.9	[44]	B	灰黄	ナヅ	板状	
図17 65	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.0	1.6	[41]	B	灰黄	ナヅ	板状	
図17 66	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.6	1.8	[49]	B	灰黄	ナヅ	板状	口縁部煤付着
図17 67	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.7	59	B	灰黄	ナヅ	板状	口縁部煤付着
図17 68	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.2	6.0	1.9	[51]	B	灰黄	ナヅ	板状	

() = 復元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図17 69	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.8	7.4	3.4	[175]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図17 70	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.8	7.4	3.3	[175]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図17 71	国産陶器	瀬戸 入子	1/2	(8.8)	(4.4)	3.1	[41.6]		灰	ナデ	—	黒パレット(黒色系) 歪み大
図17 72	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口片	—	—	[8]	[107]		灰白			後II期頃
図17 73	国産陶器	常滑 甕	口片	—	—	[13.9]	[1950]		暗褐色			S型式
図17 74	石製品	滑石銅片 転用スタンプ	—	[6.7]	[2.8]	[1.0]	[35.3]		灰			
図17 75	石製品	基石	完形	1.4	1.4	0.5	2					
図17 76	石製品	基石	完形	1.4	1.4	0.3	1					
図17 77	石製品	基石	完形	1.6	1.3	0.3	1					
図17 78	石製品	基石	完形	1.6	1.4	0.5	2					
図17 79	石製品	基石	完形	1.7	1.3	0.4	2					
図17 80	石製品	基石	完形	1.5	1.4	0.5	2					
図17 81	石製品	基石	完形	1.7	1.4	0.6	2					
図17 82	石製品	基石	完形	1.8	1.5	0.5	2					
図17 83	石製品	基石	完形	1.8	1.4	0.6	2					
図17 84	石製品	基石	完形	1.9	1.3	0.5	2					
図17 85	石製品	基石	完形	1.6	1.7	0.3	1					
図17 86	石製品	基石	完形	1.9	1.6	0.4	2					
図17 87	石製品	基石	完形	1.9	1.6	0.4	2					
図17 88	銅製品	鏡	一部欠	径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	[2]					
図17 89	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	7.6	2.2	38	C	灰黄	ナデ	板状	
図17 90	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.4	1.8	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図17 91	鉛磁磁器	龍泉堂青磁 碗	口小片	—	—	[2.6]	[5]		緑灰 半透明			IV類a 貫入
図17 92	国産陶器	瀬戸 入子	3/4	5.4	3.8	1.5	[17]		灰			
図17 93	国産陶器	瀬戸 広口壺	口片	—	—	[5.9]	[85]		緑黒			
図17 94	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[3.8]	[64]		暗褐色			6b~7型式
図17 95	国産陶器	常滑 片口鉢	口片	—	—	[5.1]	[95]		褐色			II類
図17 96	輸入土器	蹄付鍋	口片	—	—	[3.1]	[43]		灰白			
図17 97	石製品	砥石	一端欠	[4.4]	[3.8]	[1.4]	[29]		白			産地不明 仕上砥
図18 98	銅製品	鏡	完形	径 2.30	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					元祐通寶 北宋1086年 行書
図18 99	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	(7.1)	(4.3)	2.0	[36]	B	黄褐色	ナデ	板状	C'
図18 100	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.3	4.9	2.1	[31]	B	黄褐色	ナデ	板状	C'
図18 101	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.7	1.6	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図18 102	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.8	2.1	[41]	B	黄褐色	ナデ	板状	C'

() = 推定値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 底痕	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
国18 103	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.3	2.0	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 104	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.4	1.5	[43]	B	黄橙	ナデ	板状	
国18 105	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.2	7.1	3.0	[113]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面黒染 口縁部煤付着
国18 106	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.2	7.3	3.4	[187]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
国18 107	在地土器	瓦質土器 火鉢・風炉	小片	—	—	[7.3]	[99]		暗灰			胎土は永福寺女瓦類に近似
国18 108	石製品	砥石	一端欠	[5.1]	3.2	[1.5]	[44]		白			鳴滝お仕上紙 1面使用
国18 109	銅製品	銭	ほぼ 完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	[3]					天聖元寶 北宋 1023年 真書
国18 110	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					嘉定通寶 南宋1208年 背十二 真書
国18 111	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					銭種不明
国18 112	在地土器	ロクロ かわらけ・極小	5/6	4.8	3.4	1.1	[14]	C	灰黄	ナデ	板状	
国18 113	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	6.7	4.0	1.9	[28]	C	黄橙	ナデ	板状	
国18 114	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.1	4.3	2.1	[35]	C	黄橙	ナデ	板状	
国18 115	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	(7.2)	(5.0)	1.6	[47]	B	灰黄	ナデ	—	
国18 116	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	4.6	2.0	[37]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
国18 117	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	4.1	2.1	[39]	C	灰黄	ナデ	板状	
国18 118	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.4	4.8	1.7	[44]	B	橙	ナデ	板状	
国18 119	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.0	1.7	[46]	B	黄橙	ナデ	板状	
国18 120	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.8	1.7	[59]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
国18 121	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.4	5.0	2.0	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 122	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	4.7	2.0	[49]	B	灰黄	ナデ	—	
国18 123	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/5	7.4	4.4	2.1	[38]	C	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
国18 124	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.9	2.1	[41]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
国18 125	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.4	1.9	53	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 126	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.5	5.0	2.0	[44]	B	橙	ナデ	板状	
国18 127	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	5.0	1.7	[54]	B	灰黄	ナデ	—	
国18 128	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/7	7.6	4.9	1.8	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 129	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.0	1.7	[59]	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 130	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.6	4.8	1.7	[62]	B	灰黄	ナデ	板状	釜み大
国18 131	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	4.4	1.9	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
国18 132	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	7.8	5.2	1.9	[43]	B	灰黄	ナデ	—	
国18 133	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.6	1.8	44	C	灰黄	ナデ	板状	
国18 134	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.6	2.0	[67]	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 135	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	5.0	2.0	[62]	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 136	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.7	1.8	[52]	B	黄橙	ナデ	—	焼成後の穿孔1ヶ所 口縁部煤付着

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 出土層の特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
国18 137	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.9	5.4	1.9	[61]	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 138	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.3	1.7	[72]	B	灰黄	ナデ	板状	
国18 139	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.3	4.9	1.6	[54]	B	灰黄	ナデ	—	
国19 140	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.0	6.4	2.9	[87]	C	灰黄	ナデ	板状	
国19 141	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.0	5.8	3.1	[88]	C	黄橙	ナデ	板状	
国19 142	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	11.6	6.6	3.4	[137]	B	黄橙	ナデ	板状	
国19 143	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.6	7.0	3.0	148	B	灰黄	ナデ	板状	
国19 144	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	6.6	3.2	145	B	橙	ナデ	板状	
国19 145	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.8	3.4	160	B	黄橙	ナデ	板状	
国19 146	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.1	7.4	3.2	159	C+B	黄橙	ナデ	板状	
国19 147	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	7.6	3.0	174	B	橙	ナデ	板状	底部粘土継ぎ上げ成形か 内底面ナデ削い
国19 148	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.9	7.6	3.0	[163]	B	黄橙	ナデ	板状	底部粘土継ぎ上げ成形か 内底面ナデ削い
国19 149	国産陶器	瀬戸 御座	小片	—	—	[3.3]	[30]		灰緑			前IV～中II期か
国19 150	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[7.9]	[167]		暗茶			II期
国19 151	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[5.9]	[206]		明茶褐			II期
国19 152	国産陶器	常滑 転用研ぎ鉢	薬片	8.5	5.5	1.0	99		褐			
国19 153	土製品	ロクロかわらけ 転用円盤	1/2	径 4.4	—	0.7	[11]		灰黄			
国19 154	石製品	砥石	一端欠	[9.2]	3.4	0.8	[62]		灰黄			鳴鶴土紙 2面使用
国19 155	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	2					開元通寶 唐621年初鑄
国19 156	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					嘉祐通寶 北宋1056年 真書
国19 157	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	2					熙寧元寶 北宋1068年 真書
国19 158	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
国19 159	銅製品	銭	一部欠	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	[4]					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
国19 160	銅製品	銭	ほぼ 完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	[3]					元祐通寶 北宋1086年 篆書
国19 161	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					紹聖元寶 北宋1094年 行書
国19 162	銅製品	銭	ほぼ 完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	[3]					元祐通寶 行書
国19 163	銅製品	銭	一部欠	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	[2]					元祐通寶 行書
国20 164	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.7	1.7	39	C+B	橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
国20 165	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	5.0	1.5	[44]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
国20 166	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.4	1.5	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	
国20 167	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	4.8	1.6	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	
国20 168	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.0	1.6	[44]	B	黄橙	ナデ	板状	
国20 169	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.2	1.5	43	B	黄橙	ナデ	板状	
国20 170	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.8	1.6	50	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着

() = 償元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚の特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図20 171	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.6	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 172	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.4	1.7	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 173	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.6	1.7	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 174	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.6	2.2	42	C	橙	ナデ	板状	C'
図20 175	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.6	1.6	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 176	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.4	1.5	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図20 177	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	4.4	1.6	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 178	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.9	5.8	1.7	[53]	B	橙	ナデ	板状	
図20 179	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.5	1.6	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	内側に削み痕あり
図20 180	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.1	5.5	1.7	[64]	B	灰黄	ナデ	板状	1ヶ所打ち欠き 口縁部煤付着
図20 181	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	4.6	1.6	61	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 182	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	6.2	1.6	50	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 183	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.2	5.5	1.5	51	C+B	橙	ナデ	板状	
図20 184	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	8.2	5.4	2.2	[60]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 185	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.2	4.6	1.8	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 186	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.5	1.8	47	B	灰黄	ナデ	一	口縁部煤付着
図20 187	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.5	1.8	40	C+B	灰黄	ナデ	板状	C' 口縁部煤付着
図20 188	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.6	1.9	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 189	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.2	4.5	1.9	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 190	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.6	1.8	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 191	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.5	2.0	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 192	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.5	1.8	45	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 193	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.8	1.8	60	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 194	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.3	1.8	[40]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図20 195	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.6	1.9	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 196	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.8	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 197	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.9	1.8	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 198	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.4	1.7	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 199	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.3	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 200	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.2	1.9	56	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図20 201	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.9	1.8	48	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 202	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.4	1.8	56	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 203	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.8	54	B	灰黄	ナデ	板状	C' 口縁部煤付着
図20 204	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.0	1.9	60	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着

() = 償元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 底痕	出土遺構・ 胎土厚の特徴
				口径・長さ	底径・幅	縁高・厚さ						
図20 205	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.7	53	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図20 206	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	5.2	1.8	[38]	C+E	橙	ナデ	板状	C'
図20 207	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.8	1.8	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 208	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.2	1.8	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 209	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	4.9	1.7	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 210	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.8	5.3	1.9	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 211	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.7	4.4	1.9	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 212	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.4	1.9	60	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 213	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.4	1.8	58	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 214	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.1	6.0	1.7	[62]	C+B	橙	ナデ	板状	
図20 215	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	4.8	1.7	51	B	黄緑	ナデ	板状	
図20 216	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	4.8	1.7	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 217	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.0	1.9	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図20 218	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.5	1.8	56	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図20 219	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.6	1.9	68	B	黄緑	ナデ	板状	外面塗装
図20 220	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	6.2	1.7	58	B	灰黄	ナデ	一	
図20 221	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.6	1.9	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図20 222	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	4.4	1.9	[45]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図21 223	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.6	1.9	51	B	灰黄	ナデ	板状	C' 口縁部煤付着
図21 224	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.8	4.5	1.9	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図21 225	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.5	1.9	52	B	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 226	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.0	1.8	60	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 227	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.6	1.9	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 228	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.1	5.4	2.0	[68]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 229	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.6	1.8	59	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図21 230	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.0	1.9	65	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 231	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	4.9	1.9	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 232	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.9	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 233	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.2	2.1	48	B	灰黄	ナデ	板状	C' 口縁部煤付着
図21 234	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	6.9	3.8	2.1	[41]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C' 口縁部全体欠く
図21 235	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	3.8	2.0	35	C+E	橙	ナデ	板状	C
図21 236	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.1	1.9	45	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 237	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.1	4.2	2.0	[28]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図21 238	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	4.5	1.9	42	C+B	灰黄	ナデ	一	C' 口縁部煤付着

() = 償元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	縁高・厚さ						
図21 239	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.4	4.4	2.0	[46]	C+B	緑	ナデ	板状	
図21 240	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.0	1.9	45	B	灰黄	ナデ	板状	C' 口縁部煤付着
図21 241	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.5	1.9	47	B	灰黄	ナデ	板状	外側面一部黒色に変色
図21 242	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.6	5.0	1.9	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 243	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.5	2.0	66	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 244	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.5	2.0	44	C+B	黄緑	ナデ	板状	C' 口縁部煤付着
図21 245	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.6	2.0	53	B	灰黄	ナデ	—	
図21 246	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.4	2.1	37	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図21 247	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	4.4	2.1	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 248	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.0	2.0	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 249	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.5	2.1	57	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 250	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.3	4.8	2.1	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着 脚板を切り後、意図的に粘 土盤を貼付
図21 251	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.6	4.4	2.0	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 252	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.0	1.9	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 253	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.2	5.8	1.9	[60]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 254	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	5.0	2.1	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着 外底部曇み大
図21 255	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	4.0	2.1	[37]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図21 256	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	2.1	53	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 257	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.4	2.0	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 258	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.7	4.7	1.9	[62]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 259	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.5	2.1	65	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 260	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.4	2.0	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 261	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	4.5	2.0	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面一部黒変
図21 262	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.8	2.0	57	C	黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 263	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	4.8	2.1	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 264	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.0	2.1	54	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 265	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.4	2.1	57	B	黄緑	ナデ	板状	
図21 266	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.8	2.1	46	C+B	灰黄	ナデ	板状	C'
図21 267	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.1	1.9	56	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 268	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.3	2.0	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 269	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.9	4.9	2.1	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図21 270	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	4.4	2.1	62	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 271	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.0	2.1	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図21 272	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.9	4.8	2.0	[58]	B	灰黄	ナデ	板状	

() = 償元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特微
				口径・長さ	底径・幅	縁高・厚さ						
図21 273	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	4.1	2.3	41	C	灰黄	ナデ	板状	C
図21 274	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.8	4.9	2.3	[36]	B	灰黄	ナデ	—	C' 口縁部煤付着
図21 275	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.6	2.3	[44]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図21 276	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.9	5.2	2.6	[70]	B	灰黄	ナデ	—	
図22 277	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.3	5.9	1.8	99	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図22 278	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.4	5.6	2.9	86	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図22 279	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.8	6.0	2.9	103	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図22 280	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.0	6.0	2.7	104	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図22 281	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	10.8	6.1	2.8	[102]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図22 282	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.2	6.6	3.0	[123]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図22 283	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.3	6.0	2.9	89	C	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図22 284	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.7	5.5	2.9	[91]	C	灰黄	ナデ	—	C 口縁部煤付着
図22 285	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	11.2	6.0	2.9	[111]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C 打ち欠き 口縁部煤付着
図22 286	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.2	6.3	3.1	[120]	C	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図22 287	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.7	7.2	3.0	[134]	B	黄橙	ナデ	板状	内底面煤付着
図22 288	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.8	5.4	3.1	117	C	灰黄	ナデ	板状	C
図22 289	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.2	6.0	2.9	114	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図22 290	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.7	6.2	3.0	[117]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C'
図22 291	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	10.7	5.6	3.0	[95]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図22 292	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	10.6	5.8	3.1	[114]	B	灰黄	ナデ	板状	C'
図22 293	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.0	6.4	3.1	120	C	灰黄	ナデ	板状	C
図22 294	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.4	6.6	3.2	114	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図22 295	在地土器	ロクロ かわらけ・中	5/6	10.7	5.8	3.2	[107]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図22 296	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.4	6.4	3.5	138	B	灰黄	ナデ	板状	C'
図22 297	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.8	8.0	3.1	151	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 298	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2	12.1	7.8	3.0	[122]	B	灰黄	ナデ	板状	C 外面一部黒変
図22 299	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.2	7.2	3.1	195	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 300	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.6	8.3	3.0	[145]	B	黄橙	ナデ	板状	
図22 301	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.3	7.5	3.1	174	B	黄橙	ナデ	板状	
図22 302	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.5	7.0	3.1	[145]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C'
図22 303	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	(12.8)	(7.4)	3.1	[128]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C'
図22 304	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.0	7.0	3.1	[164]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図22 305	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.4	8.5	3.0	[163]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図22 306	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.6	3.1	158	C	灰黄	ナデ	—	C

() = 測定値 [] = 推定値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図22 307	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	6.8	3.2	190	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 308	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.4	3.2	188	B	灰黄	ナデ	板状	
図22 309	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.0	(7.4)	3.1	[154]	B	黄緑	ナデ	板状	C
図22 310	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.9	6.8	3.2	[165]	C+B	緑	ナデ	板状	C' 口縁一部黒変
図22 311	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.9	8.4	3.2	[190]	B	灰黄	ナデ	板状	内底面黒変
図22 312	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.0	7.1	3.2	172	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図23 313	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.4	8.0	3.2	[163]	C+E	黄緑	ナデ	板状	C'
図23 314	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.7	7.3	3.3	163	C	緑	ナデ	板状	C
図23 315	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.1	7.0	3.3	[170]	C+B	緑	ナデ	板状	C'
図23 316	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.1	6.6	3.3	[122]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図23 317	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.4	7.6	3.3	[187]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図23 318	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.6	8.1	3.3	[187]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図23 319	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.2	7.1	3.4	[190]	B	灰黄	ナデ	板状	
図23 320	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.3	7.3	3.6	182	B	灰黄	ナデ	板状	
図23 321	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.5	7.4	3.4	157	C+E	緑	ナデ	板状	C'
図23 322	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.0	7.7	3.4	[160]	C	緑	ナデ	板状	C
図23 323	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.1	7.7	3.4	[173]	C+E	緑	ナデ	板状	C'
図23 324	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.4	7.5	3.4	[180]	C+E	黄緑	ナデ	板状	C
図23 325	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.7	6.8	3.4	[172]	C	灰黄	ナデ	板状	C'
図23 326	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.6	7.6	3.4	[185]	C+E	緑	ナデ	板状	C
図23 327	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.0	7.6	3.5	[170]	B	緑	ナデ	板状	
図23 328	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	7.5	3.5	[208]	B+E	緑	ナデ	板状	
図23 329	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.3	7.3	2.9	[171]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C'
図23 330	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.6	8.4	5.5	[201]	C+E	黄緑	ナデ	板状	C' 外側面一部黒色に変色
図23 331	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.9	7.1	3.6	[142]	C	黄緑	ナデ	板状	C
図23 332	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.7	7.6	3.5	[197]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図23 333	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.0	3.6	163	C	黄緑	ナデ	板状	C
図23 334	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.1	7.6	3.6	172	B	黄緑	ナデ	板状	
図23 335	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.5	8.0	3.6	[171]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図23 336	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.6	8.0	3.6	[208]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図23 337	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.9	7.0	3.7	[174]	C+B	黄緑	ナデ	板状	C'
図23 338	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.0	7.6	3.7	[171]	C+B	緑	ナデ	板状	C
図23 339	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.2	6.8	3.9	[178]	C+B	黄緑	ナデ	—	C'
図23 340	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.9	7.9	3.9	[209]	B	黄緑	ナデ	板状	

() = 復元価 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図24 341	国産陶器	常滑 片口鉢	1/6 (35.6)	(16.0)	12.5	[674]		明茶色				II期
図24 342	在地土器	瓦質土鉢 火鉢	1/4 (32.8)	(24.8)	8.0			橙				I期
図24 343	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[4.5]	[165]	明茶色				II期 輪積み技法
図24 344	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					照享元寶 北末1668年 篆書
図24 345	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.4	1.5	48	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 346	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.9	4.4	1.6	[49]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 347	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.1	5.6	1.6	[54]	B		ナデ	—	
図24 348	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.3	1.7	[47]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 349	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.4	5.2	1.7	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	外底部赤く変色
図24 350	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	4.7	1.8	[34]	B	灰黄	ナデ	板状	
図24 351	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	4.4	1.8	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 352	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.3	1.8	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 353	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.2	1.8	54	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 354	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.7	4.8	1.8	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 355	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.9	1.8	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 356	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	5.4	1.8	[60]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 357	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.8	1.9	[51]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 358	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.6	1.9	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 359	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.0	1.9	49	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 360	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.5	1.9	[61]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 361	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.6	1.9	[51]	B	黄灰	ナデ	—	口縁部煤付着
図24 362	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.9	45	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 363	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.6	1.9	58	B	黄灰	ナデ	—	口縁部煤付着
図24 364	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	4.8	1.9	[59]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部打ち欠き、煤付着
図24 365	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	5.0	1.9	[53]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 366	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.9	1.9	54	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 367	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.3	5.6	1.9	71	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 368	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.2	5.0	1.9	68	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 369	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.8	3.8	2.0	[34]	C	橙	ナデ	板状	
図24 370	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	4.5	2.0	[59]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 371	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.8	2.0	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 372	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	4.7	2.0	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	
図24 373	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	4.6	2.0	[58]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図24 374	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.2	4.8	2.1	[51]	B	黄灰	ナデ	板状	

() = 推定値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図24 375	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.2	2.1	[56]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部打ち欠き、煤付着
図24 376	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.7	2.2	[59]	B	灰黄	ナデ	板状	附れ口に煤付着
図24 377	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.9	7.4	3.4	[131]	C	灰黄	ナデ	板状	内外面黒変
図24 378	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.2	7.5	3.4	[139]	C	黄灰	ナデ	板状	C
図25 379	国産陶器	常滑 片口鉢	1/2	(36.5)	(16.0)	12.3	[1442]		明茶褐			II類 8~9型式
図25 380	国産陶器	常滑 片口鉢	1/3	(35.9)	(14.4)	12.4	[1250]		暗褐			II類 8型式
図25 381	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[8.0]	[125]		赤褐			II類 8型式
図25 382	石製品	基石*	一部欠	[1.6]	1.6	0.6	[2]		灰黒			
図25 383	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.5	厚さ 0.1						祥符元寶 北宋1009年 真書
図25 384	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1						皇宋通寶 北宋1038年 真書
図25 385	銅製品	銭	完形	径 2.9	孔径 0.7	厚さ 0.1						紹興通寶 折二銭 南宋1163年 小字孔
図25 386	銅製品	銭	完形	径 2.6	孔径 0.7	厚さ 0.1						政和通寶 北宋1111年 篆書
図25 387	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1						銭種不明
図25 388	銅製品	銭	1/2強	径 [2.4]	孔径 0.7	厚さ 0.1	[2]					開元通寶*
図26 389	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.7	4.5	1.9	[33]	C+B	灰	ナデ	一	口縁部煤付着
図26 390	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/4	(6.7)	(4.8)	2.0	[20]	B	灰黄	ナデ	板状	二次的剥落により器表剥離
図26 391	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	6.9	4.2	2.1	[34]	C+B	橙	ナデ	板状	
図26 392	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.4	2.2	39	C	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部打ち欠き、煤付着
図26 393	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.4	1.5	36	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図26 394	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	4.4	2.1	[40]	C	黄橙	ナデ	板状	
図26 395	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.2	5.1	1.6	[42]	B	灰	ナデ	板状	
図26 396	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	6.0	1.7	51	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 397	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.7	1.8	43	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図26 398	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.6	1.8	55	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 399	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.2	4.2	1.8	[31]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図26 400	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.2	3.8	1.6	[27]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図26 401	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2強	6.9	4.6	2.2	[25]	C	灰	ナデ	板状	内底面煤付着
図26 402	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.8	2.0	[40]	C	黄灰	ナデ	板状	
図26 403	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.6	1.7	51	B	灰	ナデ	板状	
図26 404	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.9	1.8	57	B	灰黄	ナデ	一	口縁部煤付着
図26 405	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.4	1.9	49	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 406	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.4	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 407	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.3	1.9	50	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図26 408	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.5	4.4	1.9	[42]	B	灰黄	ナデ	板状	

() = 復元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 出土層かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図26 409	在土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.5	4.4	1.9	54	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 410	在土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.2	4.5	1.9	36	C	黄橙	ナデ	板状	底部焼成後の穿孔2ヶ所
図26 411	在土器	ロタロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.8	1.7	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	内面剥離
図26 412	在土器	ロタロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.2	1.8	[57]	B	灰黄	ナデ	—	
図26 413	在土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.6	4.5	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 414	在土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.9	49	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図26 415	在土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.6	4.0	1.9	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 416	在土器	ロタロ かわらけ・小	5/6	7.6	4.4	2.1	[47]	C	黄灰	ナデ	板状	
図26 417	在土器	ロタロ かわらけ・小	4/5	7.7	4.0	1.6	[46]	B	灰黄	ナデ	—	
図26 418	在土器	ロタロ かわらけ・小	3/4	7.7	5.3	1.7	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図26 419	在土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.8	41	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 420	在土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.7	4.0	1.9	42	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図26 421	在土器	ロタロ かわらけ・小	2/3	7.8	5.0	1.9	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 422	在土器	ロタロ かわらけ・小	2/3	(7.8)	5.0	1.9	[39]	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 423	在土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.9	5.0	1.9	60	B	黄灰	ナデ	—	
図26 424	在土器	ロタロ かわらけ・小	2/3	7.9	4.6	2.1	[56]	B	黄灰	ナデ	板状	
図26 425	在土器	ロタロ かわらけ・小	2/3	8.0	4.6	1.8	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 426	在土器	ロタロ かわらけ・小	3/4	8.3	5.6	1.8	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部、割れ口煤付着
図26 427	在土器	ロタロ かわらけ・中	1/2	(10.4)	(6.0)	2.8	[51]	C+E	橙	ナデ	板状	
図26 428	在土器	ロタロ かわらけ・中	完形	10.7	6.8	2.7	100	C+E	黄橙	ナデ	—	
図26 429	在土器	ロタロ かわらけ・中	1/2	(10.7)	(6.8)	1.9	[68]	C+B	灰黄	ナデ	板状	底部付近内外面煤付着
図26 430	在土器	ロタロ かわらけ・小	1/2	(11.0)	(6.6)	2.5	[53]	C	黄灰	ナデ	板状	C口縁部煤付着
図26 431	在土器	ロタロ かわらけ・大	完形	12.1	7.4	3.1	172	B	灰黄	ナデ	板状	
図26 432	在土器	ロタロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.3	7.0	3.6	[147]	C	黄橙	ナデ	板状	
図26 433	在土器	ロタロ かわらけ・大	4/5	12.6	7.3	3.5	[147]	B	黄橙	ナデ	板状	
図26 434	在土器	ロタロ かわらけ・大	2/3	(12.8)	(6.5)	3.2	[118]	C+B	橙	ナデ	板状	
図26 435	在土器	ロタロ かわらけ・大	4/5	12.8	6.6	3.4	[160]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図26 436	在土器	ロタロ かわらけ・大	3/4	12.8	7.6	3.4	[138]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図26 437	在土器	ロタロ かわらけ・大	完形	12.9	7.5	3.4	148	C+E	橙	ナデ	板状	
図26 438	在土器	ロタロ かわらけ・大	4/5	13.0	7.4	3.3	[109]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図26 439	在土器	ロタロ かわらけ・大	4/5	13.2	7.5	3.3	[166]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
図26 440	在土器	ロタロ かわらけ・大	2/3	(13.2)	7.0	3.5	[95]	B	橙	ナデ	板状	
図26 441	在土器	ロタロ かわらけ・大	4/5	13.3	8.0	3.6	[173]	C	黄灰	ナデ	板状	C
図26 442	在土器	ロタロ かわらけ・大	1/3	(13.4)	(7.6)	3.3	[112]	C+E	灰黄	ナデ	板状	

() = 復元価 [] = 残存価

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土層の特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図26 443	在地土器	ロタロ かわらけ・大	3/4	13.5	6.9	3.2	[158]	C	黄緑	ナデ	板状	
図26 444	在地土器	ロタロ かわらけ・大	2/3	13.5	7.5	4.0	[162]	C+E	黄緑	ナデ	—	口縁部煤付着
図26 445	在地土器	ロタロ かわらけ・大	2/3	(13.8)	(7.4)	3.8	[158]	C+B	緑	ナデ	板状	
図26 446	在地土器	ロタロ かわらけ・大	1/3	—	—	3.6	[45]		黄灰	—	—	取柄転用 スタブ付着。歪み大
図27 447	国産陶器	瀬戸 入子	ほぼ 完形	3.4	3.0	7.5	[6]		黄灰			内面面に紅付着
図27 448	国産陶器	瀬戸 入子	2/3	(8.4)	(4.0)	3.2	[41]		灰			輪花型 内面煤付着
図27 449	国産陶器	瀬戸 入子	口1/4	(9.0)	—	[2.25]	[8]		灰			内面黒色系煤付着
図27 450	国産陶器	瀬戸 入子	口1/2 ～底完	5.4	3.2	2.0	[20]		灰			輪花型 内全面と外底面に紅付着
図27 451	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[6]	[91]		明茶褐			口縁 8型式
図27 452	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[6.7]	[135]		赤褐			口縁部内面二次的被熱
図27 453	在地土器	瓦質土器 火鉢	口欠	—	30.5	[10.8]	—		黒灰			口縁 外面12弁の菊花文スタンプ
図27 454	在地土器	瓦質土器 火鉢	一部欠	38.0	31.0	14.2	—		暗灰			口縁 外面16弁の菊花文スタンプ
図27 455	瓦	平瓦	小片	[9.1]	[9.5]	2.0	[224]		黒灰			
図27 456	搬入土器	南伊勢系 土鍋	口小片	—	—	[2]	[14]		灰白			口縁部外面黒染
図27 457	土製品	円盤	1/2強	径 4.2	—	1.2	[14]		黄灰			
図27 458	石製品	滑石鑄造用品 用途不明	底片	[13.6]	[14]	2.0	[319]		灰黒			加工途中の穿孔3ヶ所
図27 459	石製品	硯	完形	[6.9]	[5.6]	1.0	[52.2]		灰黒			頁岩 高島級 14cカ
図27 460	石製品	火打石	完形	(2.0)	(2.3)	(1.8)	[10.5]		灰白			石英
図28 461	銅製品	銭	一部欠	径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	[2]					開元通寶 唐621年 真書
図28 462	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書
図28 463	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書 背上月
図28 464	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					咸平元寶 北宋998年 真書
図28 465	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					咸平元寶 北宋998年 真書
図28 466	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.5	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図28 467	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 真書
図28 468	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.5	厚さ 0.1	2					政和通寶 北宋1111年 篆書 磨銭(側縁)
図28 469	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.5	厚さ 0.1	3					元通寶
図28 470	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					銭種不明
図28 471	銅製品	銭	一部欠	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	[2]					銭種不明
図28 補1	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					景徳元寶 北宋1004年
図28 補2	銅製品	銭	完形	径 3.4	孔径 0.8	厚さ 0.3						熙寧重寶 北宋1071年 篆書
図28 補3	銅製品	銭	完形	径 2.7	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					宣和通寶 北宋1119年 分期
図28 補4	銅製品	銭	完形	径 3.5	孔径 0.8	厚さ 0.3	9					崇寧通寶 当十銭 北宋1103年
図28 補5	銅製品	銭	完形	径 3.4	孔径 0.8	厚さ 0.3						崇寧通寶 当十銭 北宋1103年 銭3枚が同類 合計18.5g

() = 復元価 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	縁高・厚さ						
図28 補6	銅製品	銭	完形				4					島宋通貨 北宋1038年 真書
図29 472	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.3	4.8	2.4	[44]	C	黄灰	ナデ	板状	C 底部穿孔1ヶ所
図29 473	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.8	1.6	48	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 474	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	6.8	4.0	1.6	[38]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図29 475	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.4	1.8	35	C	黄橙	ナデ	板状	C
図29 476	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.4	1.8	36	C	灰黄	ナデ	板状	C
図29 477	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.4	1.8	41	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 478	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	5.0	2.0	41	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 479	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.8	1.7	41	C+B	黄橙	ナデ	板状	口縁部一部黒変
図29 480	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.1	4.4	1.7	[41]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 481	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.8	1.7	36	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図29 482	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.3	1.7	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 483	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	3.9	2.0	37	C	灰黄	ナデ	板状	C
図29 484	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.0	5.0	2.1	42	C	黄橙	ナデ	板状	ゼ
図29 485	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.6	1.5	[39]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 486	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.6	1.7	41	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部1ヶ所煤付着
図29 487	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.8	1.7	44	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部1ヶ所煤付着
図29 488	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.1	4.8	1.9	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部1ヶ所煤付着
図29 489	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.7	41	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部2ヶ所煤付着
図29 490	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.0	1.7	45	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部1ヶ所煤付着
図29 491	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.8	1.7	[40]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部2ヶ所煤付着
図29 492	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.3	4.9	1.5	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	釜み大
図29 493	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.2	1.7	42	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部1ヶ所煤付着
図29 494	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.5	1.7	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	中心部に1ヶ所穿孔あり
図29 495	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.2	4.3	1.9	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	内外側面一部黒色に変色
図29 496	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.5	1.8	[48]	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 497	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.0	1.8	48	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 498	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.5	5.3	1.5	[37]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図29 499	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.5	2.2	54	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 500	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.3	4.8	1.7	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 501	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.0	2.9	56	B	灰黄	ナデ	板状	釜み大
図29 502	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.7	1.9	45	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 503	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.8	1.9	60	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 504	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.1	1.9	46	B	灰黄	ナデ	板状	

() = 償元価 [] = 残存価

通物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 瓦版	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	縁高・厚さ						
図29 505	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.0	1.8	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 506	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.0	1.7	[44]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 507	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.3	1.5	50	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図29 508	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.6	5.0	1.8	[36]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図29 509	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	4.7	1.8	[57]	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 510	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.0	1.6	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 511	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.9	1.8	55	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 512	在地土器	ロクロ かわらけ・小	7/8	7.6	5.0	1.8	[47]	C+E	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 513	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.0	1.9	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 514	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.4	1.8	62	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 515	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.5	1.8	48	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 516	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.9	62	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 517	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	2.7	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 518	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.1	1.9	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 519	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.2	2.1	62	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 520	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.0	1.7	[43]	C+E	灰黄	ナデ	板状	
図29 521	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.5	1.7	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 522	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	5.2	1.8	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 523	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.2	1.9	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 524	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.1	1.7	54	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 525	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	6.0	1.7	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 526	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.1	1.9	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 527	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.3	1.8	50	B	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図29 528	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	4.7	2.0	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 529	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	6.0	1.8	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 530	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.9	1.7	56	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 531	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	4.8	1.7	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 532	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.8	1.7	60	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 533	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	6.0	1.7	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図29 534	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.0	1.8	47	C+E	灰黄	ナデ	板状	内面一部黒変
図29 535	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.1	1.7	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 536	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	4.8	1.7	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図29 537	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.3	1.9	56	B	灰黄	ナデ	板状	外面一部黒変
図29 538	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	5.0	2.0	[67]	B	灰黄	ナデ	板状	

() = 償元価 [] = 残存価

通物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/肌面	内底 調整	外底 瓦張	出土遺構・ 出土層の特微
				口徑-長さ	底径-幅	器高-厚さ						
図29 539	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.2	1.9	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 540	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.4	1.6	57	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図30 541	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.8	5.0	1.8	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	C
図30 542	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.6	1.8	44	C+B	灰黄	ナデ	板状	C' 口縁部煤付着
図30 543	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	5.7	1.7	[39]	C	黄橙	ナデ	板状	内外面煤付着
図30 544	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.9	2.0	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 545	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.1	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 546	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.8	1.7	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 547	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	4.7	2.0	[53]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図30 548	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.6	1.9	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 549	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.0	5.2	2.0	[52]	B	黄橙	ナデ	板状	
図30 550	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	8.0	5.0	2.0	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 551	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	4.9	1.8	58	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図30 552	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.1	1.9	43	C	橙	ナデ	板状	
図30 553	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.1	4.9	1.9	[49]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図30 554	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.2	2.0	61	B	黄橙	ナデ	板状	
図30 555	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	8.2	5.4	1.8	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 556	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.4	5.4	1.9	76	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 557	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	5.3	2.0	[67]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 558	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.2	5.5	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 559	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.4	5.4	2.0	76	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 560	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.2	2.2	[73]	B	灰黄	ナデ	板状	
図30 561	在地土器	ロクロ かわらけ・小	7/8	7.1	3.9	2.2	[39]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C'
図30 562	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.1	4.5	2.1	[48]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図30 563	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.5	2.0	44	C+B	黄橙	ナデ	板状	C'
図30 564	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	3.9	2.0	35	C	灰黄	ナデ	板状	C
図30 565	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.1	2.2	39	C	黄橙	ナデ	板状	C
図30 566	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	3.9	2.2	35	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図30 567	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.2	2.2	37	C	灰黄	ナデ	板状	
図30 568	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.9	5.1	2.2	[44]	C	黄橙	ナデ	板状	
図30 569	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.4	2.2	44	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図30 570	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.5	4.6	2.2	[34]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C'
図30 571	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.1	2.2	38	C	黄灰	ナデ	板状	C
図30 572	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.1	2.0	40	C+B	灰黄	ナデ	板状	C'

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 区画	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	縁高・厚さ						
図30 573	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.0	2.2	47	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図30 574	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口～ 底1/4	7.6	4.9	2.2	40	C	黄橙	ナデ	板状	C
図30 575	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	4.6	2.0	[37]	C	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着
図30 576	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.6	2.3	51	C	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図30 577	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.6	2.2	[40]	C	灰黄	ナデ	板状	C口縁部内外面煤付着
図30 578	在地土器	ロクロ かわらけ・中	7/8	10.2	6.9	2.5	[95]	C+E	灰黄	ナデ	板状	内面薄く黒変
図30 579	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.2	6.1	3.0	93	C	黄橙	ナデ	板状	C
図30 580	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.7	5.7	2.8	[99]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図30 581	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.5	6.0	1.8	[98]	C+E	黄橙	ナデ	板状	内外面煤付着
図30 582	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.7	6.6	2.7	[88]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図30 583	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.7	6.3	1.8	[93]	C+E	黄橙	ナデ	板状	内外面煤付着
図30 584	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.7	6.0	1.8	[105]	C+E	黄灰	ナデ	—	内外面黒変
図30 585	在地土器	ロクロ かわらけ・中	5/6	10.7	6.5	2.9	[100]	C	灰黄	ナデ	板状	C内外面黒変
図30 586	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.5	6.4	2.9	108	C+E	黄橙	ナデ	板状	C口縁部煤付着
図30 587	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.7	6.2	2.7	99	C	灰黄	ナデ	板状	C口縁部煤付着 穿孔1ヶ所
図30 588	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.6	5.4	3.1	102	C	灰黄	—	板状	C口縁部煤付着
図30 589	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.8	6.6	3.2	116	C	灰黄	ナデ	板状	C
図30 590	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.8	6.3	3.0	[118]	C	橙	ナデ	板状	C内底内側面の一部煤付着
図30 591	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.8	6.0	3.0	115	C+B	灰黄	ナデ	板状	C口縁部煤付着
図30 592	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.8	6.0	2.9	[116]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図31 593	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.9	6.4	2.9	[116]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図31 594	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	11.5	6.6	2.7	[119]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図31 595	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.4	6.8	2.8	109	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図31 596	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.8	5.8	2.8	98	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 597	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.0	7.5	2.9	107	C	橙	ナデ	板状	内外面煤付着
図31 598	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	11.3	6.6	2.9	[111]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図31 599	在地土器	ロクロ かわらけ・中	5/6	11.2	6.0	3.0	[107]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図31 600	在地土器	ロクロ かわらけ・中	5/6	11.5	6.0	2.9	[99]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 601	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.3	7.0	3.0	125	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 602	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.9	5.9	3.1	[103]	C	灰黄	ナデ	—	C
図31 603	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	11.2	6.0	3.0	[126]	C+B	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図31 604	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.1	6.4	3.2	[93]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 605	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.2	6.4	3.0	127	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 606	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.7	6.2	3.1	117	B	黄灰	ナデ	板状	C口縁部内外面煤付着

() = 復元価 [] = 残存価

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 正規	出土遺構・ 出土層の特微
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図31 607	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.3	6.0	3.2	112	C	黄橙	ナデ	一	C
図31 608	在地土器	ロクロ かわらけ・中	5/6	11.3	6.0	3.1	[123]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C 内外面一部黒変
図31 609	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.4	6.6	3.3	[102]	C	黄橙	ナデ	板状	C'
図31 610	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.1	5.9	3.5	[140]	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 611	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.9	6.8	3.2	148	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 612	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	11.9	7.0	3.3	[149]	B	黄灰	ナデ	板状	
図31 613	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.2	7.6	3.2	158	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 614	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.5	8.3	3.1	195	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 615	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.3	8.3	3.0	[165]	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 616	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	7.8	3.2	187	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 617	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.2	3.2	190	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 618	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.6	7.6	3.4	[191]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図31 619	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.0	8.0	3.4	[160]	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 620	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.6	8.6	3.3	[170]	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 621	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.9	7.7	3.7	[174]	B	灰黄	ナデ	板状	
図31 622	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.9	7.2	3.5	[179]	C+E	黄灰	ナデ	板状	C
図31 623	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.6	8.0	3.4	[230]	B	黄橙	ナデ	板状	
図31 624	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.8	7.1	3.4	[154]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図31 625	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.1	7.3	3.2	[155]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C'
図32 626	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.6	3.5	[169]	C	橙	ナデ	板状	C 底部内外面黒変
図32 627	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.5	9.2	3.1	[198]	B	灰黄	ナデ	板状	
図32 628	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.8	3.0	[166]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C'
図32 629	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	8.0	3.3	[176]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図32 630	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	13.0	7.4	3.2	[153]	C+B	橙	ナデ	板状	C
図32 631	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.6	7.4	3.3	169	C	黄橙	ナデ	板状	C
図32 632	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	6.8	3.3	167	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図32 633	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.6	7.9	3.3	199	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図32 634	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.4	7.5	3.4	[139]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C'
図32 635	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.1	7.9	3.4	[172]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C'
図32 636	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	8.0	3.4	183	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 637	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.9	7.2	3.8	156	C	黄橙	ナデ	板状	C
図32 638	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.1	7.2	3.4	[154]	B	黄橙	ナデ	板状	
図32 639	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.4	7.5	3.4	[159]	C+B	橙	ナデ	板状	C'
図32 640	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.2	7.5	3.3	[178]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C

() = 現貨価格 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口徑・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図32 641	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.6	6.8	3.2	[190]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図32 642	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.3	7.1	3.2	[132]	C	黄橙	ナデ	板状	C'
図32 643	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.2	7.1	3.5	141	C	橙	ナデ	板状	C
図32 644	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.4	7.8	3.6	[181]	C+E	橙	ナデ	板状	C'
図32 645	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.1	7.1	3.6	[201]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C' 口縁部内外面黒変
図32 646	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.8	3.4	159	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 647	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.9	7.6	3.4	[157]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図32 648	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.3	7.6	3.3	[176]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 649	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.5	7.5	3.4	[150]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 650	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.7	7.5	3.4	[133]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図32 651	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.0	7.5	3.5	[157]	C	灰黄	ナデ	板状	C'
図32 652	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.1	8.2	3.7	[151]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C
図32 653	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.3	7.4	3.5	[185]	C	橙	ナデ	板状	C
図32 654	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.5	3.5	172	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図32 655	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.9	8.0	3.6	[191]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図33 656	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.3	7.1	3.0	[165]	B	灰黄	ナデ	板状	C
図33 657	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	7.4	3.3	[193]	B	灰黄	ナデ	板状	C
図33 658	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.3	8.0	3.4	[174]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図33 659	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.4	7.6	3.5	[171]	B	橙	ナデ	板状	C
図33 660	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.3	6.8	3.5	194	B	灰黄	ナデ	板状	C
図33 661	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.0	3.4	184	B	灰黄	ナデ	板状	C
図33 662	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.5	3.6	[164]	C	橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図33 663	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.9	3.8	[201]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図33 664	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.4	7.8	3.8	[183]	B	灰黄	ナデ	板状	C 二次的被熱 s 歪み大
図33 665	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.5	8.8	3.3	[176]	B	灰黄	ナデ	板状	C
図33 666	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.9	7.5	3.7	[147]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図33 667	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.7	6.0	3.7	185	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図33 668	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.7	8.0	3.7	[219]	C	黄橙	ナデ	板状	C 内底面に銅鏡1枚付着 口縁部煤付着
図33 669	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.0	7.0	3.8	175	C+B	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図33 670	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.3	7.7	3.8	[176]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C
図33 671	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.7	3.8	[203]	C+B	橙	ナデ	板状	C'
図33 672	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	14.0	7.0	4.1	[201]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図33 673	国産陶器	瀬戸 入子	完形	3.9	2.8	1.4	13		灰			C 片口部整形
図33 674	国産陶器	瀬戸 入子	完形	4.5	3.2	1.2	14		灰黄			

() = 復元価 [] = 残存価

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 正底	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
国33 675	国産陶器	常滑 片口鉢	1/3	(32.2)	(15.0)	11.1	[914]		褐			II類 片口2ヶ所々
国33 676	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[11.2]	[312]		褐			II類 8~9型式
国33 677	在地土器	瓦質土器 火鉢	口~ 底片	(30.0)	(20.4)	7.1	[30]		赤橙			体部内面に菊花文スタンプ 678と同
国33 678	在地土器	瓦質土器 火鉢	口~ 底片	(30.0)	(20.4)	7.1	[30]		赤橙			体部内面に菊花文スタンプ 678と同
国33 679	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.5	厚さ 0.1	3					咸平元寶 北宋998年 真書
国34 680	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.8	49	B	灰黄	ナデ	板状	
国34 681	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.1	1.8	56	B	灰黄	ナデ	板状	
国34 682	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.1	1.7	39	C+E	黄橙	—	—	内底面に黒色の付着物
国34 683	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.3	1.7	62	B	黄橙	ナデ	板状	
国34 684	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	7.7	5.7	1.9	[39]	B	黄橙	ナデ	板状	
国34 685	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	6.8	4.3	1.8	[30]	C+B	灰白	ナデ	板状	C
国34 686	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.6	1.9	57	B	灰黄	ナデ	板状	
国34 687	在地土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.7	4.8	2.0	[51]	B	灰黄	ナデ	—	
国34 688	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.6	2.0	69	B	黄橙	ナデ	板状	
国34 689	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	4.0	2.0	37	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
国34 690	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.4	2.0	[44]	C	黄橙	ナデ	板状	
国34 691	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.0	4.2	2.0	33	C	橙	ナデ	板状	口縁付近黒変
国34 692	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.0	2.0	41	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
国34 693	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.0	2.2	40	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
国34 694	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.4	2.3	[50]	C	灰黄	ナデ	板状	
国34 695	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.4	6.0	2.6	[103]	C+E	橙			口縁部僅付花
国34 696	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.8	6.3	2.8	[97]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
国34 697	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	11.3	6.2	3.0	111	C	黄橙	ナデ	板状	外底面黒変
国34 698	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	11.6	5.8	3.2	[116]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
国34 699	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/4 ~底完	(13.0)	7.5	3.2	[128]	B	黄橙	ナデ	—	
国34 700	在地土器	ロクロ かわらけ・大	7/10	12.4	7.5	3.2	[162]	B	黄橙	ナデ	板状	
国34 701	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.9	3.3	[174]	C+E	橙	ナデ	—	C
国34 702	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.5	7.6	3.6	[170]	C	灰黄	ナデ	板状	C
国34 703	国産陶器	瀬戸 御皿	口~ 胴片	—	—	[4.6]	[33]		灰			前IV~中期々
国34 704	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書
国34 705	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					淳化元寶 北宋990年 真書
国34 706	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					天聖元寶 北宋1023年 真書
国34 707	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.8	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1086年 篆書
国34 708	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					嘉祐通寶 北宋1056年 真書

() = 復元価 [] = 残存価

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/肌理	内底 調整	外底 凸盛	出土遺構・ 胎土厚かの特微
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図34 709	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 行書
図34 710	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 行書
図34 711	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 行書
図34 712	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元祐通寶 北宋1086年 行書
図34 713	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元符通寶 北宋1098年 行書
図35 714	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/5	7.6	5.6	1.4	[37]	B	灰黄	ナデ	板状	
図35 715	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.0	5.5	1.6	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図35 716	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.5	1.6	42	C	灰白	ナデ	板状	C
図35 717	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	7.6	4.9	1.8	[32]	B	灰黄	ナデ	板状	
図35 718	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.6	1.8	32	C	黄緑	ナデ	板状	C
図35 719	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	8.3	5.0	2.0	[48]	B	灰	ナデ	板状	
図35 720	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.2	2.1	37	C	黄緑	ナデ	板状	C
図35 721	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/5	(10.9)	5.2	3.1	[63]	C	灰白	ナデ	板状	C 外面薄く凸盛
図35 722	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2	(12.2)	7.0	3.3	[114]	B	黄緑	ナデ	一	
図35 723	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2	(12.8)	7.0	3.6	[105]	B	黄緑	ナデ	板状	
図35 724	国産陶器	尾裏型 山茶碗	口片	—	—	[5.7]	[79]		緑			
図35 725	国産陶器	常滑 転用研磨具	壺片	6.0	4.4	1.1	27		黒			
図35 726	国産陶器	珠洲 小壺	肩片	—	—	[2.2]	[11]		灰			
図35 727	石製品	砥石	一端欠	[4.0]	3.4	[1.3]	[31.7]		白			鳴滝上砥石 二次的被熱
図35 728	石製品	砥石	一端欠	[4.2]	3.0	1.2	[22.7]		暗灰			天草中砥
図35 729	石製品	砥石	一端欠	[1.02]	3.7	1.0	[71.3]		灰			鳴滝奥段上砥
図35 730	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 行書
図35 731	銅製品	銭	2/3	径 2.2	孔径 0.6	厚さ 0.1	[1]					開元通寶 唐621年 行書
図35 732	銅製品	銭	ほぼ 完形	径 2.6	孔径 0.6	厚さ 0.1	[3]					祥符通寶 北宋1009年 行書
図35 733	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	2					聖宋元寶 北宋1101年 行書
図35 734	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	4					景定通寶 南宋1260年 真書
図35 735	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.2	1.4	[38]	C	灰黄	ナデ	板状	
図35 736	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.4	1.3	[34]	C	灰黄	ナデ	板状	二次的被熱 a
図35 737	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	5.0	1.6	38	C	灰黄	ナデ	板状	
図35 738	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.4	1.8	[43]	C	灰黄	ナデ	板状	
図35 739	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.3	7.0	3.3	[142]	C	灰黄	ナデ	板状	
図35 740	石製品	砥石	両端欠	[13.4]	7.9	7.2	[1155]		灰			天草砥砥
図35 741	瓦	平瓦	小片	[9.4]	[8.6]	2.8	[263]		灰			製斗瓦に再加工 穿孔1ヶ所
図36 742	国産陶器	瀬戸 入子	4/5	5.6	2.8	3.1	[27]		灰緑			片口籠形 内底面中央凹み 内面窪付書

() = 償元価 [] = 残存価

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色顔料/裏面	内底調整	外底圧痕	出土遺構・胎土層の特徴
				口徑・長さ	底径・幅	縁高・厚さ						
図36 743	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.7	4.4	1.7	43	B	黄橙	ナデ	板状	
図36 744	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.8	4.6	1.8	44	B	灰黄	ナデ	板状	打ら欠き 口縁部煤付着
図36 745	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.2	4.6	1.7	[40]	C	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 746	在地土器	ロクロかわらけ・小	3/4	6.9	5.4	1.6	[40]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 747	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	6.9	5.0	1.7	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 748	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.0	4.4	1.8	42	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 749	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.0	4.4	1.8	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	打ら欠き 口縁部煤付着
図36 750	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	6.9	4.8	1.9	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 751	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.9	4.6	1.8	46	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 752	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	6.8	5.1	1.7	51	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着 歪み大
図36 753	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	6.9	4.6	2.1	[37]	C+B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 754	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.9	4.4	1.9	42	C	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 755	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.1	4.1	2.3	[36]	C	黄灰	ナデ	板状	
図36 756	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.2	4.2	1.8	[35]	C	黄橙	ナデ	板状	
図36 757	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.2	5.0	1.8	[56]	B	黄灰	ナデ	板状	
図36 758	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.0	4.4	1.8	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 759	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.2	5.1	1.8	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 760	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.0	5.0	1.6	[38]	B	黄灰	ナデ	板状	
図36 761	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	4.6	1.6	47	B	灰黄	ナデ	—	口縁部一部黒変
図36 762	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.1	5.0	1.8	49	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 763	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.0	4.6	2.0	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 764	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	5.6	2.7	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 765	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.0	5.2	1.8	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 766	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	4.6	1.9	53	B	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着
図36 767	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.4	4.2	1.8	[39]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 768	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	4.4	1.8	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 769	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.8	53	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 770	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.4	5.1	1.9	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 771	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	3.8	2.0	42	B	黄橙	ナデ	板状	
図36 772	在地土器	ロクロかわらけ・小	4/5	7.3	5.2	1.8	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 773	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.6	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 774	在地土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.3	5.0	1.9	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 775	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	4.8	1.9	48	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着 歪み大
図36 776	在地土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.3	5.4	1.7	59	B	灰黄	ナデ	板状	

() = 復元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口徑・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図36 777	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.2	1.9	[47]	B	灰黄	ナデ	板状	釜み大
図36 778	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.0	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 779	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.8	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 780	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.0	1.7	[53]	B	灰黄	ナデ	—	
図36 781	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.1	5.1	1.8	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 782	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.4	1.8	61	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 783	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.9	52	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図36 784	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.1	1.9	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 785	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.0	1.9	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 786	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	4.9	1.8	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 787	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.1	4.8	2.1	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 788	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.0	1.8	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 789	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.7	5.6	1.9	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 790	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	5.0	2.1	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 791	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.0	1.9	[57]	B+C	黄橙	ナデ	板状	
図36 792	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.6	1.8	[57]	B	黄橙	ナデ	—	
図36 793	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.9	50	B	黄橙	ナデ	板状	
図36 794	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	5.2	2.0	[59]	B	灰黄	ナデ	板状	内面に黒色の付着物
図36 795	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	(7.8)	5.0	1.5	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	
図36 796	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.3	2.0	[63]	B	灰黒	ナデ	板状	
図36 797	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.2	5.2	1.8	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 798	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	9.7	6.0	3.1	[89]	C	橙	ナデ	板状	
図37 799	在地土器	ロクロ かわらけ・中	1/2	10.2	5.8	2.6	[48]	C	橙	ナデ	板状	内外面黒変
図37 800	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.4	5.8	3.1	[112]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図37 801	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/5	10.8	6.7	3.0	[80]	C+B	橙	ナデ	—	
図37 802	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	11.0	7.2	3.0	[96]	B	不明	ナデ	板状	内外面黒変
図37 803	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.8	7.0	3.1	[115]	C+B	黄灰	ナデ	—	
図37 804	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/5	10.2	5.6	3.3	[114]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図37 805	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.2	6.4	3.1	[112]	C	灰黄	ナデ	板状	C 打ち欠きあり
図37 806	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.3	6.1	3.2	[106]	C	橙	ナデ	板状	C
図37 807	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.5	7.2	3.0	[147]	B	灰黄	ナデ	板状	煤付着
図37 808	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.0	7.4	3.4	[127]	B	橙	ナデ	板状	
図37 809	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.6	6.0	3.4	143	B	黄橙	ナデ	板状	釜み大
図37 810	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	11.9	7.3	3.4	[157]	B	灰黄	ナデ	板状	

() = 償元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特微
				口徑・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図37 811	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	11.9	6.8	3.4	[167]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図37 812	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	11.9	7.5	3.4	[152]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図37 813	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.0	7.6	3.3	[159]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 814	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	7.6	3.5	[162]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 815	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.2	8.0	3.3	[178]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面薄く黒変
図37 816	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	7.4	3.3	[137]	B	黄橙	ナデ	板状	
図37 817	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.3	8.0	3.4	[202]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 818	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.4	7.8	3.3	[172]	B	黄灰	ナデ	板状	
図37 819	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	7.4	3.2	[149]	C+B	灰黄	ナデ	—	C
図37 820	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.6	8.0	3.2	[156]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面黒変
図37 821	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.4	7.6	3.4	[151]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 822	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.6	6.8	1.4	[154]	B	灰黄	ナデ	板状	
図37 823	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.7	8.0	3.3	[160]	B	黄橙	ナデ	板状	
図37 824	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.7	7.6	3.5	[127]	B+C	灰黄	ナデ	板状	
図37 825	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.3	7.2	3.8	[174]	B+C	灰黄	ナデ	板状	
図38 826	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.8	4.8	1.6	47	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部と外底面に煤付着
図38 827	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.8	1.7	47	B	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着 二次的の被熱により器面剥離
図38 828	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.2	5.6	1.5	[38]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 829	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	5.0	1.2	43	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 830	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.6	51	B	灰黄	ナデ	—	
図38 831	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.8	1.6	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 832	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.6	1.5	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 833	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	5.2	1.7	50	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 834	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.7	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 835	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.8	1.6	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 836	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	4.6	1.4	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図38 837	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.6	50	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図38 838	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.8	1.6	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 839	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	5.0	1.7	[47]	B	橙	ナデ	板状	
図38 840	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.7	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 841	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.4	1.5	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 842	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.1	1.6	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図38 843	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.7	47	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図38 844	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.4	1.7	53	B	灰黄	ナデ	板状	

() = 償元価 [] = 残存価

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 底痕	出土遺構・ 胎土厚かの特微
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図38 845	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.8	1.8	50	B	灰	ナデ	ナデ	口縁部煤付着
図38 846	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.0	1.8	57	B	灰黄	ナデ	一	内外面黒変
図38 847	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.0	1.7	50	B	灰黄	ナデ	板状	内外面黒変
図38 848	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.1	1.7	49	B	灰黄	ナデ	一	
図38 849	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.6	1.7	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 850	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.8	1.8	[45]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 851	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.3	1.8	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 852	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.7	1.8	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 853	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.4	1.9	52	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 854	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.8	53	B	灰	ナデ	一	口縁部煤付着 内面鉄分の付着物
図38 855	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.2	1.9	[58]	B	灰黄	ナデ	一	
図38 856	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	6.2	1.7	63	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 857	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.8	1.7	47	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図38 858	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.0	1.9	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 859	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.8	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 860	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	4.4	1.9	[44]	B	橙	ナデ	板状	
図38 861	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.1	1.6	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 862	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	4.6	1.9	67	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 863	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	5.0	1.9	[58]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 864	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.0	2.0	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 865	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.6	2.1	[60]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 866	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.3	4.4	2.2	[32]	C+B	黄橙	ナデ	板状	表面に鉄分付着
図38 867	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	4.8	2.0	62	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 868	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.2	1.7	[58]	B	灰	ナデ	板状	内外面黒変
図38 869	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.2	2.0	68	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 870	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	4.6	1.9	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 871	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.4	5.2	3.3	[95]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図38 872	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.4	6.3	3.2	110	C	不明	ナデ	一	C 内外面全面に煤付着
図38 873	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.8	6.0	3.1	102	C	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図38 874	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	11.8	7.0	3.3	[163]	B	灰黄	ナデ	板状	
図38 875	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.1	6.6	2.9	[118]	C	黄橙	ナデ	板状	内外面煤付着
図38 876	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	11.0	6.2	3.3	[103]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C 底部外面煤付着
図38 877	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	11.8	7.2	3.4	[159]	B	橙	ナデ	板状	
図38 878	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	11.7	7.3	3.1	[160]	B	橙	ナデ	板状	

() = 復元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 正誤	出土遺構・ 胎土層からの特徴
				口徑・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図38 879	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	11.9	7.3	3.3	[169]	B	灰黄	ナデ	—	
図39 880	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.1	7.9	3.1	[129]	B	橙	ナデ	板状	
図39 881	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	11.9	7.3	3.4	[152]	B	黄橙	ナデ	板状	
図39 882	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	11.9	7.0	3.5	[165]	B	橙	ナデ	板状	
図39 883	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.9	7.0	3.4	166	B	橙	ナデ	板状	
図39 884	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.0	7.4	3.1	[107]	B	橙	ナデ	板状	
図39 885	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.1	7.0	3.4	[141]	B	灰黄	ナデ	—	
図39 886	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	7.6	3.3	[176]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 887	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.0	7.0	3.3	[162]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 888	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	7.6	3.4	[176]	B+C	灰黄	ナデ	—	
図39 889	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	7.4	3.3	[171]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 890	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.2	7.4	3.5	[178]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 891	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.2	7.0	3.4	[171]	B	黄灰	ナデ	板状	
図39 892	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.3	6.8	3.4	[178]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 893	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.3	7.5	3.3	[173]	B	灰黄	ナデ	—	
図39 894	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	8.4	3.6	166	C+E	橙	ナデ	板状	C
図39 895	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/5	12.4	7.4	3.2	[155]	B	橙	ナデ	板状	
図39 896	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	7.3	3.3	[194]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 897	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.4	7.5	1.7	[200]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 898	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.4	7.4	3.3	[146]	B	橙	ナデ	板状	内外側面に煤付着
図39 899	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.6	7.5	3.3	[196]	C	灰黄	ナデ	板状	
図39 900	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.7	7.9	3.4	[210]	B	黄橙	ナデ	板状	
図39 901	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.7	8.2	3.2	[176]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 902	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.8	7.8	3.5	189	B	黄灰	ナデ	板状	
図39 903	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.8	7.0	3.6	159	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図39 904	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.5	7.2	3.3	[176]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 905	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.9	8.6	3.3	196	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 906	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	7.4	3.2	180	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 907	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.3	7.6	3.4	[169]	B	黄灰	ナデ	板状	
図39 908	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.0	3.5	160	C	灰黄	ナデ	板状	C
図39 909	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	6.9	3.2	168	B	黄橙	ナデ	板状	
図39 910	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.6	8.2	3.1	[201]	B	灰黄	ナデ	板状	
図39 911	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.3	7.6	3.5	169	C	黄灰	ナデ	板状	C
図39 912	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.6	7.0	3.5	172	B	灰黄	ナデ	—	

() = 推定値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/肌理	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図39 913	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.8	7.2	3.4	[116]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図39 914	石製品	滑石鍋 転用スタンブ	小片	4.8	3.8	1.3	33		灰黒			再製作産 製作途中か 切欠文
図40 915	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	5.2	1.9	[52]	B	灰黄	ナデ	—	全体に鉄分のような付着物 あり
図40 916	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.7	3.8	1.9	[26]	B	灰黄	ナデ	—	
図40 917	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	6.9	4.5	1.8	[35]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C
図40 918	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	5.2	1.8	[34]	C	黄橙	ナデ	板状	C 至み大
図40 919	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.6	4.4	1.7	38	B	灰黄	ナデ	—	
図40 920	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	4.8	1.5	[36]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図40 921	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	5.0	2.1	[49]	B	黄灰	ナデ	板状	C'
図40 922	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.8	2.1	[42]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図40 923	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.1	5.0	1.9	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 924	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.8	1.8	51	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 925	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.0	4.6	1.8	[40]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 926	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	5.2	1.7	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 927	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.1	5.3	1.6	[42]	B	灰	ナデ	板状	
図40 928	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.6	1.8	46	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 929	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.8	1.7	[54]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 930	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	4.8	1.7	[57]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 931	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.1	1.6	45	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 932	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.9	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 933	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.2	1.7	[55]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 934	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.0	1.9	[56]	B	橙	ナデ	板状	
図40 935	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.6	5.0	1.8	[43]	B	灰黄	ナデ	—	
図40 936	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.3	6.0	2.0	[68]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 937	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.4	2.1	[58]	B	灰黄	ナデ	—	
図40 938	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.9	4.6	2.1	[54]	B	灰黄	ナデ	板状	
図40 939	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	4.6	2.1	58	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図40 940	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	5.7	1.9	[60]	B	灰黄	ナデ	—	
図40 941	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.5	5.4	3.0	[92]	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部埋付着 至み大
図40 942	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.8	5.8	3.0	[104]	C	灰	ナデ	板状	C 口縁部埋付着
図40 943	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.2	5.2	2.9	[90]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図40 944	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.9	6.7	2.8	[101]	C	灰黄	ナデ	板状	C 口縁部埋付着
図40 945	在地土器	ロクロ かわらけ・中	2/3	11.2	7.2	2.9	[97]	C+B	橙	ナデ	板状	
図40 946	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	7.0	3.2	[147]	C	灰黄	ナデ	板状	C

() = 推定値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 出土層からの特徴	
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ							
図40 947	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.2	7.0	3.6	[112]	C	灰黄	ナデ	一	C	
図40 948	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.4	8.2	3.4	[154]	C+B	橙	ナデ	板状		
図40 949	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/3	(13.3)	(7.6)	3.3	[67]	C	灰黄	ナデ	板状	C	
図40 950	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.7	8.2	3.3	[106]	C	黄灰	ナデ	一	C	
図40 951	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.5	7.6	3.5	[129]	C	灰黄	ナデ	一	C	
図40 952	在地土器	ロクロ かわらけ・大		ほぼ 完形	14.2	8.7	3.4	[190]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C
図41 953	国産陶器	常滑 壺	胴～ 底1/4	—	(8.6)	[5.5]	[63]		暗褐				
図41 954	国産陶器	常滑 壺	胴～ 底1/6	—	—	[5.6]	[57]		暗褐			二次的被熱で器面荒れる	
図41 955	銅製品	鏡	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.2	4					皇宋通寶 北宋1038年 篆書	
図41 956	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.6	4.0	2.6	[48]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部僅付着	
図41 957	在地土器	罽藍	口小片	—	—	[5.9]	[55]		灰白			罽以下は焦げ付着	
図41 958	在地土器	ロクロ かわらけ・小		ほぼ 完形	7.3	5.2	1.6	[40]	B	灰黄	ナデ	板状	
図41 959	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.2	5.0	1.9	[50]	B	灰黄	ナデ	一		
図41 960	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.9	7.0	3.6	[162]	C+B	黄橙	ナデ	一	C 底部粘土板貼り付けか 二重に糸切痕	
図41 961	鉛磁器	龍泉窯系青磁 碗	口小片	—	—	[3.5]	[11.7]		緑			IV類カ	
図41 962	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口・底 小片	—	—	—	[75]		灰緑			中II～III期カ	
図41 963	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口小片	—	—	[5.6]	[11.9]		灰緑			中II～III期カ	
図41 964	国産陶器	常滑 壺	底部片	—	8.2	[5.7]	[234.6]		暗褐				
図41 965	国産陶器	常滑 転用研磨具	壺片	5.0	3.8	2.2	[52]		褐				
図41 966	石製品	砥石	両端欠	[5.1]	2.1	1.3	30		黄灰			上野中砥 15c以降カ	
図41 967	鉄製品	鍔茎カ	完形	20.0	0.5	0.4	15						
図41 968	銅製品	鏡	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					開元通寶 唐621年 真書	
図41 969	銅製品	鏡	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 篆書	
図42 970	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.5	4.4	2.0	[53]	B	黄灰	ナデ	板状		
図42 971	在地土器	ロクロ かわらけ・小		ほぼ 完形	7.5	4.8	2.0	[51]	B	灰黄	ナデ	一	
図42 972	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	11.3	6.0	3.2	[127]	B	黄橙	ナデ	板状	C 口縁部僅付着	
図42 973	国産陶器	常滑 片口鉢	口～ 底片	—	—	[10.1]	[280]		明茶褐			II類 8～9型式	
図42 974	銅製品	鏡	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					政和通寶 北宋1111年 篆書	
図42 975	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.4	1.8	[58]	B	灰黄	ナデ	板状		
図42 976	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	5.2	2.0	[65]	B	灰黄	ナデ	板状		
図42 977	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	6.9	3.8	2.4	[38]	C+B	黄灰	ナデ	板状		
図42 978	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.6	5.6	1.8	[84]	C+B	黄橙	ナデ	板状		
図42 979	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	11.7	7.2	3.1	[143]	B	灰黄	ナデ	板状		
図42 980	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.9	8.8	3.6	[185]	B	灰黄	ナデ	板状		

() = 復元価 [] = 残存価

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 底面	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図42 981	国産陶器	常滑 壺	底4/5	—	(9.0)	[3.9]	[250]		緑			
図42 982	国産陶器	常滑? 片口鉢目皿?	口小片	—	—	[5.5]	[40]		灰緑			
図42 983	石製品	砥石	両端欠	[11.0]	3.5	0.9	[59.6]		灰白			陶魂土に砥 黒色系漆付着
図42 984	銅製品	釘廻しカ	完形	径 1.4	孔径 0.4	厚さ 0.4	1.0 未測					中心に小孔
図42 985	銅製品	鉄	完形	2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	0					景徳元寶 北宋1004年 真書
図42 986	銅製品	鉄	完形	2.6	孔径 0.7	厚さ 0.1	0					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図42 987	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.2	7.4	3.2	[135]	B	緑	ナゲ	板状	C' 蓋み大
図42 988	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.6	2.0	[50]	B	灰黄	ナゲ	—	
図42 989	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.9	7.8	3.6	175	B	黄灰	ナゲ	板状	
図42 990	在地土器	其實土器 火鉢	口小片	—	—	[9.1]	[660]		黄灰			I A類
図42 991	石製品	砥石	両端欠	[7.6]	[2.8]	1.1	[44]	B	淡黄			伊予中砥
図42 992	銅製品	鉄	完形	径 2.5	孔径 0.6	0.1	3					祥符元寶 北宋1009年 真書
図42 993	骨製品	筭	両端欠	[11.9]	1.6	0.3	[6]					
図43 994	在地土器	ロクロかわらけ 内折れ・極小	ほぼ 完形	3.9	3.5	0.6	[9]	C+E	黄緑	ナゲ	—	
図43 995	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2 ~底完	7.8	5.5	1.7	[47]	B	緑	ナゲ	板状	
図43 996	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	6.9	4.9	1.6	39	B	黄緑	ナゲ	板状	
図43 997	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	4.9	1.6	46	B	灰黄	ナゲ	板状	
図43 998	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	1.7	5.6	[56]	B	灰黄	ナゲ	板状	
図43 999	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2 ~底完	7.7	5.3	1.8	[43]	B	灰黄	ナゲ	板状	
図43 1000	在地土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	(7.5)	5.5	1.7	[50]	B	灰黄	ナゲ	板状	C 口縁部打ち欠き、煤付着
図43 1001	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口7/8 ~底完	7.8	5.6	1.7	[54]	B	灰黄	ナゲ	—	
図43 1002	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.0	1.6	[42]	B	黄緑	ナゲ	板状	
図43 1003	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4 ~底完	8.1	5.1	1.8	[57]	C+E	黄緑	ナゲ	板状	
図43 1004	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	5.0	1.8	[42]	C+B	灰黄	ナゲ	板状	
図43 1005	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	4.5	2.1	45	C+E	灰黄	ナゲ	板状	C
図43 1006	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/4 ~底完	7.1	4.6	2.2	[37]	C+B	黄緑	ナゲ	—	C
図43 1007	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.2	2.1	43	C	黄緑	ナゲ	板状	C 口縁部煤付着
図43 1008	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.1	6.0	1.9	[76]	B	灰黄	ナゲ	板状	C 口縁部煤付着
図43 1009	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	2.0	37	C	黄緑	ナゲ	板状	C 内面煤付着
図43 1010	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	6.6	4.5	1.9	[34]	C	灰黄	ナゲ	板状	C
図43 1011	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.2	1.9	34	C	黄緑	ナゲ	板状	C 外面1ヶ所ケズリ
図43 1012	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.2	1.8	60	B	灰黄	ナゲ	板状	
図43 1013	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.1	1.9	49	B	黄緑	ナゲ	板状	
図43 1014	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3 ~底完	6.8	4.2	2.1	[32]	C	緑	ナゲ	板状	C

() = 償元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 底痕	出土遺構・ 胎土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図43 1015	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.5	5.2	2.0	[36]	B	黄橙	ナデ	板状	
図43 1016	在地土器	ロクロ かわらけ・中	1/2	(9.8)	(6.0)	2.8	[47]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C
図43 1017	在地土器	ロクロ かわらけ・中	1/2強	(10.4)	(5.9)	2.9	[49]	C+B	黄灰	ナデ	板状	C 口縁部打ち欠き、煤付着
図43 1018	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	11.8	7.3	3.1	[141]	B	灰黄	ナデ	板状	
図43 1019	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	12.3	7.7	3.1	[168]	B	黄灰	ナデ	板状	
図43 1020	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.0	6.8	3.5	[168]	C	黄橙	ナデ	板状	ㄉ'
図43 1021	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.7	8.0	3.3	[151]	C	橙	ナデ	板状	ㄉ'
図43 1022	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	13.4	6.7	3.4	[137]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図43 1023	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	13.6	8.2	3.5	[168]	C	黄橙	ナデ	板状	
図43 1024	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口2/3 ～底完	13.2	8.0	3.8	[174]	C+B	橙	ナデ	板状	
図43 1025	国産陶器	瀬戸 入子	口1/4 ～底完	4.8	3.5	1.4	[19]		灰白			
図43 1026	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[7.5]	[395]		赤褐			II類 7～8型カ
図43 1027	国産陶器	常滑 転用研磨具	壺片	8.9	4.5	(1.5)	88		暗赤褐			
図44 1028	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	5.1	1.6	47	B	灰黄	ナデ	—	
図44 1029	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.7	4.0	1.6	26	C	灰	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図44 1030	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.2	1.8	[37]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図44 1031	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	4.6	1.7	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1032	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.8	52	B	黄灰	ナデ	—	
図44 1033	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	8.0	5.7	1.8	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1034	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	4.7	1.8	59	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1035	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.4	2.1	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1036	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.3	4.5	2.1	[38]	C+E	灰黄	ナデ	板状	C 内外面煤付着
図44 1037	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.0	2.1	[66]	B	灰黄	ナデ	板状	
図44 1038	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	6.7	4.4	2.2	[40]	C+B	灰黄	ナデ	板状	ㄉ'
図44 1039	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.4	4.2	2.3	[45]	C+E	黄橙	ナデ	板状	C
図44 1040	在地土器	ロクロ かわらけ・中	2/3	10.7	5.8	3.2	[92]	C+B	黄灰	ナデ	—	C
図44 1041	在地土器	ロクロ かわらけ・中	4/5	10.6	5.5	3.3	[109]	C+E	灰黄	ナデ	—	ㄉ' 口縁部煤付着
図44 1042	在地土器	ロクロ かわらけ・中	5/6	11.5	5.9	3.2	[111]	C+B	灰黄	ナデ	—	C
図44 1043	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	7.5	3.1	[162]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C やや薄手の器壁
図44 1044	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.4	7.2	3.5	[169]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図44 1045	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	13.3	7.0	3.5	[172]	C+E	黄灰	ナデ	板状	C
図44 1046	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.9	8.2	3.6	[162]	B	黄橙	ナデ	板状	
図44 1047	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	13.1	7.4	3.6	181	C+E	黄灰	ナデ	板状	C 口縁部煤付着
図44 1048	在地土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.1	7.0	3.9	[181]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 正値	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図44 1049	国産陶器	常滑 片口鉢	小片	—	—	[9.4]	[214]		明茶褐色			Ⅱ類 7~8型式
図44 1050	国産陶器	常滑 転用研磨具	片口Ⅱ片	8.2	7.1	0.1	86		明茶褐色			
図44 1051	国産陶器	常滑 転用研磨具	片口Ⅱ片	6.0	5.6	0.9	42		茶褐色			
図44 1052	国産陶器	常滑 転用研磨具	疊片	5.0	3.2	1.1	24		茶褐色			
図44 1053	国産陶器	常滑 転用研磨具	疊片	9.3	9.3	1.3	123		褐色			
図44 1054	石製品	磨り石	完形	9.9	8.2	4.5	291		赤褐色			片面のみ使用
図44 1055	銅製品	鏡	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.2	3					鏡種不明
図44 1056	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.8	4.8	1.7	[42]	B	灰黄	ナゾ	板状	
図44 1057	骨製品	筭	両端欠	(11.2)	(1.7)	(0.3)	[9]					破損後に二次的焼熱あり
図45 1058	国産陶器	常滑 広口壺	口1/4~ 肩部	(19.3)	—	[17.5]	[1068]		褐色			
図45 1059	石製品	砥石	一端欠	[8.9]	3.6	1.3	[92]		灰			頁岩 出羽砥仕上紙 2面使用
図45 1060	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	6.0	1.7	[57]	B	黄灰	ナゾ	板状	
図45 1061	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.0	1.6	49	B	黄灰	ナゾ	板状	
図45 1062	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2強	7.8	5.8	1.7	[34]	B	黄灰	ナゾ	板状	
図45 1063	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.4	2.2	44	C	黄	ナゾ	板状	c'
図45 1064	国産陶器	瀬戸 入子	1/2	(9.8)	(5.0)	3.8	[69]		黄灰			
図45 1065	国産陶器	常滑 壺	肩部片	—	—	[3.6]	[46]		黒褐色			
図45 1066	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.6	8.6	3.2	[182]	B	黄	ナゾ	板状	内面備付着
図45 1067	銅製品	鏡	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図46 1068	在地土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	(7.2)	(4.2)	2.1	[22]	C	黄灰	ナゾ	板状	C
図46 1069	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3 ~底欠	7.5	5.0	2.0	[37]	C+E	黄褐色	ナゾ	板状	c' 口縁部備付着
図46 1070	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	4.2	2.1	42	C	黄褐色	ナゾ	板状	C 口縁部備付着
図46 1071	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.4	1.6	50	B	灰黄	ナゾ	板状	口縁部備付着
図46 1072	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.6	1.4	[46]	B	灰黄	ナゾ	板状	
図46 1073	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.6	1.6	48	B	黄灰	ナゾ	板状	
図46 1074	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2 ~底欠	7.4	5.2	1.6	[44]	B	灰黄	ナゾ	板状	
図46 1075	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口5/6 ~底欠	7.5	6.2	1.9	[60]	B	黄褐色	ナゾ	板状	
図46 1076	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口7/8 ~底欠	7.7	6.0	1.7	[43]	B	黄	ナゾ	板状	
図46 1077	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.4	1.9	70	B	灰黄	ナゾ	板状	口縁部備付着
図46 1078	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/8 ~底欠	7.8	5.1	1.7	[52]	B	黄灰	ナゾ	板状	
図46 1079	在地土器	手づくね かわらけ・小	完形	8.7	—	1.5	63	D	黄灰	ナゾ	ケズリ	底部外面ケズリ
図46 1080	在地土器	ロクロ かわらけ・中	3/4	10.8	6.5	3.2	[101]	C+E	黄褐色	ナゾ	板状	C 口縁部備付着
図46 1081	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口2/3 ~底欠	12.0	7.1	3.4	[170]	B	黄褐色	ナゾ	板状	
図46 1082	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.2	7.6	3.5	[190]	B	黄灰	ナゾ	板状	

() = 復元価 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 正底	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図46 1083	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ~底完	13.3	9.2	3.4	[231]	B	黄橙	ナデ	一	
図46 1084	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ~底完	12.7	8.3	3.4	[199]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図46 1085	在地土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	13.8	7.5	3.6	[142]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図46 1086	土製品	ロクロかわらけ 転用有孔円盤	完形	直径 5.8	孔径 0.6	厚さ 0.7	24		黄灰			紡錘車か
図46 1087	土製品	かわらけ転用 円盤	一部欠	(3.0)	3.2	0.8	[8]		黄橙			一面研磨
図46 1088	国産陶器	常津 片口鉢	底5/6~ 胴脚	—	12.8	[8.4]	[764]		灰			I類~II類の過渡期 内面二次的被熱か
図46 1089	在地土器	瓦質土器 火鉢	1/6	(35.0)	(23.7)	8.8			灰橙			II類Cか
図46 1090	石製品	磁石	両端欠	[10.8]	3.5	1.8	[107]		灰白			鴨尾土紙 1面使用
図46 1091	銅製品	鏡	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					至和通寶 北宋1054年 真書
図46 1092	貝製品	ハマグリ殻 鎌バレット	一部欠	5.5	[5.0]	1.8	[7]					内面に黒色系漆
図47 1093	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.9	1.6	[40]	C	黄橙	ナデ	板状	C
図47 1094	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2 ~底完	7.2	5.1	1.8	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	歪み大
図47 1095	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.8	55	B	黄灰	ナデ	板状	
図47 1096	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	5.6	1.7	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1097	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	4.9	1.9	[50]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図47 1098	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.3	5.5	1.6	[37]	B	黄灰	ナデ	板状	
図47 1099	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.0	1.8	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1100	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.7	6.1	1.7	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1101	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.7	1.7	57	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1102	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.7	1.9	[65]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1103	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3 ~底完	7.6	6.0	1.6	[47]	B	黄橙	ナデ	板状	
図47 1104	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.5	1.7	55	B	黄橙	ナデ	板状	
図47 1105	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4 ~底完	7.7	5.3	1.8	[43]	C	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図47 1106	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4 ~底完	7.7	6.0	1.7	[48]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1107	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.6	1.6	69	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1108	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	5.1	1.7	[37]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1109	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	6.2	1.8	58	B	黄橙	ナデ	板状	
図47 1110	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.9	6.2	1.8	[53]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1111	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	6.1	1.9	[72]	B	灰黄	ナデ	板状	
図47 1112	在地土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.4	5.8	2.8	88	C	黄橙	ナデ	板状	
図47 1113	在地土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.8	6.0	3.2	[108]	C+B	黄橙	ナデ	板状	C
図47 1114	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.3	8.1	3.1	[142]	B	黄橙	ナデ	板状	C
図47 1115	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/2 ~底完	12.1	7.1	3.5	[153]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図47 1116	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.8	7.9	3.4	[186]	B	黄橙	ナデ	板状	

() = 復元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図47 1117	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4 ～底完	12.7	8.2	3.3	[160]	B	緑	ナデ	板状	
図47 1118	土製品	白土器 高弁	坏底～ 脚基部	—	—	[2.6]	[38]		乳白			灯明台カ
図47 1119	瓦	製斗瓦	小片	[9.5]	[8.7]	1.3	[126]		黒灰			
図47 1120	石製品	砥石	両端欠	[4.6]	3.8	0.8	[29.6]		灰白			鴨居仕上紙 2面使用
図47 1121	鉄製品	釘	完形	11.0	0.4	0.2	5					
図47 1122	鉄製品	釘	上部欠	[6.8]	0.5	0.4	3					
図47 1123	銅製品	用途不明	完形	5.9	3.4	0.1	4					
図47 1124	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					明元通寶 唐621年 真書
図47 1125	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	5					天順元寶 北宋 1023年 真書
図47 1126	銅製品	銭	完形	径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元寶通寶 北宋1078年 行書
図47 1127	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図47 1128	銅製品	銭	完形	径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	4					元祐通寶 北宋1093年 篆書
図48 1129	在地土器	ロクロ かわらけ・極小	1/4	(4.1)	(3.5)	1.0	5	C+B	緑	ナデ	板状	
図48 1130	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	4.2	1.9	[35]	C	灰黄	ナデ	—	C
図48 1131	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	6.9	4.9	1.8	53	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1132	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.5	1.9	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図48 1133	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.3	1.7	[58]	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1134	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.2	1.8	43	B	灰黄	ナデ	板状	
図48 1135	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.0	1.7	41	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図48 1136	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.6	1.7	63	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1137	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.7	1.9	[62]	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1138	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	4.6	1.9	55	B	黄橙	ナデ	板状	
図48 1139	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.3	1.8	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図48 1140	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.6	1.7	[61]	B	灰黄	ナデ	板状	
図48 1141	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4 ～底完	8.2	5.7	1.8	[63]	B	黄灰	ナデ	板状	
図48 1142	舶載磁器	高麗青磁 壺カ	胴部片	—	—	[3.4]	[6]		水色 透明			
図48 1143	国産陶器	瀬戸 入子	底片	—	3.0	[0.8]	[10]		灰			
図48 1144	国産陶器	瀬戸 御皿	口片	—	—	[3.2]	[8]		灰緑			前田期カ
図48 1145	石製品	磨石カ	完形	5.1	4.6	1.8	65					全体研磨に使用カ
図48 1146	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図48 1147	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3					元祐通寶 北宋1093年 篆書
図48 1148	銅製品	銭	完形	径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3					銭種不明 背二
図48 1149	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.3	3.4	160	B	黄橙	ナデ	板状	
図48 1150	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.5	1.7	[51]	B	黄灰	ナデ	板状	

() = 復元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図48 1151	鉄製品	水注 <small>カ</small>	□1/2	(4.5)	—	[2.9]	[51]					
図48 1152	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.0	8.2	[3.5]	[224]	B	黄緑	ナデ	板状	
図48 1153	国産陶器	瀬戸 割 <small>カ</small>	1/4	(13.3)	(10.4)	3.0	[104]		灰緑			
図48 1154	瓦	平瓦 転用研磨具 <small>カ</small>	完形	5.5	4.6	0.8	19		灰			1面使用 凹面布目痕
図48 1155	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	4.8	1.6	[39]	B	灰黄	ナデ	—	口縁部煤付着
図48 1156	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.2	8.3	3.6	[179]	C+E	緑	ナデ	板状	ヅ
図48 1157	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.4	8.7	3.4	[201]	C+E	黄緑	ナデ	板状	ヅ
図48 1158	在地土器	高坪 <small>カ</small>	脚片 <small>カ</small>	脚径 (5.4)	孔径 (1.5)	残存高 [7.2]	[104]		黄灰			
図48 1159	鉄製品	釘	上部欠	[4.0]	0.3	0.4	1					
図49 1160	在地土器	ロクロ かわらけ・極小	4/5	(4.5)	(3.6)	1.9	[9]	B	黄緑	ナデ	板状	
図49 1161	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.5	1.9	[50]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図49 1162	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.4	1.7	48	C+B	灰緑	ナデ	板状	内外面煤付着
図49 1163	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.1	1.9	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	
図49 1164	在地土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.8	1.8	[54]	B	灰緑	ナデ	板状	内外面煤付着
図49 1165	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.0	1.8	52		灰黄	ナデ	板状	
図49 1166	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	6.0	1.9	[63]	B	灰黄	ナデ	板状	内外面一部黒変
図49 1167	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	11.8	8.0	3.1	[175]	B	緑	ナデ	—	
図49 1168	国産陶器	瀬戸 入子	4/5	3.9	2.4	1.1	[10]		灰緑			
図49 1169	国産陶器	常滑 転用研磨具	広口巻片	9.6	9.1	1.9	[208]		緑			
図49 1170	在地土器	瓦質土器 火鉢	一部欠	35.2	32.0	15.0			暗灰			皿型
図49 1171	石製品	硯	—	[6.0]	[4.9]	1.8	[82.6]		暗茶褐			赤間ヶ間 4×2.5寸の方硯を 二次加工 <small>カ</small>
図49 1172	石製品	砥石	一端欠	[4.8]	3.7	0.5	[15.3]		灰白			鳴滝式上紙
図49 1173	鉄製品	釘	完形	9.5	0.4	0.7	9					
図49 1174	銅製品	鏡	完形	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.2	4					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図49 1175	銅製品	鏡	1/2	径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.2	2					紹聖元寶 北宋1094年 真書
図49 1176	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.3	5.0	2.0	[36]	B	灰	ナデ	板状	
図49 1177	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.8	8.6	3.1	[163]	B	緑	ナデ	板状	
図49 1178	石製品	砥石	両端欠	(6.5)	3.3	1.5	[60.3]		灰白			鳴滝典製上紙
図49 1179	石製品	砥石	一端欠	[6.3]	3.4	0.6	[20.7]		灰白			鳴滝典製上紙
図49 1180	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.1	1.6	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部煤付着
図49 1181	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[5.0]	[67]		灰			皿型 6a型式 <small>カ</small>
図49 1182	土製品	陶型 <small>カ</small>	小片	[5.0]	[5.2]	2.3	[38]		緑			片面に離れ砂付着 片面は黒変
図49 1183	在地土器	ロクロ かわらけ・大	5/6	12.4	8.8	3.4	[174]	B	灰緑	ナデ	板状	
図49 1184	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	5.6	1.8	[44]	B	緑	ナデ	板状	

() = 復元価 [] = 残存価

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 胎土層かの特微
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図49 1185	在泥土器	ロタロ かわらけ・大	2/3	12.5	6.8	3.6						
図49 1186	在泥土器	平づくね かわらけ・小	口小片	—	—	[1.8]	[10.4]	黄白				
図49 1187	鉄製品	釘	完形	6.8	0.4	0.3	3					
図50 1188	木製品	漆器 皿	1/2	(9.0)	(6.0)	1.1						
図50 1189	木製品	漆器 椀	1/3	—	8.0	[4.1]						内外面に波・縹文(器面の意匠は秋草か)を手描き 高台内「十三」の線刻
図50 1190	木製品	漆器 椀	1/2	—	7.0	[2.9]						内外面に松+不明文を手描き 内外面一部炭化
図50 1191	木製品	漆器 皿	1/5	(9.0)	(7.0)	0.9						底部内面に千鳥文を手描き
図50 1192	木製品	漆器 合子身	1/2	(11.0)	(11.8)	2.2						無文
図50 1193	木製品	漆器 合子身	1/2	11.2	(12.0)	2.2						無文
図50 1194	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	10.1	7.0	1.4						内面に葛文を手描き
図50 1195	木製品	漆器 椀	4/5	(12.0)	6.7	3.5						内外面に情景文を手描き 横+松+縹文、波文+縹文
図50 1196	木製品	漆器 椀	2/3	(14.1)	(7.5)	[4.9]						外面に波文を手描き
図50 1197	木製品	漆器 椀	ほぼ 完形	(14.6)	8.0	5.8						内外面に葉文様の手描き
図50 1198	木製品	漆器 椀	1/3	(15.2)	(7.9)	5.0						外面に柏文を手描き
図50 1199	木製品	漆器 小片	小片	[4.9]	[4.6]	[0.4]						内外面に葉文様の手描き
図50 1200	木製品	合子蓋か	1/5	(14.3)	—	[1.7]						無文
図50 1201	木製品	漆器 椀	底片	—	(8.0)	[2.9]						内面情景文(縹文+薄文+土境+波文)、外面情景文(縹文+薄文)を手描き
図50 1202	木製品	漆器 椀	2/3	(14.4)	7.0	4.7						内外面龍目文+瓜文を手描き
図50 1203	木製品	漆器 皿	底片	—	4.9	[0.6]						内外面に葉文様の手描き
図50 1204	木製品	漆器 皿	底片	—	6.0	[0.8]						内面すずき文を手描き
図50 1205	木製品	漆器 皿	3/4	9.9	6.8	1.4						内面赤色漆地に対蝶文・蝶文を手描き 外面黒漆地に波文・縹文 器面は 塵・月・花文・縹文など
図50 1206	木製品	漆器 皿	4/5	9.9	6.8	1.5						内外面に竹文を手描き
図51 1207	木製品	漆器 椀	3/4	[12.3]	5.8	3.7						無文
図51 1208	木製品	漆器 椀か	底片	—	(6.0)	[1.5]						内外面情景文(波+土境)を手描き
図51 1209	木製品	漆器 皿	1/8	—	(6.0)	[1.1]						無文
図51 1210	木製品	漆器 椀	1/3	—	(7.4)	[6.5]						外面黒花文+垣文(龍目か)を手描き
図51 1211	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	10.2	7.9	1.5						内面に波文・縹文(器面中央) 外面に波文
図51 1212	木製品	漆器 皿	1/4	(8.8)	(6.6)	0.6						内面に龍+花卉文のスタンプ
図51 1213	木製品	漆器 皿	4/5	9.2	7.3	1.0						無文
図51 1214	木製品	漆器 皿	4/5	—	6.5	[0.8]						無文
図51 1215	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	8.8	7.0	1.0						内面「一」を手描き
図51 1216	木製品	漆器 皿	4/5	—	(6.4)	[1.4]						内外面に四花卉文のスタンプ
図51 1217	木製品	漆器 皿	1/3	(9.0)	(6.0)	1.6						内面情景文(縹文+千鳥文)を手描き
図51 1218	木製品	漆器 椀	4/5	(14.0)	7.7	5.7						内外面に双葉文を手描き

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図51 1219	木製品	漆器 皿	2/3	(9.3)	(6.6)	1.5						内外面に仮文を手描き
図51 1220	木製品	漆器 皿	2/3	(9.2)	(6.6)	1.3						内外面に仮文を手描き
図51 1221	木製品	漆器 皿のみ	底片	—	—	[0.5]						内面に仮文・仮文を手描き
図51 1222	木製品	漆器 椀	4/5	—	[5.8~ 6.0]	[3.6]						内外面に仮文のスタンプ
図51 1223	木製品	漆器 椀	4/5	—	(6.4)	[3.8]						内外面に情景文(桐文+仮文+土埃)を手描き
図51 1224	木製品	漆器 椀	1/4	(15.3)	(7.5)	5.4						内外面に菊花文+菊葉文を手描き
図52 1225	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	9.2	7.5	1.2						内面に亀甲花文?を手描き
図52 1226	木製品	漆器 皿	4/5	10.0	7.5	1.4						内面に情景文(仮文+松文+土埃+仮文)を手描き
図52 1227	木製品	漆器 皿	2/3	(9.5)	(6.7)	1.5						内面に情景文(仮文+松文+土埃+仮文)を手描き
図52 1228	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	8.8	7.5	0.9						無文
図52 1229	木製品	漆器 椀	1/2	—	(6.2)	[3.2]						内外面赤色漆と黒or紺で情景文(仮文+梅文+仮文+片輪草文+繪文+龍目 文)を手描き
図52 1230	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	(8.8)	(6.0)	1.2						内面に情景文(桐文+厚文+仮文+土埃)を手描き
図52 1231	木製品	漆器 皿	4/5	8.6	6.1	1.5						内面に 情景文(仮文+仮文)を手描き
図52 1232	木製品	漆器 皿	4/5	9.0	6.5	1.1						内面に手描き龍文 平行線で三分割後、龍目文を仮文で挟む
図52 1233	木製品	漆器 皿	2/3	(8.3)	6.8	1.1						内面に葉文様の手描き文
図52 1234	木製品	漆器 皿	1/3	(9.0)	(8.0)	1.0						内面に意匠不明の手描き文
図52 1235	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	9.8	7.0	1.1						内面に龍目+龍子文のスタンプ
図52 1236	木製品	漆器 皿	(9.8)	7.0	1.3							底部内面に19弁の菊花文+葉文、外面に葉文を手描き
図52 1237	木製品	漆器 皿	4/5	9.3	6.6	1.2						底部内面と底部外面に仮文を手描き
図52 1238	木製品	漆器 皿	2/3	—	6.4	[1.2]						内面を平行線で三分割後、中央に仮文を手描き
図52 1239	木製品	漆器 皿	1/3	(8.6)	6.4	1.0						無文
図52 1240	木製品	漆器 皿	1/2	(9.2)	6.2	0.9						無文
図52 1241	木製品	漆器 皿	1/2	(10.0)	6.8	1.2						外面に葉文を手描き
図52 1242	木製品	漆器 椀	1/2	—	7.0	[4.0]						外面に仮文を手描き手描き
図52 1243	木製品	漆器 椀	1/2	(12.4)	7.5	3.4						無文
図52 1244	木製品	漆器 椀	1/3	(11.5)	(7.0)	(3.7)						無文
図52 1245	木製品	漆器 皿	1/3	—	6.8	[1.1]						内面に桐文を手描き
図52 1246	木製品	漆器 椀	完形	12.9	7.5	4.7						無文
図52 1247	木製品	漆器 椀	1/3	(14.9)	(6.8)	5.1						無文
図52 1248	木製品	漆器 椀	4/5	12.6	6.4	3.7						底部内面と底部外面3ヶ所に手描き龍文 四角・抽象化した杉文を三方に配した意匠
図52 1249	木製品	漆器 椀	2/3	(13.5)	7.0	4.2						内外面に平行線+龍文を手描き
図52 1250	木製品	漆器 椀	3/4	(14.3)	(7.4)	[5.2]						内外面に手描き龍文 内面は文様不明 外面は土埃+草文(沢島文)を
図53 1251	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	8.7	7.2	1.1						無文
図53 1252	木製品	漆器 皿	3/4	(8.9)	(6.2)	1.4						無文

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特微
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図53 1253	木製品	漆器 皿	完形	8.8	6.4	1.4						無文
図53 1254	木製品	漆器 皿	1/4	(8.8)	(6.0)	1.3						無文
図53 1255	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	8.6	6.8	1.2						無文
図53 1256	木製品	漆器 皿	1/4	(7.8)	(6.0)	1.0						内面に縦文を手描き
図53 1257	木製品	漆器 皿	2/3	(8.6)	6.4	1.0						内面に縦文を手描き
図53 1258	木製品	漆器 皿	ほぼ 完形	(8.9)	7.0	1.0						内面に爪文を手描き
図53 1259	木製品	漆器 皿	4/5	(9.8)	6.8	1.2						内面に意匠不明の手描き文様
図53 1260	木製品	漆器 輪	1/3	—	(8.4)	[5.6]						内外面に情景文(片輪車+薄文+紋文+花文+縦文)を手描き
図53 1261	木製品	漆器 皿	1/6	—	—	—						内面に縦目文+紋文を手描き
図53 1262	木製品	漆塗り 横櫛	1/2	[6.0]	3.8	0.9						黒色系漆塗漆 横き櫛
図53 1263	木製品	漆塗り 横櫛	1/2	[6.1]	[4.3]	0.9						黒色系漆塗漆 横き櫛
図53 1264	木製品	獅子頭	完形	25.5	4.7	1.1						形代か。表面は顔面を、裏面は上顎をかたどる
図53 1265	木製品	円板	ほぼ 完形	22.3	22.3	0.9						曲物底板か。正円形で片面赤色漆を塗漆。小孔2ヶ所
図53 1266	骨製品	筭	一端欠	[17.8]	1.5	0.3						片面に波文+渦巻き文+千鳥文+花文を鋭角 鋭角部に黒色系漆を埋めて文様を際立たせる
図53 1267	木製品	漆塗り 横櫛	1/2	[5.6]	[3.6]	0.9						黒色系漆塗漆 横き櫛
図53 1268	木製品	漆塗り 横櫛	1/2	[5.5]	[3.6]	0.9						黒色系漆塗漆 粗歯
図53 1269	植物製品	ブラン状	完形か	—	直径3.7	11.0						植物の茎葉を乾燥で束ねる
図53 1270	骨製品	飾り具	完形か	8.9	1.0	0.1						片面に鳥文+波文を鋭角 両端面と裏面に黒色系漆付着
図53 1271	木製品	漆塗り 横櫛	—	[2.2]	[3.6]	[2.0]						黒色系漆塗漆 荒歯の2片が咬み合った状態で出土
図54 1272	木製品	棒状	完形	20.3	0.8	0.8						
図54 1273	木製品	円板	2/3	[18.3]	[8.3]	0.5						曲物底板か
図54 1274	木製品	用途不明	3/4	[3.3]	[2.6]	0.9						小孔2ヶ所、裏面に浅い割り込み
図54 1275	木製品	有孔円板	ほぼ 完形	6.7	6.4	1.0						中央に穿孔
図54 1276	木製品	端材	完形	6.0	4.3	1.9						端部を仕口状に整形
図54 1277	木製品	箸	完形	17.5	0.7	0.5						
図54 1278	木製品	草履芯	1/2	24.0	[4.8]	0.4						表面に藁状圧痕
図54 1279	木製品	草履芯	1/2	23.7	[5.0]	0.3						製作途中か
図54 1280	木製品	容器	1/4	(7.0)	—	5.9						最大径(9.0)cm ヒョウタン果皮の加工品か
図54 1281	木製品	用途不明 架架か	両端欠	[9.3]	1.4	0.8						
図54 1282	木製品	箸か	完形	10.5	0.8	0.4						
図54 1283	木製品	箸	完形	18.7	0.8	0.6						
図54 1284	木製品	箸	完形	21.3	0.7	0.5						
図54 1285	木製品	円板	完形	8.5	8.5	0.7						銅線三方に1.5mm径の小孔 1ヶ所に木釘が遺存 曲物底板か
図54 1286	木製品	円板	完形	8.0	8.1	0.8						銅線三方に1.5mm径の小孔 1ヶ所に木釘が遺存 曲物底板か

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図54 1287	木製品	円板	完形	3.1	2.9	0.2						
図54 1288	木製品	輪軸部	1/2	5.6	3.2	3.2						差し込み孔あり
図54 1289	木製品	刀子鞘	ほぼ 完形	[13.5]	2.3	0.4						鞘部分 端部近く側縁に抉り2ヶ所
図54 1290	木製品	用途不明	完形	8.9	1.4	0.9						両端整形
図54 1291	木製品	草履芯	5/6	[24.3]	10.1	0.3						
図55 1292	木製品	箸	完形	17.2	0.8	0.6						
図55 1293	木製品	箸	完形	17.5	5.5	0.5						
図55 1294	木製品	箸	完形	19.2	0.7	0.4						一端端削化
図55 1295	木製品	箸	完形	19.2	0.9	0.7						
図55 1296	木製品	箸	完形	19.3	0.7	0.4						
図55 1297	木製品	箸	完形	20.0	0.7	0.5						
図55 1298	木製品	箸	完形	19.6	0.7	0.7						
図55 1299	木製品	箸	完形	19.2	0.6	0.5						
図55 1300	木製品	箸	完形	20.2	0.5	0.4						
図55 1301	木製品	箸	完形	22.0	0.7	0.5						
図55 1302	木製品	箸	完形	23.5	0.7	0.3						
図55 1303	木製品	串状	完形	14.3	0.8	0.5						
図55 1304	木製品	漆塗り 膳脚	完形	9.6	3.3	2.2						黒色系漆保護
図55 1305	木製品	草履芯	ほぼ 完形	23.7	9.9	0.3						後端は直線的り 藁状圧痕
図55 1306	木製品	部材	一端欠	[18.4]	[3.0]	0.5						端部に貫通孔、木釘遺存 表面の一部に黒色の付着物有り
図55 1307	木製品	用途不明	完形	8.4	1.7	2.0						両端を仕口状に整形
図55 1308	木製品	円板	ほぼ 完形	直径 12.5	—	0.5						
図56 1309	木製品	箸	完形	19.9	0.6	0.3						
図56 1310	木製品	箸	完形	20.1	0.6	0.4						
図56 1311	木製品	用途不明	完形	15.6	[2.0]	0.7						
図56 1312	木製品	蓋か	1/2	径 (15.5)	—	1.0						炭化 3ヶ所に小孔、うち2穴に木釘遺存(把手との結合部か)
図56 1313	木製品	箸	完形	19.0	0.7	0.5						
図56 1314	木製品	箸	完形	20.8	0.8	0.5						
図56 1315	木製品	箸	完形	21.8	0.8	0.5						
図56 1316	木製品	曲物	1/3 程	(21.6)	—	1.5						底板か 側縁に木釘遺存
図56 1317	木製品	草履芯	1/2	23.5	[4.9]	0.3						藁状圧痕が遺存
図56 1318	木製品	曲物か	小片	[9.3]	[2.3]	0.2						側板か 板皮の閉じ紐が遺存
図56 1319	木製品	用途不明	不明	[11.2]	[10.3]	0.4						片面に鋭利
図56 1320	木製品	栓か	完形	3.9	1.6	1.5						

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図57 1321	木製品	箸	完形	19.8	0.7	0.4						
図57 1322	木製品	箸	完形	20.6	0.6	0.5						
図57 1323	木製品	箸	完形	21.6	0.8	0.4						
図57 1324	木製品	箸	完形	21.8	0.6	0.4						
図57 1325	木製品	箸	完形	23.3	0.8	0.5						
図57 1326	木製品	串状	完形	25.5	1.0	0.7						片端部鋭角に整形
図57 1327	木製品	漆塗り 膳脚	完形	9.5	3.1	2.0						黒色系漆喰漆
図57 1328	木製品	串状	一端欠	[17.2]	1.0	0.8						先端部鋭角に整形 炭化
図57 1329	木製品	匙状	ほぼ 完形	[23.1]	1.2	0.7						先端部鋭角に整形 炭化
図57 1330	木製品	紡錘車	1/2	径(8.2)	—	1.0						中央に小孔 断面台形
図57 1331	木製品	用途不明	完形	[5.0]	1.6	0.7						中央に横皮の紐が遺存
図57 1332	木製品	栓 ^カ	完形	2.7	1.8	1.1						
図57 1333	木製品	箸	完形	16.2	0.4	0.2						片側先端部のみ整形 断面方形
図57 1334	木製品	箸	完形	19.5	0.8	0.6						
図57 1335	木製品	漆塗り 調度具	完形	5.5	2.6	0.9						雲形装飾部 黒色系漆喰漆
図57 1336	木製品	草履芯	4/5	23.7	[8.1]	0.3						
図57 1337	木製品	用途不明	完形 ^カ	10.6	4.0	0.7						調度具 ^カ 側面2ヶ所に台形状の抉り有り
図58 1338	木製品	箸	完形	19.8	0.7	0.5						
図58 1339	木製品	箸	完形	22.8	0.7	0.6						
図58 1340	木製品	草履芯	3/4	23.5	[9.2]	0.3						蕨状圧痕遺存
図58 1341	木製品	草履芯	1/2	23.9	5.2	0.3						蕨状圧痕遺存
図58 1342	木製品	用途不明	一端欠	[13.7]	2.5	2.5						抉り2ヶ所
図58 1343	木製品	格子子	両端欠	[16.0]	2.1	1.6						
図58 1344	木製品	用途不明	完形 ^カ	19.9	3.9	0.7						円板状製品 ^カ 斜めの小孔1ヶ所 表面に刀物痕
図58 1345	木製品	用途不明	ほぼ 完形	8.9	0.8	0.9						両端部を切り込み小孔を穿つ うち、片側の小孔に木釘遺存
図58 1346	木製品	箸	完形	22.2	0.8	0.4						
図58 1347	木製品	箸	完形	20.2	0.7	0.5						
図58 1348	木製品	通書下駄	3/5	[16.0]	10.0	1.8						柄縁部分欠
図58 1349	木製品	飾り板 ^カ	完形	34.6	7.6	0.6						表面両側に手組きの罫目文を対配す 黒色系漆の細線で縁取り、内区を赤色漆で埋める 罫目文を繋ぐ形で雲形レリーフ
図59 1350	木製品	箸	完形	19.3	0.6	0.5						
図59 1351	木製品	箸	完形	21.0	0.7	0.5						
図59 1352	木製品	箸	完形	21.2	0.7	0.4						
図59 1353	木製品	箸	完形	23.2	0.7	0.6						
図59 1354	木製品	箸	完形	25.0	0.8	0.4						

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口徑・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図59 1355	木製品	箸	完形	25.2	0.5	0.5						
図59 1356	木製品	板折敷	1/4	24.3	[5.1]	0.3						柄切り 小孔1ヶ所
図59 1357	木製品	曲物	完形	(8.0)	8.1	3.9						底板径7.6cm 側板は二重で板皮で綴じる 木釘2ヶ所の木釘で補強
図59 1358	木製品	箸	完形	20.3	0.6	0.5						
図59 1359	木製品	箸	完形	21.2	0.8	0.3						
図59 1360	木製品	箸	完形	22.9	0.7	0.5						
図59 1361	木製品	箸	完形	23.5	1.2	0.4						
図59 1362	木製品	箸	完形	24.4	0.8	0.5						
図59 1363	木製品	箸	完形	26.0	0.7	0.4						
図59 1364	木製品	串状	一端欠	[23.5]	1.1	0.8						
図59 1365	木製品	栓	完形	13.7	1.8	1.5						
図59 1366	木製品	串状	完形	14.0	1.5	1.4						
図59 1367	木製品	形代 刀形	完形	22.0	2.3	1.2						小刀の刃部と柄をかたどる
図60 1368	木製品	草履芯	1/2	23.6	5.1	0.4						表面に蕨状圧痕遺存
図60 1369	木製品	草履芯	1/2	22.3	5.0	0.4						表面に蕨状圧痕遺存
図60 1370	木製品	草履芯	完形	17.0	8.3	0.4						
図60 1371	木製品	草履芯	1/2	14.9	3.5	0.4						
図60 1372	木製品	箸	完形	20.0	0.5	0.4						
図60 1373	木製品	箸	完形	20.0	0.8	0.6						
図60 1374	木製品	箸	完形	21.9	0.5	0.5						
図60 1375	木製品	箸	完形	24.3	0.9	0.4						
図60 1376	木製品	草履芯	完形	24.2	10.3	0.5						表面に蕨状圧痕遺存
図60 1377	木製品	草履芯	1/2	24.0	[5.3]	0.5						表面に蕨状圧痕遺存
図61 1378	木製品	箸	完形	18.7	0.5	0.4						
図61 1379	木製品	箸	完形	20.0	0.6	0.5						
図61 1380	木製品	箸	完形	20.4	0.8	0.3						
図61 1381	木製品	箸	完形	22.0	0.7	0.5						
図61 1382	木製品	箸	完形	23.5	0.7	0.5						
図61 1383	木製品	箸	完形	25.3	0.6	0.4						
図61 1384	木製品	用途不明	完形	14.7	0.9	0.6						一端部鉤状に變形
図61 1385	木製品	鉤状	一端欠	[12.5]	1.3	0.7						
図61 1386	木製品	用途不明	不明	9.7	2.7	0.7						両端に木釘遺存
図61 1387	木製品	草履芯	完形	23.7	10.1	0.3						表面に蕨状圧痕遺存
図61 1388	木製品	草履芯	1/2	24.1	[5.5]	0.3						表面に蕨状圧痕遺存

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図61 1389	木製品	草履芯	1/2	24.4	[5.1]	0.5						表面に葉状圧痕遺存
図61 1390	木製品	草履芯	1/2	24.0	[5.3]	0.3						
図61 1391	木製品	草履芯	1/2	23.6	[5.0]	0.3						表面に葉状圧痕遺存
図61 1392	木製品	草履芯	1/2	23.2	5.6	0.3						表面に葉状圧痕遺存
図61 1393	木製品	草履芯	1/2	16.7	[4.1]	0.3						子供用
図61 1394	木製品	箸	完形	17.8	0.8	0.5						
図61 1395	木製品	箸	完形	20.0	0.8	0.7						
図62 1396	木製品	箸	完形	17.8	0.7	0.3						
図62 1397	木製品	箸	完形	22.0	0.7	0.5						
図62 1398	木製品	栓か	ほぼ 完形	3.2	[2.2]	3.4						
図62 1399	木製品	とんぼか	1/5	[11.3]	3.0	0.4						製作途中か 中央に貫通孔をあけ、両側縁れりを入れる
図62 1400	木製品	連歯下駄か	1/2	[22.2]	9.5	1.4						歯欠失 表面中央部が凹化している
図62 1401	木製品	箸	完形	14.9	0.7	0.3						
図62 1402	木製品	箸	完形	19.4	1.0	0.4						端部凹化
図62 1403	木製品	箸	完形	19.4	0.6	0.5						
図62 1404	木製品	箸	完形	20.4	0.7	0.5						端部に黒色の付着物
図62 1405	木製品	箸	完形	21.0	0.6	0.4						
図62 1406	木製品	箸か	完形	21.6	0.8	0.6						串状 片側端部のみ鋭角に削り出す
図62 1407	木製品	箸	完形	22.4	0.8	0.5						
図62 1408	木製品	箸	完形	25.2	0.7	0.4						
図62 1409	木製品	連歯下駄	ほぼ 完形	22.0	9.0	1.6						表面前縁の両端に指圧痕
図62 1410	木製品	草履芯	1/2	23.3	5.5	0.3						
図63 1411	木製品	箸	完形	16.8	0.7	0.4						
図63 1412	木製品	箸	完形	21.0	0.7	0.4						
図63 1413	木製品	箸	完形	20.8	0.6	0.5						
図63 1414	木製品	箸	完形	22.0	1.1	0.3						
図63 1415	木製品	箸か	完形	24.2	1.4	1.0						端部付近に黒色系漆付着 鎌刃か
図63 1416	木製品	刀子鞘	ほぼ 完形	23.1	3.0	1.0						内面を刀身形に削り出した板材2枚で構成 外面に紐で固定させるための 袢れり2ヶ所 端部は2ヶ所の木釘で固定
図63 1417	木製品	用途不明	完形	18.5	1.9	0.6						端部付近に圧痕2条
図63 1418	木製品	用途不明	完形	14.1	1.6	0.6						
図63 1419	木製品	曲物	下部 完形	直径 29.6	—	9.4						底板径29.0cm、厚さ0.8cm 側板は3重で板皮で組む 底板と側板は木釘で固定
図63 1420	木製品	用途不明	ほぼ 完形	15.9	3.3	0.7						両端部を半円形に切り欠き
図63 1421	木製品	箸	完形	20.4	0.7	0.6						
図63 1422	木製品	箸	完形	22.7	0.6	0.4						

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特微
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図63 1423	木製品	箸	完形	24.7	0.6	0.5						
図63 1424	木製品	曲物底板カ	4/5	22.6	[18.0]	0.8						外縁付近がやや薄い 表面に刃物痕
図63 1425	木製品	形代 船形	完形	14.7	2.1	0.5						柄幅0.7cm、端先幅2.1cm
図63 1426	木製品	形代 線先形	完形	7.1	3.0	0.5						柄を差し込む方形の貫通孔を表現
図63 1427	木製品	草履芯	ほぼ 完形	23.4	10.5	0.2						藁状圧痕遺存
図64 1428	木製品	箸	完形	22.5	0.5	0.4						
図64 1429	木製品	串状	完形	28.5	1.4	1.2						片側先端部を鋭角に整形 部分的に炭化
図64 1430	木製品	草履芯	完形	24.1	10.5	0.5						
図64 1431	木製品	振り粉木カ	上端欠	(30.1)	4.1	4.2						下端部摩耗 一部炭化
図64 1432	木製品	連歯下駄カ	ほぼ 完形	13.3	(6.2)	1.4						歯は欠失 踵穴以外、小孔2ヶ所 子ども用または形代カ
図64 1433	木製品	用途不明	完形	5.2	6.2	1.0						琴柱状の形状
図64 1434	木製品	曲物底板カ	1/3	31.8	[13.0]	1.3						木末は楕円形カ
図65 1435	木製品	箸	完形	17.7	0.7	0.5						
図65 1436	木製品	箸	完形	19.8	0.7	0.6						
図65 1437	木製品	箸	完形	21.3	0.7	0.5						
図65 1438	木製品	連歯下駄	3/4	[20.5]	8.8	[4.2]						前縁周辺欠失
図65 1439	木製品	板杓子	ほぼ 完形	25.5	6.5	1.0						
図65 1440	木製品	箸	完形	19.1	0.6	0.5						両端付近薄く炭化
図65 1441	木製品	箱側板カ	ほぼ 完形	17.2	[7.7]	0.9						外周に小孔めぐる 1ヶ所に木釘遺存
図65 1442	木製品	箸	完形	18.8	0.6	0.4						
図65 1443	木製品	箸	完形	18.7	0.6	0.5						
図65 1444	木製品	箸	完形	18.9	0.8	0.6						
図65 1445	木製品	箸	完形	20.3	0.8	0.4						
図65 1446	木製品	箸	完形	20.8	0.6	0.5						
図65 1447	木製品	用途不明	完形	24.4	0.9	1.1						端部付近に浅い抉り
図65 1448	木製品	有孔円板	ほぼ 完形	3.4	3.4	0.2						中央に小孔
図66 1449	木製品	漆塗り 調度具	完形	6.6	2.7	0.7						雲形裝飾部 黒色系漆喰塗
図66 1450	木製品	箸	完形	20.5	0.9	0.5						
図66 1451	木製品	箸	完形	20.3	0.6	0.6						
図66 1452	木製品	箸	完形	21.6	0.7	0.5						
図66 1453	木製品	箸	完形	21.8	0.6	0.5						
図66 1454	木製品	箸	完形	22.3	0.8	0.7						
図66 1455	木製品	箸	完形	24.5	0.8	0.4						
図66 1456	木製品	箸	完形	25.5	0.5	0.4						

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口徑・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
5566 1457	木製品	串状	完形	23.5	1.1	0.7						片側端部を鋭角に切出す
5566 1458	木製品	匙状	一端欠	[10.8]	1.0	0.4						片側端部を匙状に整形 端部炭化
5566 1459	木製品	棒状	完形	20.1	0.9	0.6						断面方形
5566 1460	木製品	板杓子	完形	23.3	6.8	0.7						端部摩耗
5566 1461	木製品	折敷	1/2	18.1	[7.6]	0.1						表裏両面に墨書重複 判読不明 花押などの習書や家ならし
5566 1462	木製品	円板	5/6	11.6	[9.4]	0.3						外周部に貫通孔めぐる
5566 1463	木製品	円板	1/2	10.5	[4.8]	0.5						外周部に貫通孔めぐる
5566 1464	木製品	円板	1/5	[10.0]	[3.0]	0.5						曲物底板*
5566 1465	木製品	有孔円板	完形	4.3	4.3	1.0						側縁部面取り
5567 1466	木製品	連歯下駄	1/2	23.8	10.4	6.3						連歯下駄 前縁の両脇に指圧痕
5567 1467	木製品	連歯下駄	ほぼ 完形	15.4	6.8	[1.3]						横縁1穴に木釘遺存
5567 1468	木製品	草履芯	1/2	24.2	[5.5]	0.3						表面に葉状圧痕遺存
5567 1469	木製品	箱底板*	1/5	11.9	15.0	0.6						貫通孔三ヶ所孔 1ヶ所を除き木釘遺存
5567 1470	木製品	箱側板*	1/5	17.6	6.5	0.7						両端に互い違いの仕口を切る 表面と側縁に木釘遺存する小孔
5567 1471	木製品	用途不明	一端欠	[20.7]	1.2	1.2						片側端部近くに狭り
5567 1472	木製品	用途不明	2/3	11.2	[8.6]	1.2~ 2.4						平面八角形に整形
5568 1473	木製品	串状	完形	16.1	0.8	0.8						断面方形
5568 1474	木製品	箸	完形	18.2	0.6	0.4						
5568 1475	木製品	箸	完形	19.2	0.6	0.5						
5568 1476	木製品	箸	完形	19.6	0.6	0.4						
5568 1477	木製品	箸	完形	19.3	0.8	0.4						
5568 1478	木製品	箸	完形	20.2	0.5	0.9						
5568 1479	木製品	箸	完形	20.1	0.6	0.4						
5568 1480	木製品	箸	完形	20.5	0.7	0.4						
5568 1481	木製品	箸	完形	22.4	0.8	0.4						
5568 1482	木製品	箸	完形	21.8	0.7	0.5						
5568 1483	木製品	箸	完形	22.5	0.8	0.5						
5568 1484	木製品	箸	完形	22.6	0.8	0.6						
5568 1485	木製品	箸	完形	23.6	0.8	0.5						
5568 1486	木製品	箸	完形	24.7	0.6	0.3						
5568 1487	木製品	串状	完形	25.5	0.9	0.8						断面円形
5568 1488	木製品	串状	完形	28.6	0.5	0.3						
5568 1489	木製品	串状	完形	33.7	0.8	1.0						
5568 1490	木製品	串状	完形	39.3	1.3	0.6						

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図68 1491	木製品	匙	完形	25.6	1.5	0.8						
図68 1492	木製品	匙	完形	20.0	1.6	0.6						
図68 1493	木製品	匙	完形	17.4	1.4	0.7						
図69 1494	木製品	板杓子	完形	17.7	3.6	0.6						
図69 1495	木製品	経木折敷	3/4	19.1	[16.6]	0.1						鋼切り 上下端部に小孔 表面細かノ物痕
図69 1496	木製品	経木折敷	1/8	18.1	[2.3]	0.1						表裏面に墨書有り 判読不明
図69 1497	木製品	経木折敷	1/6	18.1	[3.5]	0.1						
図69 1498	木製品	円板	1/3	[16.4]	[5.6]	0.4						
図69 1499	木製品	円板	完形	9.8	9.8	0.4						中央両端に非貫通孔
図69 1500	木製品	円板	完形	6.8	6.8	1.2						整形途中か
図69 1501	木製品	有孔円板	完形	5.8	5.8	0.6						
図69 1502	木製品	円板	1/2	[8.4]	[2.2]	0.3						
図69 1503	木製品	用途不明	1/5	[23.2]	[4.7]	0.9						もと曲物底板か 側面3ヶ所木釘遺存に遺存 表面2ヶ所に小孔、1ヶ所には鉄釘遺存
図69 1504	木製品	連歯下駄	4/5	23.0	[9.3]	1.4						前方の歯欠失
図70 1505	木製品	草履芯	完形	23.5	10.3	0.4						
図70 1506	木製品	草履芯	完形	24.1	10.6	0.4						表面に藁状圧痕遺存
図70 1507	木製品	草履芯	完形	23.8	9.9	0.3						
図70 1508	木製品	草履芯	ほぼ 完形	23.9	[9.6]	0.3						
図70 1509	木製品	草履芯	5/6	23.7	[10.0]	0.4						表面に藁状圧痕遺存
図70 1510	木製品	草履芯	完形	24.1	10.4	0.4						
図70 1511	木製品	草履芯	完形	23.6	[11.0]	0.3						
図70 1512	木製品	草履芯	ほぼ 完形	23.7	[10.0]	0.4						表面に藁状圧痕遺存
図71 1513	木製品	草履芯	ほぼ 完形	23.0	[9.0]	0.5						
図71 1514	木製品	草履芯	3/4	25.5	[8.1]	0.4						
図71 1515	木製品	草履芯	1/2	23.6	5.1	0.3						表面に藁状圧痕遺存
図71 1516	木製品	草履芯	1/2	23.5	5.1	0.3						
図71 1517	木製品	草履芯	1/2	23.3	4.9	0.3						
図71 1518	木製品	草履芯	1/2	22.1	4.8	0.3						表面に藁状圧痕遺存
図71 1519	木製品	草履芯	1/2	[23.9]	4.8	0.5						表面に藁状圧痕遺存
図71 1520	木製品	草履芯	1/2	14.2	4.0	0.4						
図71 1521	木製品	下駄状	3/4	[13.8]	[5.7]	0.3						非常に薄く、履物としての実用性に疑問 草履芯として使用、 または形代の類か
図71 1522	木製品	用途不明 小銀鈎か	完形	4.2	4.6	2.8						二材一組結合面に対する襷を切り棒状品を挟み込む形態に 上端側に二材を通す貫通孔2ヶ所 縦通し孔か
図71 1523	木製品	栓か	完形	4.4	3.2	2.9						
図71 1524	木製品	栓か	完形	4.9	2.4	2.1						

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 出土層からの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図71 1525	木製品	柱カ	完形	7.5	1.5	1.5						
図71 1526	木製品	柱カ	完形	5.7	1.5	1.5						
図71 1527	木製品	柱カ	完形	5.2	2.0	1.8						
図71 1528	木製品	用途不明	完形	3.7	3.8	1.5						
図71 1529	木製品	用途不明	両端欠	[10.8]	2.9	1.0						
図71 1530	木製品	用途不明	完形	11.8	0.9	0.3						端部に小孔
図71 1531	木製品	用途不明	完形	16.5	1.8	0.5						
図71 1532	木製品	用途不明	完形	16.1	1.4	1.5						先端部隆起 先端近くに横位の切り込み有り
図71 1533	木製品	用途不明	一端欠	9.5	4.5	1.0						中心に貫通孔3ヶ所
図71 1534	木製品	用途不明	完形カ	8.9	4.8	0.8						短辺側縁に木釘遺存
図71 1535	木製品	用途不明	ほぼ 完形	9.8	4.5	0.8						隅切り 両短辺の側縁に木釘遺存
図72 1536	木製品	箸	完形	20.5	0.7	0.5						
図72 1537	木製品	箸	完形	22.4	0.8	0.4						
図72 1538	木製品	部材	一端欠	[21.0]	1.5	0.7						
図72 1539	木製品	漆塗り 調度具	完形	9.3	3.4	1.1						雲形裝飾部 黒色系漆喰塗
図72 1540	木製品	脚付台	完形	15.1	5.2	9.0						長方形台座に納組みで脚を装着
図72 1541	木製品	格子子	一端欠	[11.4]	2.1	1.7						再加工品カ
図72 1542	木製品	曲物底板カ	完形	直径 9.9	—	0.7						片面黒塗
図72 1543	木製品	草履芯	完形	23.7	8.0	0.3						
図73 1544	木製品	箸	完形	19.8	0.6	0.5						
図73 1545	木製品	箸	完形	20.5	0.7	0.4						
図73 1546	木製品	箸	完形	22.3	0.6	0.5						
図73 1547	木製品	箸	完形	22.0	0.7	0.5						
図73 1548	木製品	箸	完形	21.9	0.6	0.5						
図73 1549	木製品	箸	完形	22.9	0.7	0.4						
図73 1550	木製品	箸	完形	28.4	0.8	0.3						
図73 1551	木製品	箸	完形	23.5	0.8	0.4						
図73 1552	木製品	箸	完形	24.4	0.7	0.5						
図73 1553	木製品	箸カ	完形	23.8	0.7	0.5						片側端部を鋭角に整形
図73 1554	木製品	箸	完形	25.1	0.7	0.6						
図73 1555	木製品	串状	完形	25.9	1.2	0.8						片側端部を鋭角に整形
図73 1556	木製品	用途不明	完形	24.9	2.0	0.8						
図73 1557	木製品	板杓子	完形	27.1	7.2	0.9						柄の先端部炭化
図73 1558	木製品	板杓子	完形	27.1	6.8	0.8						柄の先端部炭化

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図74 1509	木製品	通面下駄	5/6	[18.9]	10.0	1.2						
図74 1560	木製品	鋤先	完形	38.5	15.5	2.0						柄の差し込み孔長 さ5.5×幅2.6cm
図74 1561	木製品	用途不明	完形 ^a	(17.5)	(5.8)	1.3						
図74 1562	木製品	板杵子	5/6	[21.4]	6.4	0.5						
図74 1563	木製品	草履芯	1/2	24.1	5.1	0.3						藁状圧痕遺存
図74 1564	木製品	草履芯	完形	15.9	7.8	0.3						
図74 1565	木製品	円板	完形	直径 7.3	—	0.3						由物底板 ^a 外周近くに小孔1ヶ所 片面のみ無数の刃物痕
図74 1566	木製品	草履芯	1/2	23.5	5.3	0.4						

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土厚かの特徴
				口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ						
図46 補7	鉄製品	刀子	5/6	[20.8]	1.8	0.3						目釘穴遺存
図46 補8	鉄製品	刀子	?	[22.4]	[2.8]	0.1~ 0.4						錆付着 刃部のみ残存か
図56 補9	木製品	箸	完形	18.5	0.6	0.4						
図56 補10	木製品	箸	完形	20.0	0.6	0.9						
図56 補11	木製品	箸	完形	19.2	0.6	0.3						

図28一補1~6は、119~120頁に掲げた。

第六章 調査成果のまとめ

第1節 調査の課題

今回の調査では、築地状遺構を中心とする区画施設と、それによって分割された各土地空間（区画）の使用状況を一定程度は把握できたかと思う。ただし、築地とした解釈の当否や、各空間の利用実態については判断に迷うところも多くあり、第五章で述べてきた見方については、逐次検証を行う必要性を感じている。また、安全面への配慮から生じた未調査域と南北・東西築地状遺構の接続部分が重なってしまった点など、必要な情報を取り残す結果となったことは反省点である。ピットや土坑などと異なり、築地は地表に立ち上がる構築物であることから、現地では、どの整地面に対応させるべきかも苦慮した。今後、同種の遺構を調査する機会があれば、今回の経験を活かせるように心掛けたい。

今のところ、武蔵大路周辺遺跡における発掘調査例は10例に満たず、それぞれの地点が一定の距離を隔てていることから、遺跡の性格について総合的に述べることは難しい。また、谷地形を占めるゆえに中世基盤層までは相当の深さがあり、土地利用の開始時期や実態に関する情報は、ほとんど得られていないのが実情である。本地点でも地表下3.5mで中世基盤層と思いき暗灰色シルト質土を確認したが、かかる深さの堆積層を面的に広げて調査するためには、安全性を確保するための土工的措置が必要で、より多くの期間と経費を盛り込んだ調査計画を立てる必要がある。今後の課題として、指摘しておく。

第2節 出土かわらけと遺跡の年代

本地点の調査では、出土遺物の大多数をクロコかわらけが占めていた。特に2面・2b面の北東区画と南東区画では、東西築地状遺構を挟む形でかわらけ集積が検出され、完形もしくはそれに準じる資料が多く出土した。手づくねかわらけは一切含まれていないため、この消失後の所産かわらけであることは間違いない。表4の遺物観察表で「C」としたのは従来「薄手丸深」タイプと呼ばれてきたもので、水籤された精良な胎土で薄く作られ、小さい底部から、内湾・身深の体部が立ち上がる。出土量的には客体的な存在で、やや粗い泥質の胎土を用いた内湾器形の製品（ここでは「B」と呼称する）が主体を占める。表4中、「C'」としたのは「C」に準じる資料で、胎土・成整形ともに粗さが見て取れる。各類型とも、精粗に個体差があるため厳密に分けきれないもどかしさは抱えつつ、大よそ上記の分類に従って、簡単な考察を進める。

B・C・C'とも、大・中・小の三法量に分けられる。口径や重量を子細に見ると、さらなる細分も可能かもしれない。2面かわらけ集積出土の資料について、表4中の完形品から類型・法量ごとの平均重量を算出すると、以下ようになる（単位＝g、（ ）内は完形個体数、小数点以下は四捨五入）。

【B大:179 (14) B中:111 (2) B小:53 (113) C大:169 (14) C中:108 (20) C小:39 (20)
C'大:157 (1) C'中:123 (2) C'小:45 (14)】

計算の母数が1・2点程度では有効性をもたないので、C'については、ひとまず行論の脇に置いておく。2b面の資料でも概ね近似した計算結果が得られたので、2面のデータをもって代替する。上掲平均値を利用し、表3の計量データから個体数換算を試みると、以下の結果となる（単位＝個、小数点以下は四捨五入）。

2面北東区画【B大・中：133 B小：185 C大・中：42 C小：15 小計：375】

2面南東区画【B大・中：179 B小：247 C大・中：64 C小：35 小計：525】

2b面北東区画【B大・中：92 B小：81 C大・中：15 C小：4 小計：192】

2b面南東区画【B大・中：85 B小：74 C大・中：14 C小：11 小計：184】 合計 1276 点

破片資料では大と中の判別を厳密に行い得ない限界はあるが、一定の指標にはなるだろう。同じ武蔵大路周辺遺跡の扇ガ谷二丁目 298 番イ地点でも、類型・法量ごとにかわらけの平均重量を算出し、提示している（瀬田 2002）。こちらは遺構単位ではなく、調査者による分類基準の差も考慮する必要があるが、以下に参考値として掲げておく（単位＝g、類型は本地点の名称に統一、小数点以下は四捨五入）。

【C大：170 C中：117 C小：42 B大 187 B中：138 B小：53】

かわらけ以外の遺物では、常滑 7 型式の片口鉢Ⅱ類と、瓦質土器の火鉢Ⅲ類に復元実測できた資料があるが、いずれも破片資料を接合したもので、一定の使用期間と廃棄・破片化の過程を経て、かわらけ集積に混入したと考えるのが妥当だろう。つまり、片口鉢Ⅱ類ほかが集積遺構の上限年代を示す資料となり、近年における常滑編年の再検討では、7 型式を 13 世紀第 4 四半期に位置付ける見方も支持されている（藤澤・山本 2015）。従来、14 世紀前半としていたところを一型式分遷らせた見解とはなるが、鎌倉における在産かわらけの年代観を考える上では、むしろ整合的かと思われる。上述の使用～廃棄・破片化に至る経過を考慮すれば、一括廃棄されたであろう、これら 1200 個体を超えるログロかわらけについては、13 世紀末～14 世紀前半という、鎌倉時代から南北朝時代への移行期に位置付けることが可能であろう。2 個体を復元できた瓦質火鉢Ⅲ類についても、年代観に触れた先行研究と整合性をもつ（河野 1993）。

5 面以下のログロかわらけについては、2 面・2b 面の集積資料と顕著な型式差を見出せず、I B 区 6b 面下～7 面で出土した瓦質土器の火鉢Ⅲ類（図 49-1170）も、2 面出土の図 27-453・454 と同型式なので、明確な年代差を見出すことはできない。7 面下～10 面のサブトレッチでは手づくねかわらけの小皿片が出土しており、13 世紀前半には土地利用が開始されていた可能性を示唆するが、7 面以降、2 面までは 13 世紀後半～14 世紀前半という年代幅の中で、整地面・構築物を更新しながら土地利用の変遷が進んだものと理解できよう。

第 3 節 築地状遺構について

2 面では南北・東西 2 条の築地状遺構が検出された。それぞれの構造については第五章で説明したが、ともに削平を免れた基底部が残るのみで、上部構造の復元に資する情報は無いに等しい。おそらく頂部は上土で、草葺きのような、簡素な屋根を組み上げていた可能性も考えられる。『吾妻鏡』などに記述がある「築垣」に相当する遺構と推察され、寺院地や屋敷地の内外を区画・遮蔽する目的で構築されたものであろう。同様の機能を有する遺構には、比較的短いスパンの柱穴列として検出される櫓列・板塀があるが、築地はこれよりも格次高い建造物であり、中世の鎌倉でも構築できる階層は限られていたことだろう。鎌倉でも最上級の武家屋敷として名高い、今小路西遺跡（御成小学校地点）の北谷 3 面で検出された土塁は築地であった可能性が指摘されているが、これと本地点の築地状遺構とは版築の状況が近似しており、鎌倉時代後～末期という存続期間も共通している。北谷 3 面とは比肩し得ないにせよ、本地点の居住・所有者が、同時代にあって一定の社会的地位に置かれていたことは指摘して良いように思う。

第4節 出土遺物の特徴

前節の指摘は、整然とした遺構配置のみならず、1200 個体を超えるロクロかわらけや優美な文様を施した漆器の碗・皿、また、個体数は 10 点に満たないが、化粧用具の紅皿として使用された瀬戸窯産の入子など、数々の出土品からも窺い知ることができる。I A 区の 5 面上で出土した板材には「猪の目」文様が配されていたが、中世鎌倉出土の木製品では初めての事例かもしれない。古来、魔除けの意味をもつ文様であったとされ、現在でも神社仏閣の建築意匠などに見ることができ、市内では永福寺跡出土の金銅製吊金具に配された事例がある。今後、鎌倉に限らず、古代～中世遺跡における出土例を探してみたい。その他、これも鎌倉では初の出土例となる獅子頭形木製品をはじめ、鋤形などの木製形代類もわずかながら出土している。大量のロクロかわらけのうち、小皿を中心に灯明皿としての痕跡を留める個体が多くあった。一括廃棄にともなうことから、日常の灯火具というよりは法会などの儀式や、かわらけの主たる用途とされる武家儀礼の一環としての饗宴に供された資料群と見なしておきたい。日常の実用品だけでなく、こうした精神世界に関わる品々もまた、本地点の性格を考える上で有用な資料となることは間違いない。

第5節 まとめ

第二章において、本地点周辺が町屋免許地として鎌倉でも賑わいあるエリアの一つであった旨を説明したが、少なくとも今回の調査範囲の限りにおいては、商業・手工業従事者の活動にともなうような、雑多な印象を抱かせる遺構・遺物は希薄であった。鎌倉時代、幕府の実務を担った多くの京下り官人がここ扇が谷地区に居を構えたとされる。一連の成果が、こうした史実と直結するかは綿密な考証を必要とするが、今回の調査内容を瞥見する限り、町屋的な賑わいというよりも、現在の扇が谷地区と同様に閑静な一面を感じさせる調査成果となった。

参考文献（発表年順）

- 河野眞知郎 1993 「中世鎌倉火鉢考察—東国との関連において—」『考古論叢 神奈河』第2集 神奈川県考古学会
- 瀬田哲夫 2002 「武蔵大路周辺遺跡 (No. 194) 扇が谷二丁目 298 番イ」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18 (第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 藤澤良祐・山本智子 2015 「付編 中世常滑窯編年の再検討—5 型式期以降を中心に—」『上県 2 号窯跡 第9次発掘調査概要報告書』愛知学院大学文学部歴史学科

付編1 武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体

バンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)

1. はじめに

神奈川県鎌倉市に所在する武蔵大路周辺遺跡は、鎌倉時代の遺跡である。ここでは、武蔵大路周辺遺跡の堆積物から採取された大型植物遺体の同定結果を報告し、食用などに利用された植物について検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、武蔵大路周辺遺跡のI A区5面下 (No.102 サンプル (押木)) から採取された堆積物1試料である (編者註: 図4の土層断面図、G-Dの14層から採取)。

堆積物試料は、パレオ・ラボにて全量を計量し、0.5mm目の篩を用いて水洗した。各試料の水洗量については、表1を参照されたい。大型植物遺体の抽出および同定、計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその数を記号 (+) で表記した。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のヒノキ葉の1分類群、広葉樹のスモモ核とクリ果実、スダジイ果実、ヒメグルミ核、ハンノキ属果実、カキノキ種子の6分類群、草本植物ではスゲ属A果実とスゲ属B果実、ヒメグサ果実、カヤツリグサ属果実、テンツキ属果実、ホタルイ属炭化果実、メヒシバ属炭化有ふ果、ヒエ属有ふ果・炭化有ふ果、イネ炭化糊・糊殻・炭化糊殻・炭化種子 (穎果)、オオムギ炭化種子 (穎果)、コムギ炭化種子 (穎果)、キケマン属種子、ダイズ属炭化種子、オランダイチゴ属ヘビイチゴ属果実、クワクサ種子、メロン仲間種子、カタバミ属種子、ヤナギタデ果実、サナエタデ・オオイヌタデ果実、イヌタデ果実、ウシハコベ種子、アカザ属種子、スベリヒユ属種子、ナス種子、ゴマ種子、メナモミ属果実、オトコエシ属果実の25分類群、シダ植物のワラビ炭化裂片1分類群の、計33分類群が見いだされた。また、種実以外には、不明動物遺体や不明昆虫遺体が得られた (表1)。

スダジイとイネが非常に多く、ゴマが多く、クリとキケマン属、ウシハコベ、アカザ属が少量、カキノキとホタルイ属、ヒエ属、メロン仲間、ヤナギタデがわずかに得られた。この他の分類群は、産出数が3点未満であった。

次に、主な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田 (2003-) に準拠し、APG IIIリストの順とした。

(1) スモモ *Prunus salicina* Lindl. 核 バラ科

暗褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観はいびつな楕円形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。高さ12.3mm、残存幅11.0mm、厚さ8.7mm。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいよわゆる渋皮が厚く付着する。残存高 24.7mm、残存幅 15.8mm。

(3) スダジ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba 果実 ブナ科

黒褐色で、卵形。上部に向かって幅が徐々に狭くなる。縦の条線が目立つ。ほとんどの破片は横方向に割れている。高さ 14.4mm、幅 9.2mm (図版 1-3)、残存高 8.4mm、幅 9.3mm (図版 1-4)、残存高 8.4mm、幅 7.8mm (図版 1-5)。

(4) ヒメグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *cordiformis* (Makino) Kitam. 核 クルミ科

黄褐色で、完形ならば上面観は楕円形、側面観は先端が尖る広卵形。外面中央にやや深い溝が走るが、それ以外は表面が平滑な点で、オニグルミとは異なる。明瞭な縫合線がある。高さ 24.2mm、幅 22.2mm、残存厚 7.6mm。

(5) カキノキ *Diospyros kaki* Thunb. 種子 カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で、基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと推定される種子をカキノキとした。高さ 15.6mm、幅 11.0mm。

(6) スゲ属 A *Carex* sp. A 果実 カヤツリグサ科

灰色で、残存状態では変形していたが、完形ならば上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる倒卵形。三面はややくぼむ。表面には微細な網目状隆線がある。先端に円形の穴がある。長さ 1.5mm、幅 1.0mm。

(7) スゲ属 B *Carex* sp. B 果実 カヤツリグサ科

暗褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。表面には微細な網目状隆線があり、先端は明瞭に突出する。長さ 1.7mm、幅 1.3mm。

(8) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 有ふ果・炭化有ふ果 イネ科

赤褐色で、紡錘形。縦方向に細かい筋がある。内穎は膨らまず、外穎は中央部が最も膨らむ。那須 (2017) に示された現生種の長幅比と比較すると、栽培型のヒエよりも野生植物のタイヌビエやイヌビエの長幅比に近い。長さ 3.2mm、幅 1.8mm。炭化有ふ果の残存長 2.2mm、幅 1.8mm。

(9) イネ *Oryza sativa* L. 炭化籾・籾殻・炭化籾殻・炭化種子 (穎果) イネ科

籾は、上面観が楕円形で、側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。長さ 7.0mm、幅 3.8mm。種子 (穎果) は、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が残り、両面に縦方向の 2本の浅い溝がある。長さ 5.0mm、幅 3.0mm。

(10) ダイズ属 *Glycine* sp. 炭化種子 マメ科

やや発泡しているが、上面観は楕円形、側面観は臍側が直線的な楕円形。臍は楕円形で、全長の 1/2 未満。小畑ほか (2007) に示されたダイズ属の特徴である、へその中央の縦溝とその周囲の隆線がある。残存長 4.8mm、幅 3.3mm、幅 2.6mm。

(11) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は完形ならば狭卵形。頂部が尖り、表面は平滑。藤下 (1984) によると、長さ 6.0mm 以下は雑草メロン型、長さ 6.1~8.0mm はマクワリ・シロウリ型、長さ 8.1mm 以上はモルディカメロン型と、種子の大きさからおおむね 3群に分けられる。今回同定されたメロン仲間種子は、長さ 7.2mm、幅 4.0mm で、マクワリ・シロウリ型であった。

(12) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

赤褐色で、完形ならば上面観は長楕円形、側面観は楕円形。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい

網目状隆線がある。残存長 3.2mm、残存幅 3.0mm。

(13) ゴマ *Sesamum orientale* L. 種子 ゴマ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑で、縁に沿って浅い溝がある。長さ 3.3mm、幅 2.4mm。

4. 考察

I A区5面下のNo.102 サンプル(押木)からは、栽培植物で果樹のモモとカキノキ、水田作物のイネと畑作物のメロン仲間(マクワウリ・シロウリ型)、ナス、ゴマ、野生植物で食用可能なクリとスダジイ、ヒメグルミ、ヒエ属、ダイズ属、カタバミ属、アカザ属が得られた。スモモ核やカキノキ種子は、果肉を食べた後に捨てられた可能性がある。スモモ核には、ネズミ類によるとみられる動物食害痕が確認されたため、捨てられた後にネズミにかじられた可能性がある。クリやスダジイの子葉は食用となる部位であるが、果実は食用ではないため、破片については殻を剥いた後に不要な果実が捨てられた可能性がある。スダジイは、ほとんどが横方向に割れており、人為的に割られた可能性がある。半割の状態では得られたヒメグルミ核には打撃痕は見られず、自然に割れた可能性がある。

イネは初も出土しており、初の状態では保管されていたイネがなんらかの要因で炭化して堆積した可能性が考えられる。初殻が多く得られており、初殻がまとめて廃棄された可能性がある。さらに、ナスやゴマなどの栽培植物が産出しており、何らかの人為的要因で堆積した可能性がある。また、メロン仲間の種子が産出しており、利用後に種子が廃棄された可能性が考えられる。

それ以外では、ヒノキ葉やハンノキ属果実もわずかに産出しており、試料採取地点の周辺にこれらの植物が生育していたと推定される。野生の草本植物では、湿地性のスゲ属Aとスゲ属B、ヒメクグ、カヤツリグサ属、テンツキ属、ホタルイ属、ヤナギタデなどが産出しており、周辺の湿った場所に生育していた可能性がある。また、周辺の乾いた場所には、キケマン属やオランダイチゴ属-ヘビイチゴ属、クワクサ、カタバミ属、イヌタデ、ウシハコバ、アカザ属、スベリヒユ属、メナムミ属、オトコエシ属なども生育していたと考えられる。

引用文献

藤下典之(1984)出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。渡辺直経編「古文化財に關する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」:638-654, 同期舎出版。

那須浩郎(2017)縄文時代にヒエは栽培化されたのか? SEEDS CONTACT, 4, 27-29.

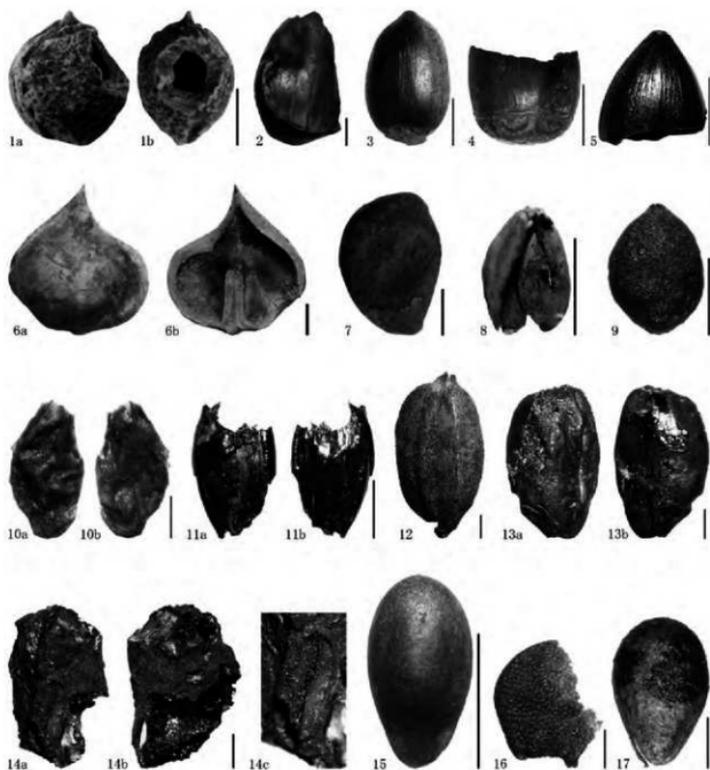
小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子(2007)土器瓦痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培。植生史研究, 15-2, 97-114.

米倉浩司・梶田 忠(2003-)BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>

表1 武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	水洗量 (cc)	遺跡名	MO1903
		区	I A区
		面	5面下
		試料No.	No. 102サンプル (押木)
		時期	鎌倉時代
ヒノキ	葉		1
スモモ	核		1
クリ	果実		(37)
スダジイ	果実(完形)		1
	果実(半分)		(240)
	果実(破片)		(++++)
ヒメグルミ	核		(1)
ハンノキ属	果実		1
カキノキ	種子		5 (1)
スゲ属A	果実		1
スゲ属B	果実		2
ヒメクグ	果実		1
カヤツリグサ属	果実		1
テンツキ属	果実		1
ホタルイ属	炭化果実		7
メヒシバ属	有ふ果		1
	有ふ果		2 (1)
ヒエ属	炭化有ふ果		2
	炭化粉		3 (2)
	粉殻		205 (++++)
	炭化粉殻		14 (++)
イネ	炭化種子		16 (29)
	種子		30
	炭化種子		1
	炭化種子		1
キケマン属	果実		1
ダイズ属	種子		2
オランダイチゴ属-ヘビイチゴ属	種子		2 (4)
クワクサ	種子		1
メロン仲間	種子		1
カタバミ属	果実		4
ヤナギタデ	果実		1
サナエタデーオオイヌタデ	果実		(3)
イヌタデ	種子		35
ウシハコベ	種子		16
アカザ属	種子		1
スベリヒユ属	種子		(2)
ナス	種子		24 (98)
ゴマ	果実		1
メナモミ属	果実		2
メナモミ属	果実		1
オトコエシ属	炭化裂片		1
ワラビ	動物遺体		(++)
不明	昆虫遺体		(+++)
土器片			(+)

+1-9, ++:10-49, +++:50-99, ++++:100以上



スケール 1-7, 15:5mm, 8-14a-b, 16, 17:1mm, 14cは任意

図版 1 武蔵大路周辺遺跡から出土した大型植物遺体

1. スモモ核、2. クリ果実、3-5. スダジイ果実、6. ヒメグミ核、7. カキノキ種子、8. スゲ属A果実、9. スゲ属B果実、10. ヒエ属有ふ果、11. ヒエ属炭化有ふ果、12. イネ炭化粉、13. イネ炭化種子、14. ダイズ属炭化種子、15. メロン仲間種子、16. ナス種子、17. ゴマ種子

付編 2 武蔵大路周辺遺跡の花粉分析、プラント・オパール分析、 寄生虫卵分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

武蔵大路周辺遺跡 (M01903) では、環境復元を目的として堆積物試料が採取された。以下では、試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析、寄生虫卵分析の結果を示し、考察した。

2. 試料と方法

分析試料は、標高 14.7 m 前後に堆積した暗灰色粘土質土 2 点 (No. 2, No. 3) である。No. 2 については、花粉分析とプラント・オパール分析を行い、No. 3 については花粉分析とプラント・オパール分析に加え、寄生虫卵分析も行った。これらの試料について、以下の処理を施した (編者註: No. 2 = 図 3 の土層断面図、C-D の 49 層から、No. 3 = 図 3 の土層断面図、A-B の 21 層から採取)。

2-1. 花粉分析

試料 (湿重量約 3 ~ 4 g) を遠沈管にとり、10% 水酸化カリウム溶液を加え、10 分間湯煎する。水洗後、46% フッ化水素酸溶液を加え、1 時間放置する。水洗後、比重分離 (比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離) を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 20 分間湯煎) を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が 200 を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、No. 3 については、十分な量の花粉化石が含まれていなかったため、プレパラート 1 枚を検鏡するにとどめた。さらに、単体標本 (PLC. 3261 ~ 3266) を作製し、写真を図版 1 に載せた。

2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する (絶対乾燥重量測定)。別に試料約 1 g (秤量) をトルビーカーにとり、約 0.02 g のガラスビーズ (直径約 0.04mm) を加える。これに 30% の過酸化水素水を約 20 ~ 30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により 0.01mm 以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが 300 個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、図版 2 に載せた。

2-3. 寄生虫卵分析

試料を乾燥後、遠沈管にとり、計量した。花粉分析と同様の処理を施し、得られた残渣に適容量のグリセリンを加えて計量した。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料 1 g 中の寄生虫卵含有数は、次式で求めた。

$$X = BD / AC$$

X : 試料 1g 中の寄生虫卵含有数、A : 分析に用いた試料の重量 (g)、B : 濃縮試料 + グリセリンの重量 (g)、C : 濃縮試料 + グリセリンのうち、封入に用いた重量 (g)、D : プレパラート中の寄生虫卵数。

また、保存状態の良い寄生虫卵を選んで単体標本 (PLC. 3267, 3268) を作製し、写真を図版 1 に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

2 試料から検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉 15、草本花粉 16、形態分類のシダ植物胞子 2 の、総計 33 である。これらの花粉・胞子の一覧表を表 1 に、花粉分布図を図 1 に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン (-) で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科の花粉には樹木起源と草本起源の分類群があるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

検鏡の結果、No. 3 には十分な量の花粉化石は含まれていなかった。No. 2 では、マツ属複雑管束亜属とイネ科の産出が目立つ。

表 1 産出花粉胞子一覧表

学名	和名	No. 2	No. 3
樹木			
<i>Podocarpus</i>	マキ属	1	-
<i>Abies</i>	モミ属	3	-
<i>Tsuga</i>	ツガ属	3	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	112	2
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	26	1
<i>Pterocarya</i> - <i>Juglans</i>	サワグルミ属 - クルミ属	2	-
<i>Carpinus</i> - <i>Ostrya</i>	クマシデ属 - アサダ属	1	-
<i>Betula</i>	カバノキ属	1	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	3	2
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	9	1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	23	2
<i>Castanea</i>	クリ属	8	-
<i>Castanopsis</i> - <i>Pasania</i>	シイノキ属 - マテバシイ属	3	2
<i>Ulmus</i> - <i>Zelkova</i>	ニレ属 - ケヤキ属	3	-
<i>Araliaceae</i>	ウコギ科	2	-
草本			
Gramineae	イネ科	1730	36
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	-
Maraceae	クワ科	1	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i> - <i>Echinocaulon</i>	サナエタデ節 - ウナギツカミ節	2	-
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	6	-
Chenopodiaceae - Amaranthaceae	アカザ科 - ヒユ科	115	14
Caryophyllaceae	ナデシコ科	2	-
Ranunculaceae	キンボウゲ科	3	-
Brassicaceae	アブラナ科	127	20
<i>Sanguisorba</i>	ワレモコウ属	2	-
Apiaceae	セリ科	4	-
<i>Ambrosia</i> - <i>Xanthium</i>	ブタクサ属 - オナモミ属	1	-
<i>Carthamus</i>	ベニバナ属	1	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	205	16
Tubuliflorae	キク亜科	8	2
Liguliflorae	タンポポ科	3	4
シダ植物			
monolet type spore	単条溝胞子	1	1
trilete type spore	三条溝胞子	1	-
Arboreal pollen	樹木花粉	200	10
Nonarboreal pollen	草本花粉	2212	92
Spores	シダ植物胞子	2	1
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	2414	103
unknown	不明	4	3

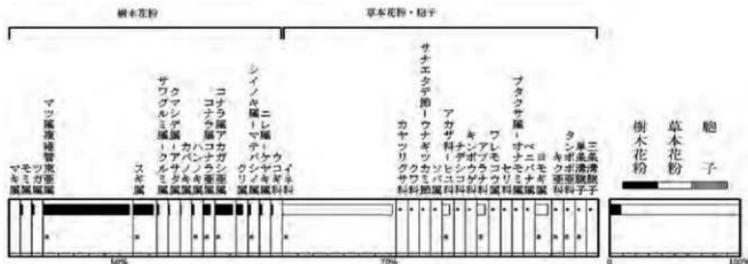


図1 武蔵大路周辺遺跡における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・孢子は産出花粉孢子総数を基数として百分率で産出した。

※は樹木花粉 200 個未満の試料について、検出した分類群を示す。

3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1 g 当りの各プラント・オパール個数を求め (表 2)、分布図に示した (図 2)。

2 試料を鏡検した結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が確認できた。その他、イネの籾殻に形成されるイネ穎破片の産出も確認された。

表 2 試料 1 g 当りのプラント・オパール個数

	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
MO1903 No. 2	92,100	48,000	60,000	2,000	0	2,000	164,100	46,000	6,000
MO1903 No. 3	44,200	6,500	83,100	5,200	9,100	0	71,500	14,300	2,600

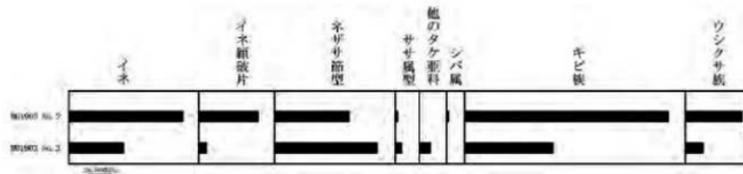


図2 植物珪酸体分布図

3-3. 寄生虫卵分析

計量し、鏡検した結果を表 3 に示す。No. 3 では回虫卵と鞭虫卵が検出された。寄生虫卵数は試料 1 cm²あたり 274 個である。

4. 古植生について

花粉分析の結果では、No. 2 においてマツ属複雑管束亜属の産出が目立つ花粉組成を示している。No. 2 堆積当時は周辺にニヨウマツ林が分布を広げていた可能性がある。なお、鎌倉市の花粉

表 3 試料の計量値と寄生虫卵数

	No. 3
分析に用いた試料(g)	3.0876
残渣+グリセリン(g)	1.3411
封入に用いた量(g)	0.0433
試料の密度 (g/cm ³)	1.44
回虫卵	15
(試料1g当たりの個数)	150
鞭虫卵	4
(試料1g当たりの個数)	40
計	19
(試料1g当たりの個数)	191
(試料1cm ² 当たりの個数)	274

分析では、12世紀末～13世紀末の期間はスギ属やコナラ属アカガシ亜属、シノキ属-マテバシイ属が優勢で、13世紀末にマツ属維管束亜属が増加する傾向が知られている(鈴木・吉川, 1994)。よって、No. 2は13世紀末以降のニヨウマツ林の存在を示している可能性がある。No. 2の草本花粉では、イネ科が突出しており、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属などの産出が目立つ。よって、試料採取地点周辺には、これらの分類群からなる草本植物が広がっていたと思われる。なお、No. 2のプラント・オパール分析の結果では、イネ類破片が多く検出されているため、No. 2から産出するイネ科花粉は、イネの初殻に付着していた花粉も含まれている可能性がある。さらには、No. 2の花粉化石群集には、糞便に混じていた花粉も含まれている可能性もあるが、その根拠は後述する。

No. 2からはその他、ネザサ節型やササ属型、シバ属、キビ族、ウシクサ族が産出しているため、ネザサ節やササ属などのタケ亜科や、キビ族やウシクサ族などのイネ科が分布していた可能性がある。さらには、イネ機動細胞珪酸体の産出から、No. 2採取地点周辺には稲藁も堆積していたと考えられる。

No. 3においてもNo. 2と同様な植物珪酸体が産出しているが、産出量が大きく異なる。No. 2に比べると、No. 3ではイネとイネ類破片、キビ族、ウシクサ族の産出量が少なく、ネザサ節型の産出量が多い。地点によってイネ科植物の分布が異なっていたか、何らかの堆積過程や人為的影響を受けて産出量が異なっていた可能性などが考えられる。

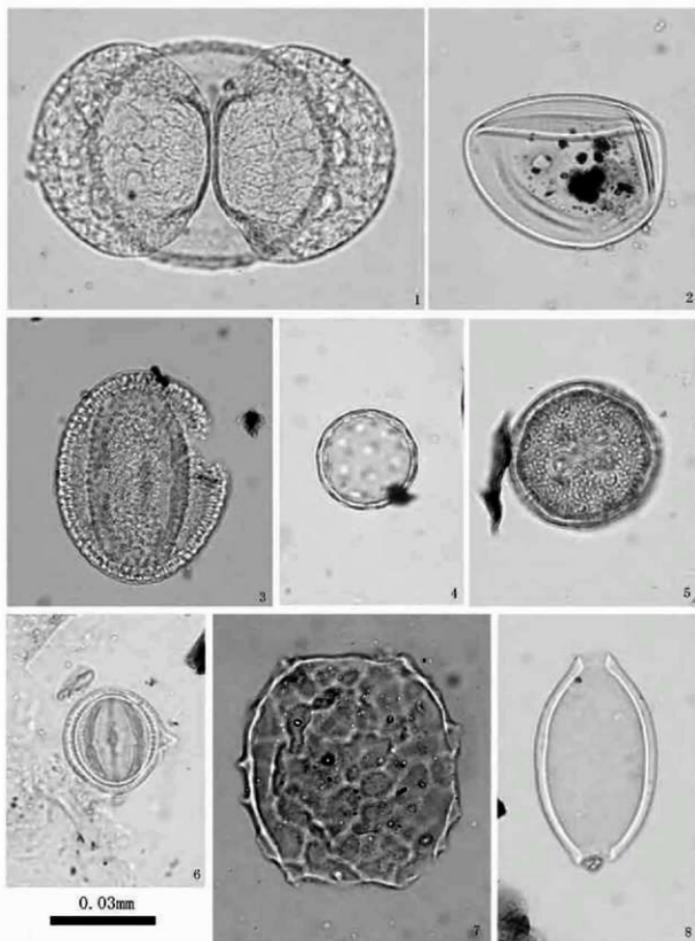
5. 寄生虫卵について

No. 3の寄生虫卵分析の結果では、回虫卵と鞭虫卵が検出された。鎌倉時代の鎌倉では、いたるところで寄生虫卵の産出が確認されており、市内各地に糞便が溢れ出ていた状況が推測されている(鈴木, 2008)。今回の分析試料でも寄生虫卵が検出され、鈴木(2008)の状況と合致する。寄生虫卵数については、試料1 cm中に1,000個以上あれば糞便の可能性があると考えられており(金原, 1997)、この目安に照らし合わせると、No. 3から検出された寄生虫卵の密度は糞便堆積物の目安を下回る。寄生虫卵数が少ない理由については、酸化が影響している可能性がある。すなわち、No. 3では、十分な量の花粉化石が得られていない。一般的に花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると、紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。したがって、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。寄生虫卵も同様の条件で分解されるため(金原, 2004)、もともと含まれていた寄生虫卵が分解され、密度が下がった可能性がある。

ちなみに、定量分析は行っていないが、No. 2においても回虫卵や鞭虫卵が検出された。No. 2に糞便が混じりこんでいたとすると、花粉化石の中には糞便に含まれていた花粉が抽出されている可能性がある。例えば、イネ科やアカザ科-ヒユ科、アブラナ科、ソバ属、ペニバナ属といった花粉は、食用や薬用として人が食し、排出されてトイレ遺構に堆積する例が知られている(黒崎, 1997; 金原, 1998)。No. 2の花粉化石群集においても、寄生虫卵の産出とともにこれらの分類群の産出が見られるため、糞便に含まれていた花粉なのか、周辺に生育していた植物から供給された花粉なのかを判断するのが難しい。

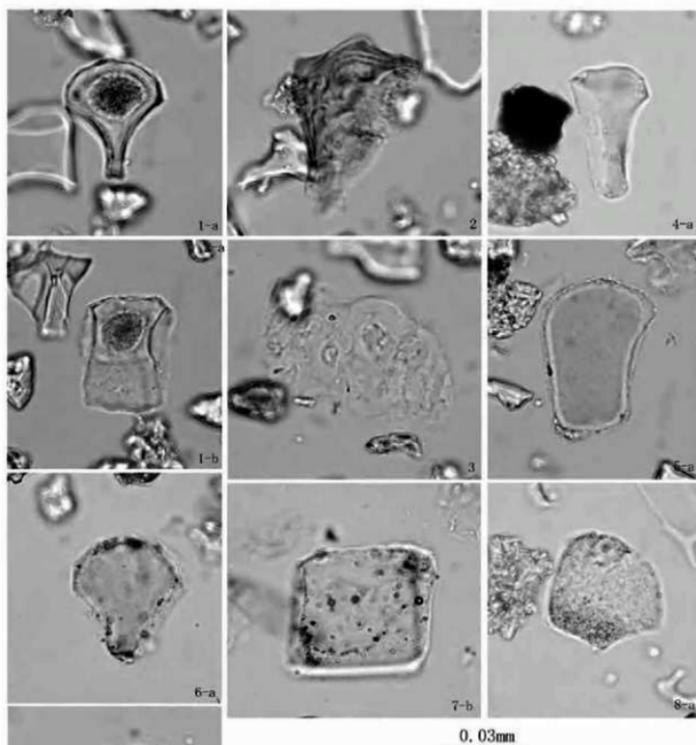
引用文献

- 金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化. 大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」: 197-216, 東京美術.
- 金原正明（1998）トイレ跡は生活のるつぼ: 排泄物の生物学. 遺伝, 52, 39-45.
- 金原正明（2004）寄生虫卵分析. 安田喜憲編「環境考古学ハンドブック」: 419-429, 朝倉書店.
- 黒崎 直（1997）考古学の発掘現場におけるトイレ研究. 大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」: 183-196, 東京美術.
- 鈴木 茂（2008）鎌倉の遺跡と寄生虫卵. 考古論叢神奈河, 16, 77-83.
- 鈴木 茂・吉川昌伸（1994）鎌倉市永福寺跡における鎌倉時代の植生変遷. 植生史研究, 2, 45-51.



図版1 武蔵大路周辺遺跡から産出した花粉化石および寄生虫卵

1. マツ属複維管束型属 (PLC. 3261) 2. イネ科 (PLC. 3262) 3. ソバ属 (PLC. 3263)
 4. アカザ科-ヒユ科 (PLC. 3264) 5. ナデシコ科 (PLC. 3265) 6. コモギ属 (PLC. 3266)
 7. 回虫卵 (PLC. 3267) 8. 鞭虫卵 (PLC. 3268)



図版 2 武蔵大路周辺遺跡 No. 2 から産出した植物珪酸体

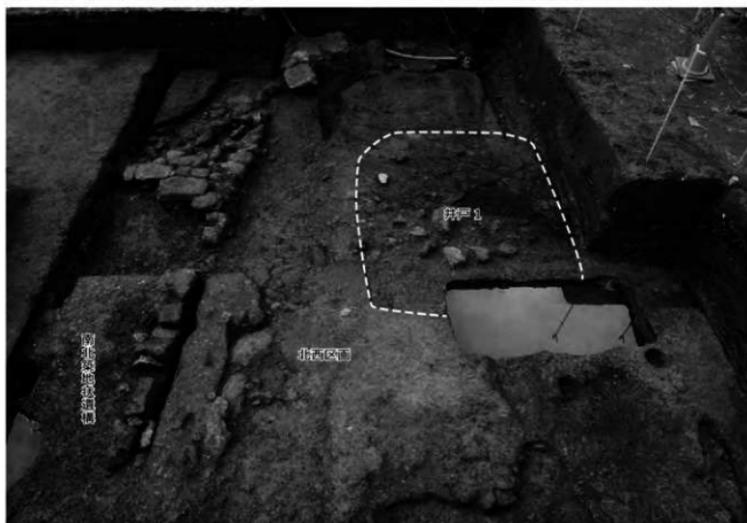
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. イネ機動細胞珪酸体 | 2. イネ穎破片 |
| 3. イネ穎破片 | 4. ウシクサ族機動細胞珪酸体 |
| 5. ウシクサ族機動細胞珪酸体 | 6. ネザサ節型機動細胞珪酸体 |
| 7. キビ族機動細胞珪酸体 | 8. ササ属型機動細胞珪酸体 |
- a: 断面 b: 側面



1. I区 表土掘削前(北西から)



2. I区 表土掘削状況(南西から)



3. IA区1面 全景(北から)



4. IA区1面 全景(西から)



5. IA区1面 全景(北東から)

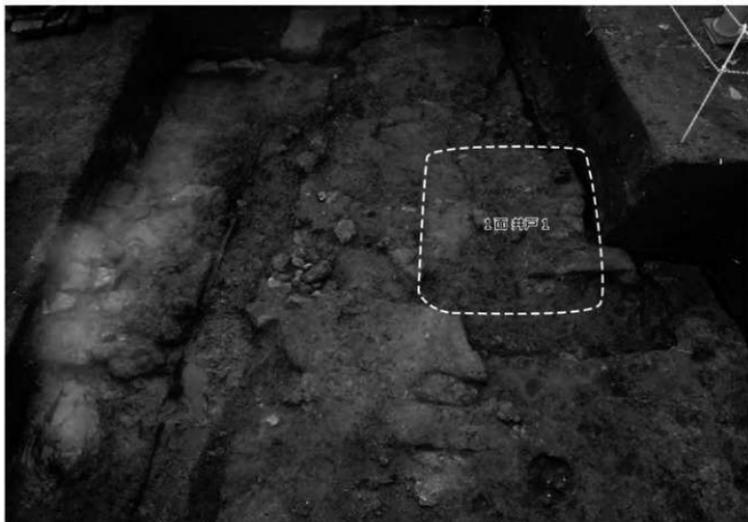
図版 2



1. IA区1面 全景 (南から)



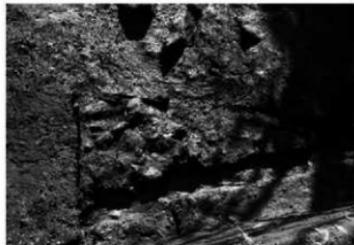
2. IA区1面 土坑1 (西から)



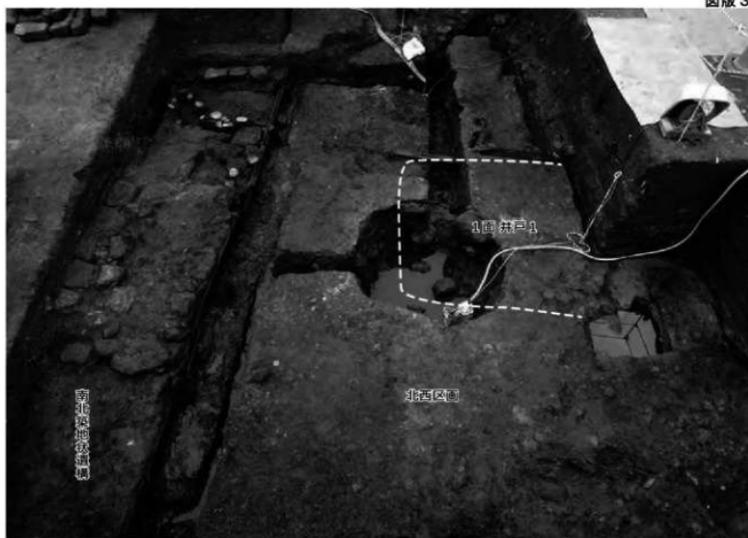
3. IA区1面下 全景 (北から)



4. IA区1面下 全景 (北東から)



5. IA区1面下 木組み1 (西から)



1. IA区2面 全景（北から）



2. IA区2面 木組み遺構（北西から）



3. IA区2面 木組み遺構（南西から）



4. IA区2面 南北築地状遺構下（南東から）

図版 4



1. I A区2面 全景 (北から)



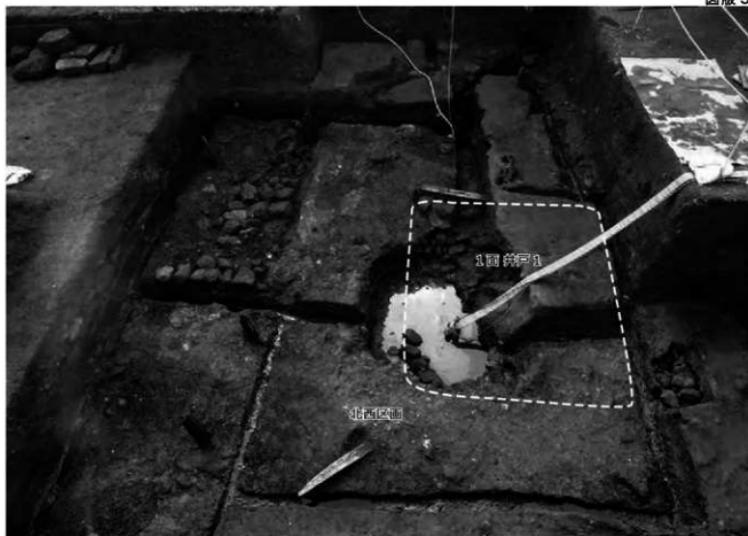
2. I A区2面 全景 (北東から)



3. I A区2面 木組み遺構 (南西から)



4. I A区2面 作業風景 (南西から)



1. IA区2面下 全景 (木組み護岸取り外し後・北から)



2. IA区5面 泥岩塊集積 (北東から)



3. IA区5面 泥岩塊集積 (東から)



4. IA区5面上 遺構プラン (東から)



5. IA区5面上 遺物出土状況 (瀬戸入り)

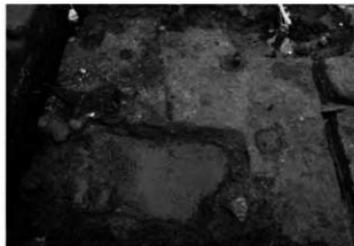
図版 6



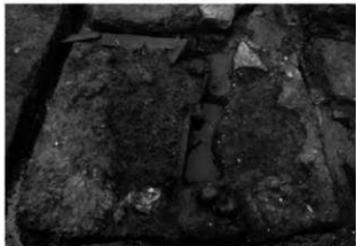
1. I A区5面 全景 (遺構プラン検出時・北から)



2. I A区5面上 南部遺構プラン (西から)



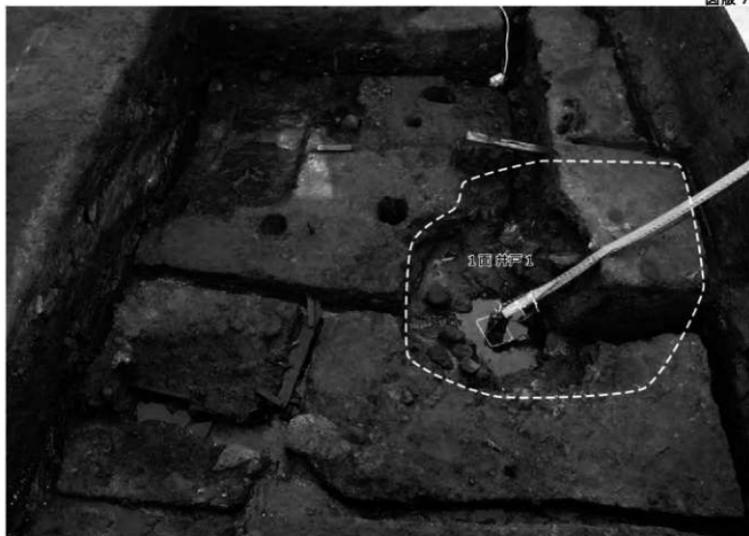
3. I A区5面上 南部遺構プラン (東から)



4. I A区5面 北東部遺構プラン (東から)



5. I A区5面上 遺物出土状況 (漆器碗)



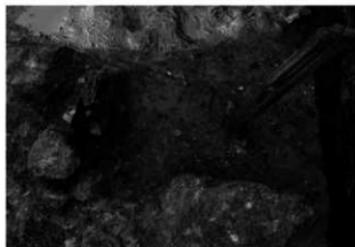
1. 1A区5面 全景 (北から)



2. 1A区5面 全景 (西から)



3. 1A区5面 南部 (東から)

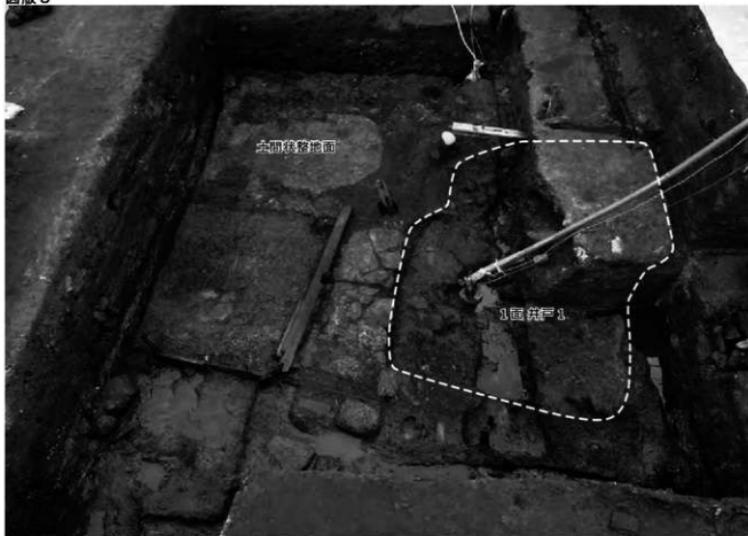


4. 1A区5面 囲炉裏状痕跡 (西から)



5. 1A区5面上 遺物出土状況 (飾り板)

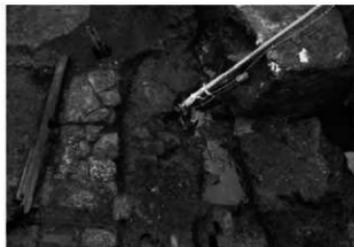
図版 8



1. I A区6面 全景 (北から)



2. I A区6面 南東部 (北東から)



3. I A区6面 北西部 (北から)



4. I A区6面 全景 (南西から)



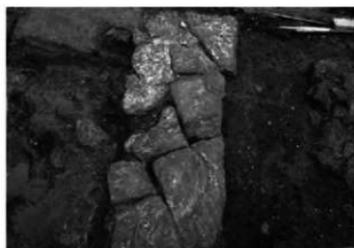
5. I A区6面 遺物出土状況 (漆器碗)



1. IA区6b面 全景 (北から)



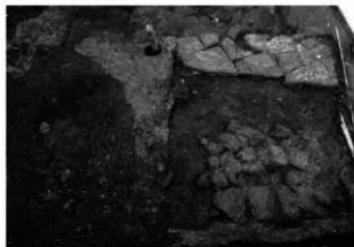
2. IA区6b面 全景 (西から)



3. IA区6b面 切石敷き遺構 (南から)



3. IA区6b面 南部炭層 (南から)



5. IA区6b面 北東部 (東から)



1. I A区7面 全景 (北から)



2. I A区7面 全景 (西から)



3. I A区7面 全景 (南から)



4. I A区7面 木材出土状況 (東から)



5. I A区7面 曲物出土状況 (西から)



1. IA区7面下トレンチ 全景(南から)



2. IA区7面下トレンチ南部 西壁土層断面



3. IA区7面下トレンチ北部 西壁土層断面



4. IA区 埋め戻し後(南西から)



5. II区 表土掘削状況(北東から)

图版 12



1. I A区 北壁土层断面



2. I A区 東壁土层断面



1. 1A区2面 木組み1下部角材 (北東から)



2. 1A区 西壁土層断面 (2面 木組み1の落ち込み部分)

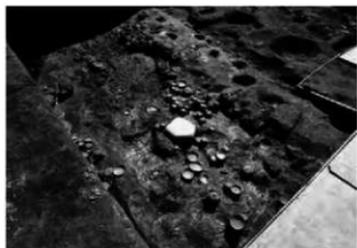
図版 14



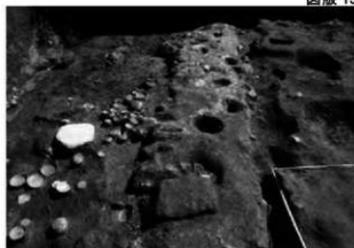
1. II区 表土除去後 (北から)



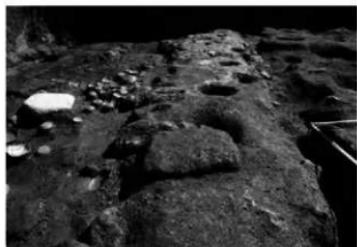
2. II区2面 全景 (北から)



1. II区2面 北部 (北西から)



2. II区2面 東西築地状遺構 (西から)



3. II区2面 東西築地状遺構 (西から)



4. II区2面 東西築地状遺構断面 (西から)



5. I B区・II区2面 全景 (西から)



1. I B区・II区2面 (上空から、写真上が北)



2. 南東区画2面 遺物出土状況



3. 南東区画2面 遺物出土状況



4. 南東区画2面 遺物出土状況



5. 南東区画2面 遺物出土状況



1. I B区・II区2面（北西上空から）



2. 第1回空撮状況（2020年3月13日）



3. II区2面下（制限深度まで、北から）



1. II区 2面下 (制限深度まで、東から)



2. II区北壁 土層断面 (南から)



3. II区北壁 土層断面 (2面かわらけ集中層、南から)



1. IB区2b面 全景 (上空から、写真左が北)



2. IB区2b面 全景 (北から)

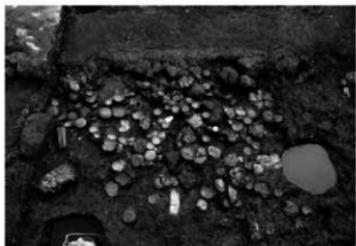
図版 20



1. I B区2 b面 東西築地状遺構下部(西から)



2. I B区2 b面 遺物出土状況



3. 北東区画2 b面 (北から)



4. 南東区画2 b面 (東から)



5. I B区2 b面 出土遺物



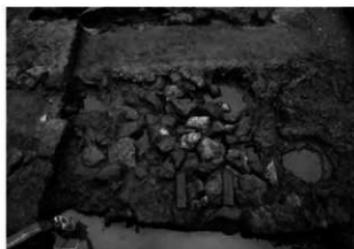
6. I B区2 b面 遺物取り上げ作業



1. 北東区画2b面(北から)



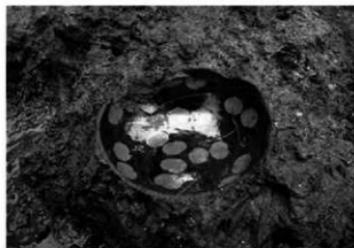
2. IB区2b面下(西から)



3. 北東区画2b面下 泥岩塊検出状況(北から)

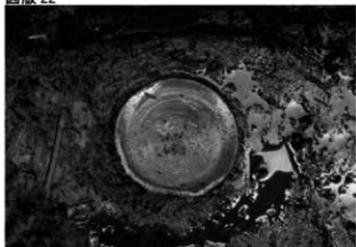


4. 南東区画2b面下 木組み遺構(北西から)



5. IB区2b面下 遺物出土状況

図版 22



1. I B区6面上 遺物出土状況



2. I B区6面上 遺物出土状況



3. I B区6面上 遺物出土状況アップ



4. I B区6面上 遺物出土状況



5. I B区6面 全景 (北から)



1. I B区6面 全景 (西から)



2. I B区6面 切石列・木組みなど (南西から)



3. I B区6面 木組み遺構 側面 (西から)



4. I B区6面 竹垣 (南東から)

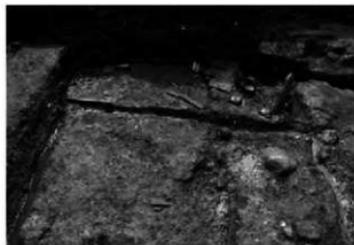


5. I B区6面 竹垣アップ (南から)

図版 24



1. I B区 大雨後の冠水状況(2020年4月14日)



2. I B区 7面 北半部 (西から)



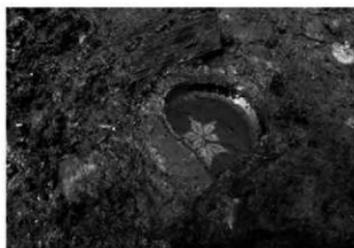
3. I B区 7面 遺物出土状況 (北西から)



4. I B区 7面 遺物出土状況



5. I B区 7面 遺物出土状況



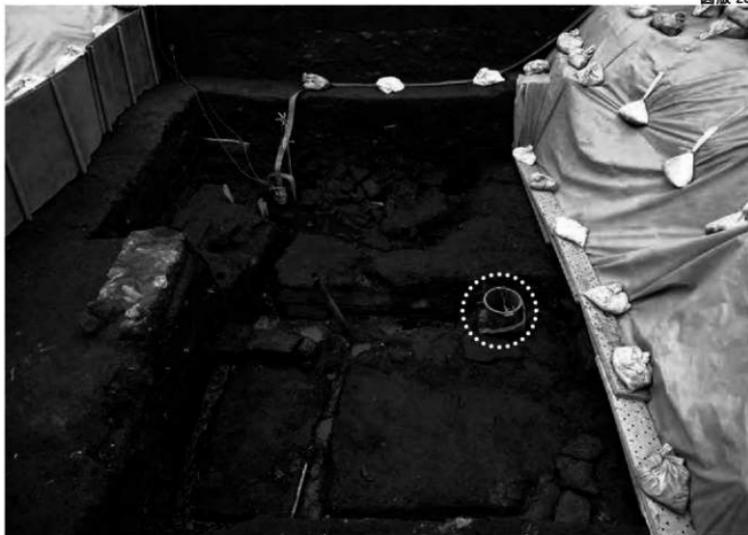
6. I B区 7面 遺物出土状況



7. I B区 7面 遺物出土状況



8. I B区 5面下～7面 遺物出土状況



1. I B区7面 全景（西から）○の位置で鋤先が出土



2. I B区 大雨後の冠水状況(2020年4月19日)



3. I B区7面 全景（北から）



4. I B区7面 北半部（北西から）



5. I B区7面 木組み遺構（北から）



1. IB区7面 北半部 (北から)



2. IB区7面 北半部 (東から)



1. IB区7面 溝1木組み護岸(西から)



2. IB区7面 溝1土層断面(西から)



3. IB区7面 溝1木組み護岸(北から)



4. IB区7面 溝1木組み護岸アップ(北から)



5. IB区7面 溝1木組み護岸(北西から)



6. IB区7面 溝1木組み護岸(北東から)

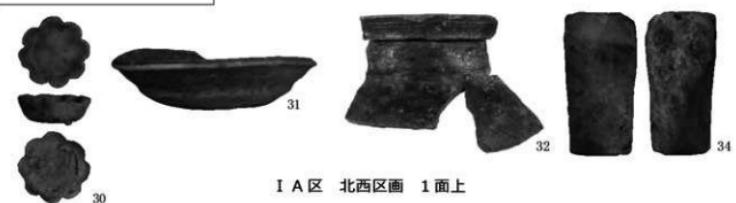
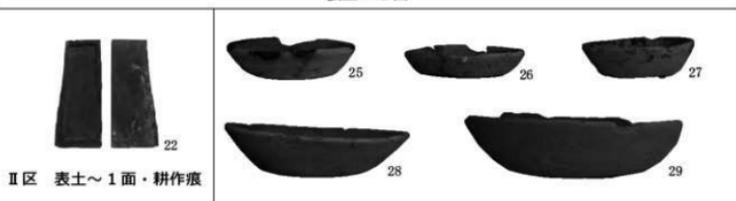


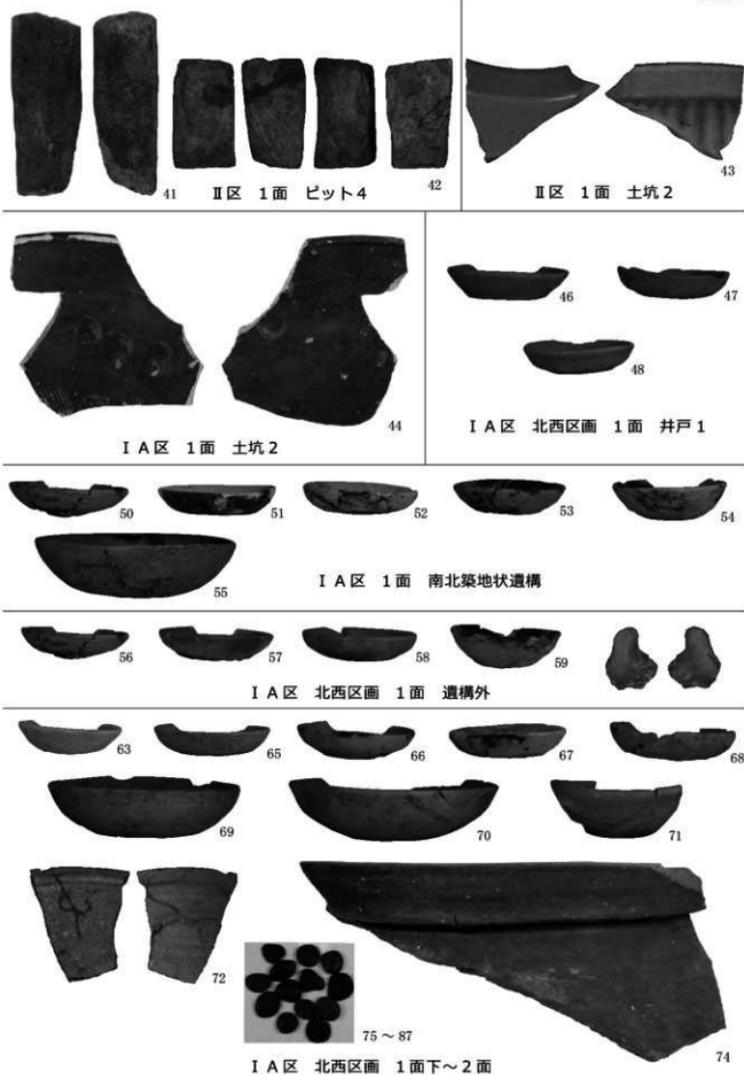
7. IB区 埋め戻し作業状況(北東から)



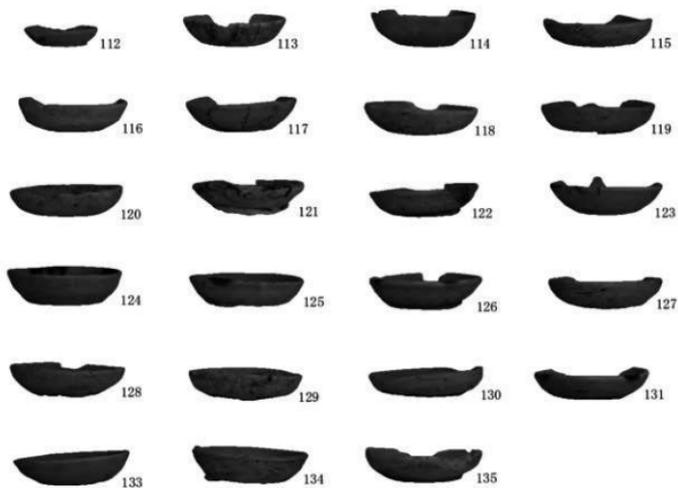
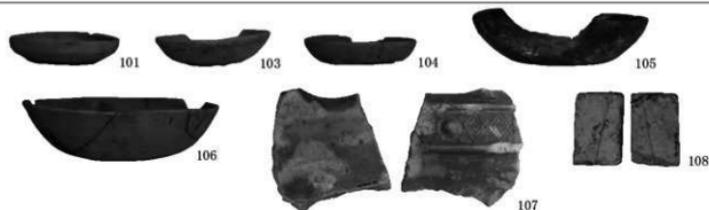
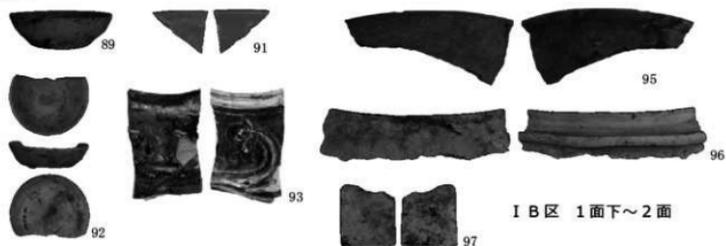
8. IB区 埋め戻し作業終了後(東から)

図版 28





图版 30





II区 北东区画 2面上

図版 32

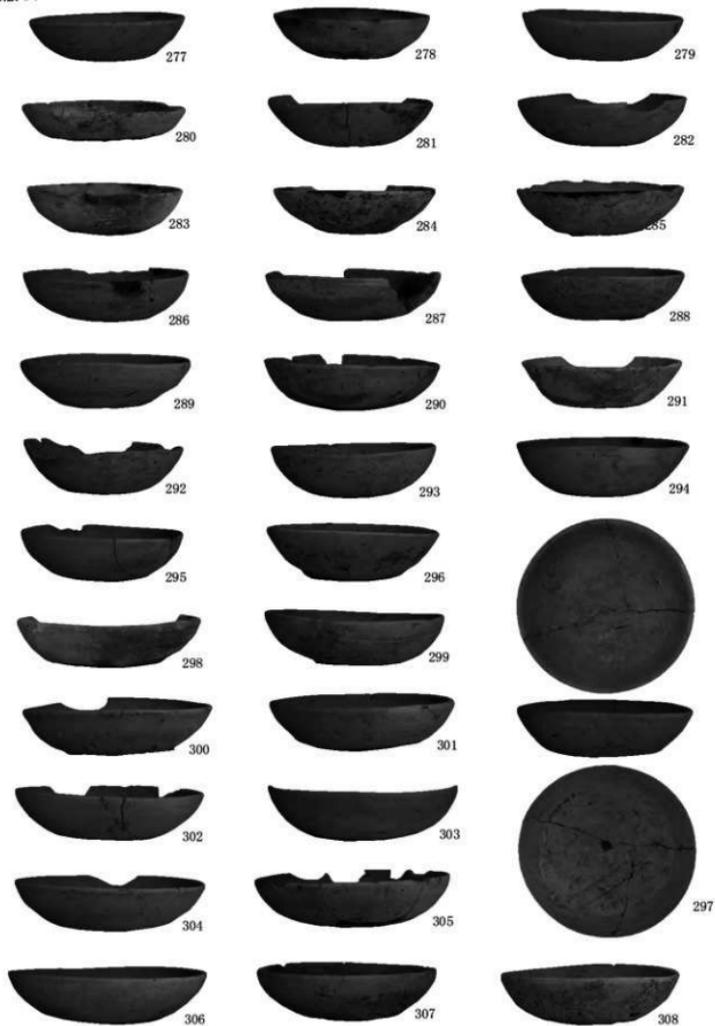


Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積

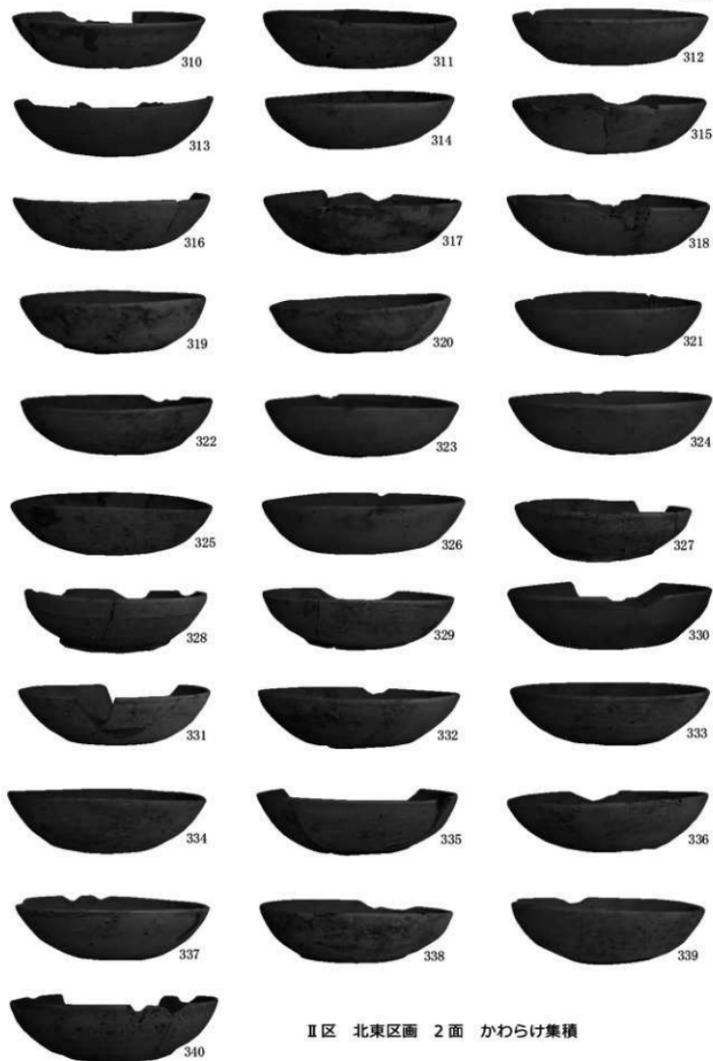


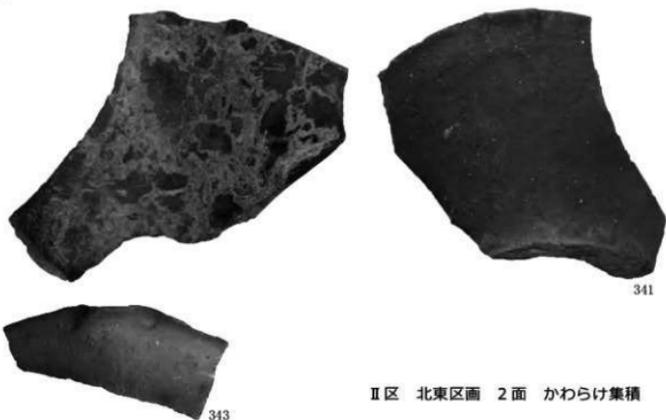
Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積

図版 34

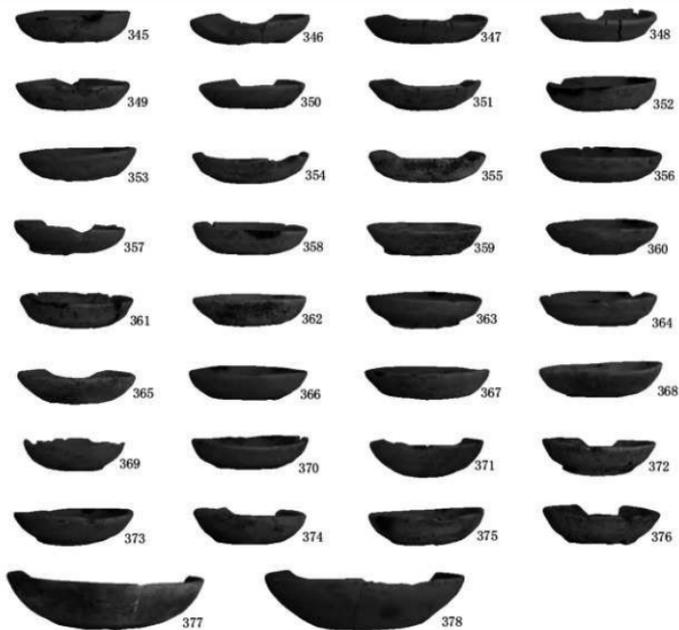


Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積



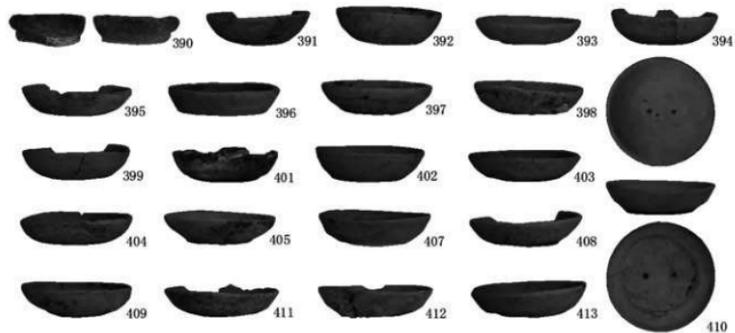


Ⅱ区 北東区画 2面 かわらけ集積





I B・II 区 北東区画 2面 かわけ集積(下層)



图版 38



I B · II 区 南東区画 2 面上



454



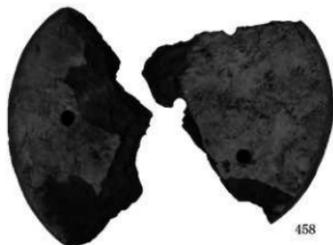
455



456



457



458



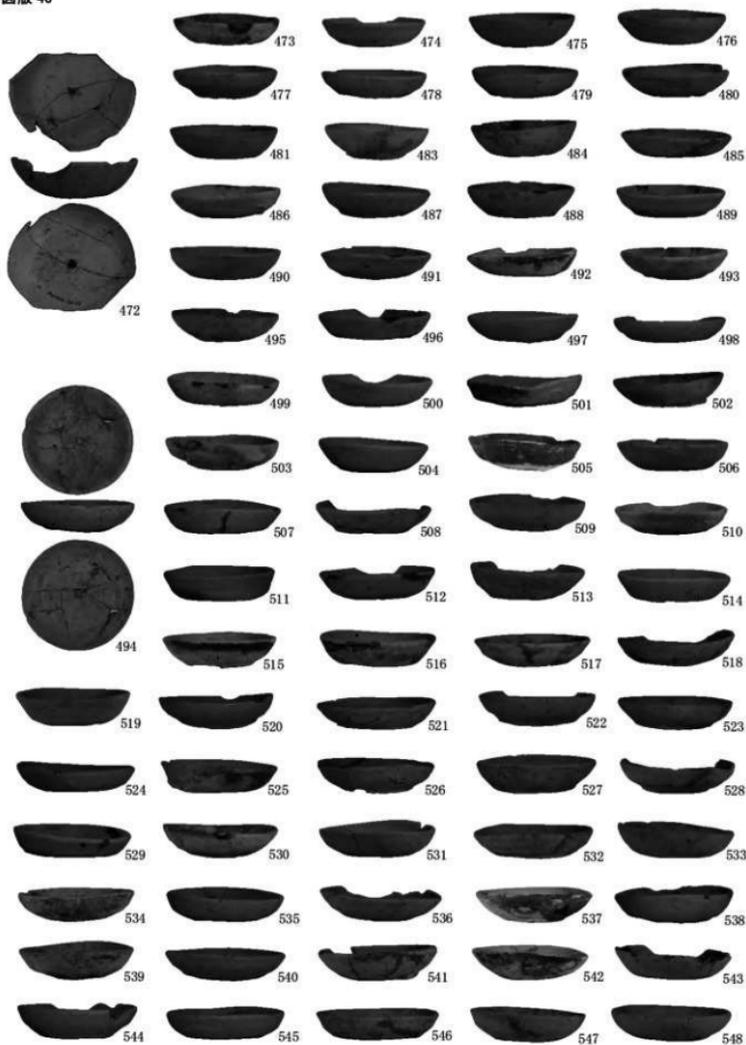
459



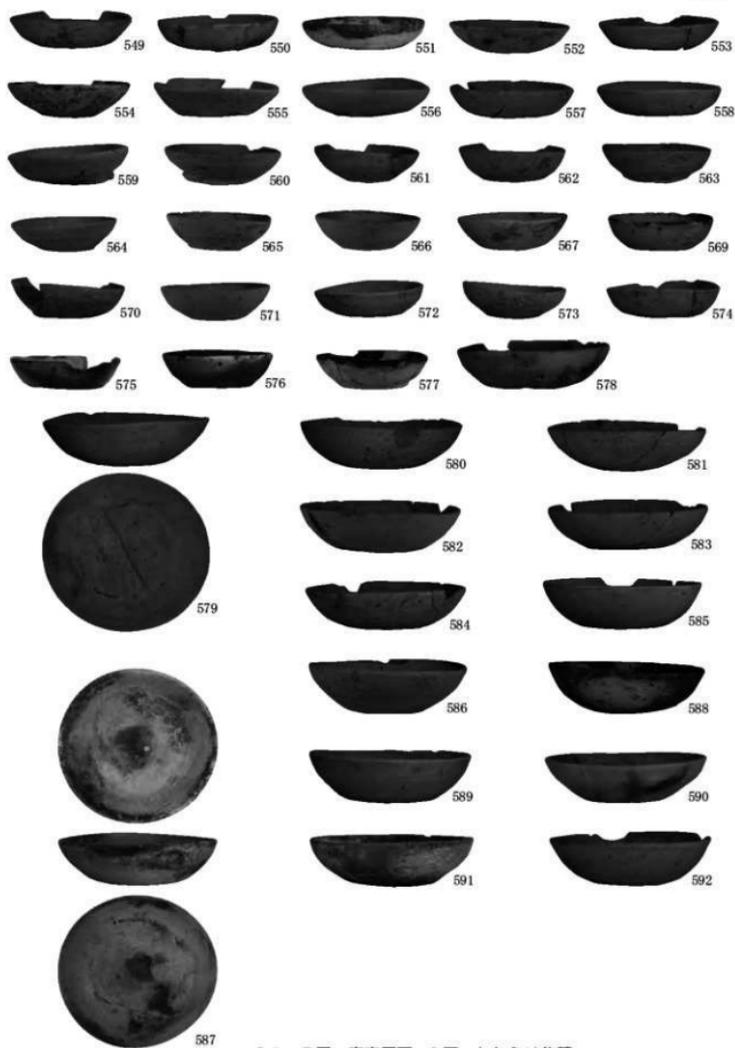
460

I B · II 区 南東区画 2 面上

図版 40



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積

図版 42



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積

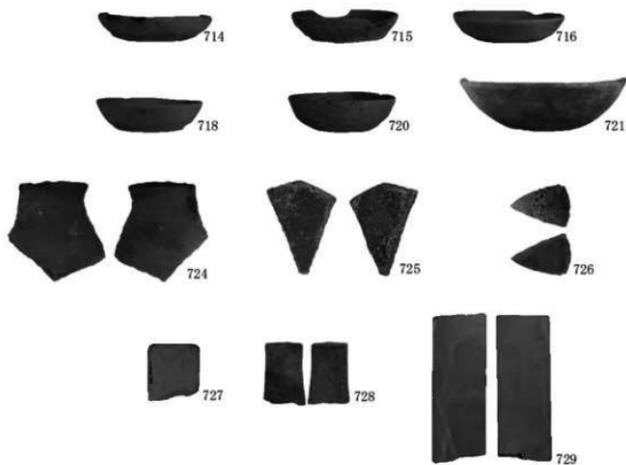
図版 44



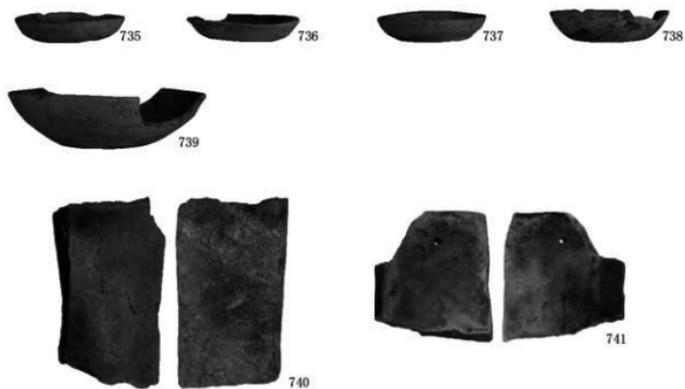
I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積



I B・II区 南東区画 2面 かわらけ集積



I B 南東区画 2面かわらけ集積 (下層)

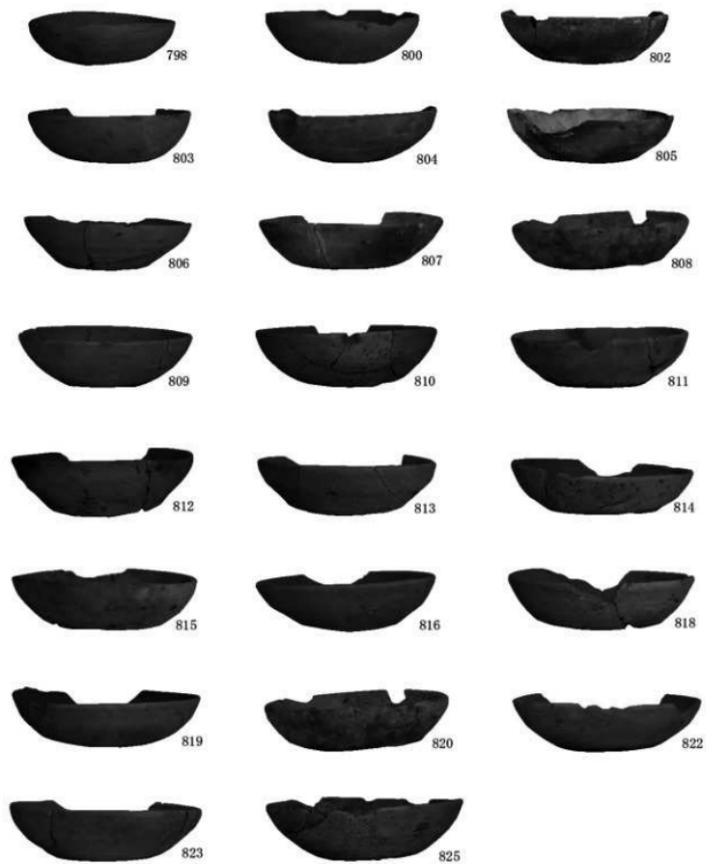


II区 南東区画 2面 かわらけ集積 (下層)



I B 区 北東区画 2b 面 かわらけ集積

図版 48



I B 区 北東区画 2b 面 かわらけ集積



I B 区 南東区画 2b 面 かわらけ集積

图版 50



I B 区 南東区画 2b 面 かわけ集積



I B 区 南東区画 2b 面
かわらけ集積下 マグソ層



I B 区 南東区画 2 面 かわらけ集積周辺 崩落土

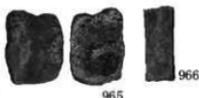
図版 52



I B 区 2b 面 遺構外



I B 区 2 面・2b 面下 サブトレンチ



I A 区 北西区画 2 面下～5 面 (最上層)



I B 区 2b 面 南北築地状遺構上 土坑 1 (灰ブラン)



I B 区 東西築地状遺構 築成土 (基底部まで)



987

I B 区 2b 面下~5 面 (最上层)



988



989



990



991



993

I A 区 北西区面 2b 面下~5 面 (上层)



994



996



997



998



1001



1002



1003



1004



1005



1006



1007



1008



1009



1010



1011



1012



1013



1014



1017



1018



1019



1020



1021



1022



1023



1024



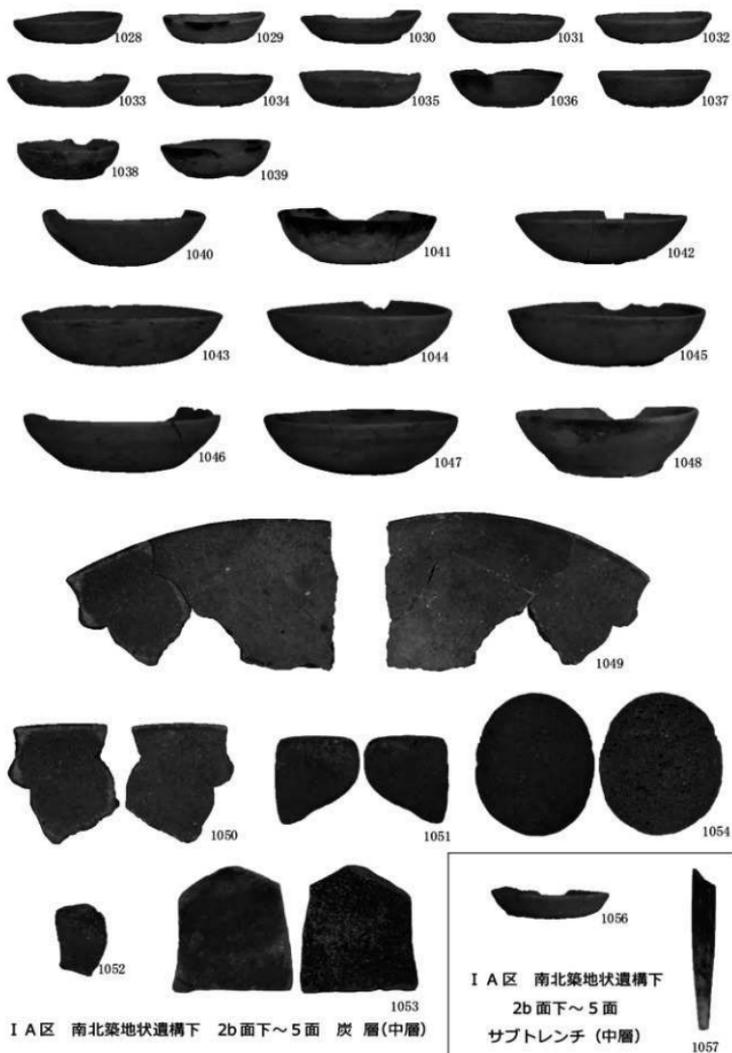
1025



1027

I A 区 南北築地状遺構下 2b 面下~5 面 炭層 (上层)

図版 54





1060

I A 区 南北築地状遺構下
2b 面下~5 面 地割孔状痕跡



1063

I A 区 南北築地状遺構下
2b 面下~5 面 泥岩集積 (下層)



1061



1062



1064



1065

I A 区 南北築地状遺構下
2b 面下~5 面 (下層)



1066

I A 区 5 面 囲炉裏 1



1069



1070



1071



1072



1073



1075



1076



1077



1078



1079



1080



1081



1082



1083



1084



1085



1086



1088



1087



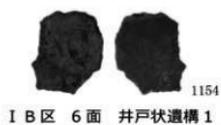
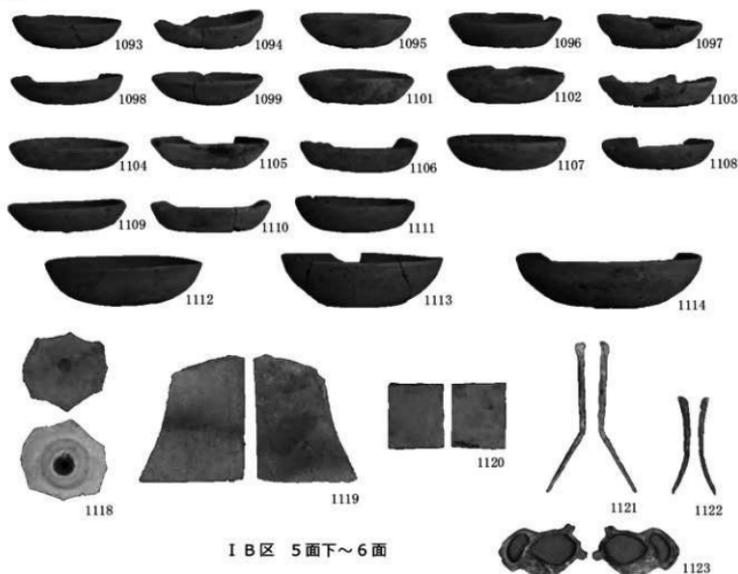
1090

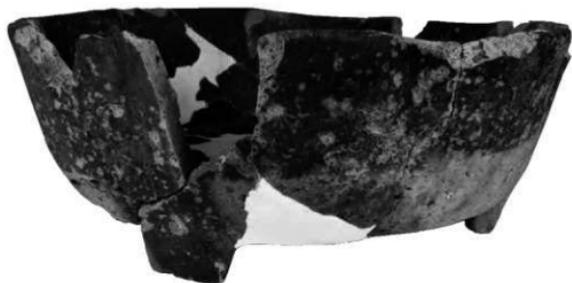


1092

I A 区 5 面下~6 面

图版 56





1170

I B 区 6b 面下~7 面



I B区 7面 溝 1



I A区 7面 マグソ土坑



I B区 7面 遺構外



I B区 7面下~10面
サブトレンチ



I A区 2b面下
~5面 (上層)



I A区 2b面下
~5面 (下層)



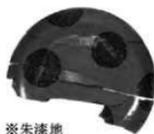
I A区
5面上 遺構外



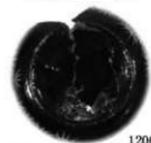
I A区 5面下~6面 遺構外



I A区 5面下~6面 遺構外



I A区 7面 土坑1



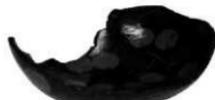
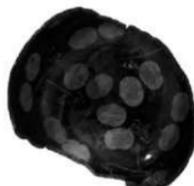
1206

1205



1215

I B区 2面
東西築地状遺構
築成土
(基底部まで)



I B区 南東区画
2b面下~5面 (最上層)

1218



1211



1214



1213

I B区 南東区画
2b面 かわらけ集積



1219

I B 区
2b 面下
~5 面
サブトレンチ



1222



1223



1224

I B 区 6 面 板壁建物状遺構 埋土



1225



1226



1227

I B 区 6 面
板壁建物状遺構 埋土 (マグソ層)



1229

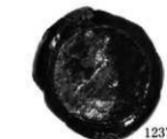
I B 区
6 面上
遺構外



1232



1237



1242



1246



1248



1251



1253



1255



1257



1259

I B 区 6 面上 マグソ層

I B 区 7 面 溝 1



1260



1260

1260・1261
I B 区
6b 面下～7 面



1262

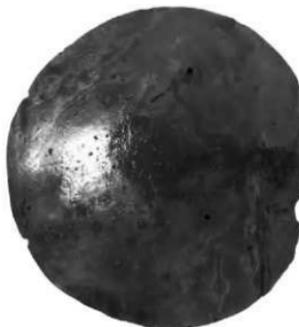
I A区 5面 团炉裏 1



1263



1264



1265



I A区 5面下~6面 マグソ層



1266



1268

I A区 7~9面



1270



1271

I B区
7面 溝 1



1273



1269

I B区 6面上 遺構外



1274

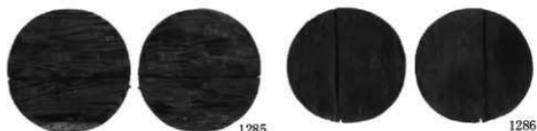


1275

I A区
北西区面 1面 井戸 1



1278



1285

1286



1287



1288



1289



1290

I A 区 北西区画 2 面下~5 面 (最上層)



1280



1281

I A 区 北西区画
2 面 遺構外
(1 279 のみ区画不明)

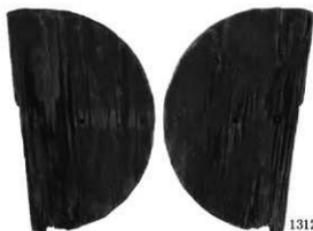


1304

I A 区 北西区画 2 面下~5 面 (上層)



1306



1312

I A 区 2 面下~5 面 (上層)



1317



1318



1320



1319

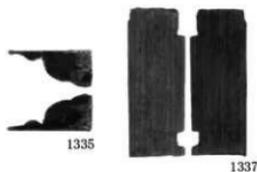
I A 区 2 面下~5 面 (上層)

图版 64



1327

I A 区 南北築地状遺構下
2面下~5面(上層)



1335

1337

I A 区 南北築地状遺構下
5面下 泥岩集積



1342



1330

1332

1329

I A 区 南北築地状遺構下
5面下 地割孔状痕跡



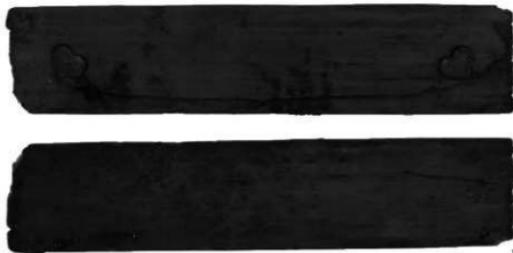
1340



1343

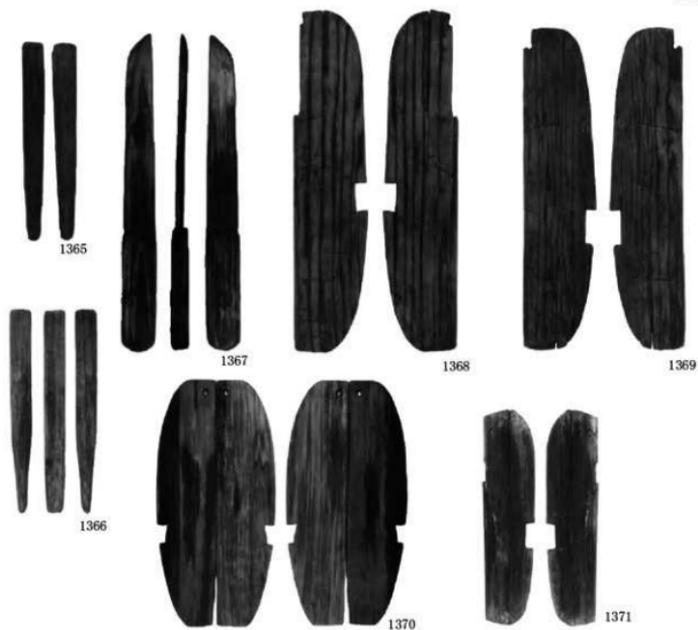
1345

I A 区 北西区画 2面下~5面(下層)



1349

I A 区 5面上 遺構外



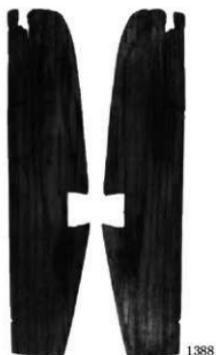
I A 区 5面下~6面 マグソ層



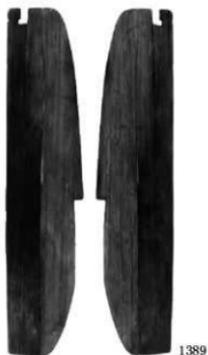
I A 区 5面下 サブトレンチ



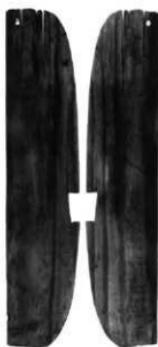
1387



1388



1389



1390



1391



1393

I A 区 5 面下~6 面 (下層)



1410

I A区 6b面下~7面



1415

1416

1417

1418



1420

I A区 7面 坑1



1419

I A区 6b面下~7面



1424



1425



1426



I A区 7面下~8面 サプトレンチ



I A区 7面下~9面
サプトレンチ



I B区 南東区画 2面 かわらけ集積



1431

I A 区 9 面下 サブトレンチ



1432



1433



1439

I B 区 南東区画
2b 面 かわらけ集積



1447



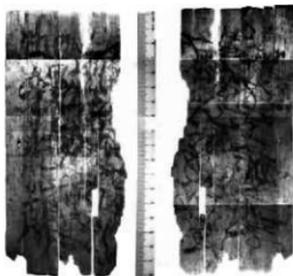
1448

I B 区
北東区画
2b 面下～5 面 (最上層)



1449

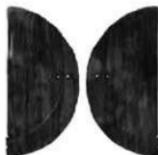
I B 区
東西築地状遺構下
2b 面下 底部まで



1461



1460



1463



1465

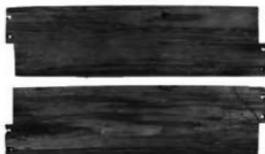
I B 区 6 面 板壁建物状遺構 埋土 (マグソ層)



1467



1469



1470

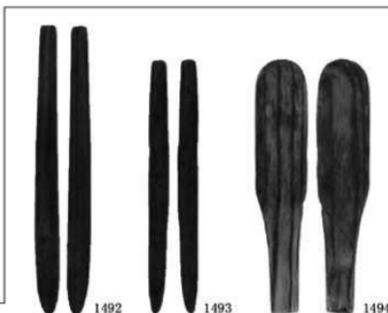


1471

I B 区 6 面 板壁建物状遺構 埋土 (マグソ層)



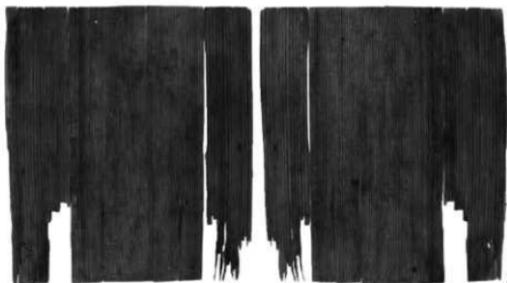
1468



1492

1493

1494

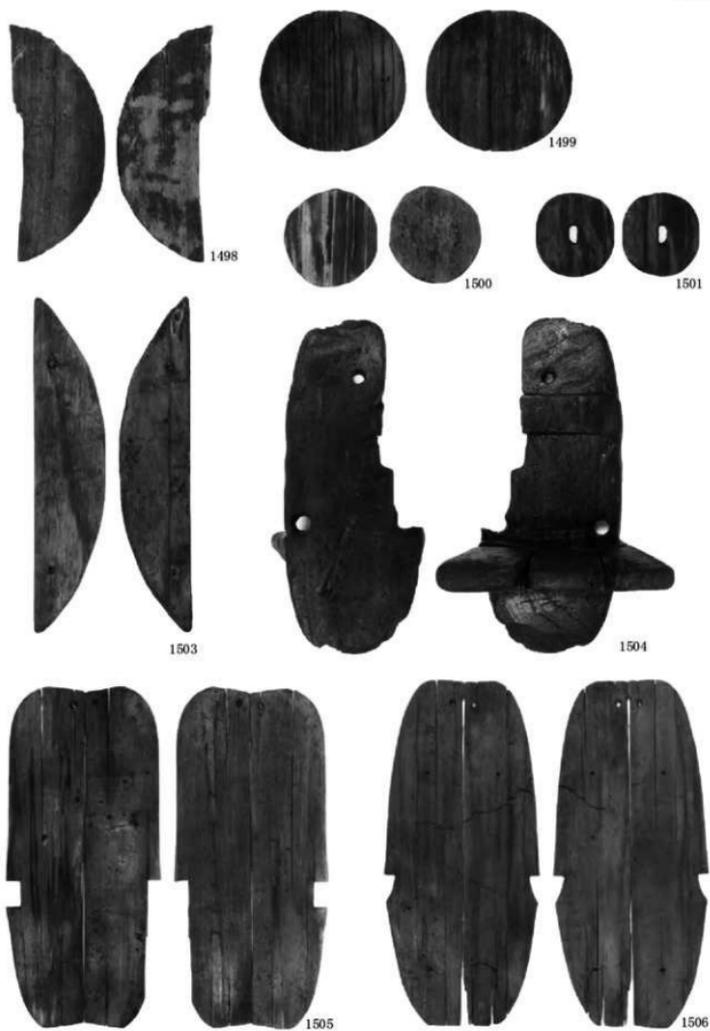


1495



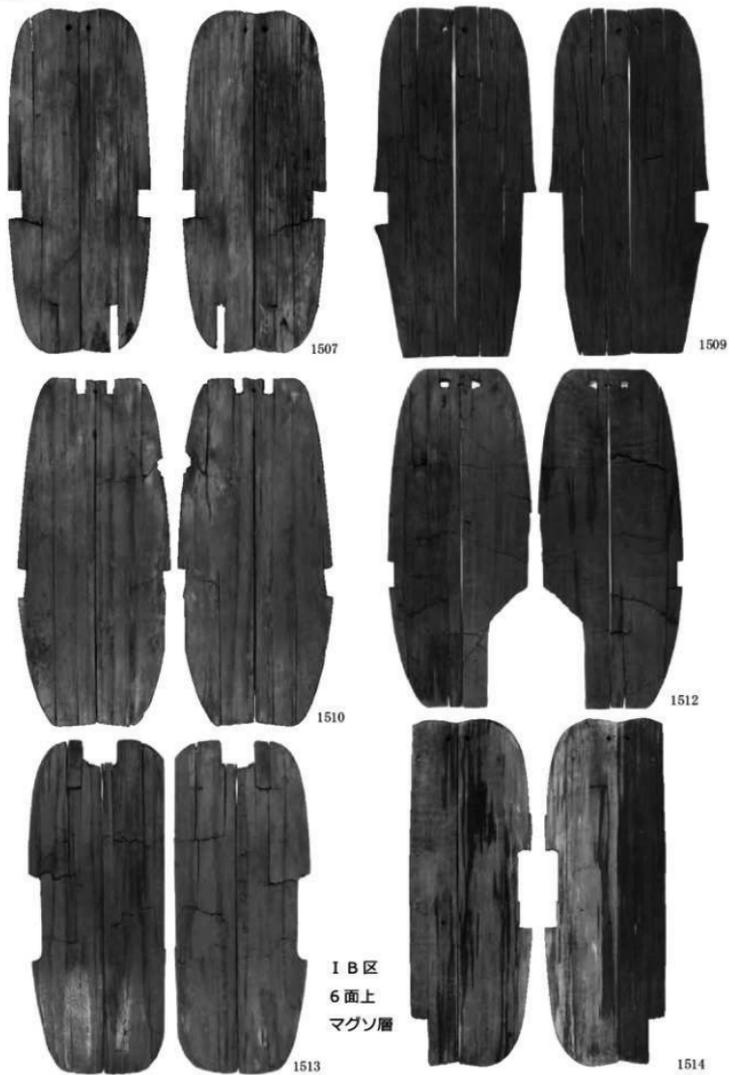
1496

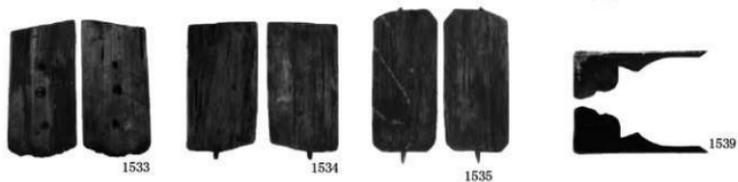
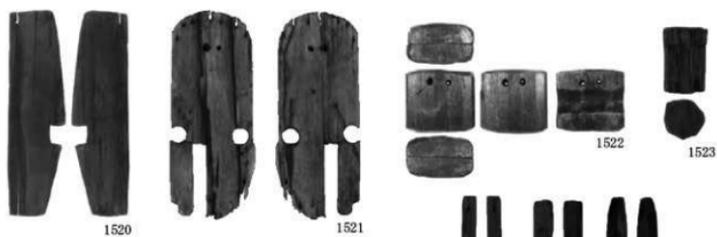
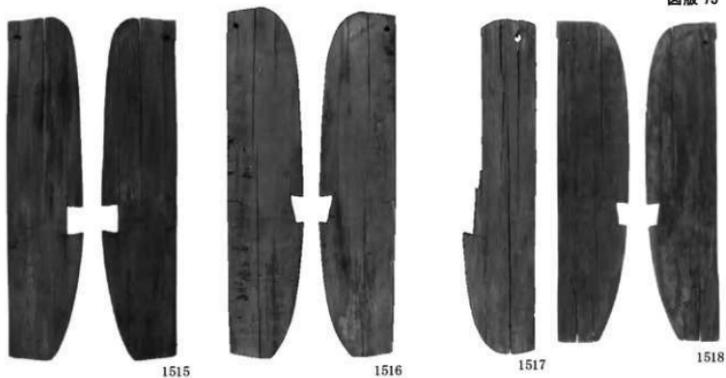
I B 区 6 面上 マグソ層



I B 区 6 面上 マグソ層

図版 72





I B 区 6 面上 マグソ層

图版 74





1559



1560

I B区 7面 溝1



1562



1563



1564

I B区 6面下~7面



1565



1561



1566

I B区 7面
マグソ土坑

佐助ヶ谷遺跡 (No. 203)

佐助一丁目 601 番 6 地点

例 言

1. 本編は、鎌倉市佐助一丁目 601 番 6 において実施した、「佐助ヶ谷遺跡」（鎌倉市 No. 203 遺跡）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は令和 2 年 9 月 1 日から同年 12 月 25 日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、113.0 ㎡である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者	押木弘己
調査員	菅野知子、梅岡ケイト、廣田倫子、小川さやか、高坂明子
作業員	小口照男、吉澤 功、星 栄人、石田光久、遠藤雅廣、大澤清春、森野 修、高橋裕喜（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）
調査協力	株式会社 博通
資料整理・報告書作成	押木、菅野、梅岡、廣田、太田しのぶ、菊川 泉、吉田桂子
4. 本報告の執筆は、第一章を米澤雅美が、第二章～第六章を押木が行った。
5. 資料整理および本報告の作成は、鎌倉市文化財課分室で行った。
6. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「S S K 2 0 0 3」とし、出土品への注記などに使用した。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（JGD2011- 第 IX 系）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y 軸）で、真北はこれより 0° 09' 25" ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水糸高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
 - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2019 「鎌倉出土かわらけの系譜と編年—東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要 第 56 号 第 4 部 人文・社会・自然科学編』鶴見大学
 - ◆瓦質土器：河野眞知郎 1993 「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河 第 2 集』神奈川県考古学会
 - ◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編一』太宰府市教育委員会 2000
 - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史 別編窯業 3 中世・近世常滑系』愛知県 2012
 - ◆遺物観察表（表 3）のうち、かわらけ胎土の分類記号（A～E）は以下の内容を示す。
A：粉質 B：泥質 C：精良・硬質 D：泥質・精良 E：砂質・硬質
これらはいずれも在地産土器であり、基本的に白色針状物質（骨針化石）・泥岩粒・雲母片などの混入物を含むが、個体ごとに有無・多寡もある。大よそ E・D→B・C→A という順で新しくなり、C は所謂「薄手丸深型」に、A は所謂「戦国タイプ」に使用される。

目 次

本文目次

第一章 調査に至る経緯	249
第二章 遺跡の位置と歴史的環境	
第1節 遺跡の位置と歴史	249
第2節 周辺の発掘調査成果	250
第三章 調査の経過と方法	253
第四章 基本土層	253
第五章 検出遺構と出土遺物	
第1節 1面の遺構と遺物	255
第2節 2面の遺構と遺物	262
第3節 3面の遺構と遺物	276
第4節 4面の遺構と遺物	278
第5節 4面下	289
第6節 遺構外の出土遺物	289
第六章 調査成果のまとめ	316

挿図目次

図1 調査地点の位置	251	図18 出土遺物(7)	274
図2 調査区配置図	254	図19 出土遺物(8)	275
図3 土層断面図(表土~1面)	256	図20 出土遺物(9)	276
図4 土層断面図(1面以下)	257	図21 出土遺物(10)	277
図5 1a面全体図	260	図22 出土遺物(11)	278
図6 1b面全体図	261	図23 出土遺物(12)	279
図7 2面全体図	263	図24 出土遺物(13)	280
図8 3a面全体図	264	図25 出土遺物(14)	281
図9 3b面全体図	265	図26 出土遺物(15)	282
図10 4面全体図	266	図27 出土遺物(16)	283
図11 4面下全体図	267	図28 出土遺物(17)	284
図12 出土遺物(1)	268	図29 出土遺物(18)	285
図13 出土遺物(2)	269	図30 出土遺物(19)	286
図14 出土遺物(3)	270	図31 出土遺物(20)	287
図15 出土遺物(4)	271	図32 出土遺物(21)	288
図16 出土遺物(5)	272	図33 隣接地点合成図	289
図17 出土遺物(6)	273		

表目次

表1 佐助ヶ谷遺跡(佐助一丁目601番6) 発掘調査にかかる届出等の文書・・・249	表3 出土遺物カウント・計量表・・・291～300
表2 周辺の主な調査地点・・・252	表4 出土遺物観察表……………301～315

写真図版目次

図版 1

1. 発掘調査着手前(北から)
2. I区 表土掘削状況(南西から)
3. I A区 1b面 全景(南西から)
4. I A区 1b面下 全景(南西から)
5. I A区 2面下 全景(南から)

図版 2

1. I B区 1b面 全景(南西から)
2. I B区 1b面 溝1b護岸材(北東から)
3. I B区 1b面 竪穴1(西から)
4. I B区 1b面下 全景(南西から)
5. I B区 2面下時 竪穴1基礎部分(南西から)

図版 3

1. I B区 3面 かわらけ集中(北東から)
2. I B区 3面 かわらけ集中(北から)
3. I B区 3面 遺構プラン(北東から)
4. I B区 3面 遺構プラン(南西から)
5. I B区 3面 全景(南西から)

図版 4

1. I B区 4面 全景(北西から)
2. I C区 1b面 全景(北東から)
3. I C区 2面 全景(南東から)
4. I C区 2面下 全景(南西から)
5. I C区 2面下 遺物出土状況(漆器蓋)

図版 5

1. I C区 3面 全景(南西から)
2. I C区 4面 全景(南西から)

図版 6

1. I D区 1b面 全景(南西から)
2. I D区 1b面 全景(南東から)
3. I D区 2面 全景(南西から)
4. I D区 2面上 遺物出土状況(南西から)
5. I D区 2面上 遺物出土状況(漆器碗)
6. I D区 3面 全景(南西から)
7. I D区 4面 全景(北東から)
8. I D区 4面上 遺物出土状況(かわらけ)

図版 7

1. II区 1a面 遺構プラン(北西から)
2. II区 1a面時 作業状況(南西から)
3. II区 1a面 全景(北西から)
4. II区 1a面 溝1a遺物出土状況(常滑甕)
5. II区 1a面 切石検出状況

図版 8

1. II区 1b面 全景(北西から)
2. II区 1b面 遺物出土状況(漆器台座)
3. II区 1b面時 溝1b・溝1c(北東から)
4. II区 1b面時 溝1b・溝1c(北から)
5. II区 1b面 遺物出土状況(鯨骨)

図版 9

1. II区 2面 遺構プラン(北西から)
2. II区 2面 全景(北西から)

図版 10

1. II区 2面下 全景(北西から)
2. II区 3面炭層上 全景(北西から)

図版 11

1. II区 3面 遺構プラン(北西から)
2. II区 3面 遺物出土状況(漆器皿)
3. II区 3面 遺物出土状況(漆器皿)
4. II区 3面 遺物出土状況
5. II区 3面 遺物出土状況(漆器皿)

図版 12

1. II区 3面 全景(北西から)
2. II区 4面 全景(北西から)

図版 13

1. III区 1a面 全景(北西から)
2. III区 1a面 全景(南西・低位から)

図版 14

1. III区 2面 全景(北西から)
2. III区 3面 全景(北西から)

図版 15

1. III区 3面 全景(北東から)
2. III区 3面上 遺物出土状況(南から)
3. III区 3面上 遺物出土状況(東低位から)
4. III区 4面上 遺構検出状況(北東から)
5. III区 4面 遺構プラン(北西から)

図版 16

1. III区 4面 全景(北西から)
2. III区 4面 全景(南西から)

図版 17

1. III区 4面 ビット内 礎板と柱材(北西から)
2. III区 4面上 遺物出土状況(北低位から)
3. III区 4面下(北東から、ビットは3・4面遺構)
4. III区南壁 土層断面(北西から)
5. III区東壁 土層断面(南西から)

図版 18～28 出土遺物

第一章 調査に至る経緯

平成30年12月、当該地における土木工事について事業者より鎌倉市教育委員会文化財課へ相談があった。その内容は、現地地表下600cmに達する鋼管杭工事を行う個人専用住宅建設の計画であった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、事前に行なった確認調査の結果、現況地盤面より深さ140cmで中世遺物包蔵層、160cmで遺構を確認し、更に下層まで遺跡が残存していることが確認された。その結果により、当該工事計画が埋蔵文化財に影響を及ぼすことが避けられないとの判断に至った。

令和2年2月10日付で事業者より文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出を受理した。これに対して、令和2年3月19日付で神奈川県教育委員会教育長より発掘調査を実施する旨の指示が通知され、当該地の埋蔵文化財については発掘調査を実施して、記録保存の措置を図ることとなった。事業者は令和2年8月7日付で鎌倉市教育委員会に発掘調査依頼書を提出し、発掘調査は令和2年9月1日に開始し、令和2年12月25日に終了した。

表1 佐助ヶ谷遺跡(佐助一丁目601番6)発掘調査にかかる届出等の文書

文書種別・内容	文書番号	日付	発信者	受信者	備考
確認調査	依頼	令和元年12月18日	事業者	鎌倉市教育委員会	
	実施	令和2年1月29日・30日			
文化財保護法93条	提出	令和2年2月10日	事業者	神奈川県教育委員会	
	通知	文遺第61113号 令和2年3月19日	神奈川県教育委員会	事業者	
出土品の手続き	発見届	令和3年1月26日	鎌倉市教育委員会	鎌倉警察署	
	保管証	令和3年1月26日	鎌倉市教育委員会	神奈川県教育委員会	
	認定と帰属	文遺第51042号 令和3年2月8日	神奈川県教育委員会	鎌倉市教育委員会 土地所有者	

第二章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と歴史

本調査地は鎌倉市佐助一丁目601番6に所在する。遺跡名となっている佐助ヶ谷は鎌倉中心市街地の西側、源氏山から南に派生する二筋の丘陵に挟まれた南北900mほどの開析谷で、谷筋に沿って佐助川が南流する。開口部は東西200mほどの幅をもち、佐助川は御成山(天狗堂崎)の南端裾で東に流れを変え、谷戸内は樹枝状に支谷が刻まれ、天保三年(1832)作成の「扇ヶ谷村絵図」には「坂下谷」や「法蓮寺谷」といった名称が記載されている。

佐助地域の歴史については、最近、分かりやすくまとめられた成果があるので詳しくはそちらを参照されたいが(鎌倉考古学研究所2021)、以下、これに準拠しながら、中世を中心とする当地域の歴史について述べたい。

地名としての佐助(佐介)の史料上の初見は、『吾妻鏡』の寛元四年(1246)六月二十七日条という。ここには「入道越後守時盛佐介第」と表され、この2年前に将軍職を譲り出家していた九条頼経(入道大納言家)が京に送還されるに先立ち、佐介にあった北条(佐介)時盛邸に移ったことを記している。建長四年(1251)三月二十一日条では頼経の子で前将軍の頼嗣が、文永三年(1266)七月四日条では現

將軍の宗尊親王がやはり政変の末に京へ送還されるに先立ち、時盛の「佐介亭」に移っている。実質は送還であっても建前上は「掃洛之御出門」であり、「佐介亭」が將軍経験者の掃洛に関わる儀礼の場として位置付けられていた可能性を窺わせる記事といえるだろう。当時の認識として、谷戸奥から丘陵を越えて鎌倉の外へと抜けるという、境界領域という性格が強い地域であったのかもしれない。ただ、この時盛「佐介亭」が具体的に佐助の那邊に所在したのか、そのことを示す史・資料は現時点では皆無である。

室町時代の応永二十三年（1416）、前の関東管領上杉氏憲（禪秀）が挙兵すると鎌倉公方足利持氏は関東管領上杉憲基の「佐介館」に身を寄せて防戦したという。このことから、鎌倉府が機能していた15世紀前半までは、佐助は要職者が邸宅を構える政治・軍事上の一拠点となり得たことを窺うことができよう。

第2節 周辺の発掘調査成果

佐助ヶ谷遺跡の範囲は谷戸の開口部から最奥部まで続くが、幾筋かの支谷には慶寺伝承が残り、その寺名が遺跡名となっている（国清寺跡・宝蓮寺跡など）。谷戸内全域を通じて発掘調査の事例は少なく、佐助ヶ谷遺跡で21地点、松谷寺跡で2地点、宝蓮寺跡で2地点などを数えるに過ぎない。佐助ヶ谷の21地点のうち、谷戸の開口部～「市役所通り」付近にかけての調査例で半数以上を占めており、その位置を図1に示した。各地点が隔たって分布しているため、それぞれの成果を相互に関連付けることは難しいが、本節では今回の調査地に程近い、代表的な成果について概略を述べる。図1-地点③では、鎌倉税務署の建設工事に先立って900㎡の調査が実施され、13世紀中頃以降、鎌倉時代後期～南北朝時代に営まれた建物群や井戸・道路といった遺構が検出され、土器・陶磁器の他、漆器を含む多種多様な出土遺物が注目された。特に囲炉裏を備えた「板壁掘立柱建物」の展開が良好な形で確認されており、「中世鎌倉でごく一般的な構造の建物」という評価がなされている。ただ、14世紀前半～15世紀初頭に比定されるⅢ期では瓦を利用した基壇や門、内部に倉が付属する建物、池などが営まれることから寺院の一面という位置付けがなされ、前段階のⅡ期＝13世紀後半～14世紀初頃頃における板壁建物を中心とする空間構成についても、「工務所」など寺社に関連していた可能性が指摘され、建物周辺で数多く出土した木製形代類や、宝塔の図像および「勅進中道口建立」との字句が陽刻された木印なども、これを補強し得る要素としている。

本調査地の西隣となる地点④では44㎡について調査が実施され、調査区のほぼ全域にわたり佐助川の旧流路と考えられる落ち込みが検出されている。実測図化できた遺物が皆無なため時期の特定はできないが、現状、当地点の西に接して流れる佐助川と流下方向が同じであることから、検出された河川跡を埋め立てて現行の流路に付け替えたことが考えられる。なお、当地点では河川の西岸のみが検出され東岸の確認には至っていないため今回の調査で確認できることを期待していたが、後述するように思惑通りの結果とはならなかった。

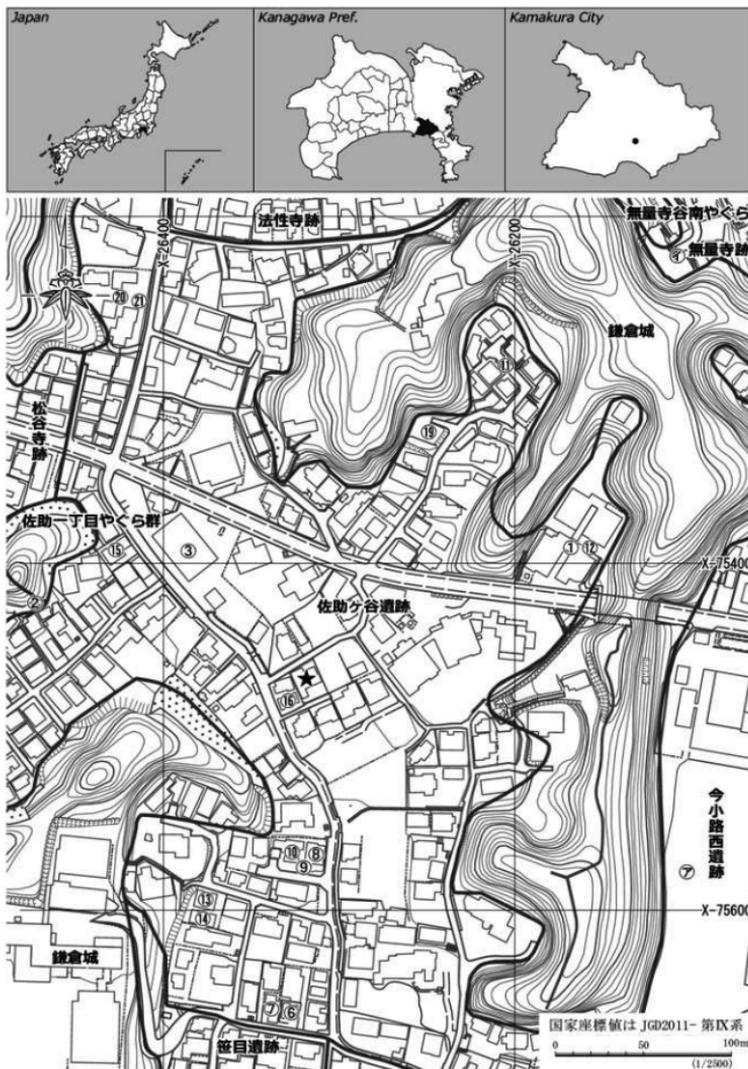


図1 調査地点の位置

表2 周辺の主な調査地点（番号は図1に対応。①～⑫は佐助ヶ谷遺跡跡内の調査次点）

No.	地番	調査年度 (開始年度)	面積 (㎡)	所収文献
佐助ヶ谷遺跡 (No.203)				
★	佐助一丁目 601 番 6	2020 年度	113	本報告
①	佐助一丁目 620 番	1986 年度	600	『佐助ヶ谷遺跡』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団 大三輪龍彦・他 1989
②	佐助一丁目 B	1986 年度		『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』 佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団・他 鎌 実・他 1991
③	佐助一丁目 566 番 1	1990～ 1991 年度	900	『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団 齋木秀雄・他 1993
④	佐助一丁目 450 番 24	1996 年度	80	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 高野昌巳 1998
⑤	佐助一丁目 450 番 25、27	1996 年度	62	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 滝澤晶子・他 1998
⑥	佐助一丁目 476 番 1	2000 年度	26	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 降矢順子・他 2002
⑦	佐助一丁目 476 番 1 の一部	2000～ 2001 年度	250	未報告
⑧	佐助一丁目 476 番 1 の一部	2001 年度	120	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 原 廣志・他 2004
⑨	佐助一丁目 583 番外	2001～ 2002 年度	518	『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』街鎌倉遺跡調査会 藤田哲夫 2005
⑩	佐助一丁目 615 番 1 外	2003 年度	1618	『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』街鎌倉遺跡調査会 齋木秀雄・他 2007
⑪	佐助一丁目 450 番 5 外	2004 年度	52	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 滝澤晶子・他 2009
⑫	佐助一丁目 450 番 29 外	2004 年度	47	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 滝澤晶子・他 2009
⑬	佐助一丁目 496 番 5	2004 年度	56	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25（第 2 分冊）』鎌倉市教育委員会 齋木秀雄・他 2009
⑭	佐助一丁目 601 番 4	2005 年度	44	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会 熊谷 満 2011
⑮	佐助一丁目 576 番 2、 578 番甲	2015 年度	217	『佐助ヶ谷遺跡 (No. 203) 発掘調査報告書』興博通 森 健一郎・他 2019
⑯	佐助一丁目 537 番 2、13、 541 番 3	2019 年度	500	未報告
⑰	佐助一丁目 537 番 2 の一部	2020 年度	675	未報告
今小路西遺跡 (No.201)				
⑱	御成町 625 番 3	1984～ 1985 年度	6000	『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会 河野眞知郎・他 1990
鎌倉城 (No.87)				
⑲	御成町 39 番 36	2005 年度 2006 年度	847 120	『鎌倉城 (No. 87) 発掘調査報告書』興斉藤建設 菊川英政・他 2005 『鎌倉城 (No. 87) 発掘調査報告書 第 2 次調査』興斉藤建設 瀬田哲夫 2007

参考文献（表 2 掲載分以外）

- 鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館 1969『鎌倉の古絵図Ⅱ』
- NPO 法人 鎌倉考古学研究所 2021『佐助地域を学ぶ 資料集』
- ・松吉大樹「佐助地域の歴史」
 - ・大三輪龍哉「佐助周辺の社寺」
 - ・宮田 眞「佐助ヶ谷地域の発掘調査」

第三章 調査の経過と方法

確認調査の結果により、本地点では地表下140 cmまでは表土層であることが判明していた。発掘調査に当たり、この部分は重機で掘削する予定であったが、これによる発生土を敷地内に仮置きする必要があったことから、植栽や重機の搬入経路などの安全面も考慮した結果、調査区は大きく3分割することとした。調査の着手順にⅠ→Ⅱ→Ⅲ区の名称を付した。Ⅰ区については、この方法でも発生土置き場が不足する状況が生じたため、中世遺物包含層の以下ではさらに4分割して人力掘削と記録作業を進め、調査が完了した順に、次なる調査区の掘削発生土で埋め戻して行く方法を取った。このため、Ⅰ区にはA～Dの4つの細分区名称を付す結果となった(図2)。なお、今回の調査では、安全面への配慮から止むを得ず未調査範囲が生じることとなった。

各区とも、重機掘削後の地表下140 cmより下位は人力による掘削作業に移行し、地表下250 cmの中世基盤層(中世以前の自然堆積層)の上面も含め、大別4枚の中世遺構面を確認した。

各区とも遺構確認ごとに写真撮影・測量図作成などの記録作業を行った。測量には国家座標系(JGD2011)の基準軸を用い、市道上に打設された都市再生街区多角点20A97、および同補助点3A113の2点間関係を起点とし、開放トラバース測量によって調査地の敷地内に基準点を移設した。標高は街区多角点20A97(13.049 m)を起点に、光波測距儀で測定を繰り返して現地敷地内まで移設した。

発掘調査は令和2年9月1日に調査区南西側となるⅠ区の表土掘削から着手し、順次Ⅱ・Ⅲ区と掘削～記録作業を進めた結果、12月25日に調査用具を引き上げて現地での作業工程は完了した。

出土品・記録類の整理作業と報告書作成は、令和2年度末～3年度にかけて断続的に、文化財課分室において行った。

第四章 基本土層

本地点の土層堆積状況を、図3・4に示した。現地表面の標高は13.6～13.7 m前後で、以下140 cmまでは大型の泥岩ブロックを主体とする盛土層(0層)と、それ以前の水田耕作土と思われる暗灰褐色粘質土層(Ⅰ層)が堆積していた。この下位にⅡ層・中世遺物包含層およびⅢ層・中世整地層の堆積が順次確認された。Ⅲ層中には、3枚程度の遺構面を確認できる。地表下230 cmとなる標高11.3 m前後ではごく少量の中世遺物を含むⅣ層が検出され、標高11.1 m前後では中世基盤層(中世以前の自然堆積層の意、以下同)となるⅤ層・黒褐色粘質土が検出された。Ⅳ層はⅤ層をベースとし近似した見た目であるが、若干軟質で多少の濁りがあることで識別できる。従来、鎌倉の遺跡調査者が「ネチャ」と呼んできたものに相当しよう。Ⅳ層の上面が、中世の遺構面として最も古い4面である。Ⅴ層からの出土遺物は皆無であったことから、鎌倉時代より遡る時期に堆積したものと考えて大過ないだろう。

なお、Ⅳ層とⅤ層についてはプラント・オパールなどの分析を行う目的で土壌サンプルを採取したが、令和3年12月時点において、分析は実施中である。

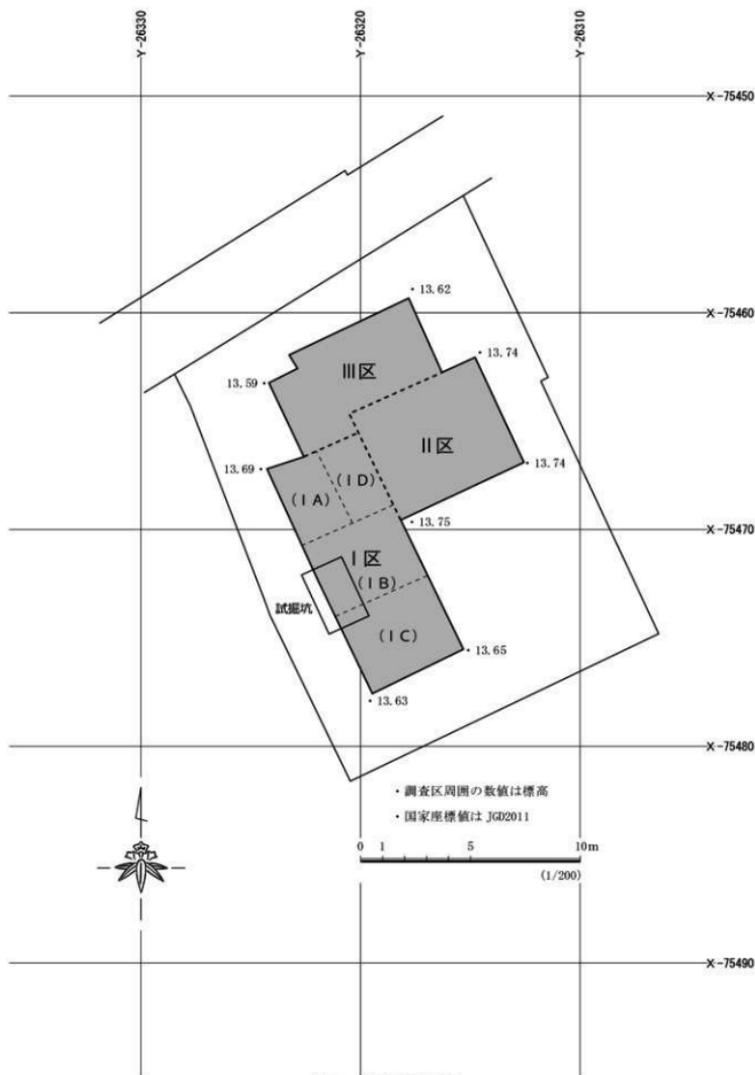


図2 調査区配置図

第五章 検出遺構と出土遺物

以下、上層から順に、検出遺構と出土遺物について説明して行く。遺物図（図12～32）については、トレース時の縮尺率が異なることから、微細な文様をもつ漆器類（図31・32）とその他（図12～30）とで分けて作成した。そのため、同一の層序や遺構から出土した遺物であっても、両者に分かれて掲載してしまっている可能性がある。注意されたい。

第1節 1面の遺構と遺物

表土および中世遺物包含層を除去した後、Ⅱ・Ⅲ区の東部では破砕泥岩を用いた整地面が検出され、この上面を1a面とした。これ以西は30cmほど下がった平坦面となっており、ここを1b面とした。1b面は1a面下にも続いていることから、1a面は部分的な貼り増し整地面であったと考えている。

1a面の西辺はN40°Wで直線状になっており、土留めの護岸材は確認できなかった。上面の標高は12.3～12.4m前後で、長さ60～70cm、深さ10～20cm程度の土坑が40～60cm前後の間隔で検出された。一見すると整地面の西辺と同一方向に並んでいるようだが、間隔が一定していないことから、調査範囲内の限りでは建物の柱穴、もしくは礎石の据え方であったのか、判断ができない。整地面西辺に接した1基に凝灰岩の切石（鎌倉石）が、もう1基には安山岩の扁平石（伊豆石）据わっていたが、それ以外の土坑には栗石も含め、礎石を据えた痕跡は残っていなかった。埋土は一律に暗褐色土の単層であることから、廃絶後、まとめて埋め戻された可能性を指摘できる。加えて、浅いすり鉢状を呈する断面形態からは何かを据え並べた状況が推察され、礎石列または埋め甕（据え甕）などが復元案として提示できる。

Ⅱ区1a面の南東隅では東西溝（溝1）が検出され、後述する1b面の溝1bと同位置にあることから、これに後続して営まれたものと考えている。部分的な検出ながら、上場幅100cm以上、底面幅30cm前後で、底面標高は12.0m前後を測る。流下方向は不明（おそらく河川のある西だろう）ながらN50°Eで延び、整地面の西辺ラインとは直交関係にある。埋土は黒褐色土の単層で、この上層から常滑窯産6b～7型式の甕（広口壺）が正位で出土している（図12-5）。胴下部より上位が割れて器内に落ち込んでおり、その上部には、人頭程度の泥岩塊が置かれるように埋まっていた。甕の出土位置や下端レベルには、上述した土坑列とも近似した要素が見られることから、この部分に溝を切って構築された据え甕土坑があった可能性も考えられる。その場合、図3最下段の断面図H-I間における9層について、右（西）側の立ち上がり線を見落としてしまったおそれがある。この他、7型式期の常滑甕口縁部片も出土しているので、本遺構には13世紀後半～14世紀前半に存続→廃絶という年代観が付与できよう。

1a面は泥岩を細かく砕いて丁寧に築成・整地されており、下層の1b面築成土とは明らかに異なるものであった。上述した状況を総合すると、1a面は1b面の存続期間中、部分的に増設された基礎状整地面で、ここに礎石建物ないし据え甕などの施設を構え、一段低い西側平坦面とは違った役割を担う空間であったと推察できる。

1b面は標高12.2m～11.9m前後で確認し、佐助川のある南西側に向けて低くなる。全体に1a面より粗い整地面であるが、Ⅰ区中央部（Ⅰb区）の周辺など、一部エリアで細かい泥岩粒を用いた丁寧

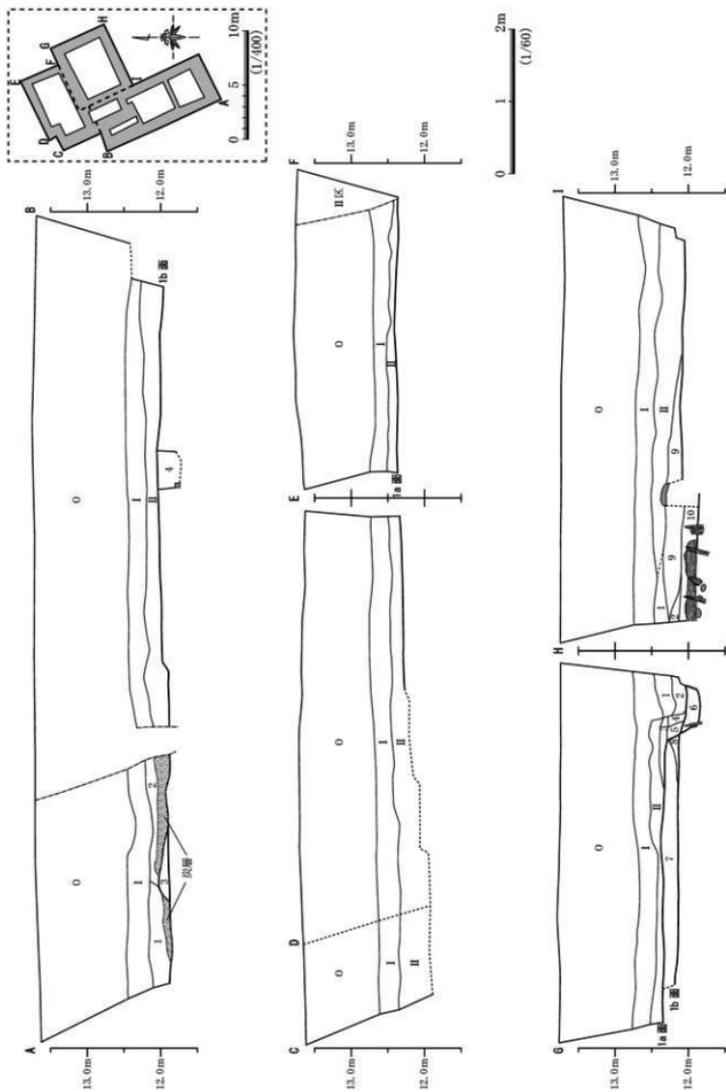


圖3 土層断面圖(表土~1面)

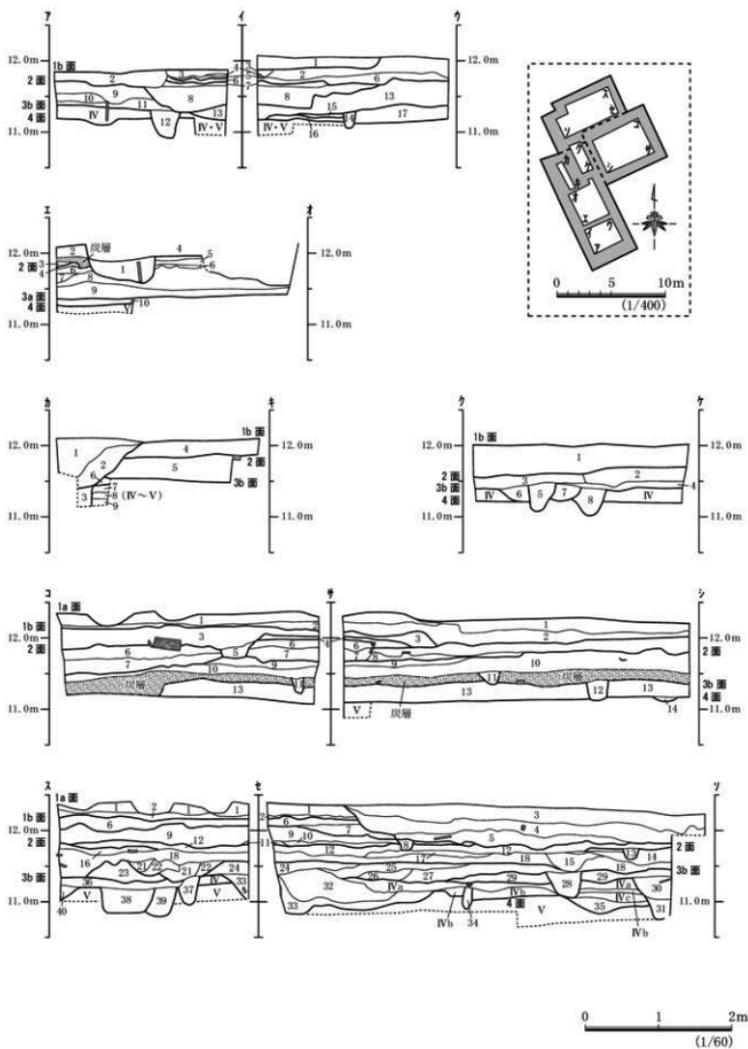


図4 土層断面図(1面以下)

土層説明 (図3・4に対応)

基本土層 (各図共通)

0. 明黄褐色土 泥岩ブロック主体。
現代の盛土。
- I. 暗灰褐色土 粘質土。
近現代の水田耕土か。
- II. 暗褐色土 中世遺物包含層。
- III. 中世整地層・遺構埋土・遺物包含層。
- IV. 黒褐色土 粘質土。中世遺物をわずかに包含。「ネチャ」。
- IV a. 黒色土 粘質土。
- IV b. 黒灰色土 粘質土。
- IV c. 暗灰色土 粘質土。
- V. 黒褐色土 締まり強い粘質土。
中世基盤層。

A-B

1. 赤褐色土 焼けた泥岩粒主体。
2. 赤褐色土 焼土。
3. 灰色土 粘質土主体で泥岩粒含む。
4. 黄灰色土 泥岩粒多く硬い。
1b 面築成土。

G-H-I

1. 暗灰色土 泥岩粒多い。
2. 暗灰色土 粘質土。
3. 黒褐色土 炭粒多い。
4. 暗灰色土 粘質土。
5. 暗灰色土 粘質土。泥岩粒少量。
6. 黒灰色土 粘質土+砂質土。
7. 黄灰色土 泥岩粒主体。1a 面築成土。
8. 暗灰色土 粘質土。
9. 暗灰色土 泥岩粒・ブロック多い。
10. 黄褐色土 泥岩粒主体。
1b 面築成土か。

7-イ-ウ

1. 赤褐色土 炭粒・スラグ多い。
2. 黄灰色土 泥岩粒主体。1b 面築成土。
4. 黒褐色土 粘質土。
5. 灰色土 粘質土。
6. 黒褐色土 粘質土。締まり強い。
7. 黄灰色土 泥岩粒主体。
8. 暗褐色土 有機質腐植土 (マグソ) +炭粒。
9. 黄灰色土 泥岩ブロック主体。
10. 灰黒色土 粘性ややあり。
11. 灰黒色土 粘質土。
12. 褐色土 粘質土。
13. 暗褐色土 有機質腐植土 (マグソ) +炭粒。泥岩粒少量。
14. 褐色土 粘質土。
15. 黒灰色土 粘質土。
16. 灰色土 泥岩粒主体。3b 面築成土。
17. 灰黒色土 ほぼ無遺物層。IV層に準じるか。

I-イ

1. 暗灰色土 粘質土。締まり弱い。
2. 暗褐色土 やや焼けている。
3. 灰色土 粘質土。
4. 黄灰色土 泥岩粒主体。1b 面築成土。
5. 暗褐色土 粘質土。
6. 黒褐色土 粘質土。締まり強い。
7. 暗青灰色土 泥岩粒多い。
8. 暗青灰色土
9. 青灰色土 泥岩粒主体。3b 面築成土。
10. 黒灰色土 IV層上面にごく薄い泥岩整地層。

3-キ

1. 黄灰色土 泥岩ブロック主体。
2. 黒褐色土 泥岩粒少量。
3. 暗褐色土 有機質腐植土 (マグソ)。
4. 暗褐色土 泥岩粒多い。
5. 黒褐色土 泥岩粒やや多い。
6. 青灰色土 泥岩粒主体。3b 面築成土。
7. 黒色土 粘質土。IV層か。
8. 暗青灰色土 泥岩粒多い。V層に準じるか。
9. 黒色土 粘質土。V層に準じるか。

4-ケ

1. 黒褐色土 泥岩ブロック多い。
2. 黒褐色土 泥岩粒多い。
3. 暗褐色土 有機質腐植土 (マグソ) +泥岩粒。
4. 暗褐色土 有機質腐植土 (マグソ)。
5. 黒褐色土 泥岩粒多い。
6. 黒褐色土 泥岩ブロック多い。
7. 黒褐色土 泥岩粒多い。
8. 黒色土 粘質土。

2-9-ク

1. 黄灰色土 泥岩粒主体 1a 面築成土。
2. 暗褐色土 締まり弱い。
3. 暗褐色土 泥岩粒多い。
4. 黄灰色土 泥岩粒主体。
5. 暗褐色土 締まり弱い。
6. 黄灰色土 泥岩粒主体。
7. 暗褐色土 泥岩粒多い。
8. 暗褐色土 有機質腐植土 (マグソ)。
9. 黄灰色土 泥岩粒主体。
10. 暗褐色土 泥岩粒多い。
11. 暗褐色土 締まり弱い。
12. 暗褐色土 締まり弱い。
13. 青灰色土 泥岩粒主体。3b 面築成土。
14. 黒色土 粘質土。IV層に準じるか。

2-セ-ソ

1. 黄灰色土 泥岩粒主体。1a 面築成土。
2. 黒褐色土 締まり強い。
3. 暗褐色土 泥岩粒多い。
4. 暗褐色土
5. 暗褐色土
6. 黄灰色土 泥岩粒主体。1b 面築成土。
7. 暗褐色土
8. 暗灰色土
9. 暗黄灰色土 泥岩ブロック多い。
10. 暗褐色土 粘質土。有機質腐植土 (マグソ) 多い。
11. 黄灰色土 泥岩ブロック主体。
12. 暗褐色土 泥岩ブロック多い。
13. 黒褐色土 粘質土。
14. 暗褐色土 泥岩ブロック多い。
15. 黒褐色土 粘質土。
16. 暗褐色土 泥岩ブロック多い。
17. 暗褐色土 粘質土。有機質腐植土 (マグソ) 多い。
18. 暗褐色土 有機質腐植土 (マグソ) 主体。
19. 暗灰色土 粘質土。
20. 暗褐色土 粘質土。
21. 暗褐色土 泥岩ブロック多い。
22. 暗褐色土 泥岩粒多い。
23. 灰褐色土
24. 黒褐色土 泥岩粒多い。
25. 黒褐色土 泥岩粒多い。
26. 黒灰色土 粘質土。IV層に近似。
27. 黒褐色土 泥岩ブロック多い。
28. 黒褐色土
29. 灰色土 泥岩ブロック主体。
30. 黒褐色土
31. 黒褐色土 粘質土。
32. 黒褐色土 粘質土。貝殻片少量。
33. 黒褐色土 粘質土。泥岩粒少量。
34. 黒色土 粘質土。灰白色微粒多い。
35. 黒色土 粘質土。泥岩粒多い。
36. 青灰色土 泥岩粒主体。3b 面築成土。
37. 黒褐色土 粘質土。
38. 黒褐色土 粘質土。
39. 黒褐色土 粘質土。泥岩粒少量。
40. 黒褐色土 粘質土。泥岩粒多い。

な整地面も見て取れた。

I区北部（I A・I B区）の1 b面上では、比較的丁寧な整地面を掘り込んだ東西溝と小規模な堅穴建物、土坑などの遺構が検出された。東西溝（溝1 b）は東部1 a面の溝1に先行する時期のもので、II区の南東隅に向けて延びている。N 50° Eで延び、上幅が60～80 cm、底面幅は20～30 cmを測る。確認面からの深さは20～30 cmを測り、底面標高は11.67～11.85 mで僅かにII区側が高いことから、西方の佐助川旧流路に向けて流下させる溝であったと推察している。南岸には横板を打ち込み杭で抑えただけの簡素な護岸施設が残り、その北側にも、横板こそなかったものの打ち込み杭は散見されたため、本来は南北の両岸に護岸材を設置していたものと考えている。I B区の溝1 bでは、底面付近の埋土中から完形か、それに準じるロクロかわらけが少量出土している（図12下段）。破損品である瀬戸窯産の鉦皿（15）は前III期の製品と見なせることから、完形かわらけには、その生産時期＝13世紀後半より下の年代観を与えて良いだろう。

堅穴1は溝1 bの北辺から80 cmほど北に位置する。I A・I B・I C区に跨って検出され、その結果、未調査部分が生じてしまったこともあり、遺構の全体像を把握することができなかった。I B区で確認したところでは東西2.5 m程度の掘方規模を有し、そのラインは溝1 bと同じN 50° E前後であった。確認面の標高は12.0 m前後で、掘方底面の標高は11.4 m前後を測る。南辺の底面上には凝灰岩の切石が置かれ、その上に長さ2 m弱、一辺8 cmの角材が置かれていた。南辺に沿って置かれており、角材上端の標高は11.8 m前後である。ここから1.5 mほど北に離れた位置にも同じ規模・レベルの角材が据わっており、両者は一対で上屋構造物の土台となっていた可能性が考えられる。北側の角材下には、切石は据わっていなかった。掘方北辺は明確には確認できていないが、両角材の位置を基に反転すると、南北2.2 m前後の平面規模に復元できるものと考えている。主たる用途が半地下式の倉庫と考えられている堅穴建物としては小規模かつ簡素な構造であるが、形態の類似性から、収納目的の施設であったと考えておきたい。堅穴1の南辺と溝1 bの北辺は上幅25 cm、深さ3 cm程度の溝2で繋がっているが、人為的に営まれたものであるかは定かでない。出土遺物は、図13の上段に掲げた。鉄製品21は欠損のため不確実だが、火打ち金ではないかと判断した。I B区1 b面上の堆積土からは、2 cm角ほどの備前すり鉢片が多く出土している（写真図版21の右下隅）。

I区南端部（I C区）の1 b面直上には厚さ20 cmほどの炭層が堆積し、同層およびその上部包含層からは焼けた泥岩塊や焼土とともに鉄滓や輪羽口（土製送風管）が大量に出土している。炭層直下には灰色粘質土層が5～10 cmの厚さで堆積し、これらはなだらかな落ち込みに堆積していることから、ここに堅穴2の名称を付した。土層断面の観察から、溝1 bに切られることが判明している。検出状況としては不明瞭であったが、この一帯に精錬もしくは鍛冶工程にともなう炉が存在し、使用後は故意に破壊された可能性を窺わせる状況であった。鉄滓は7 kg強、輪羽口は4 kgほどの重量に上り（表3）、後者のうち比較的残りの良いものは1点400 g強を量ることから（表4）、少なくとも10点程度を採集できた計算になる。これら一連の堆積層はI B区南端～I C区北部の西外に広がるため、さらに多くの鉄滓・輪羽口が地中に遺存している可能性が高い。ここからの出土遺物は、図13の下段に掲示した。輪羽口の他、常滑甕片の転用研磨具（30）などが出土している。

II区1 b面の土坑2からは、全面が黒色系漆塗りで蓮花形の灯明台座（図31-484）が出土している。

II・III区の西部の整地面は東側より5～10 cmの差で一段低くなっており、この境目部分では横板を杭で抑えただけの木組み護岸の痕跡が辛うじて遺存していた。板壁1の呼称を付したが、建物の部材であるのか、簡便な区画施設であるかの断定はできなかった。板壁1の西側整地面は、東側よりやや丁寧

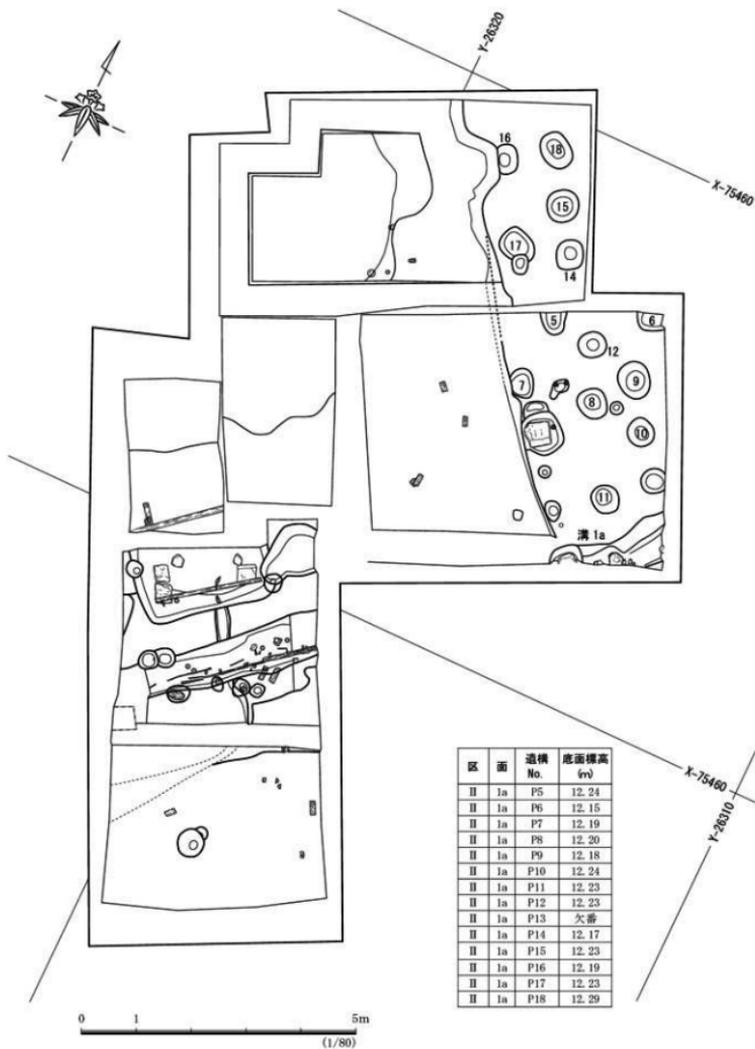


図5 1a面全体図

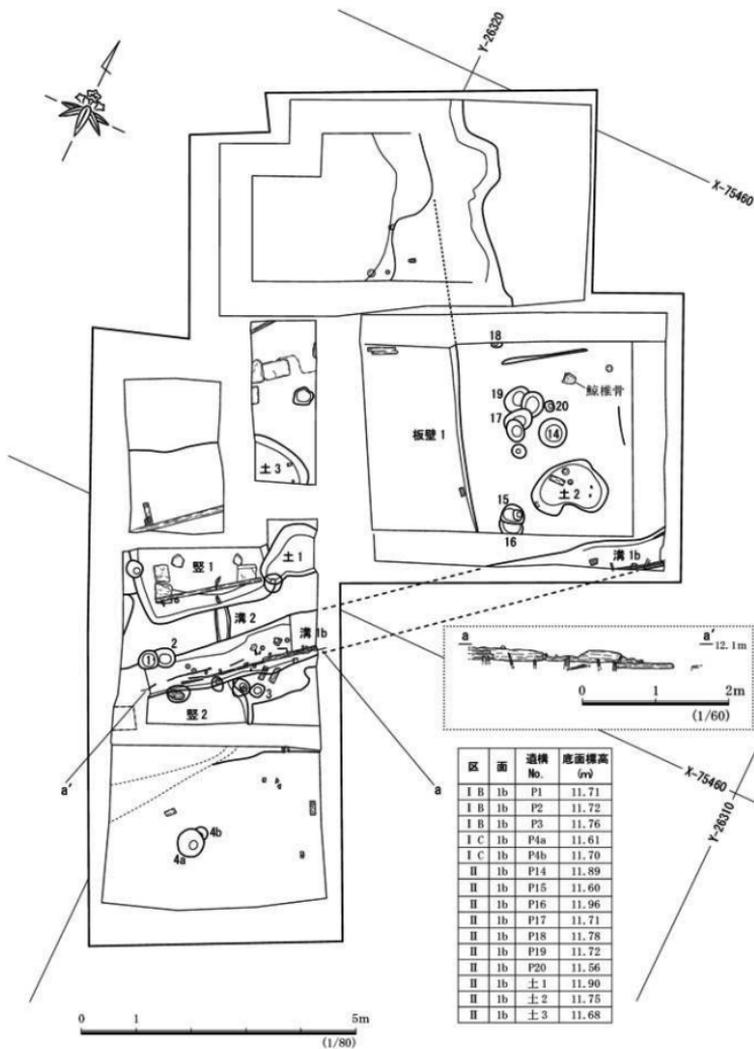


図6 1b面全体図

な印象を受けたので、ここを境に空間構成が異なっていた可能性が推察できる。上層1 a面の泥岩盛土へと踏襲される前身施設であったかもしれない。板壁1以西の出土遺物は、図14-39にロクロかわらけの小皿1点を示した。

この他、Ⅱ区の1 b面上では、大型哺乳類（鯨か）の未加工椎骨が出土している（写真図版8-5）。

第2節 2面の遺構と遺物

標高11.6～11.9 mで検出された、やや弱い泥岩整地地面を2面とした。1 b面との間に、中世基盤層に近似した黒色粘質土の薄層が堆積していた。各区、細切れ状態で確認したため、検出レベルに若干のバラツキはあったが、北西側がやや高い傾向にあった。面上では小規模な溝、ピットなどが検出された。

溝1はⅠC区～Ⅱ区南東部に続き、1 b面の溝1 bと同じ位置・方向（N51°E）にあることから、この前身遺構と判断できる。上幅は最大でも50 cm程度、深さ10～15 cmと小規模なもので、護岸施設の痕跡は確認できなかった。底面レベルは、検出東端部で11.75 m、西端部で11.67 mを測る。埋土中の出土遺物を、図14-40～42に示した。ロクロかわらけで、41・42は下層（底面付近）からの出土である。

溝2はⅠB～ⅠC区にかけて検出された。ⅠB区では溝1の南側に同方向で延び、やや弧を描きつつ南に曲がり、ⅠC区で南への落ち込みに切られて消失する。底面レベルは11.71 mでほぼ一定しており、確認面からの深さはⅠB区で5～10 cm、ⅠC区で2～5 cmと、わずかな窪みに過ぎない。小規模かつ区画性を見出しにくい平面形態ゆえに、どのような機能を託されて構築されたものか、判断が難しい。

溝1・2付近では整地地面が不明瞭で、浅い窪み状に黒色粘質土がやや厚く堆積していた。明確な遺構としては扱わず、2面直上の落ち込みとした。この埋土中からの出土遺物は、図14-43～47に示した。

溝3はⅡ区南東部で検出された。N54°E前後で延び、概ね溝1と同じ方向軸といって良い。Ⅱ区の西半部で立ち消えとなっており、底面標高は検出西端部で11.75 m、東端部で11.70 mを測る。上幅50 cm、底面幅は25 cm程度で、確認面からの深さは10～15 cmと浅い。規模・構造や底面標高を見ても排水施設とは考えにくく、空間を仕切る区画機能を担ったものと推察している。ここからの出土遺物は、図14-48・49に示した。ともにロクロかわらけである。

溝4はⅡ区の北部、溝3の北側で検出された。N37°W前後の方向軸を示し、溝1・3と直交する。溝3とは接続せず、北側手前で浅くなって途切れる。Ⅱ区の北外へと続くがⅢ区では検出されていないので、長さは3.5 m以下となろう。溝というより、土坑と呼ぶ方が適当かもしれない。上幅は最大で120 cm、底面幅は50 cm前後を測り、確認面からの深さは25 cmほどである。東岸はなだらかな落ち込みを呈し、埋土は有機質高植土（マグノ）が主体であった。掲図の位置が離れたが、埋土から図24-312が出土した。

板壁1はⅡ区の西部、溝4の西側に沿う形で検出された。厚さ2 cm、幅9 cmの横板で、Ⅱ区の北外に続くため全長は定かでないが、検出できた限りでは約170 cmを測り、Ⅲ区の延長部分では検出されていないので290 cmを超えない。N40°Wで延び、溝4と概ね同方向軸といって良い。横板のみの検出であり、これを固定するための杭は確認できなかった。ここより西側は10 cmほど低く、比較的丁寧に仕上げられた泥岩整地地面（土間状硬化面）が広がっていたことから、建物内の空間を仕切るとともに、段差が崩れないための補強材、といった用途が想定できようか。土間状硬化面上では深さ10～20 cmの小規模なピットが散見されたが、調査した範囲では柱穴列をなすものか、確認できなかった。

Ⅲ区の遺構は非常に希薄で、小穴2基に、板片が散在するのみであった。土間状遺構上の出土遺物は、

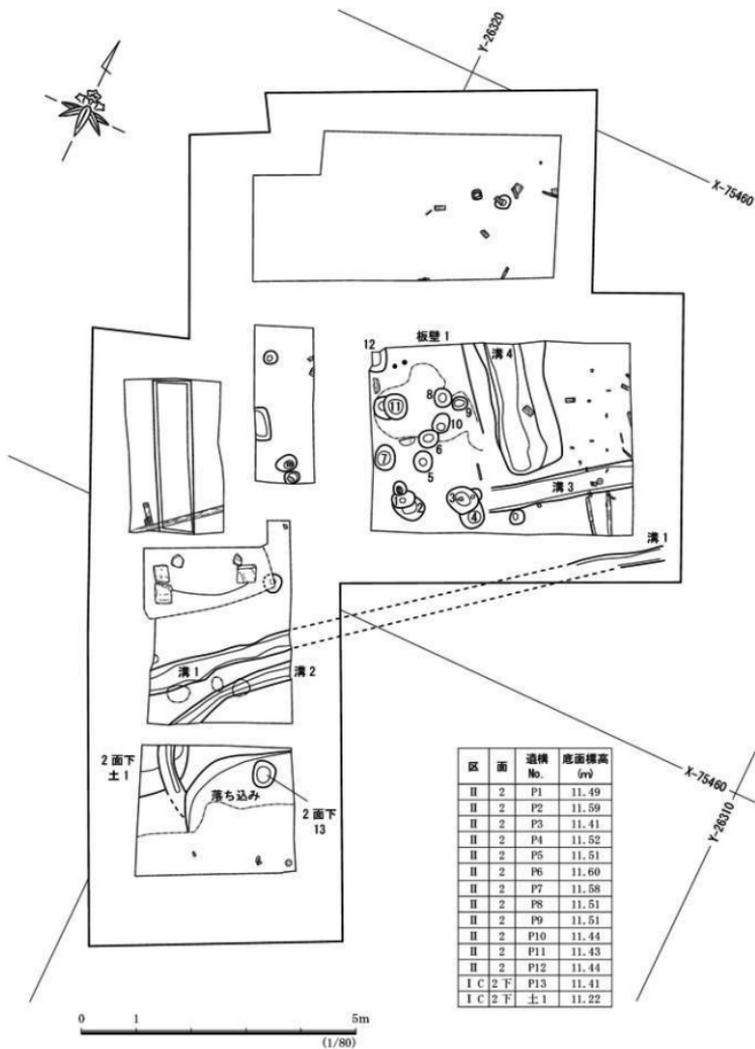


図 7 2面全体図

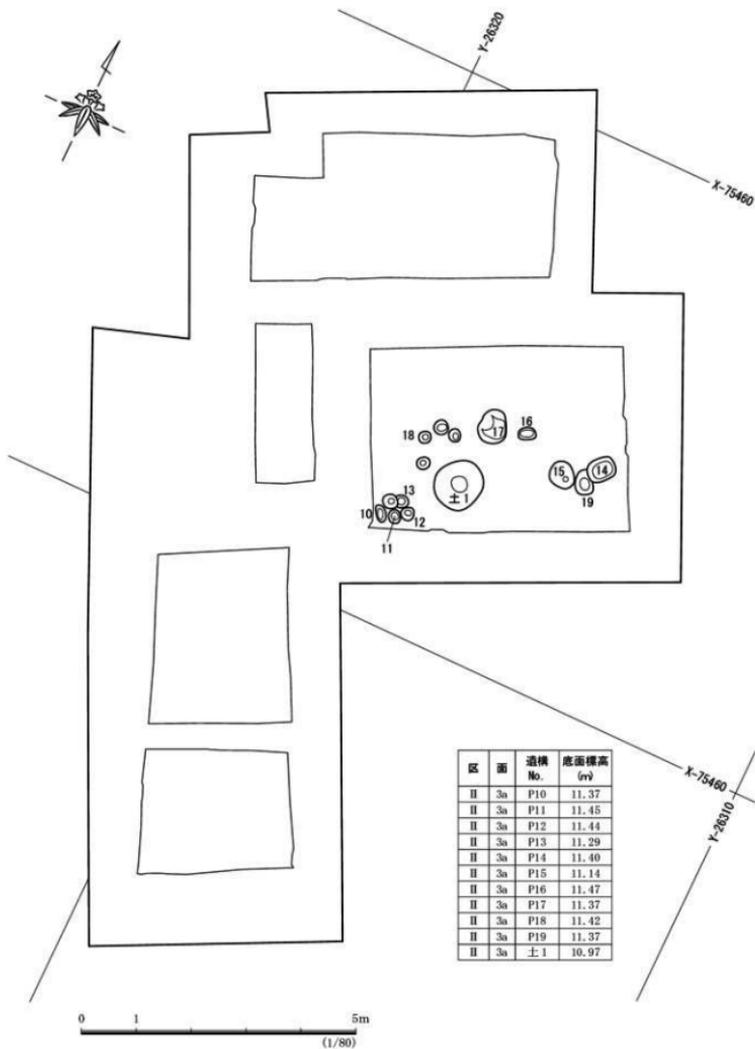


図8 3a面全体図

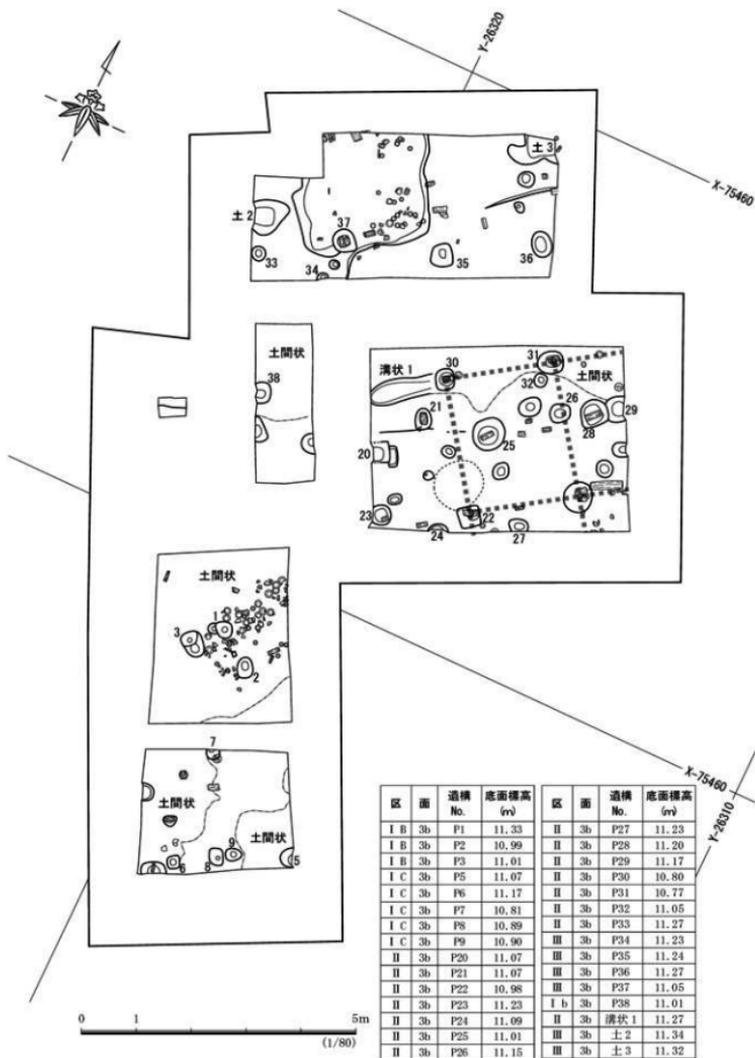


図9 3b面全体図

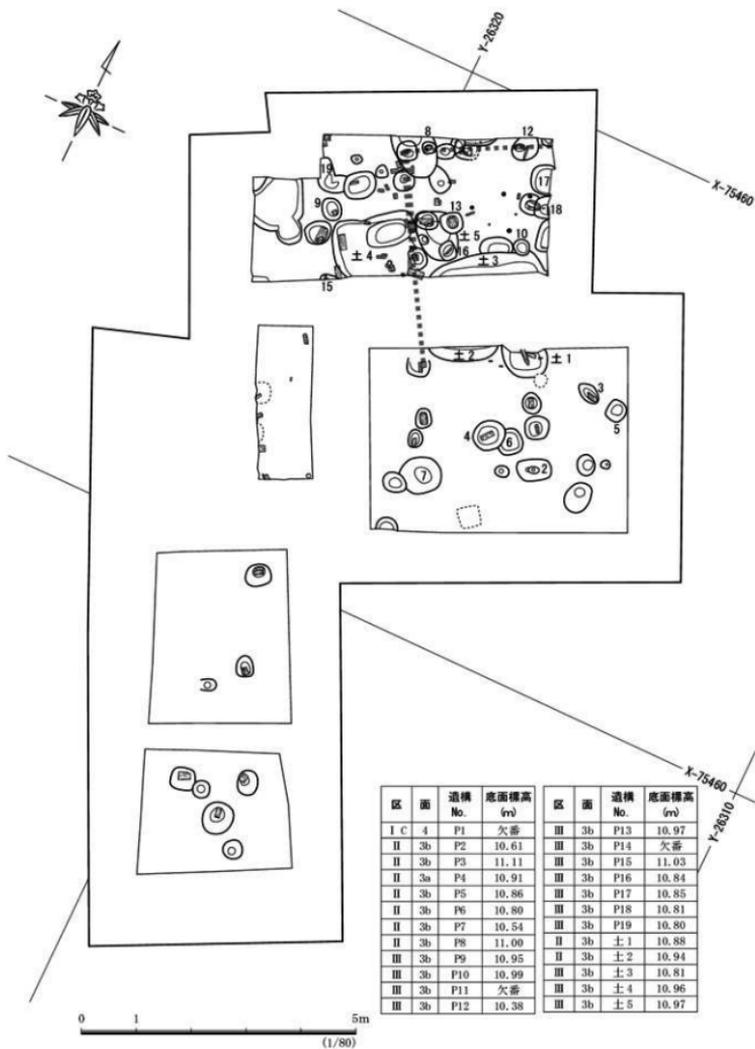


图 10 4面全体图

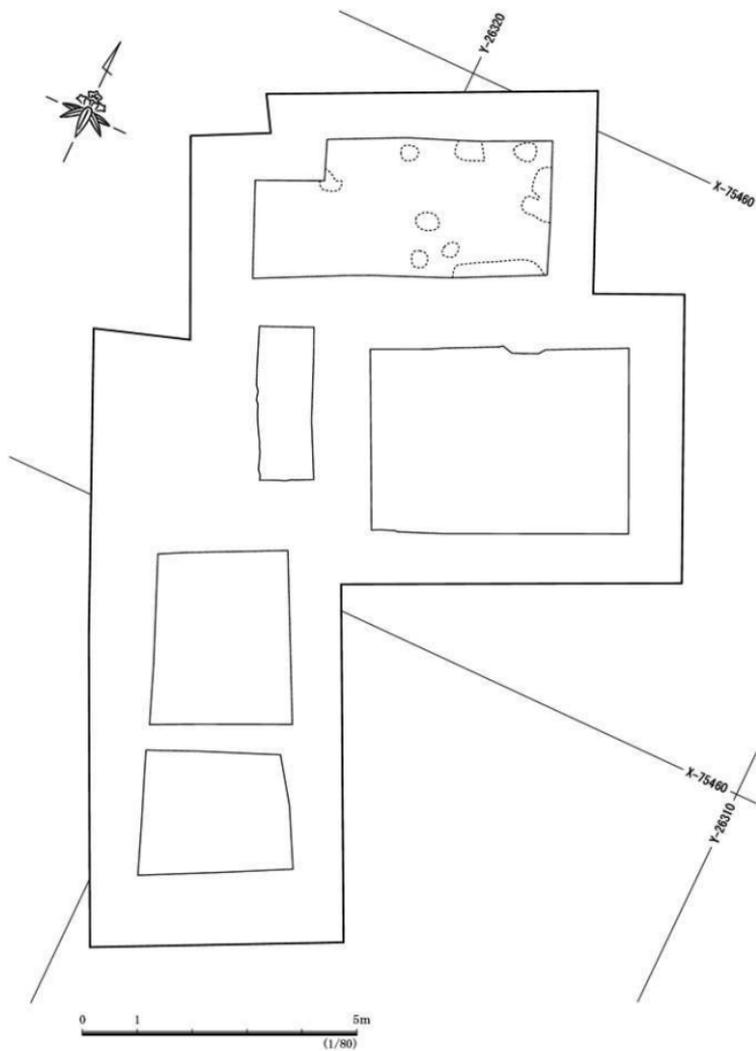
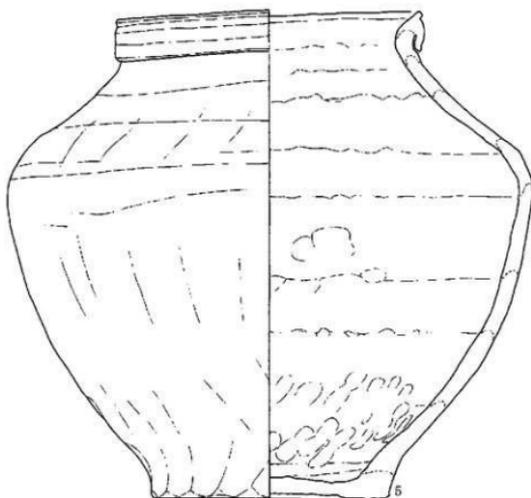
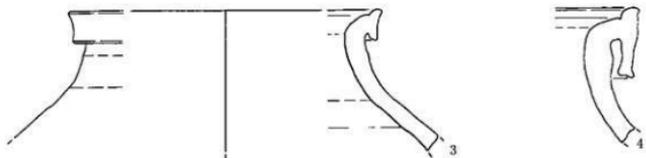


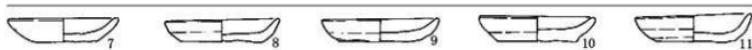
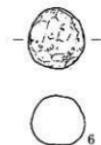
图 11 4面下全体図



Ⅱ区 1a面 ビット7



Ⅱ区 1a面 溝1a



I B区 1b面 溝1b

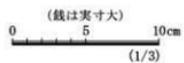
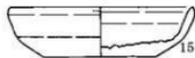


図 12 出土遺物 (1)

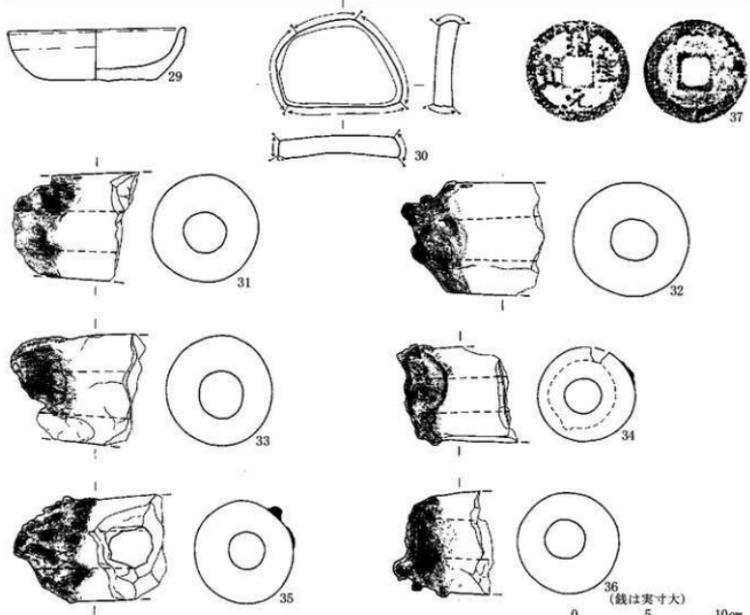
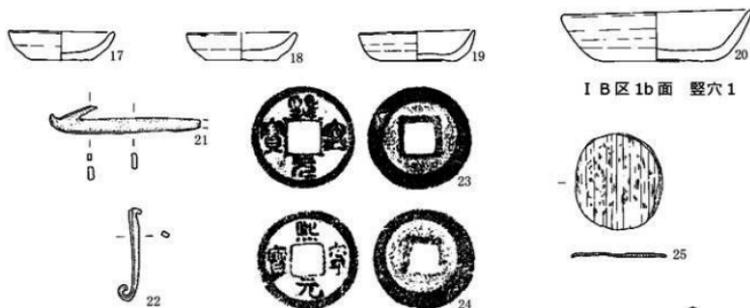


图 13 出土遺物 (2)

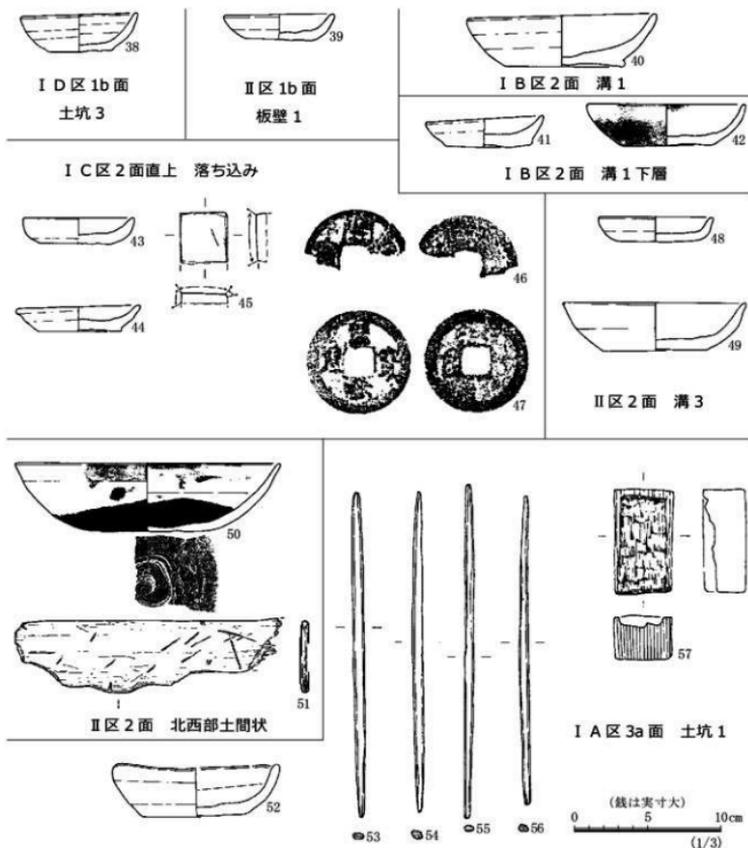
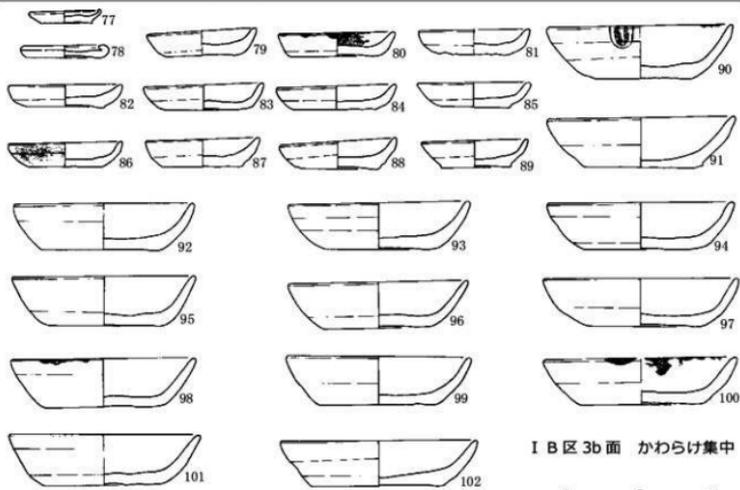
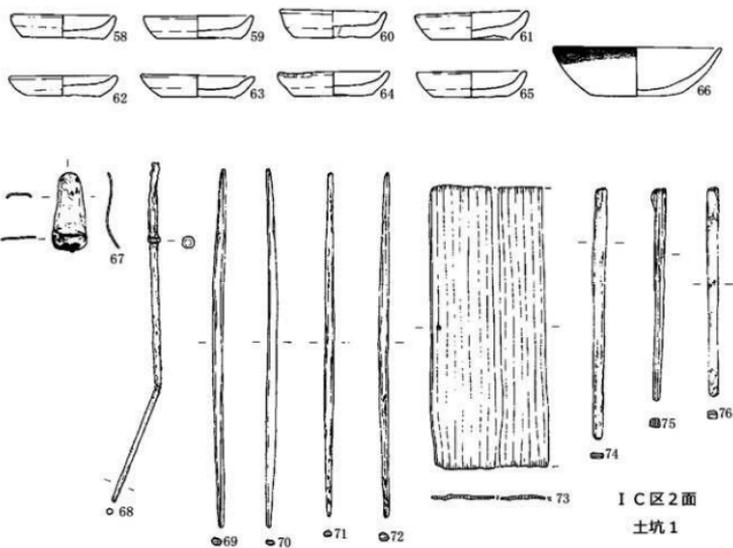


図14 出土遺物(3)

図14-50・51として掲げた。

I A区の土坑1はサブトレンチ断面のみでの確認で、図4カーキ間の3層が該当する。有機質腐植土(マグソ)を埋土とし、この層中から出土した遺物を図14-52～57として掲げた。断面図上、上位にも落ち込みが重複するため明確な掘り込み面は不明だが、後述するI C区土坑1との類似性から、2面～2面下に属するものと考えている。

I C区の土坑1は、掘り込み面は2面だが確認は2面下～3面の掘り下げ時と遅れたため、平面図での表現が本来の広がりより小さいものとなった。埋土は有機質腐植土(マグソ)を主体とし、箸ほかの木製品が良好に遺存していた。土層断面での掘り込みの深さは35cmほどで、底面標高は11.2m前後を



0 5 10cm
(1/3)

图 15 出土遺物 (4)

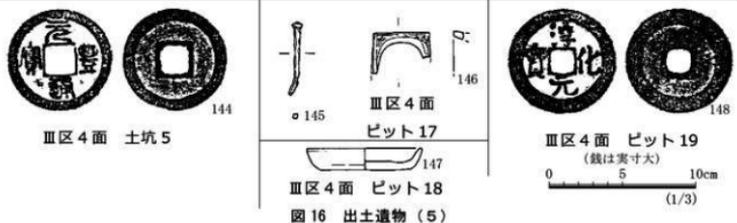
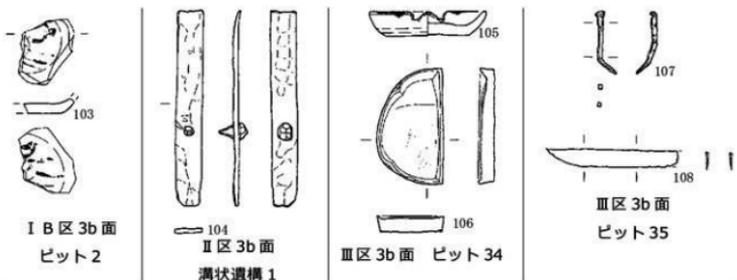
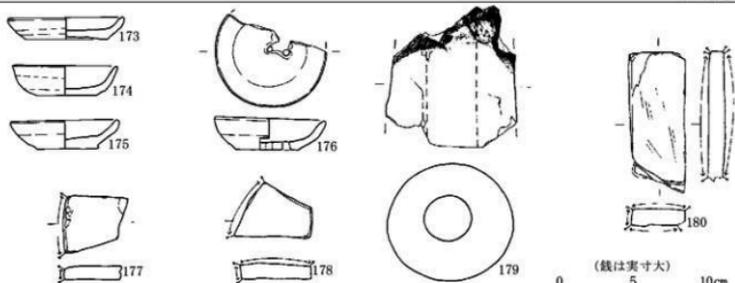
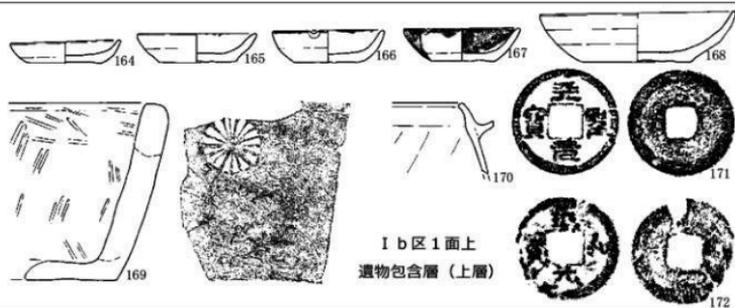
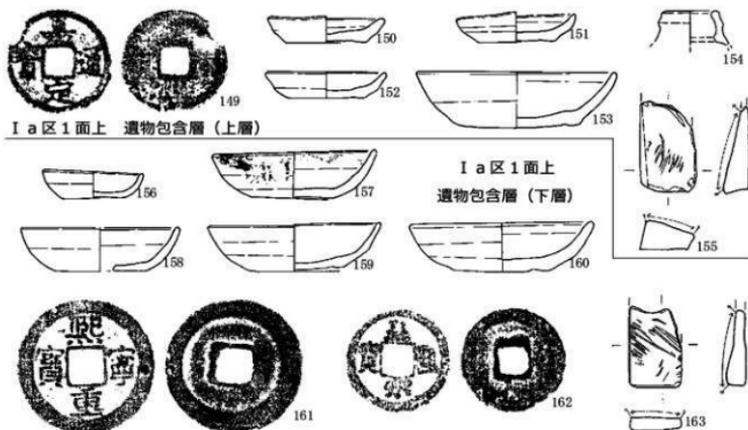


図 16 出土遺物 (5)



(錢は実寸大) 10cm
5
0
(1/3)

I b区1面上 遺物包含層 (下層)
図 17 出土遺物 (6)

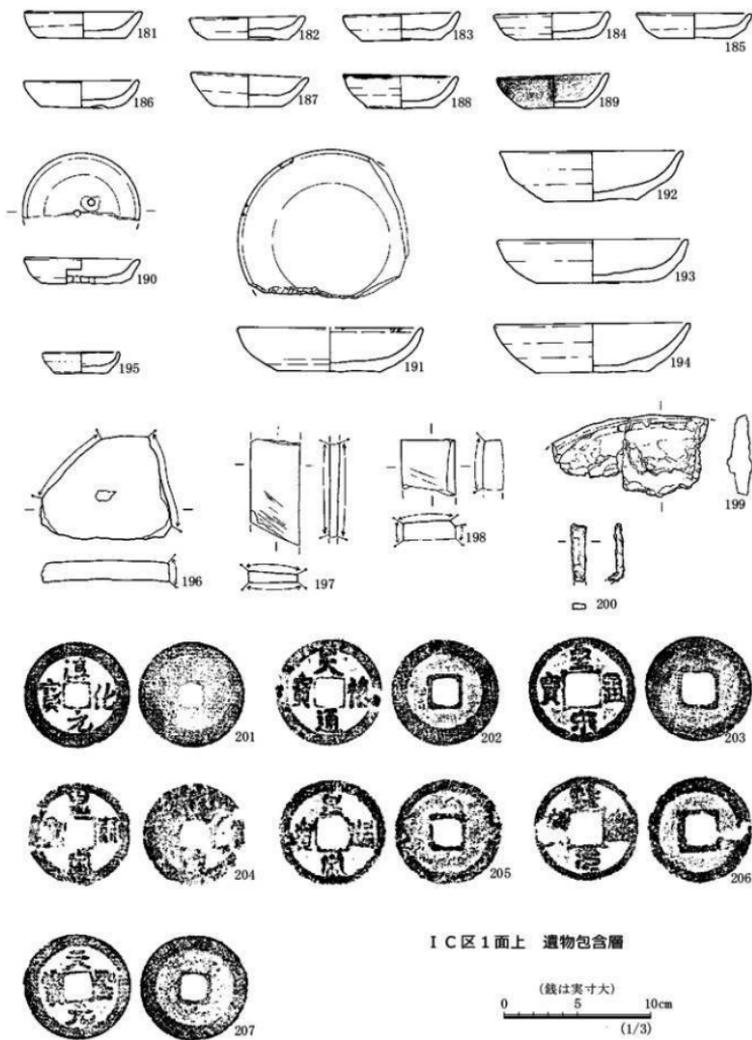


图 18 出土遺物 (7)

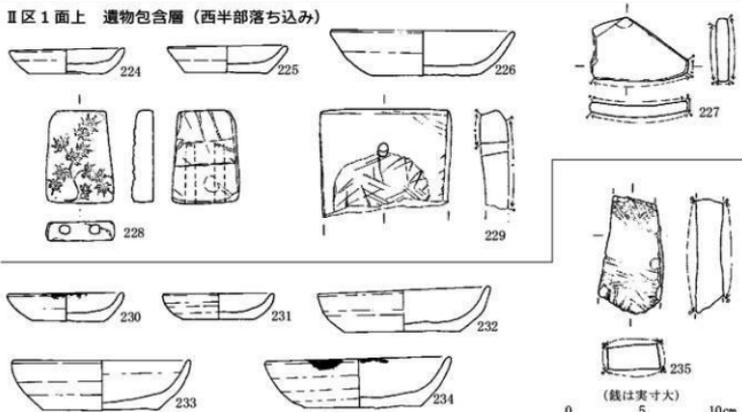
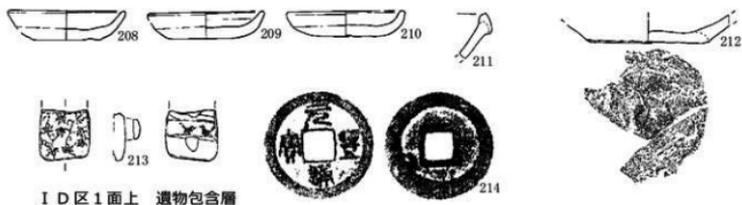


图 19 出土遺物 (8)

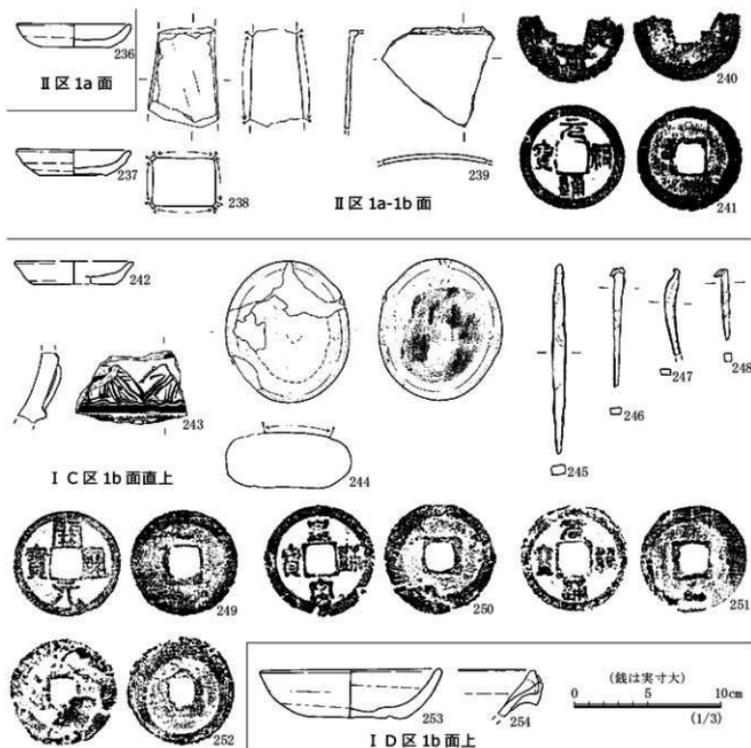


図20 出土遺物(9)

測る。本遺構からの出土遺物は、図15-58～76に示した。58～66はロクロかわらけ。67は用途不明の銅製品で、平面形が舌状の非常に薄い銅板を折り曲げて成形している。68は鉄製火箸で、木製の柄が付属していたと思われる。69～76は木製品の箸、折敷など。

第3節 3面の遺構と遺物

標高11.5m前後で検出された炭層の上面を3a面とし、これを取り除いた後の11.3～11.45m前後で検出された泥岩整地面を3b面とした。II区3a面上では数基の小穴を確認したが、炭層上を生活面としていたとは考えにくいので、本来は炭層上に薄い盛土層を整えてから土地利用をしていたと考えられる。

3a面の土坑1は、II区南西部で検出された。上場径70cm程度の円形プランを呈し、確認面からの

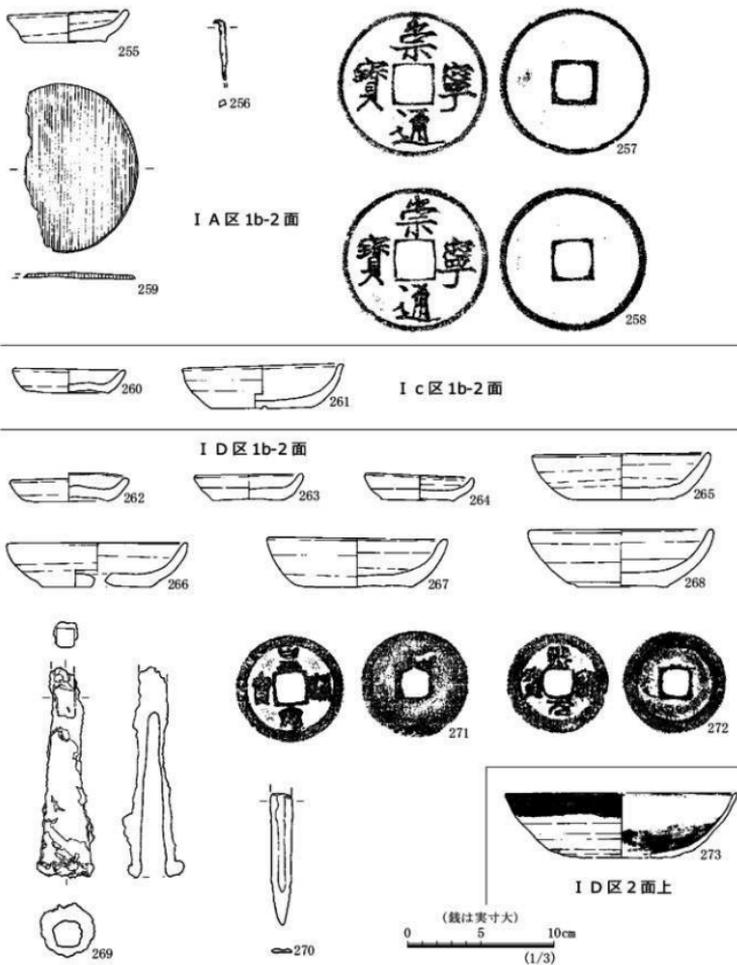


图 21 出土遺物 (10)

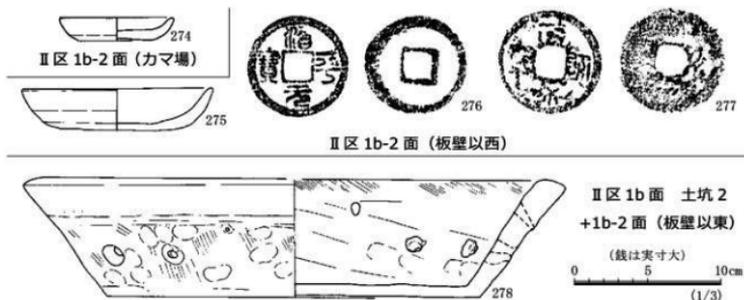


図 22 出土遺物 (11)

深さは 50cm を測る。ここからの出土遺物で、図示すべき資料はなかった。

3 b 面上では礎板上に柱が立った状態で遺存した柱穴列や、小規模なかかわり集中、破碎泥岩で丁寧に仕上げられた土間硬化面といった遺構が検出された。各調査区の間には未調査域が残ったため柱穴列の広範な展開を把握することは叶わなかったが、II 区では 1 × 1 間以上の並びを確認できた。南北軸は N 38° W を指し、柱間距離は南北 250 cm、東西 220 cm を測る。構成する柱穴は円形または方形プランを呈し、上場径は 40 ~ 50 cm、確認面から掘方底面までの深さは 40 ~ 50 cm を測る。底面上には礎板を据え、その上に長辺 10cm ほどの角柱を立てていた。検出状況から、建物廃絶時には柱材の地上に出た部分だけを切断したことが推察される。埋土は黒褐色粘質土で、中世基盤層の IV 層を軟質にしたような様相であった。復元建物を構成しない、他のピットも概ね同様の埋土様相を呈していた。各区、ピット埋土の出土遺物を図 16-103 ~ 108 に掲げた。103 はロクロかわらけで底部内外面に墨痕が残るものの、判読は叶わなかった。

3 b 面上では、I B 区と III 区の各 1 ヶ所で小規模なかかわり集中が確認された。I B 区では整地面上に 1 × 2 m 程度の平面的広がりとして確認された。若干量の陶磁器小片も混在していたが、ほぼ全てをロクロかわらけが占める。図 15-77 ~ 102 には、極小皿 (内折れ) ~ 大皿 26 点を掲げた。78 のみ搬入土器である。口縁部付近に油煤が付着した、灯明皿と見なせる資料も一定量ある。III 区では、約 2.4 m 四方で深さ 5 ~ 10cm の落ち込みの底面上に、ロクロかわらけがまとまった状態で出土した。若干量の陶磁器小片も見られたが、一括廃棄資料には含むべきではない。本遺構の出土遺物は、図 16-109 ~ 127 と図 31-485 に掲げた。全体的に I B 区の出土小皿よりも胎土の砂質感が強く、器壁が薄い印象を受けた。口径がわずかに大きい傾向も見えそうだが、明確な型式差として区別するほどではなかった。また、III 区の図化資料中には灯明皿が全く含まれていない点も、I 区資料との様相差として記しておく。485 は漆器椀。一括廃棄資料に含むべきではなく、混入品と見なしたい。

第 4 節 4 面の遺構と遺物

標高 11.2 ~ 11.3 m 前後で確認された、IV 層 = 黒 ~ 黒灰色粘質土の上面を 4 面とした。IV 層は、鎌倉の発掘従事者が伝統的に「ネチャ」と通称してきたものに相当し、本地点では 3 層に細分できた。面上では、掘方底面に礎板を据えたピットや土坑などの遺構が検出され、一部のピットには列をなすものも

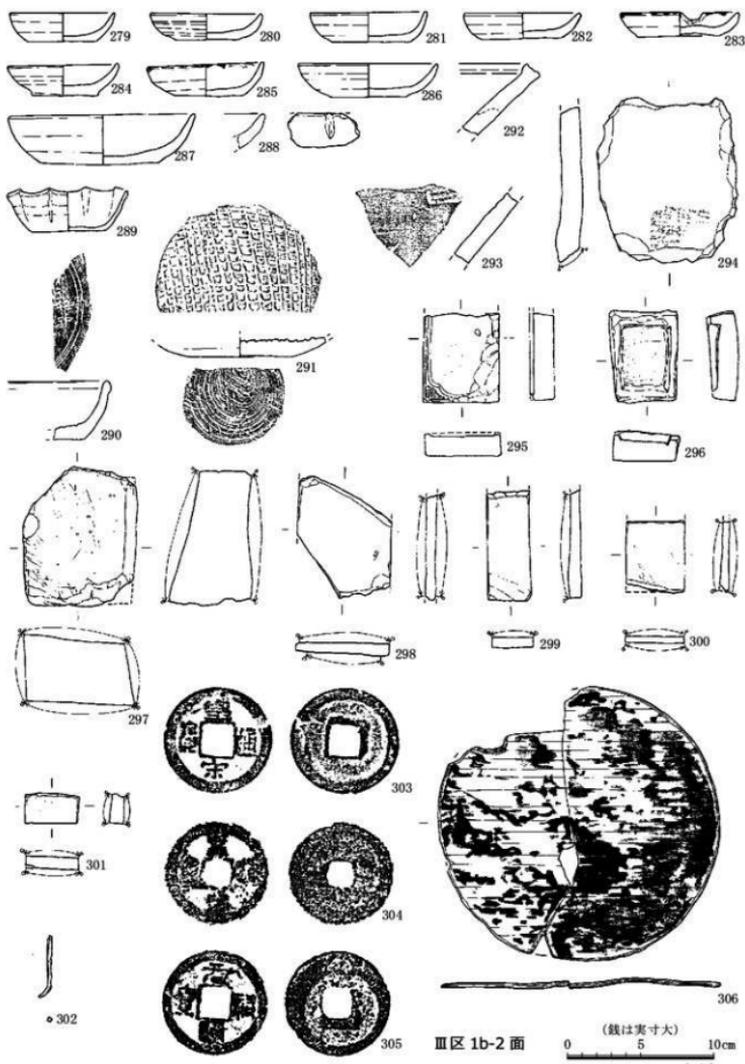
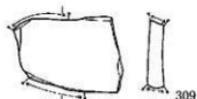
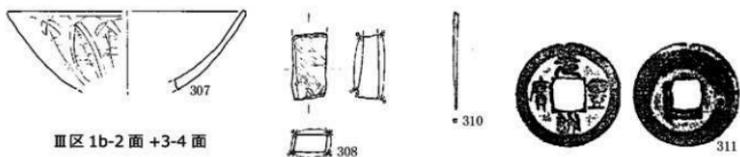
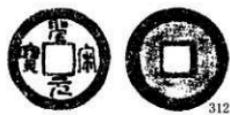


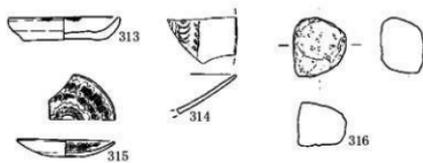
图 23 出土遺物 (12)



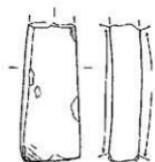
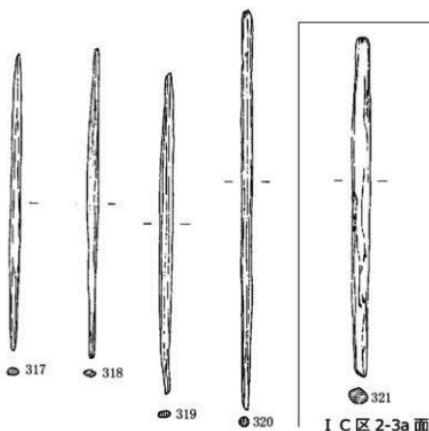
I B区 2面 遺構外



II区 2面 溝4



III区 2面上 まぐろ層



I C区 3a面上

(銭は実寸大)

0 5 10cm
(1/3)

图 24 出土遺物 (13)

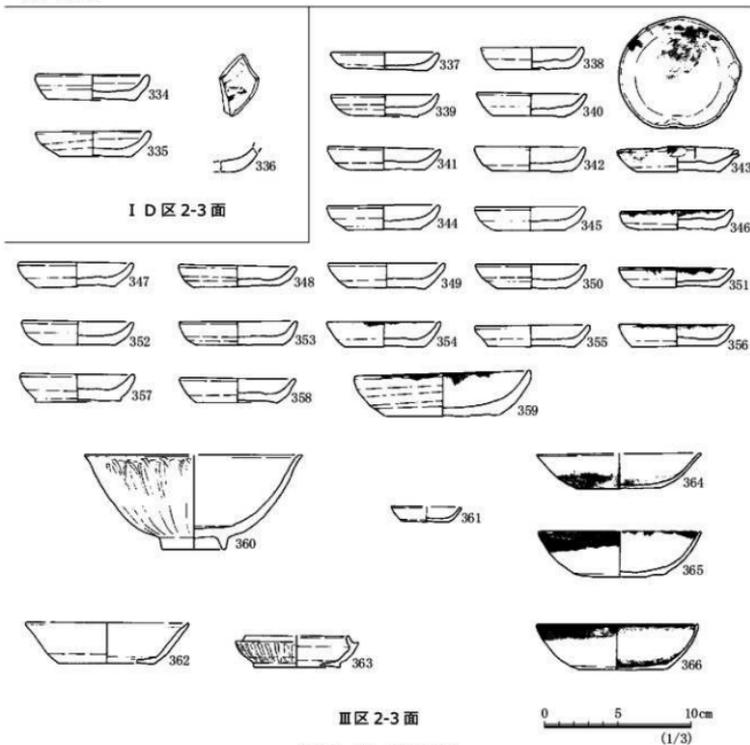
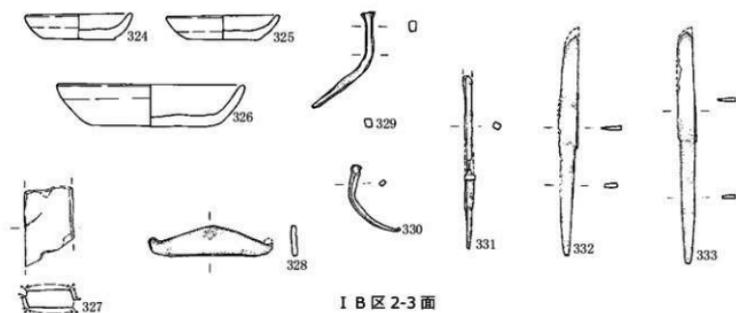
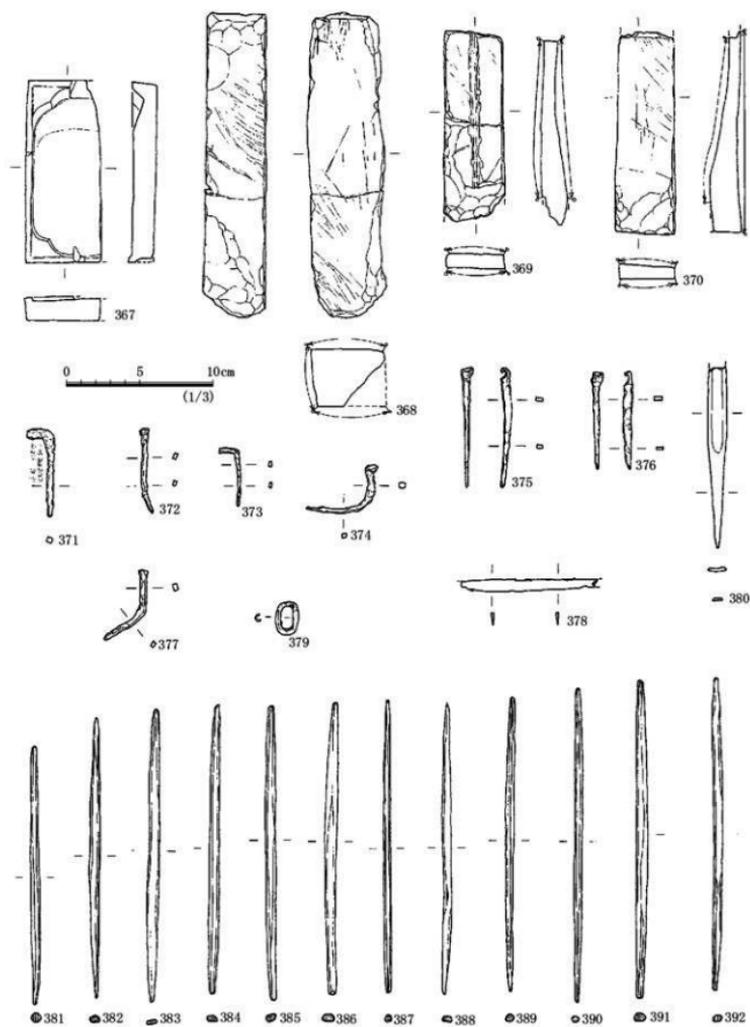
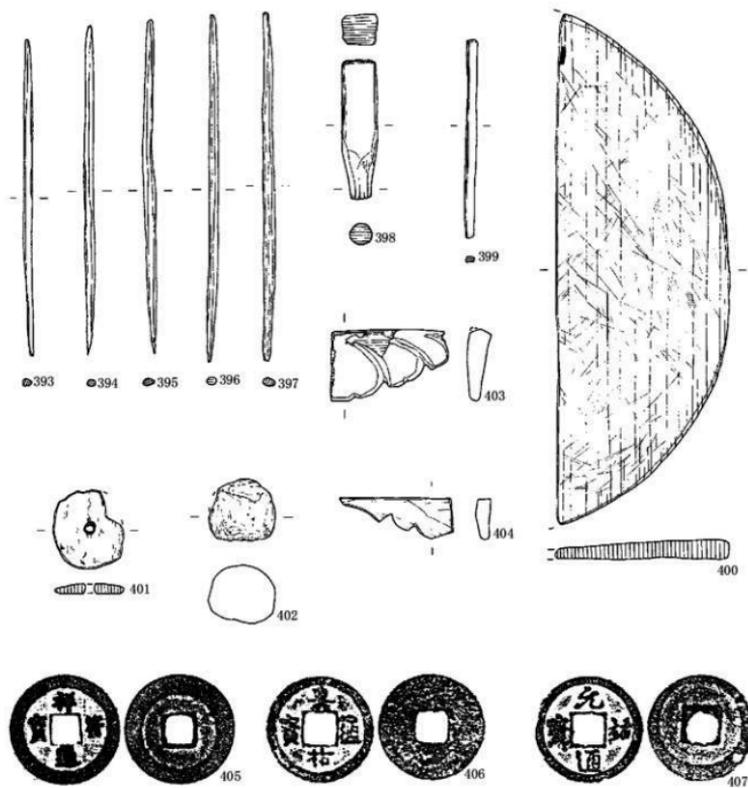


图 25 出土遗物 (14)

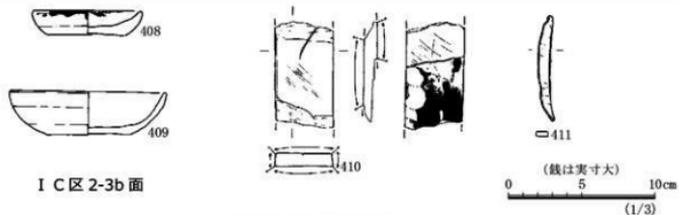


Ⅲ区 2-3 面

图 26 出土遗物 (15)



Ⅲ区 2-3 面

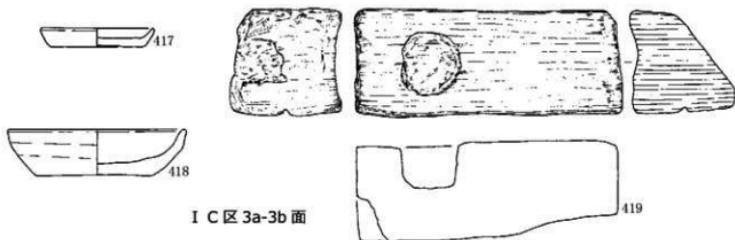


I C 区 2-3b 面

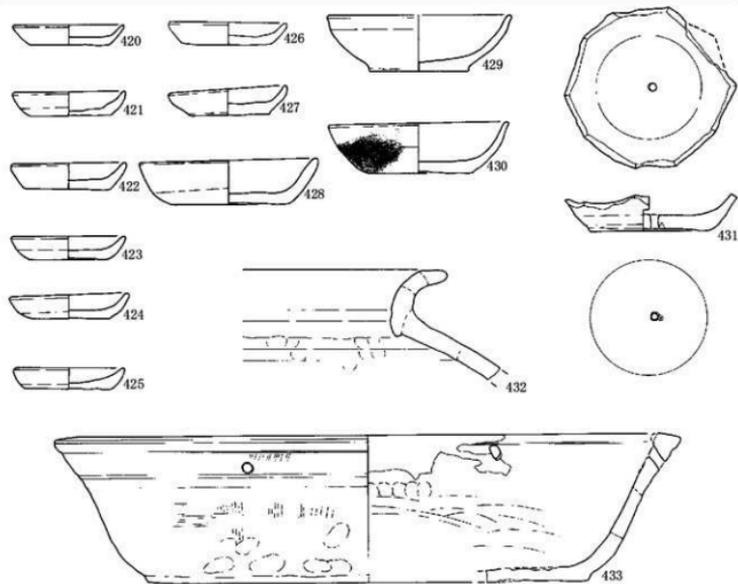
图 27 出土遺物 (16)



II 区 2-3b 面

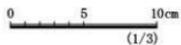


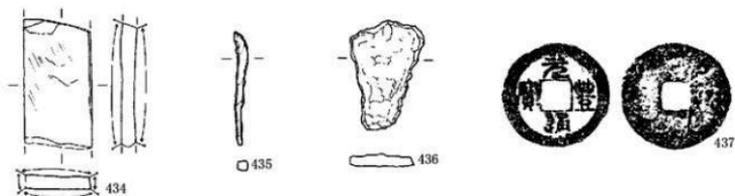
I C 区 3a-3b 面



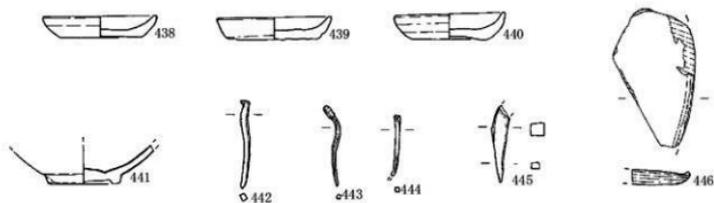
II 区 3a-3b 面 灰層

图 28 出土遺物 (17)





Ⅱ区 3a-3b面 炭層



I B区 3b面 遺構外

I C区 3b面 遺構外
(欠番ビット)



Ⅱ区 3b面 遺構外

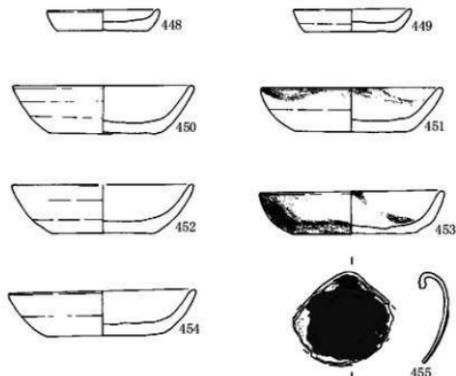
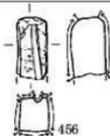
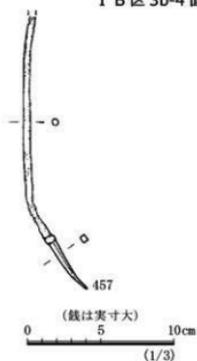


図 29 出土遺物 (18)



I B区 3b-4面



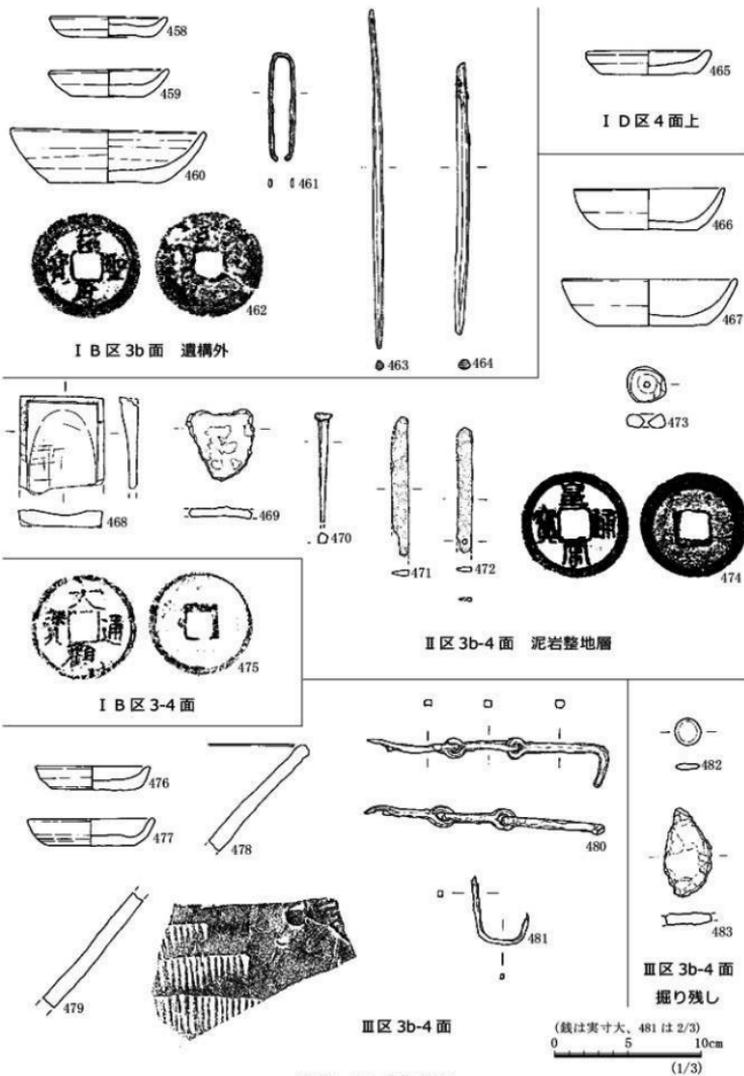


图 30 出土遺物 (19)



图 31 出土遺物 (20)

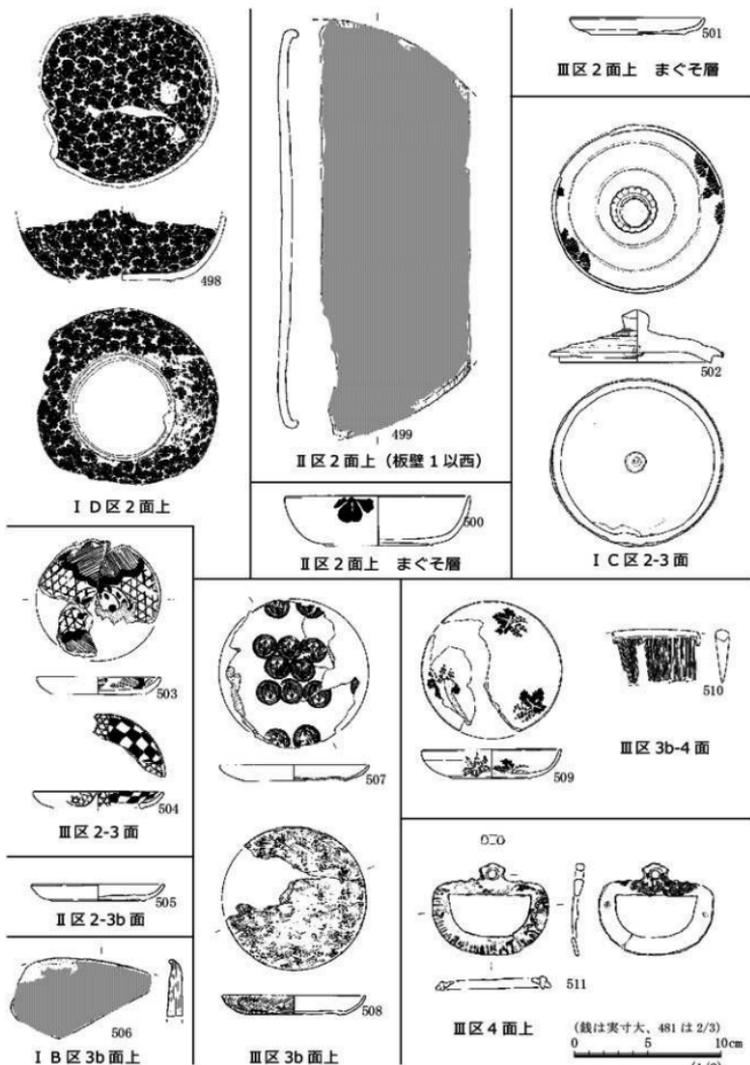


图 32 出土遺物 (21)

確認できた。

柱穴列はⅡ区北部からⅢ区にかけて検出され、東西1間×南北2間分の並びを確認した。さらに1間南側に広がる可能性もあるが、掘方の深さなどに差異が見て取れたことから、図10の復元案には採用しなかった。柱間距離は200cm前後で、南北の軸線はN30°Wを示す。Ⅲ区検出の柱穴3基は礎板を据えず掘方底面に直接柱材を立てており、Ⅱ区検出の1基は柱材が残らず、底面に礎板2枚が重なった状態で遺存していた。この点、Ⅱ区とⅢ区の柱穴が列をなさないといえる根拠にもなり得る。また、掘方の規模でいうとⅢ区北辺の2基が他の2基よりも大幅に深い(底面標高10.4m前後)ので、前者2基を起点に、調査区外である北東側に展開する柱穴列であった可能性も考えられる。

Ⅲ区4面上では、東西160×南北120cmほどの長方形プランを呈し、確認面からの深さが10cmほどの浅い落ち込みが検出され(土坑4)、この底面上ではロクロかわらけ小皿の完形資料が折り重なって出土している。図16-128～143に掲げた資料であり、上層の3b面かわらけ集中の資料(109～124)と比較して明らかに低平な器形で、体部立ち上りの開きが大きい。また、全体に器壁が薄い作りで、この点、3b面の資料より数gほど軽い傾向に反映されているだろうか。わずかながら、3b面との間にはロクロかわらけの型式差を見出して良いだろう。ⅠD区の4面直上では、手づくねかわらけ小皿の完形資料1点が伏せた状態で出土しており(図30-465)、これ以外、本地点の手づくねかわらけは細片ごく少量が出土しているに過ぎないので、土坑4は、手づくね生産が終焉する間際のかかわり資料群と見なすことができるかもしれない。

この他、4面遺構からの出土遺物を、図16-144～148と図31-486に掲げた。

第5節 4面下

Ⅳ層を取り除いたⅤ層の上面、標高11.1m前後に達したところで掘削を終了した。Ⅳ層は中世遺物を包含し、Ⅴ層は古代以前の堆積と見られるが、部分的に下位の青灰色砂質土層まで掘削したものの、目立った遺物の出土はなかった。遺構も検出されていない。

第6節 遺構外の出土遺物

図17～30および図31-487以降には、明確な遺構にともなわずに出土した遺物を掲げた。上層から順に並べてある。このうち最も出土量が多いロクロかわらけについて通覧すると、1面出土の資料では体部の丸みが強く器高の深い資料が中心となり、2面下～3面の資料では、低平化および体部の湾曲が緩い資料が増加傾向にある。前節でも述べたように、本地点では手づくねかわらけの出土はごくわずかであり、図示できたのはⅠD区の4面直上で出土した図30-465の1点に限られる。こうした点を勘案すると、本地点のかかわりけはロクロ成形品が大多数を占め、手づくねの生産が概ね終焉する段階の製品が上限になるものと推察される。その具体的な年代を付与することは難しいが、大よそ13世紀中葉を前後する時期と考えている。層位ごとの遺物構成や遺物個々の特徴については表3・4の計量表および観察表を参照されたいが、類例の少ない資料として図21-257・258の崇寧通寶2点、図32-502・511の漆器蓋と用途不明の環状鉄製品を取り上げておく。崇寧通寶は当十銭で遺存状態が非常に良く、銘銘が明瞭に読み取れる。鎌倉での出土例は多くない。漆器蓋は天井頂部に金銅製のツマミを差し込み、その基底部は19弁の花弁をかたどった座金で縁取られている。外周縁にも金銅製環を嵌めて縁取りを施し

ている。本体は木胎で、天井部外面には轆轤挽きによって三重の同心円区画を作り出しており、一区画約4cm幅に整えている。内外面全体に黒色系漆を塗り、最も外側の同心円区画には平蒔絵による菊花文を施している。数ある鎌倉の出土品の中でも、類を見ない優品である。本報告には間に合わなかったが、蛍光X線などによる分析、および保存修理を外部委託しているので、そのデータが揃った段階で、紙面を改めて報告の機会をもちたい。511の不明鉄製品は武器・馬具の類と考えてはいるが、現時点までに明確な用途を把握するには至らなかった⁸⁾。半円形の環状板に有孔の突起を作り出す。片面側(表面)の外縁部に細かなキザミを入れ、剥離は進んでいたものの、表裏面ともに黒色系漆を塗って仕上げられていたようである。表面には左右一対の小孔があき、そこに紙軸と思しき鉄製品が遺存していた。この紙によって、皮革製品など他の部材に固定されていたのかもしれない。

※本編の入稿後、これと似た形の銅製品が分銅型の飾り金具などとして報告されている2つの事例を知った(「北条時房・頼時邸跡 雪ノ下一丁目273番口地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』47・49ページ所載 1988年 鎌倉市教育委員会)・(『若宮大路周辺遺跡群 御成町778番1他13筆』90・96ページ所載 2021年 勝イビソク)。博搜すれば、他にも類例が見つかるかもしれない。

表3 出土遺物カウント・計量表

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅱ区 1a面 ビット5				
ロクロかわらけ	大・中			15
Ⅱ区 1a面 ビット6				
ロクロかわらけ	大・中			23
Ⅱ区 1a面 ビット7				
ロクロかわらけ	大・中			498
	小片			12
	C大			166
Ⅱ区 1a面 ビット8				
東濃型	山茶碗か		1	2
Ⅱ区 1a面 ビット9				
ロクロかわらけ	小			19
	大・中			20
	小片			29
常滑	壺		1	54
Ⅱ区 1a面 ビット10				
ロクロかわらけ	小片			11
瀬戸	柄付片口か		1	41
Ⅱ区 1a面 ビット11				
ロクロかわらけ	大・中			6
Ⅱ区 1a面 ビット12				
ロクロかわらけ	大・中			17
Ⅱ区 1a面 ビット13				
ロクロかわらけ	大・中			8
Ⅱ区 1a面 溝1a				
ロクロかわらけ	小			58
	大・中			260
	小片			21
常滑 (7型式まで)	壺		78	7078
瓦	丸瓦	男瓦A	1	39
石製品	軽石(磨石か)		1	62
Ⅲ区 1a面 ビット14				
ロクロかわらけ	小			22
	大・中			39
Ⅲ区 1a面 ビット15				
ロクロかわらけ	大・中			7
	小片			20
常滑	壺		1	23
瓦	平瓦	or火鉢	1	30
Ⅲ区 1a面 ビット16				
ロクロかわらけ	大・中			11
Ⅲ区 1a面 ビット17				
ロクロかわらけ	小			2
	大・中			22
常滑	壺		1	20
Ⅲ区 1a面 ビット18				
ロクロかわらけ	大・中			5
Ⅲ区 1a面 西側落ち込み				
ロクロかわらけ	大		1	152
瓦質土器	火鉢	1B	3	334
1B区 1b面 竪穴1				
ロクロかわらけ	小			440
	大・中			1846
	小片			240
	C大・中			145
	C小			50
白磁		X-1b	1	11
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	1

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
1B区 1b面 竪穴1				
瓦器質	坏		1	2
	香炉		2	14
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	150
			3	100
瀬戸	入子		1	2
	折縁深皿	or洗	3	44
	壺類		1	12
鉄製品	釘		1	3
	火打金		1	13
常滑 (8型式まで)	片口鉢	I	1	40
	壺	Ⅱ	9	400
東濃型	山茶碗		9	445
	すり鉢		1	3
備前	すり鉢		2	29
銅製品	銭か		2	7
木製品	銭か		1	1米湖
	円板		1	
1B区 1b面 竪穴2				
ロクロかわらけ	小			84
	大・中			900
	小片			30
	C大・中			50
鉄製品	釘		1	5
	鉄滓		1	100
土製品	輪切口		2	80
1B区 1b面 溝1b				
ロクロかわらけ	小		1	307
	大・中		1	2897
	小片		1	60
	C大・中		1	65
瀬戸	卸皿		1	39
瓦器質	黒縁坏		1	2
鉄製品	釘		1	3
1B区 1b面 土坑1				
ロクロかわらけ	大・中			39
	小片		1	1
	常滑	壺		1
瓦器質	坏		1	7
1B区 1b面 ビット1				
ロクロかわらけ	大・中			38
1B区 1b面 ビット2				
ロクロかわらけ	小			27
	大・中			32
備前	すり鉢		3	17
1C区 1b面 ビット3				
ロクロかわらけ	小			15
	大・中			104
	小片			41
	C大・中			46
常滑	壺		1	28
鉄製品	鉄滓		1	69
1C区 1b面 ビット4				
ロクロかわらけ	大・中			25
1D区 1b面 土坑3				
ロクロかわらけ	小			9
	大・中			110
	C大・中			49
	C小			50
常滑	片口鉢	I		8
東濃型	山茶碗		1	12

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅱ区 1b面 板壁1				
ロクロかわらけ	小			50
	大・中			185
瓦質土器	火鉢		1	26
Ⅱ区 1b面 土坑2				
ロクロかわらけ	大・中			255
	小片			100
	C大・中			200
Ⅱ区 1b面 ビット14				
ロクロかわらけ	大・中			13
Ⅱ区 1b面 ビット15				
ロクロかわらけ	大・中			14
Ⅱ区 1b面 ビット16				
ロクロかわらけ	小			3
	大・中			25
	小片			38
Ⅱ区 1b面 ビット17				
ロクロかわらけ	小			9
Ⅱ区 1b面 ビット18				
ロクロかわらけ	大・中			42
Ⅱ区 1b面 ビット19				
ロクロかわらけ	大・中			12
Ⅱ区 1b面 ビット20				
ロクロかわらけ	大・中			23
Ⅱ区 1b面 溝1b				
ロクロかわらけ	小			28
	大・中			273
	小片			20
	C小			3
	C大・中			178
Ⅱ区 1b面 板壁1				
ロクロかわらけ	大			190
白磁	皿	IX	1	5
龍泉窯系青磁	碗	II	3	10
東濃型	山茶碗		1	11
瓦質土器	火鉢	I B	18	1506
瓦器質	坏		2	8
銅製品	鉄		2	6
木製品	漆器皿		5	
I B区 2面 溝1下層				
ロクロかわらけ	小			100
	大・中			1032
	小片			150
	C小			100
I B区 2面 溝2				
ロクロかわらけ	小片			12
I C区 2面 土坑1				
ロクロかわらけ	小			796
	大・中			500
	小片			42
	C小			16
	C大・中			64
常滑 (6a型式まで)	片口鉢	II	1	32
瓦器質	黒縁坏		2	113
鉄製品	火箸か		1	16
銅製品	不明		1	6
木製品	箸		8	
木製品	折敷		3	
木製品	角棒		5	

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I C区 2面 南側溝ち込み				
ロクロかわらけ	小			229
	小片			550
	大・中			1500
	C大・中			710
I C区 2面 南側溝ち込み				
瀬戸	卸皿		1	8
常滑	片口鉢	I	1	33
	堿		34	1560
瓦質土器	火鉢		1	6
石製品	仕上砥	鳴滝	1	16
鉄製品	鉄滓		4	96
銅製品	鉄		2	4
土製品	不明		1	23
自然遺物	飯骨		1	1
Ⅱ区 2面 土間状遺構上				
ロクロかわらけ	小			137
	大・中			839
	小片			18
	C大・中			58
青白磁	梅瓶蓋		1	3
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	4
常滑	片口鉢	I	1	163
	堿		3	395
瓦器質	坏		2	53
石製品	滑石鍋	西彼件か	1	9
	漆器皿		2	
木製品	漆器碗		1	
	箸		1	
	板状		1	
Ⅱ区 2面 板壁1				
木製品	漆器盆		1	
Ⅱ区 2面 板壁1裏込め				
ロクロかわらけ	大・中			17
Ⅱ区 2面 ビット1				
ロクロかわらけ	大・中			17
Ⅱ区 2面 ビット2				
ロクロかわらけ	小			34
	大・中			41
	小片			27
Ⅱ区 2面 ビット3				
木製品	棒状		1	
	板状		1	
	角材		1	
Ⅱ区 2面 ビット4				
ロクロかわらけ	大・中			23
	堿		1	40
Ⅱ区 2面 ビット5				
ロクロかわらけ	大・中			42
Ⅱ区 2面 ビット6				
ロクロかわらけ	大・中			199
	小片			22
Ⅱ区 2面 ビット7				
ロクロかわらけ	大・中			14
Ⅱ区 2面 ビット8				
ロクロかわらけ	大・中			24
Ⅱ区 2面 ビット9				
ロクロかわらけ	大・中			29

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅱ区 2面 ビット10				
ロクロかわらけ	小			19
	大・中			19
Ⅱ区 2面 ビット11				
ロクロかわらけ	小			8
	大・中			7
常滑	甕		3	500
Ⅱ区 2面 ビット12				
龍泉系青磁	碗・皿		1	4
木製品	箸			10
木製品	角棒		1	
Ⅱ区 2面 溝1				
ロクロかわらけ	小			18
	大・中			194
Ⅱ区 2面 溝3				
ロクロかわらけ	小			45
	大・中			291
瓦器質	坏		1	1
Ⅱ区 2面 溝4				
ロクロかわらけ	小			25
	大・中			645
	小片			21
	C大・中			135
常滑	片口鉢	I	1	10
		II	1	18
瓦質土器	火鉢	I A	1	88
瓦器質	小皿か		1	6
瓦器質	坏		1	7
銅製品	銭		1	4
自然遺物	種子		1	2
I A区 3a面 土坑1				
ロクロかわらけ	小			33
	大・中			184
木製品	箸			4
木製品	角棒		1	
I C区 3a面 ビット3				
ロクロかわらけ	小			15
	大・中			31
Ⅱ区 3a面 土坑1				
ロクロかわらけ	小			19
	大・中			120
常滑	甕		1	20
木製品	箸		1	
ロクロかわらけ	大・中			10
I A区 3a面 ビット11				
ロクロかわらけ	大・中			8
Ⅱ区 3a面 ビット12				
ロクロかわらけ	大・中			34
Ⅱ区 3a面 ビット13				
ロクロかわらけ	大・中			7
Ⅱ区 3a面 ビット14				
ロクロかわらけ	大・中			28
瓦器質	坏		1	2
Ⅱ区 3a面 ビット15				
ロクロかわらけ	大・中			7
Ⅱ区 3a面 ビット16				
ロクロかわらけ	小片			9

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅱ区 3a面 ビット17				
ロクロかわらけ	小			36
	大・中			214
	C大・中			23
Ⅱ区 3a面 ビット18				
ロクロかわらけ	大・中			39
Ⅱ区 3a面 ビット19				
ロクロかわらけ	小			9
	大・中			31
不明陶器	壺		1	16
瓦器質	坏		1	7
鉄製品	釘		1	2
I B区 3b面 かわらけ集中				
ロクロかわらけ	内折れ種小		1	13
	小		11	637
	大・中		13	1176
	C大・中		1	177
白磁	碗	IX	1	15
			1	7
瓦器質	内折れ皿		1	17
常滑 (6a型式まで)	片口鉢	I	1	79

I B区 3b面 ビット1				
ロクロかわらけ	内折れ種小			1
	小			11
	大・中			119
	小片			14
I B区 3b面 ビット2				
ロクロかわらけ	小			27
	大・中			35
	大 (墨書)		1	13
I B区 3b面 ビット3				
ロクロかわらけ	大・中			37
瓦器質	黒線坏		1	3
I C区 3b面 ビット5				
ロクロかわらけ	小			16
I C区 3b面 ビット6				
ロクロかわらけ	大・中			22
I C区 3b面 ビット7				
常滑	甕		1	92
I C区 3b面 ビット8				
常滑	甕		1	25
I C区 3b面 ビット9				
ロクロかわらけ	大・中			6
I D区 3b面 ビット33				
ロクロかわらけ	小			14
	大・中			4
龍泉系青磁	碗	II	1	4
Ⅱ区 3b面 溝状遺構1				
ロクロかわらけ	小			37
	大・中			149
鉄製品	不明		1	39
ロクロかわらけ	小			27
Ⅱ区 3b面 ビット21				
ロクロかわらけ	小片			20
Ⅱ区 3b面 ビット22				
ロクロかわらけ	小			6

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅱ区 3b面 ビット23				
ロクロかわらけ	大・中			11
Ⅱ区 3b面 ビット24				
ロクロかわらけ	大・中			70
Ⅱ区 3b面 ビット25				
ロクロかわらけ	小			7
	大・中			86
Ⅱ区 3b面 ビット26				
ロクロかわらけ	小			9
Ⅱ区 3b面 ビット27				
ロクロかわらけ	大・中			9
Ⅱ区 3b面 ビット28				
ロクロかわらけ	小			11
Ⅱ区 3b面 ビット29				
ロクロかわらけ	小			3
	大・中			79
常滑	甕		1	123
瓦質土器	火鉢	1A		135
Ⅱ区 3b面 ビット30				
常滑	甕	6a型式	1	57
Ⅱ区 3b面 ビット31				
ロクロかわらけ	小			23
	大・中			16
Ⅱ区 3b面 ビット32				
ロクロかわらけ	小			20
Ⅲ区 3b面 土坑2				
ロクロかわらけ	小			24
	大・中			41
	小片			17
Ⅲ区 3b面 土坑3				
ロクロかわらけ	小			6
	大・中			46
龍泉系青磁	碗	Ⅱ	1	8
Ⅲ区 3b面 ビット33				
ロクロかわらけ	小			5
	大・中			17
Ⅲ区 3b面 ビット34				
ロクロかわらけ	小			52
	大・中			40
常滑	甕		1	103
瓦器質	黒縁環		1	6
石製品	硯石	赤間	1	61
Ⅲ区 3b面 ビット35				
ロクロかわらけ	小片			10
	釘		1	2
鉄製品	刀子		1	7
Ⅲ区 3b面 ビット36				
ロクロかわらけ	小			7
	大・中			61
Ⅲ区 3b面 ビット37				
ロクロかわらけ	大・中			26
ⅠC区 4面 ビット1				
ロクロかわらけ	小		1	49
	大・中			24
舶載施軸陶器	泉州系黄軸盤		1	108
Ⅱ区 4面 土坑1				
ロクロかわらけ	小			10
	大・中			102
常滑	甕		1	73

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
Ⅱ区 4面 土坑2				
ロクロかわらけ	小			11
	大・中			48
Ⅱ区 4面 ビット2				
ロクロかわらけ	大・中			9
白かわらけ	小片		1	2
木製品	板状			5
Ⅱ区 4面 ビット3				
ロクロかわらけ	小			36
	大・中			15
Ⅱ区 4面 ビット4				
ロクロかわらけ	小片			15
Ⅱ区 4面 ビット5				
ロクロかわらけ	大・中			11
常滑	甕		1	54
瓦質土器	火鉢	1A	1	43
Ⅱ区 4面 ビット6				
ロクロかわらけ	大・中			7
瓦器質	黒縁環		1	4
Ⅱ区 4面 ビット7				
ロクロかわらけ	大・中			12
Ⅲ区 4面 土坑3				
ロクロかわらけ	小			81
	大			61
Ⅲ区 4面 土坑4				
ロクロかわらけ	小			623
	大・中			53
銅製品	銭		1	4
Ⅲ区 4面 土坑10				
ロクロかわらけ	小			7
	大・中			11
Ⅲ区 4面 土坑11				
ロクロかわらけ	大・中			16
常滑	甕		1	32
鉄製品	釘		1	3
Ⅲ区 4面 土坑12				
石製品	硯石		1	16
Ⅲ区 4面 土坑13				
ロクロかわらけ	小			17
Ⅲ区 4面 土坑14				
ロクロかわらけ	大・中			15
Ⅲ区 4面 土坑15				
ロクロかわらけ	小			3
	大・中			17
Ⅲ区 4面 土坑16				
ロクロかわらけ	大・中			11
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	53
Ⅲ区 4面 土坑17				
ロクロかわらけ	小			17
石製品	硯石	鳴滝	1	5
木製品	漆器皿		1	
Ⅲ区 4面 土坑18				
ロクロかわらけ	小		1	29
Ⅲ区 4面 土坑19				
ロクロかわらけ	小片			1
	大・中			9
銅製品	銭		1	4

表2 出土遺物カウント・計量表

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
確認調査(試掘)時				
ロクロかわらけ	小			14
	大・中			200
	C中			37
	壺類		1	32
瀬戸	広口壺			300
備前	すり鉢		1	16
表面採集・埴土山				
ロクロかわらけ	小			23
	大・中			335
	C小			12
	C大・中			33
瀬戸	鉦皿		1	54
常滑	甕		1	150
瓦質土器	火鉢		1	64
瓦器質	黒縁環		1	2
鉄製品	釘		1	5
銅製品	鉄滓(碗形滓)		1	5
銅製品	銭		4	13
Ⅱ区 1a面上 西半部落ち込み(遺物包含層)				
ロクロかわらけ	小			394
	大・中			3387
	小片			600
	C小			55
	C大・中			750
白磁	皿	IX	1	7
常滑	甕		4	465
	転用研磨具	片口鉢I	1	31
東播系須恵器	片口鉢		2	63
瓦質土器	火鉢	IB	5	399
瓦器質	黒縁環		1	2
瓦	丸瓦		1	68
石製品	滑石スタンプ	銅転用	1	79
	滑石風石	銅転用	1	275
Ⅱ区 1a面上 遺物包含層				
ロクロかわらけ	小			149
	大・中			3208
	小片			250
	C小			100
	C大・中			310
白磁	碗・皿	IX	1	2
瓦質土器	火鉢	III	4	280
		III	1	86
		IV	4	340
瀬戸	鉦皿	前IV ～中II	3	43
常滑 (7型式まで)	片口鉢	I	1	13
	甕	II	7	360
			43	3400
東濃型 (第7型式まで)	山茶碗		2	19
石製品	中砥	伊予	2	17
	荒砥	天草	1	757
鉄製品	鉄滓		1	181
銅製品	銭		1	3
Ⅲ区 1a面上 遺物包含層				
石製品	中砥	上野	1	101

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
ⅠA区 1b面上 遺物包含層(上層)				
ロクロかわらけ	小			209
	大・中			930
	特大			172
	小片			100
	C中			50
	C大・中			100
手づくねかわらけ	大			14
青白磁	梅瓶		2	61
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	6
常滑	片口鉢	II	3	260
	甕		7	350
石製品	仕上砥	鳴滝	1	47
ⅠA区 1b面上 遺物包含層(下層)				
ロクロかわらけ	大・中		2	263
	C中		2	117
	C'小		1	24
	白磁	皿	IX	1
同安窯系青磁	碗か	I	1	18
龍泉窯系青磁	碗	III	1	13
	入子		1	23
瀬戸	鉦皿		1	4
	瓶類		1	16
石製品	仕上砥	鳴滝	2	45
銅製品	銭		2	7
ⅠB区 1b面上 遺物包含層(上層)				
ロクロかわらけ	小			300
	大・中			1451
	小片			200
	C'小			94
輸入土器	磨付鍋		1	46
白磁	碗・皿		2	5
龍泉窯系青磁	碗	II or III	2	33
	碗・環		1	6
青白磁	梅瓶		1	3
	入子		1	3
瀬戸	鉦皿		1	27
	瓶類		5	185
常滑	片口鉢	II	7	260
	甕		15	890
備前	すり鉢		3	300
		III	1	413
瓦質土器	火鉢		3	142
瓦	平瓦		1	51
銅製品	銭		2	3
土製品	縄羽口		1	25
ⅠB区 1b面上 遺物包含層(下層)				
ロクロかわらけ	小			609
	大・中			3150
	小片			660
	C大・中			240
白磁	小片		2	1
瀬戸	鉦皿		5	40
	壺類		1	8
常滑 (7型式まで)	片口鉢	II	8	640
	甕		5	500
	転用研磨具	甕転用	2	53
	甕		1	85
備前	すり鉢	細片	45	561
瓦質土器	火鉢		3	109
瓦器質	環		2	5
石製品	仕上砥	鳴滝	1	79
	中砥	伊予	1	19
鉄製品	釘		3	19
土製品	縄羽口		2	416

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I C区 1b面上 遺物包含層 (上層)				
ロクロかわらけ	小			1034
	大・中			1485
	小片			2730
	C大・中			760
	G' 大・中		2	287
白磁	碗	IX		1 10
青白磁	梅瓶			1 3
龍泉系青磁	碗	III		1 18
瀬戸	碗・坏			1 9
	入子			2 18
	銅皿	後II		1 5
常滑 (7型式まで)	密瓶			3 73
	片口鉢	II		6 553
	甕		138	10150
東濃型 (第7型式)	転用研磨具	甕転用		1 110
東濃型 (第7型式)	山茶碗			1 21
東播系須恵器	片口鉢			2 118
備前	すり鉢			1 310
瓦質土器		IB		3 241
		III		3 175
		IVA		2 142
				13 634
石製品	硯石	鳴滝		1 73
	仕上砥	鳴滝		2 64
	滑石鍋			1 28
鉄製品	火箸			4 23
	鉄滓			1 70
	不明			1 276
銅製品	銭			6 19
土製品	輪羽口			4 207
I C区 1b面上 遺物包含層 (下層)				
ロクロかわらけ	小			240
	大・中			2050
	小片			100
	C小			50
	C大・中			350
常滑	片口鉢	I		2 200
		II		2 310
	甕			5 200
I C区 1b面上 炭層				
ロクロかわらけ	小			74
	大・中			1069
	小片			26
	C小			37
	C大・中			58
不明土器		1		6
龍泉系青磁	小碗	IIIか		1 10
常滑	片口鉢	I		1 27
	甕		3	101
瓦質土器	転用研磨具	甕転用		1 99
瓦器質	火鉢			1 33
瓦器質	坏			2 13
石製品	滑石鍋	西彼岸		3 118
鉄製品	鉄滓			106 7355
銅製品	銭			1 3
土製品	輪羽口			54 3919
I D区 1b面上 遺物包含層				
ロクロかわらけ	小			256
	大・中			1688
	小片			210
	C小			4
	C大・中			460

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
I D区 1b面上 遺物包含層				
白磁	碗	IX		1 7
瀬戸	四耳壺か			2 61
常滑	片口鉢	I		1 11
	甕			1 26
東播系須恵器	片口鉢			5 153
備前	すり鉢			2 31
瓦質土器		IB		1 127
	火鉢			5 125
石製品	滑石スタンプ	銅転用		1 25
鉄製品	釘			1 5
銅製品	銭			1 4
I D～Ⅲ区 1b面上 遺物包含層				
ロクロかわらけ	小			142
	大・中			360
	小片			16
	C小			21
常滑	C大・中			41
	片口鉢	I		1 21
	甕	II		1 21
瓦質土器	火鉢			5 250
				2 68
Ⅲ区 1b面上 遺物包含層				
ロクロかわらけ	大・中			127
	C中			30
木製品	漆器皿			3
	漆器碗			3
	曲物底板か			2
I A区 1b～2面				
ロクロかわらけ	小			216
	大・中			1210
	小片			110
	C小			24
	C大・中			175
青白磁	梅瓶			3 28
瀬戸	入子			2 6
龍泉系青磁	折縁深皿			2 8
瓦質土器	鍋・釜			1 8
常滑	片口鉢	Iか		1 9
		II		9 49
国産	甕			1 18
備前	すり鉢			1 15
瓦質土器	火鉢			1 19
鉄製品	釘			1 2
銅製品	銭			2 20
石	雲母片			1 0
木製品	漆器皿			5
	漆器碗			3
	漆器不明			1
自然遺物	円板			1
	不明			2
I B区 1b～2面				
龍泉系青磁	碗	II		1 5
瓦器質	黒緑坏			2 12
Ⅲ区 1a～1b面 (肥岩盤地層)				
ロクロかわらけ	小			99
	大・中			249
	小片			43
Ⅲ区 1a～1b面 (黒色土)				
ロクロかわらけ	小			498
	大・中			3500
	小片			1000
	C大・中			270
龍泉系青磁	碗	II		1 13

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
瀬戸	入子		1	10
常滑 (6b型式まで)	片口鉢	I	1	13
		II	1	37
	甕		6	360
瓦質土器	火鉢	IB	1	1550
瓦器質	黒縁坏		5	30
石製品	中砥	伊予	1	172
鉄製品	不明		1	81
銅製品	銭		2	4
土製品	輪羽口		1	121
Ⅱ区 1a~1b面 (泥岩整地層)				
	小			1209
	大・中			11380
	小片			2600
ロクロかわらけ	C小			400
	C中			312
	C大・中			3157
	C'小		4	170
白かわらけ	皿 (ロクロ)			11
白磁	皿	IX	2	9
	碗	V-4bカ	1	9
		I-2	1	8
龍泉窯系青磁	碗	II-C	1	48
		III	1	40
	坏	III (大)	1	10
瀬戸	入子		1	36
	鉦皿		1	130
常滑 (8型式まで)	片口鉢	I	3	100
		II	19	3015
	甕	~6b	23	1560
		IAカ	2	200
瓦質土器	火鉢	IB	5	200
			5	400
瓦器質	黒縁坏		2	17
南伊勢系	鉢・釜		3	34
	礎石	鳴滝	1	99
	中砥	伊予	1	529
石製品	仕上砥	鳴滝	3	73
	仕上砥 (16~17c前葉)	鳴滝	1	62
	滑石硯形	銅転用	1	105
鉄製品	釘		1	1未測
銅製品	銭		3	8
土製品	輪羽口		2	70
木製品	漆器皿		1	
	曲物底板カ		1	
Ⅲ区 1a~1b面 (黒色土)				
ロクロかわらけ	小			6
	大・中			65
	小片			15
ⅠB区 1b~2面				
ロクロかわらけ	小			100
	大・中			450
	小片			100
	C大・中			100
常滑	片口鉢	I	1	6
	甕		3	48
ⅠC区 1b~2面				
ロクロかわらけ	小			144
	大・中			280

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
ⅠD区 1b~2面				
ロクロかわらけ	小			346
	大・中			2236
	小片			105
	C小			110
	C大・中			790
白磁	碗・皿	IX	2	15
龍泉窯系青磁	碗		1	11
船載施釉陶器	絶軸壺		1	17
尾張型カ	碗		1	12
常滑 (6a型式まで)	片口鉢	I	5	142
	甕		3	49
東濃型	山茶碗		3	11
瓦質土器	火鉢		6	214
瓦器質	坏		1	2
石製品	滑石鍋		1	79
鉄製品	釘		2	3
	鋳カ		1	167
銅製品	銭		2	6
骨製品	筭		1	3
木製品	漆器皿		1	
Ⅱ区 1b~2面 (板壁1以西)				
ロクロかわらけ	小			90
	大・中			1140
	小片			140
	C大・中			100
龍泉窯系青磁	碗	II	3	10
常滑	片口鉢	I	1	7
	甕		4	155
東濃型	山茶碗		1	11
瓦器質	坏		2	8
銅製品	銭		2	6
Ⅱ区 1b~2面 (板壁1以东)				
ロクロかわらけ	小			140
	大・中			1125
	小片			310
	C大・中			315
白磁	皿	IX	1	5
常滑	甕		2	95
瓦質土器	火鉢	IB	18	1596
Ⅱ区 1b面下 (水抜き溝)				
ロクロかわらけ	小			156
	大・中			397
	小片			34
	C大・中			31
龍泉窯系青磁	碗	III	1	14
常滑	片口鉢	II	2	77
	甕		2	132
石製品	滑石鍋		1	53
Ⅲ区 1b~2面 まぐそ層				
ロクロかわらけ	小			350
	大・中			1650
	小片			280
	C小			15
	C大・中			200
手づくねかわらけ	小片			20
白磁	皿	Xカ	2	12
	合子身		1	3
龍泉窯系青磁	碗	II	1	2
瀬戸	入子		1	6
常滑	片口鉢	I	1	65
	甕		5	380
不明陶器			1	10
瓦質土器	火鉢		1	30

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
石製品	軽石研磨具か		1	9
木製品	漆器皿		1	
	漆器椀		1	
	箸		6	
自然遺物	燧石		1	
	針葉(松葉か)		1	
Ⅲ区 1b~2面・3b~4面				
ロクロかわらけ	小			450
	大・中			1730
	小片			260
	C大・中			210
手づくねかわらけ	小			24
不明土器			3	15
白磁	皿	IX	2	5
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ・Ⅲ	11	102
瀬戸	入子		5	21
常滑	片口鉢	I	5	94
瓦質土器	甕		5	260
瓦器質	火鉢		1	89
瓦製品	坏		1	2
石製品	中砥	砥沢	1	26
鉄製品	釘		6	17
	不明		1	21
銅製品	銭		1	5
I 8区2面 直上				
ロクロかわらけ	小			14
	大・中			81
常滑	転用研磨具	樂転用	1	55
石製品	仕上げ砥	鳴滝	1	11
I 9区2面 直上				
瓦器質	黒縁坏		1	58
木製品	漆器椀		1	
I 8区 2~3b面				
ロクロかわらけ	内折れ権小		2	8
	小			1102
	大・中			5983
	小片			700
	C大・中			400
搬入土器	鍋・釜		1	4
白磁	皿	IX	4	11
白磁	碗・皿		1	1
白磁	合子蓋		1	3
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	10	50
瓦質土器	黒鉢	ⅡA	1	2
瓦器質	黒縁坏		10	74
石製品	中砥	合掌寺	1	39
常滑	甕		3	70
	転用研磨具	樂転用	1	55
瀧美	片口碗		1	113
東濃型	山茶碗		1	6
	釘		2	12
鉄製品	火箸		1	7
	刀子		2	28
	火打金		1	17
銅製品	銭		1	4
木製品	漆器椀		1	
織維	不明		1	
I C区 2~3a面				
ロクロかわらけ	小			150
	大・中			750
	小片			200
	C小			9
	C大・中			200

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量(g)
龍泉窯系青磁	碗		1	4
瀬戸	壺類			13
常滑	甕		11	600
東播系須恵器	片口鉢		1	46
瓦質土器	火鉢		2	63
瓦器質	黒縁坏		1	7
木製品	棒状		1	

I C区 2~3a面				
石製品	硯石	赤間	1	90
鉄製品	釘		2	4
	鉄滓(碗形滓)		5	700
銅製品	銭		5	16
土製品	輪羽口		5	200
Ⅱ区 2~3a面 (2面 板壁1裏込め下)				
ロクロかわらけ	小			160
	大・中			150
	小片			12
	C小			9
常滑	甕		1	148
Ⅱ区 2~3a面				
ロクロかわらけ	小			50
	大・中			595
	小片			35
	C小			37
	C大・中			37
青白磁	梅瓶蓋		1	2
同安窯系青磁	小片		1	1
瀬戸	入子		1	9
常滑	片口鉢	Ⅱ	4	145
	甕		2	245
瓦質土器	火鉢		1	26
瓦器質	坏		2	7
銅製品	銭		2	7
木製品	箸		2	
	棒状		2	
Ⅲ区 2~3a面				
ロクロかわらけ	内折れ権小			18
	小			4637
	大・中			10654
	小片			1890
	C小			66
	C大・中			1220
南伊勢系	鍋		2	14
搬入土器か	不明		1	3
白磁	碗・皿	IX	6	50
	合子身		2	3
青白磁	梅瓶蓋		1	10
	梅瓶		2	8
	梅瓶		1	3
	碗	Ⅱ	8	66
	碗	Ⅲ	10	182
龍泉窯系青磁	碗・皿		6	13
	坏	Ⅲ	4	85
瀬戸	入子		1	5
尾張型(第7型式まで)	山茶碗		1	8
常滑(6b型式まで)	片口鉢	I	12	690
	甕	Ⅱ	7	840
	甕	6b型式	25	2680
瀧美	甕		5	530

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
東濃型	山茶碗		1	13
瓦質土器	火鉢	IA	1	66
			1	22
瓦器質	坏		1	2
	黒縁坏		23	233
瓦	丸瓦		1	91
須恵器	坏小		1	4
	滑石鍋	西岐件	9	539
	硯石	鳴滝	1	219
石製品	仕上砥	鳴滝奥殿 備水	1	151
	中砥	天草	1	123
	漆器皿		2	
	漆塗り素形		2	
	漆塗り調度具		1	
木製品	箸		36	
	曲げ物底板		1	
	栓		1	
	榎杖球		1	
	棒状		1	
	円板		1	
Ⅲ区 2~3a面				
石	雲母片		1	2
鉄製品	釘		7	23
	刀子		1	5
銅製品	銭		3	10
	環状製品		1	2
骨製品	筭		1	5
ⅠD区 2~3b面				
ロクロかわらけ	小			200
	大・中			553
	小片			53
白磁	皿		1	4
青磁	碗	Ⅲ	2	33
常滑	片口鉢	I	1	26
(6a型式まで)	甕		2	67
瓦質土器	火鉢	IA	1	62
瓦器質	坏		1	83
瓦器質	坏		1	3
銅製品	銭		1	2
ⅠB区 2~3b面				
ロクロかわらけ	大・中		1	8
常滑	甕		1	8
ⅠC区 2~3b面				
ロクロかわらけ	小			197
	大・中			1642
	小片			533
	C大・中			190
常滑 (6a型式まで)	甕		10	750
瓦質土器	火鉢		1	50
瓦器質	黒縁坏		2	12
石製品	仕上砥	鳴滝	1	38
鉄製品	釘		1	6
木製品	漆器皿		1	
	漆器鉢小		1	
Ⅱ区 2~3a面				
ロクロかわらけ	小			677
	大・中			3740
	小片			1000
	C大・中			440

種別・ 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
白磁	碗	IX	2	10
		X-1か	1	10
青磁	皿		3	8
胎藏施軸陶器	縁軸壺小		1	8
瀬戸	入子		2	24
尾張型	山茶碗		1	6
	片口鉢	I	1	52
常滑		Ⅱ	1	13
	甕		9	400
瓦質土器	火鉢	IA	4	200
瓦器質	坏小		1	13
	黒縁坏・小坏		6	18
石製品	滑石鍋再加工品	西岐件	2	120
	仕上砥	鳴滝	2	13
鉄製品	釘		1	1
木製品	漆器皿		1	
	漆器胸		1	
	箸		3	
ⅠB区 3b面 直上				
ロクロかわらけ	小			490
	大・中			3320
	小片			230
	C大・中			170
白磁	碗	IX-1a	1	48
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	5	15
石製品	中砥	伊予	1	12
鉄製品	釘		3	6
	工具		1	14
木製品	漆器盆		1	
ⅠC区 3a~3b面				
ロクロかわらけ	小			184
	大・中			1188
	小片			160
	C大・中			210
瀬戸	不明		1	13
	碗	Ⅱ	2	31
		Ⅲ	1	9
龍泉窯系青磁	坏	Ⅲ-3b	2	22
瓦器質	黒縁坏		1	5
木製品	部材		1	
Ⅱ区 3a~3b面				
ロクロかわらけ	小			1859
	大・中			5054
	小片			780
	C大・中			380
	C'大・中			85
白磁	碗・皿	IX	4	21
青白磁	合子蓋小		1	1
	梅瓶		1	8
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ・Ⅲ	7	35
瀧泉	甕		4	509
尾張型	山茶碗		1	20
瓦質土器	火鉢	IA	12	939
瓦器質	坏		4	28
石製品	仕上砥	鳴滝	1	74
瀬戸	入子		1	10
	片口鉢	I	4	100
常滑		Ⅱ	2	45
	小壺		1	25
	甕		7	410
鉄製品	釘		1	5
	不明		2	66
銅製品	銭		1	4

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
骨製品	筭		1	3
	加工骨			10
ハマグリ殻	漆パレット		1	
Ⅱ区3b面 直上				
ロクロかわらけ	小			150
	大・中			987
木製品	漆器皿		2	
木製品	漆器碗		1	
木製品	用途不明		1	
Ⅲ区3b面 直上				
ロクロかわらけ	小			752
	大			336
鉄製品	刀子		1	29
木製品	漆器椀		1	
ⅠB区 3b～4面				
ロクロかわらけ	小			24
	大・中			162
	小片			35
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	11
船載施釉陶器	泉州窯系黄釉盤		1	25
尾張型	小皿		1	4
瓦器質	坏		1	2
	片口鉢	I	5	92
常滑	甕		7	256
	壺類		4	286
鉄製品	砥石(玉網ぎか)	砥沢	1	37
鉄製品	火箸		1	19
ⅠC区 3b～4面				
ロクロかわらけ	小			14
	大・中			64
常滑	片口鉢	I	1	34
	甕		11	300
ⅠC区 3b面 直上				
ロクロかわらけ	小			54
	大・中			467
常滑	甕		1	155
石製品	中砥	伊予	1	134
	滑石鉢	西條杵	1	259
ⅠD区 3b～4面				
ロクロかわらけ	小			130
	大・中			860
	小片			105
白磁	碗		1	7
青白磁	皿		3	2
龍泉窯系青磁	碗	Ⅲ	1	15
			2	3
常滑	片口鉢	I	6	215
	甕		1	17
瓦質土器	火鉢	I B		134
瓦器質	坏・皿		2	8
鉄製品	毛抜き		1	7
銅製品	銭		1	3
木製品	箸			3
Ⅱ区 3b～4面				
ロクロかわらけ	小			288
	大・中			584
	小片			99
	G' 中		1	73
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	3	13
	坏(大)	Ⅲ	1	26
常滑	片口鉢	I	1	17
(6a型式まで)	広口壺		1	34
	甕		10	525
石製品	硯石	鳴滝	1	65

種別・産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
鉄製品	釘		1	8
	刀子か		2	19
	不明		2	45
銅製品	銭		1	3
土製品	有孔円盤		1	5
木製品	漆器皿		2	
Ⅲ区 3b～4面				
ロクロかわらけ	小			157
	大・中			895
	小片			30
瀝美	甕		2	229
	片口鉢	I	1	40
常滑		Ⅱ	1	191
	甕		1	75
鉄製品	掛金具		1	31
	針(釣針か)		1	1未満
木製品	漆器皿		2	
木製品	漆塗り横櫛		1	
木製品	板状		1	
ⅠD区 4面下～中世基盤層				
ロクロかわらけ	大・中			14
常滑	三筋壺		1	30
Ⅲ区 4面下～中世基盤層				
ロクロかわらけ	大・中			70
	小片			15
手づくねかわらけ	大			11
瀝美	甕		1	35
石製品	碁石		1	2
鉄製品	不明		1	39

表4 出土遺物観察表

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 黒材/灰質	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図12 1	在土土器	ロクロ かわらけ・大	完形	7.6	5.1	1.6	47	C+E	橙	ナデ	板状	
図12 2	在土土器	ロクロ かわらけ・大	口1/4~ 底完存	12.8	7.5	3.4	[166]	D	黄緑	ナデ	板状	未貫通の穿孔1ヶ所
図12 3	国産陶器	常滑 壺	口1/7 (21.2)	—	—	[9.8]	[3494]		黄灰~ 暗灰黄			
図12 4	国産陶器	常滑 壺	口小片	—	—	[9.4]	[511]		灰			
図12 5	国産陶器	常滑 壺	口4/5~ 底完存	20.6	16.2	33.9	[6050]		橙~ 橘灰			広口壺 6h~7型式
図12 6	石製品	磨石カ	完形	4.7	3.8	3.5	62		明褐色			軽石 全面研磨痕
図12 7	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	4.4	1.7	51	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部備付着
図12 8	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.4	1.5	41	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図12 9	在土土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	7.9	5.7	1.6	[52]	B	黄灰	ナデ	—	
図12 10	在土土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.5	1.7	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	
図12 11	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.3	1.8	44	C+B	黄緑	ナデ	—	
図12 12	在土土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	6.8	4.2	2.0	[25]	C	橙	ナデ	板状	口縁部備付着 内外面薄く剥離
図12 13	在土土器	ロクロ かわらけ・小	5/6	7.2	4.7	2.0	[40]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図12 14	在土土器	ロクロ かわらけ・大	完形	11.8	7.0	1.6	137	C+B	黄緑	ナデ	板状	
図12 15	国産陶器	瀬戸 御皿	2/3 (12.4)	(7.6)	3.4	[124]			灰			
図12 16	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図13 17	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.1	4.5	2.0	44	C+B	黄緑	ナデ	板状	
図13 18	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口1/4~ 底完存	(7.4)	5.0	1.9	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	
図13 19	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.3	2.1	53	C+B	黄緑	ナデ	板状	
図13 20	在土土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.9	8.3	3.4	[136]	C	橙	ナデ	板状	
図13 21	鉄製品	火打ち金	一端欠	(10.2)	1.0	0.4	[11]					
図13 22	鉄製品	釘	完形	(6.3)	0.5	0.3	3					
図13 23	銅銭	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.8	0.1	4					紹興元寶カ 南宋1131年 篆書
図13 24	銅銭	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.7	0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 真書
図13 25	木製品	円盤状	完形	6.7	5.8	0.2						全体に細かな凹痕
図13 26	在土土器	ロクロ かわらけ・小	1/2強	7.8	5.3	1.7	[34]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部備付着
図13 27	在土土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.3	9.1	2.8	[150]	B	黄緑	ナデ	板状	口縁部一部うすく備付着
図13 28	鉄製品	釘	一端欠	[6.7]	0.5	0.4	[5]					
図13 29	在土土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4~ 底完存	11.9	8.1	3.6	[169]	B	灰黄	ナデ	板状	
図13 30	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	6.0	8.4	1.4	99		褐			
図13 31	土製品	輪郭口	—	[8.6]	径 7.4	孔径 2.8	[284]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 32	土製品	輪郭口	—	[9.7]	径 7.9	孔径 3.1	[436]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 33	土製品	輪郭口	—	[9.1]	径 7.6	孔径 3.2	[286]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 34	土製品	輪郭口	—	[8.3]	径 6.5	孔径 2.4	[267]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 35	土製品	輪郭口	—	[10.4]	径 7.1	孔径 2.5	[286]		黄灰			先端にスラグ融着

() = 復元値 [] = 残存値

通物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 系材/表面	内産 調整	外産 区係	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	総高・厚さ						
図13 36	土製品	繻羽口	—	[6.8]	径 7.0	口径 2.7	[215]		黄灰			先端にスラグ融着
図13 37	銅製品	鏡	完形	外径 2.4	口径 0.6	0.1	3					昭和三十八年 北東1094年 行書
図14 38	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	4.3	2.5	[49]	B+C	黄灰	ナデ	板状	
図14 39	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	4.9	1.7	[50]	B	黄灰	ナデ	板状	
図14 40	在土土器	ロクロ かわらけ・大	口3/4~ 底完存	12.6	8.2	3.5	[172]	B	黄橙	ナデ	板状	
図14 41	在土土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.9	5.9	2.2	[69]	B	黄灰	ナデ	板状	
図14 42	在土土器	ロクロ かわらけ・中	完形	10.6	6.1	2.9	104	C	黄灰	ナデ	板状	C内外面黒変
図14 43	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	4.9	1.8	[57]	B	黄灰	ナデ	板状	
図14 44	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	5.4	1.9	[57]	B	黄灰	ナデ	板状	
図14 45	石製品	砥石	一端欠	[3.5]	3.2	[0.7]	[16]		灰白			鴨居仕上砥
図14 46	銅製品	鏡	1/2	外径 —	口径 —	0.1	[1]					解説不能
図14 47	銅製品	鏡	完形	外径 2.4	口径 0.6	0.1	3					解説不能
図14 48	在土土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.6	5.7	1.7	[45]	C+B	灰黄	ナデ	板状	
図14 49	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.2	7.0	3.5	[146]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図14 50	挿入土器	瓦脚貫 弁	1/8割	(17.9)	(6.1)	4.7	[32.6]		灰~黒			底部に粘土痕
図14 51	木製品	用途不明	一端欠	[18.1]	4.9	0.6						表面面にキズ
図14 52	在土土器	ロクロ かわらけ・小	7/8	11.1	7.1	3.5	[130]	B	橙	ナデ	板状	内底ナデ強い 全体に焼け歪み
図14 53	木製品	箸	完形	22.3	0.8	0.4						
図14 54	木製品	箸	完形	22.1	0.7	0.5						
図14 55	木製品	箸	完形	23.0	0.6	0.4						
図14 56	木製品	箸	完形	21.2	0.7	0.5						
図14 57	木製品	用途不明	完形	7.2	3.9	3.0						加工途中か
図15 58	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.0	5.6	1.6	49	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 59	在土土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.3	5.6	1.5	[39]	B	黄橙	ナデ	板状	
図15 60	在土土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.0	5.0	1.9	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	
図15 61	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	5.6	1.9	54	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 62	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2~ 底完存	7.2	5.0	1.9	[40]	B	橙	ナデ	板状	
図15 63	在土土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.6	5.0	2.0	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 64	在土土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.4	5.3	1.7	[47]	B	黄灰	ナデ	板状	打ら欠き
図15 65	在土土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.3	5.0	1.8	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	
図15 66	挿入土器	黒縁瓦脚貫 弁	完形	11.4	6.2	3.5	112		灰			
図15 67	銅製品	用途不明	完形	5.4	2.3	0.8	6					所々に黒色の付着物
図15 68	鉄製品	火箸か	一部欠	23.9	径 0.5	金環径 0.9	[16]					柄の装着部に金輪 木質の繊維痕
図15 69	木製品	箸	完形	24.6	0.7	0.5						
図15 70	木製品	箸	完形	24.6	0.6	0.3						

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 形状	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図15 71	木製品	箸	完形	23.9	0.6	0.4						
図15 72	木製品	箸	完形	23.9	0.6	0.5						
図15 73	木製品	折敷	—	19.6	[7.5]	0.2						
図15 74	木製品	棒状製品	完形	17.4	0.8	0.3						
図15 75	木製品	棒状製品	完形	15.2	1.0	0.6						
図15 76	木製品	棒状製品	完形	14.5	0.6	0.6						
図15 77	在土土器	ロクロ かわらけ・極小	完形	4.7	3.4	0.9	13	C	橙	ナデ	—	内折れ
図15 78	瓦質土器	内折れ皿	3/4	5.5	5.2	0.9	[17]		灰白	ナデ	—	
図15 79	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.4	1.7	[48]	B	橙	ナデ	板状	内外面一部黒変
図15 80	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	1.6	6.1	[56]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部内外面僅付着
図15 81	在土土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	7.5	5.3	1.7	[51]	B	黄灰	ナデ	—	
図15 82	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.3	1.5	[59]	B	黄灰	ナデ	—	
図15 83	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.9	5.8	1.7	66	B	黄灰	ナデ	—	
図15 84	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	6.0	1.6	[57]	B	黄灰	ナデ	—	
図15 85	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.5	5.1	1.7	41	B	橙	ナデ	—	
図15 86	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3〜 底完存	7.5	5.0	1.7	[39]	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図15 87	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4〜 底完存	7.6	5.4	1.9	[59]	B	黄橙	ナデ	板状	
図15 88	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.5	1.9	62	B	黄橙	ナデ	板状	
図15 89	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3〜 底完存	7.1	4.8	1.9	[35]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図15 90	在土土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.4	7.5	3.6	[157]	B	橙	ナデ	板状	口縁部僅付着
図15 91	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	8.0	3.5	[191]	B	黄灰	ナデ	板状	
図15 92	在土土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.0	8.1	3.2	[160]	B	橙	ナデ	板状	
図15 93	在土土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.1	7.8	3.2	[164]	B	黄灰	ナデ	板状	
図15 94	在土土器	ロクロ かわらけ・大	3/4	12.5	8.2	3.2	[140]	B	橙	ナデ	—	
図15 95	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	8.7	3.4	[154]	B	黄橙	ナデ	—	
図15 96	在土土器	ロクロ かわらけ・大	口一隅 欠	12.1	7.6	3.1	[138]	B	黄橙	ナデ	板状	
図15 97	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.0	7.7	3.3	[165]	B	黄橙	ナデ	板状	
図15 98	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	8.4	3.4	[170]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部僅付着
図15 99	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	8.2	3.3	[162]	B	黄橙	ナデ	—	
図15 100	在土土器	ロクロ かわらけ・大	1/2	12.8	8.6	3.2	[152]	B	黄橙	—	板状	口縁部僅付着
図15 101	在土土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.9	8.2	3.5	[141]	B	黄橙	ナデ	板状	
図15 102	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	13.1	8.7	3.2	[185]	B	黄灰	ナデ	板状	
図16 103	在土土器	ロクロ かわらけ・大	底部片	—	—	(1.0)	[13]		黄灰	ナデ	板状	墨書
図16 104	鉄製品	不明	—	[13.4]	1.8	0.3	[39]					釘状具が貫通
図16 105	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口5/6〜 底完存	7.9	5.6	1.7	[52]	B	灰黄褐			口縁部1ヶ所打ち欠く 口縁部僅付着

() = 復元値 [] = 残存値

通物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/数値	内産 調整	外産 区画	出土遺構・ 出土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図16 106	石製品	硯	完形	8.1	4.5	1.1	61		暗赤褐			赤岡ヶ岡 鎌倉手 南円形内底面を再加工
図16 107	鉄製品	釘	完形	4.4	0.6	0.4	2					
図16 108	鉄製品	刀子	一端欠	[9.1]	1.2	0.2	7					
図16 109	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.4	6.0	1.7	49	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 110	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.1	5.0	1.8	42	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 111	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.6	6.1	1.5	49	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 112	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	8.1	5.7	1.8	51	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 113	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.2	5.0	1.7	57	B+E	黄灰	ナデ	板状	
図16 114	在土土器	口タロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.7	1.5	[40]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 115	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.9	5.6	1.7	45	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 116	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.8	5.7	1.7	42	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 117	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.7	5.6	1.8	48	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 118	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.3	4.7	1.8	41	B	橙	ナデ	板状	
図16 119	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.7	5.8	1.7	45	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 120	在土土器	口タロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	6.1	1.7	[39]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 121	在土土器	口タロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.1	5.6	1.8	[49]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 122	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	8.0	5.5	1.7	58	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 123	在土土器	口タロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.2	5.5	2.0	[50]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 124	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	7.9	5.3	1.6	50	B+E	灰黄	ナデ	板状	
図16 125	在土土器	口タロ かわらけ・大	完形	12.1	7.4	3.4	160	B	黄橙	ナデ	板状	
図16 126	在土土器	口タロ かわらけ・大	口3/4～ 底完存	12.3	7.5	3.3	[147]	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 127	鉄製品	刀子	完形	[18.3]	1.8	0.3	29					
図16 128	在土土器	口タロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.3	1.2	[38]	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 129	在土土器	口タロ かわらけ・小	1/2	7.7	4.7	1.2	[24]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 130	在土土器	口タロ かわらけ・小	口2/3～ 底完存	7.6	5.1	1.3	[31]	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 131	在土土器	口タロ かわらけ・小	3/4	7.6	5.3	1.2	[29]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 132	在土土器	口タロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	7.9	5.8	1.2	[32]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 133	在土土器	口タロ かわらけ・小	口1/3～ 底2/3	(7.6)	5.7	1.3	[17]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 134	在土土器	口タロ かわらけ・小	完形	8.1	5.8	1.4	44	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 135	在土土器	口タロ かわらけ・小	口3/3～ 底完存	7.8	5.4	1.3	[37]	B+E	橙	ナデ	—	
図16 136	在土土器	口タロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	5.4	1.3	[37]	C+E	橙	ナデ	板状	
図16 137	在土土器	口タロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.2	1.4	[34]	B+E	橙	ナデ	板状	
図16 138	在土土器	口タロ かわらけ・小	口4/5～ 底完存	8.0	5.6	1.4	[39]	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 139	在土土器	口タロ かわらけ・小	口3/4～ 底4/5	8.1	4.9	1.3	[37]	B+E	黄	ナデ	板状	
図16 140	在土土器	口タロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.8	1.4	[44]	B+E	灰黄	ナデ	板状	

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色顔料/薬品	内産調整	外産匠	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図16 141	在土土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.6	4.8	1.5	39	B+E	黄褐色	ナデ	板状	
図16 142	在土土器	ロクロかわらけ・小	1/3	(8.0)	(5.0)	1.5	[18]	B+E	緑	ナデ	板状	
図16 143	在土土器	ロクロかわらけ・小	1/2	7.8	5.4	1.5	[34]	B+E	黄褐色	ナデ	板状	
図16 144	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	4					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図16 145	鉄製品	釘	完形	5.0	0.7	0.3	3					
図16 146	石製品	硯	小片	[2.8]	[3.9]	0.7	[4.8]		暗灰			鳴滝硯
図16 147	在土土器	ロクロかわらけ・小	1/2	(7.7)	(6.2)	1.5	[29]	B	灰黄	ナデ	板状	
図16 148	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.6	0.1	4					淳化元寶 北宋960年 真書
図17 149	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					嘉定通寶 南宋1208年
図17 150	在土土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.2	5.6	1.8	[56]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 151	在土土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.0	5.2	2.1	[51]	B	灰黄	ナデ	一	
図17 152	在土土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.9	5.2	1.8	[52]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 153	在土土器	ロクロかわらけ・大	4/5	13.0	8.4	3.8	[172]	B	緑	ナデ	板状	
図17 154	舶載磁器	青白磁梅瓶	口頸部	3.5	—	[2.3]	[27]		水色半透明			
図17 155	石製品	砥石	一端欠	(6.1)	3.8	2.0	[47]		淡黄			
図17 156	在土土器	ロクロかわらけ・小	3/4	6.8	1.9	1.6	[24]	B	緑	ナデ	板状	C
図17 157	在土土器	ロクロかわらけ・中	3/5	10.9	6.0	3.2	[73]	C	灰黄	ナデ	板状	口縁部に煤付着 磨明墨として使用
図17 158	在土土器	ロクロかわらけ・中	1/2	(10.7)	(6.3)	3.0	[44]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図17 159	在土土器	ロクロかわらけ・大	4/5	11.6	6.8	3.2	[109]	C	灰黄	ナデ	板状	C
図17 160	在土土器	ロクロかわらけ・大	3/4	12.2	7.0	3.4	[154]	B	灰黄	ナデ	板状	
図17 161	銅製品	銭	完形	外径 3.1	方孔径 0.8	0.1	5					熙寧重寶 北宋1071年 真書
図17 162	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	2					皇宋通寶 北宋1038年 真書
図17 163	石製品	砥石	一端欠	[5.3]	3.5	0.9	[30.6]		黄褐色			主に1面使用
図17 164	在土土器	ロクロかわらけ・小	3/4	7.4	5.0	1.5	[39]	C+B	黄褐色	ナデ	板状	
図17 165	在土土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	8.0	5.2	2.0	[59]	C+E	黄灰	ナデ	板状	口縁部煤付着
図17 166	在土土器	ロクロかわらけ・小	口1/2~底完存	7.5	4.7	2.2	46	B	緑	ナデ	板状	ㄉ' 口縁部煤付着 口縁部打ち欠きㄎ
図17 167	在土土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.8	4.3	2.3	[49]	C	黄褐色	ナデ	板状	ㄉ' 煤付着 口縁部打ち欠きㄎ
図17 168	在土土器	ロクロかわらけ・大	口1/3~底完存	13.2	7.6	3.4	[181]	C+E	黄褐色	ナデ	板状	
図17 169	瓦質土器	火鉢	体片	—	—	12.2	[388]					菊花押印
図17 170	摺入土器	蹄付鍋	口小片	—	—	[4.9]	[46]		乳白			
図17 171	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.8	0.1	2					天聖元寶 北宋1023年 篆書
図17 172	銅製品	銭	一部欠	外径 2.3	方孔径 0.7	0.1	1					至和元寶 北宋1054年 真書
図17 173	在土土器	ロクロかわらけ・小	完形	7.8	5.5	1.5	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図17 174	在土土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.0	4.3	2.1	[39]	C	黄褐色	ナデ	板状	
図17 175	在土土器	ロクロかわらけ・小	ほぼ完形	7.2	4.3	2.0	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	

() = 復元値 [] = 残存値

通物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 系材/表面	内産 調整	外産 区系	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	総高さ						
図176	在土土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.4	4.2	2.2	[30]	C+E	緑	ナデ	—	底部2ヶ所に穿孔
図177	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	3.9	4.4	1.0	26		褐			
図178	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	3.8	5.2	1.1	27		緑			
図179	土製品	轉羽石	—	[9.8]	径 8.6	孔径 3.1	[350]		黄灰			先端にスラグ付着
図180	石製品	砥石	一端欠	[9.7]	3.8	1.1	[78]		灰赤～暗 灰			鴨居仕上紙
図181	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	6.0	1.9	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図182	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.6	1.5	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図183	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口2.3～ 底完存	7.7	5.3	1.8	[52]	B	緑	ナデ	板状	
図184	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.3	1.9	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図185	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.8	4.8	1.8	[52]	B	黄灰	ナデ	板状	
図186	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.4	1.9	[56]	B	黄灰	ナデ	板状	
図187	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口1/3～ 底完存	7.9	4.6	2.4	[56]	D	灰黄	ナデ	板状	
図188	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	4.7	2.5	[50]	C+B	黄緑	ナデ	板状	口縁部煤付着
図189	在土土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠 損	7.4	4.1	2.3	[37]	C	灰黄	ナデ	板状	内外面煤付着
図190	在土土器	ロクロ かわらけ・小	1/2	7.6	5.5	1.8	[28]	B	灰黄	ナデ	板状	底部2ヶ所に穿孔
図191	在土土器	ロクロ かわらけ・大	口2.5～ 底完存	(12.2)	7.0	3.0	[139]	B	黄緑	ナデ	板状	
図192	在土土器	ロクロ かわらけ・大	口2.3～ 底完存	12.2	6.4	3.6	[139]	C+B	黄緑	ナデ	板状	ㄱ
図193	在土土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.8	7.8	3.0	[119]	B	黄灰	ナデ	板状	
図194	在土土器	ロクロ かわらけ・大	口3.5～ 底完存	13.2	7.7	3.3	[148]	C+B	黄灰	ナデ	板状	ㄱ
図195	国産陶器	瀬戸 入子	口1.6～ 底完存	(5.1)	3.3	1.5	[15]		灰白			
図196	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	7.1	9.0	1.3	110		褐			
図197	石製品	砥石	両端欠	[7.0]	3.4	0.7	[30]		緑白			鴨居仕上紙
図198	石製品	砥石	一端欠	[3.9]	3.6	1.3	[33]		灰赤			産地不明仕上紙
図199	鉄製品	用途不明	小片	[10.5]	[5.6]	1.3	[144]					
図200	鉄製品	用途不明	一端欠	[4.0]	0.9	0.4	[5]					
図201	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.5	0.1	4					淳化元寶 北宋960年 真書
図202	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					天禧通寶 北宋1017年 真書
図203	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.8	0.1	4					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図204	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.7	0.1	2					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図205	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図206	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図207	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					天聖元寶 北宋1023年 真書
図208	在土土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	(7.8)	4.3	2.0	[49]	B	灰黄	ナデ	板状	体外面の一部、褐色に染色
図209	在土土器	ロクロ かわらけ・小	4/5	(7.6)	4.9	1.8	[51]	B	灰黄	ナデ	板状	
図210	在土土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	5.1	1.8	[46]	B	灰黄	ナデ	板状	

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色顔料/薬品	内産調整	外産匠痕	出土遺構・胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
国産陶器 19-211	東播系須恵器	片口鉢	口小片	—	—	[3.0]	[12]		灰			二次的に成熟カ
国産陶器 19-212	東播系須恵器	片口鉢	底小片	—	(7.6)	[2.0]	[106]		灰			
石製品 19-213	滑石磨転用	スタンプ	一端欠	[3.3]	3.4	1.8	[25]		白			鍋の内面側と鍋外面に陽刻文
銅製品 19-214	銭	銭	完形	外径	方孔径	0.6	4					元豊通寶 北宋1078年 篆書
在土土器 19-215	ロクロ	かわらけ・小	口1/8〜底完存	7.8	5.3	1.7	[49]	B	橙	ナデ	板状	
在土土器 19-216	ロクロ	かわらけ・小	口2/3〜底完存	7.4	4.7	2.0	[34]	C+B	黄橙	ナデ	—	ㄉ
在土土器 19-217	ロクロ	かわらけ・小	口縁部一部欠	7.6	5.0	2.2	[52]	C+E	黄橙	ナデ	板状	ㄉ
在土土器 19-218	ロクロ	かわらけ・小	口3/4〜底完存	12.7	8.2	3.4	[151]	B	黄橙	ナデ	板状	
在土土器 19-219	ロクロ	かわらけ・大	口欠〜底完存	—	7.7	3.5	[147]	B	黄橙	ナデ	板状	口縁部二次加工カ
国産陶器 19-220	瀬戸御堂	口1/4	(13.7)	—	[3.4]	[39]			灰			
国産陶器 19-221	東濃型山薬	底部片	(12.2)	(4.2)	4.0	[19]			灰			7型式 明和カ
石製品 19-222	砥石	両端欠	(12.9)	5.8	7.3	[539]			明赤灰			天喜寛延(16以降カ)
銅製品 19-223	銭	銭	完形	外径	方孔径	0.6	3					聖徳元寶 北宋1101年 行書
在土土器 19-224	ロクロ	かわらけ・小	口1/2〜底完存	7.6	5.4	1.7	[41]	B	黄橙	ナデ	板状	
在土土器 19-225	ロクロ	かわらけ・小	2/3	7.9	5.7	1.9	[43]	B	黄灰	ナデ	板状	
在土土器 19-226	ロクロ	かわらけ・大	口1/4〜底完存	12.2	7.6	3.1	[136]	C+E	黄橙	ナデ	板状	
国産陶器 19-227	常滑	転用研磨具	完形	4.3	6.2	0.8	31		灰			片口鉢1面片を再利用
石製品 19-228	滑石磨転用	スタンプ	完形	6.4	4.5	1.5	79		灰			
石製品 19-229	滑石磨転用	嵐石	一端欠	(7.5)	9.0	2.0	[273]		灰			
在土土器 19-230	ロクロ	かわらけ・小	完形	7.8	4.8	1.9	47	C+B	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
在土土器 19-231	ロクロ	かわらけ・小	完形	7.9	4.9	1.8	47	C+B	灰黄	ナデ	板状	
在土土器 19-232	ロクロ	かわらけ・大	口1/6〜底完存	(11.6)	7.9	2.9	[132]	B	灰黄陶	ナデ	板状	
在土土器 19-233	ロクロ	かわらけ・大	完形	12.0	7.9	3.4	162	B	橙	ナデ	板状	
在土土器 19-234	ロクロ	かわらけ・大	口3/5〜底完存	12.5	8.0	3.4	[168]	B	橙	ナデ	板状	口縁部2カ所に煤付着
石製品 19-235	砥石	両端欠	[8.2]	4.1	1.8	[101]			淡緑			上野中砥 4面使用
在土土器 20-236	ロクロ	かわらけ・大	完形	7.6	5.1	1.6	47	B	橙	ナデ	板状	ㄉ
在土土器 20-237	ロクロ	かわらけ・小	ほぼ完形	7.6	4.7	1.8	[48]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
石製品 20-238	砥石	両端欠	(6.8)	4.7	3.7	[172]			灰白			伊予中砥 4面使用
鉄製品 20-239	用途不明	板状	小片	[6.8]	[7.1]	0.3	[78]					
銅製品 20-240	銭	銭	1/2	外径	方孔径	0.6	[1]					銭種不明
銅製品 20-241	銭	銭	完形	外径	方孔径	0.7	3					元符通寶 北宋1098年 篆書
搬入土器 20-242	ロクロ	かわらけ・小	口1/8〜底2/3	(8.0)	(5.7)	1.6	24	異質	灰白			在土土器とは異なる胎土特徴(産前に近い感)
国産陶器 20-243	瀬戸	広口壺カ	小片	—	—	[4.8]	[85]		灰			中瀬様式前手貼花文 鉄輪流し掛け
石製品 20-244	磨石カ	一部欠	9.8	8.4	3.8	462			灰白			片面に焦げ
鉄製品 20-245	釘	完形	13.1	1.0	0.7	17						

() = 復元価 [] = 残存値

通物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内産 調整	外産 原産	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	総高・厚さ						
図20 246	鉄製品	釘	完形	8.2	0.7	0.4	5					
図20 247	鉄製品	釘	一端欠	[5.9]	0.8	0.4	[4]					
図20 248	鉄製品	釘	完形	4.9	0.5	0.6	4					
図20 249	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	3					開元通寶 唐621年 真書 背上月カ
図20 250	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.65	0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図20 251	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	3					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図20 252	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	3					銭種不明
図20 253	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	6.6	3.3	[157]	B	黄緑	ナデ	板状	内面一部褐色に黄色
図20 254	国産陶器	飛騨系須恵器 片口鉢	口小片	—	—	[3.2]	[33.2]		灰			
図21 255	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.7	2.0	[66]	B	黄灰	ナデ	板状	
図21 256	鉄製品	釘	一端欠	[4.1]	4.0	3.7	[2]					
図21 257	銅製品	銭	完形	外径 3.4	方孔径 0.8	0.3	10					崇寧通寶 北宋1102年 真書
図21 258	銅製品	銭	完形	外径 3.4	方孔径 0.8	0.2	10					崇寧通寶 北宋1102年 真書
図21 259	木製品	曲物底板	2/3	直径 11.4	—	0.4						
図21 260	在土土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.4	5.5	1.7	[44]	B	黄灰	ナデ	板状	
図21 261	在土土器	ロクロ かわらけ・中	一部欠	10.7	6.8	3.0	[110]	C+B	黄緑	ナデ	板状	底面外部に非貫通孔
図21 262	在土土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.9	1.5	47	B+E	明赤褐	ナデ	板状	二次的熱処理による大きな
図21 263	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	5.2	1.8	[46]	B	灰	ナデ	板状	一部が黒炭
図21 264	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.0	1.7	[38]	B	明赤褐	ナデ	—	
図21 265	在土土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.5	3.2	158	B	灰	ナデ	—	
図21 266	在土土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.1	7.1	3.0	[130]	B	赤褐	ナデ	—	底部中央に焼成後の穿孔
図21 267	在土土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.0	7.8	3.3	[178]	B	黄灰	ナデ	板状	
図21 268	在土土器	ロクロ かわらけ・大	4/5	12.3	6.3	3.9	[170]	B	灰	ナデ	板状	
図21 269	鉄製品	工具カ	一端欠 損	[14.6]	径 3.3	内径 1.8	[167]					空洞内に木質痕
図21 270	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.7	0.1	3					景祐元寶 北宋1034年 篆書
図21 271	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.6	0.1	3					熙寧元寶 北宋1068年 篆書
図21 272	骨製品	筭	一端欠	[9.1]	1.4	0.2	[3]					
図21 273	搬入土器	黒緑瓦器質 拵	口1/4~ 底1/3	(15.8)	(6.8)	4.4	[55]		灰白			
図22 274	在土土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	5.2	1.6	[43]	B	橙	ナデ	板状	
図22 275	在土土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.7	8.3	2.9	190	B	黄灰	ナデ	板状	
図22 276	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.6	0.1	3					怡平元寶 北宋1064年 篆書
図22 277	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.7	0.1	3					政和通寶 北宋1111年 篆書
図22 278	瓦質土器	火鉢	1/4	(34.0)	25.4	8.1	[1900]		暗灰			I類 内面から焼成後の穿孔4ヶ所
図23 279	在土土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.0	4.6	2.0	[33]	C+E	黄緑	ナデ	板状	ゞ 口縁部割れ口に煤付着
図23 280	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口1/4~ 底完形	7.5	4.3	1.8	[41]	B	黄灰	ナデ	板状	二次的熱処理による黒炭

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 黒材/灰濁	内産 調整	外産 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図23 281	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	5.2	2.1	[46]	C+E	橙	ナデ	板状	ㄷ
図23 282	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.3	1.7	61	B	灰黄	ナデ	板状	
図23 283	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.0	5.6	1.6	49	B+E	黄橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図23 284	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/3～ 底完存	7.0	4.5	2.1	[44]	C+B	灰黄	ナデ	板状	ㄷ
図23 285	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.9	4.1	2.2	[47]	C+E	橙	ナデ	板状	ㄷ
図23 286	在地土器	ロクロ かわらけ・中	口1/2～ 底完存	(9.4)	5.0	2.3	[62]	C+B	灰黄	ナデ	板状	C
図23 287	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.6	8.0	3.4	[174]	B	灰黄	ナデ	板状	
図23 288	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口小片	—	—	[2.5]	[11]		橙			口縁部外面へラ押し 輪花彫か
図23 289	国産陶器	瀬戸 入子	口1/2～ 底3/4	8.1	5.0	3.0	36]		灰			輪花型
図23 290	国産陶器	瀬戸 細皿	1/8	—	—	4.0	[70]					
図23 291	国産陶器	瀬戸 細皿	底3/4	—	6.7	[1.3]	[130]		明漆橙 ～灰			灰輪ハケ塗り
図23 292	国産陶器	常滑 片口鉢	口小片	—	—	[4.9]	[105]		赤褐			II類
図23 293	国産陶器	常滑 片口鉢	小片	—	—	[4.9]	[60]		赤褐			II類 内面スタンプ施文
図23 294	国産陶器	常滑 転用研磨具	小片	[11.1]	[9.4]	1.6	[247]		緑灰			研磨痕は側面のごく一部
図23 295	石製品	磯	一端欠	[6.0]	5.2	1.6	[99]		黒褐			鴨焼 方鏡型磯
図23 296	石製品	滑石 網船用 磯形	完形	6.9	4.8	2.2	105		灰			
図23 297	石製品	砥石	完形	9.5	7.6	5.4	531		白			伊予中砥
図23 298	石製品	砥石	両端欠	[7.6]	6.3	0.8	[62]		黄白			鴨焼仕上砥 16c以下か
図23 299	石製品	砥石	一端欠	[7.5]	[2.9]	0.9	[37]		灰白			鴨焼仕上砥
図23 300	石製品	砥石	一端欠	[5.0]	3.9	0.7	[21]		緑白			鴨焼仕上砥
図23 301	石製品	砥石	完形	2.0	3.6	1.0	14		明赤灰			鴨焼仕上砥
図23 302	鉄製品	釘	完形	[4.2]	0.3	0.3	[1]					
図23 303	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.8	0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年初铸 真書
図23 304	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	2					皇宋通寶 篆書
図23 305	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	3					皇宋通寶 北宋1086年 篆書
図23 306	木製品	漆塗り 曲物底板	一部欠	底径 19.0	—	0.3						上面黒色系漆、全体に割離
図24 307	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗	口～ 体1/8	(16.8)	—	[5.5]	[37]			淡緑 半透明		II類
図24 308	石製品	砥石	一端欠	[4.6]	2.3	1.5	[26]		淡緑			上野砥沢中砥
図24 309	鉄製品	釘	一端欠	[6.8]	0.3	0.2	2					
図24 310	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.2	5					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図24 311	国産陶器	常滑 転用研磨具	完形	5.2	7.5	1.2	55		暗褐			
図24 312	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.6	0.1	4					聖宋元寶 北宋1101年 篆書
図24 313	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	7.5	5.8	1.6	[44]	B	灰黄褐			二次的焼熱により黄色 口縁部煤付着
図24 314	舶載磁器	白磁 皿	口小片	—	—	[2.7]	[6]		白 透明			割れ口に黒色系煤付着
図24 315	舶載磁器	白磁 皿	口1/4～ 底1/2	(6.5)	2.1	1.2	[5]		白 透明			内面印花文

() = 復元値 [] = 残存値

通物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/敷面	内産 調整	外産 任意	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図24 316	石製品	砥石 研磨具カ	完形	4.1	3.5	3.0	9		灰褐色			全面を研磨に使用カ
図24 317	木製品	箸	完形	20.6	0.7	0.5						
図24 318	木製品	箸	完形	21.5	0.8	0.5						
図24 319	木製品	箸	完形	21.2	0.9	0.4						
図24 320	木製品	箸	完形	27.6	0.7	0.7						
図24 321	木製品	用途不明 棒状	完形	23.5	1.3	1.1						
図24 322	在地土器	ロクロ かわらけ・大	一部欠	11.6	8.2	3.2	[156]	B	黄灰	ナデ	板状	打ち欠き
図24 323	石製品	砥石	一端欠	[9.7]	3.9	2.0	[134]		灰白			伊予中砥 石目の振り方が近世的
図25 324	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.2	1.7	5.1	[44]	B	橙	ナデ	板状	
図25 325	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4~ 底完存	7.6	4.9	1.7	[48]	B	黄灰	ナデ	板状	
図25 326	在地土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	12.5	8.5	2.9	[120]	B	黄灰	ナデ	板状	
図25 327	石製品	砥石	両端欠	[5.5]	3.3	1.3	[39]		灰白			合掌寺中砥
図25 328	鉄製品	火打金	完形	8.4	2.0	0.4	[17]					
図25 329	鉄製品	釘	完形	8.3	0.5	0.7	9					
図25 330	鉄製品	釘	完形	6.5	0.4	0.3	3					
図25 331	鉄製品	火箸	一端欠	[12.0]	0.4	0.4	[7]					
図25 332	鉄製品	刀子	一端欠	[15.3]	1.4	0.3	[14]					
図25 333	鉄製品	刀子	一端欠	[16.0]	1.3	0.3	[14]					
図25 334	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.6	6.2	1.7	46	B	赤褐色	ナデ	板状	
図25 335	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.0	1.8	44	B	赤褐色	ナデ	板状	
図25 336	在地土器	ロクロ かわらけ・大	底小片	—	—	—	[8]	B	灰	ナデ	—	底部内面に墨書 判読不可
図25 337	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口4/5~ 底完存	7.2	5.6	1.2	[31]	B	橙	ナデ	板状	
図25 338	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3~ 底完存	6.9	5.0	1.5	[35]	B	黄褐色	ナデ	板状	
図25 339	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3~ 底完存	7.2	4.7	1.5	[32]	B	橙	ナデ	板状	二次的焼熱により黒変
図25 340	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2~ 底完存	7.8	4.8	1.6	[33]	B	灰黄	ナデ	板状	
図25 341	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2~ 底完存	7.9	5.1	1.6	[38]	B	橙	ナデ	板状	
図25 342	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	5.4	1.7	[48]	B	灰黄	ナデ	板状	二次的焼熱により変色
図25 343	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	8.1	5.6	1.8	50	B	橙	ナデ	板状	口縁部に突出部あり 故意かは不明
図25 344	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2~ 底完存	(7.5)	5.0	1.7	[43]	B	灰黄褐色	ナデ	板状	
図25 345	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口4/6~ 底5/6	7.3	4.7	1.7	[43]	B	灰黄	ナデ	板状	二次的焼熱により変色
図25 346	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	5.1	1.3	42	B+E	明赤褐色	ナデ	板状	口縁部煤付着
図25 347	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.4	1.7	[48]	B	橙	ナデ	板状	底部焼熱カ
図25 348	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.8	5.7	1.5	41	B	橙	ナデ	板状	
図25 349	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4~ 底完存	7.7	5.2	1.7	[45]	B	黄褐色	ナデ	板状	
図25 350	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4~ 底完存	7.5	4.7	1.7	[52]	B	黄	ナデ	板状	二次的焼熱

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内産 調整	外産 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図25 351	在地土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.7	5.9	1.4	43	C+B	黄緑	ナデ	板状	
図25 352	在地土器	ロタロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	(7.4)	5.0	1.7	[41]	B	灰黄	ナデ	板状	
図25 353	在地土器	ロタロ かわらけ・小	口3/4～ 底/10	7.9	5.6	1.7	[48]	B	緑	ナデ	板状	
図25 354	在地土器	ロタロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.8	1.8	[44]	B	灰黄	ナデ	板状	口縁部摩付着
図25 355	在地土器	ロタロ かわらけ・小	完形	7.7	5.8	1.5	45	C+E	緑	ナデ	板状	二次的被熱
図25 356	在地土器	ロタロ かわらけ・小	口5/6～ 底完存	7.6	5.8	1.5	[42]	B	明赤褐	ナデ	板状	
図25 357	在地土器	ロタロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.8	1.9	[58]	B	緑	ナデ	板状	二次的被熱
図25 358	在地土器	ロタロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	7.8	5.4	1.7	[40]	B	緑	ナデ	板状	二次的被熱により変色
図25 359	在地土器	ロタロ かわらけ・大	口5/6～ 底完存	11.9	7.8	3.0	[134]	B	緑	ナデ	板状	口縁部摩付着
図25 360	船載磁器	龍泉堂系青磁 碗	口1/7～ 底完存	(14.8)	4.4	(6.5)	[125]		洗緑 半透明			皿類
図25 361	船載磁器	白磁 碗皿	口1/7～ 底1/4	(11.0)	(6.4)	2.8	[26]		灰白 透明			皿類
図25 362	船載磁器	白磁 合子身	口1/5～ 底1/7	(7.0)	(5.9)	2.2	[10]		水青 透明			
図25 363	国産陶器	瀬戸 入子	1/4	(4.6)	(3.2)	1.1	[5]		緑灰			
図25 364	搬入土器	黒緑瓦器質 坪	1/3	(11.2)	(5.8)	2.4	[24]		暗灰	ナデ	板状	
図25 365	搬入土器	黒緑瓦器質 坪	1/3	(11.3)	6.4	3.2	[45]		灰	ナデ	板状	
図25 366	搬入土器	黒緑瓦器質 坪	ほぼ 完形	11.0	6.8	3.2	[55]		灰	ナデ	板状	
図26 367	石製品	硯	一端欠	12.7	1.7	[5.2]	[218]		黒			
図26 368	石製品	砥石	一端欠	21.1	5.2	4.0	[705]		暗灰			天草中砥
図26 369	石製品	砥石	一端欠	[13.2]	4.1	1.7	[123]		灰白			天草備水砥 13c～15c代 両側面の磨痕を磨り消し
図26 370	石製品	砥石	一端欠	[14.0]	4.1	2.0	[151]		灰			鴨塚仕上砥 (奥類)
図26 371	鉄製品	刀子	一端欠	9.3	0.9	0.2	[5]					
図26 372	鉄製品	釘	完形	6.1	1.8	0.7	4					
図26 373	鉄製品	釘	完形	5.9	0.6	0.4	2					
図26 374	鉄製品	釘	完形	4.1	0.3	0.4	2					
図26 375	鉄製品	釘	完形	4.8	0.8	0.5	3					
図26 376	鉄製品	釘	完形	8.3	0.8	0.6	5					
図26 377	鉄製品	釘	完形	6.7	0.8	0.6	3					
図26 378	鉄製品	釘	完形	4.9	0.5	0.5	4					
図26 379	銅製品	用途不明 覆状	完形	2.3	1.5	0.5	2					
図26 380	骨製品	筭	一端欠	[12.4]	1.2	0.2	[5]					
図26 381	木製品	箸	完形	17.8	0.6	0.6						
図26 382	木製品	箸	完形	19.5	0.7	0.5						
図26 383	木製品	箸	完形	20.2	0.7	0.3						
図26 384	木製品	箸	完形	20.2	0.7	0.5						
図26 385	木製品	箸	完形	20.4	0.7	0.5						

() = 復元値 [] = 残存値

通物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内産 調整	外産 任意	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図26 386	木製品	箸	完形	20.2	0.8	0.6						
図26 387	木製品	箸	完形	20.2	0.5	0.4						
図26 388	木製品	箸	完形	20.2	0.6	0.4						
図26 389	木製品	箸	完形	20.2	0.6	0.5						
図26 390	木製品	箸	完形	21.7	0.5	0.4						
図26 391	木製品	箸	完形	21.7	0.8	0.6						
図26 392	木製品	箸	完形	1.7	0.5	0.5						
図27 393	木製品	箸	完形	21.7	0.6	0.5						
図27 394	木製品	箸	完形	22.8	0.6	0.4						
図27 395	木製品	箸	完形	23.2	0.7	0.4						
図27 396	木製品	箸	完形	24.2	0.6	0.5						
図27 397	木製品	箸	完形	24.2	0.8	0.5						
図27 398	木製品	栓	完形	9.6	2.5	2.1						先端径1.5cm
図27 399	木製品	棒状木製品	完形	13.6	0.7	0.4						
図27 400	木製品	曲物底板	1/3	直径	—	1.3						
図27 401	木製品	有孔円板	一部欠	5.5	4.8	0.7						孔径0.7cm
図27 402	木製品	榎杖球	一部欠	4.2	4.5	3.8						
図27 403	木製品	漆塗り 雲形	一部欠	4.8	8.0	1.4						表裏黒色系漆
図27 404	木製品	漆塗り 雲形	一部欠	2.7	7.6	0.9						表裏黒色系漆
図27 405	銅製品	鏡	完形	外径 2.6	方孔径 0.7	0.1	4					伴符通寶 北宋1008年 真書
図27 406	銅製品	鏡	完形	外径 2.5	方孔径 0.8	0.1	3					嘉祐通寶 北宋1056年 真書
図27 407	銅製品	鏡	完形	外径 2.5	方孔径 0.9	0.1	3					元祐通寶 北宋1086年 行書
図27 408	在埋土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.3	5.4	1.7	55	B+E	暗灰黄	ナデ	板状	全体的に煤付着
図27 409	在埋土器	ロクロ かわらけ・中	ほぼ 完形	10.5	5.6	3.0	[100]	C	橙	ナデ	板状	C
図27 410	石製品	砥石	両端欠	[7.3]	3.9	0.9	[38]		灰白			鴨嘴仕上紙 漆で修復か
図27 411	鉄製品	釘	完形	7.3	0.8	0.4	[6]					
図28 412	在埋土器	ロクロ かわらけ・小	一部欠	7.4	5.0	1.8	[40]	B	橙	ナデ	板状	
図28 413	在埋土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.6	2.0	[54]	B	黄灰	ナデ	板状	口縁部歪み大
図28 414	在埋土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4~ 底完存	7.6	5.1	1.5	[43]	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図28 415	国産陶器	瀬戸 入子	2/3	(4.7)	(3.1)	1.2	[13]		灰			底部内面滑らか
図28 416	輸入土器	黒緑瓦器質 小片	1/2	(6.1)	(2.8)	2.5	[10]		灰~ 黒			
図28 417	在埋土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.6	6.4	1.3	[34]	C+B	黄橙	ナデ	板状	
図28 418	在埋土器	ロクロ かわらけ・大	口1/3~ 底7/8	(12.0)	7.9	3.2	[148]	B	灰黄	ナデ	板状	
図28 419	木製品	用途不明 紐み物部材か	完形	18.0	7.4	6.6						刺り孔径4.2cm
図28 420	在埋土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.4	5.4	1.5	[35]	B	黄橙	ナデ	板状	

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 黒材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図28 421	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.7	5.7	1.8	[49]	C+E	黄灰	ナデ	板状	
図28 422	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.7	5.8	1.9	56	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図28 423	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	7.6	5.2	1.6	[50]	B	黄灰	ナデ	板状	
図28 424	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口3/4～ 底完存	7.8	5.2	1.8	[60]	C+B	黄灰	ナデ	板状	
図28 425	在地土器	ロクロ かわらけ・小	完形	7.4	6.0	1.5	44	B	橙	ナデ	板状	
図28 426	在地土器	ロクロ かわらけ・小	2/3	8.0	6.1	1.6	[46]	B	黄灰	ナデ	板状	
図28 427	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	8.0	5.4	2.1	[59]	B	黄灰	ナデ	板状	
図28 428	在地土器	ロクロ かわらけ・大	完形	12.0	7.9	3.1	162	B	橙	ナデ	板状	口縁部煤付着
図28 429	在地土器	ロクロ かわらけ・大	1/2割	12.4	6.7	3.9	[85]	B	黄灰			口縁部煤付着
図28 430	在地土器	ロクロ かわらけ・大	一部欠	12.1	7.1	3.6	[133]	C+B	黄灰	ナデ	板状	外面煤付着
図28 431	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口欠	[11.7]	8.1	[2.5]	[189]	B	黄灰	ナデ	板状	外底面焼成後穿孔 貫通・非貫通孔各1ヶ所
図28 432	陶産陶器	瀝美 葉	口小片	—	—	(7.6)	[50]		緑灰			
図28 433	瓦質土器	火鉢	1/6	(42.4)	(30.0)	10.3	[535]		明茶褐			I A類
図29 434	石製品	砥石	両端欠	(9.0)	4.6	1.0	[74]		灰白			鳴滝仕上紙
図29 435	鉄製品	釘	完形	7.8	0.7	0.7	5					
図29 436	鉄製品	用途不明 板状	小片	[7.6]	[5.0]	0.6	[65]					
図29 437	銅製品	鏡	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	4					元豊通寶 北宋1078年 篆書
図29 438	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	5.6	1.5	[42]	B	橙	ナデ		
図29 439	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.6	6.5	1.6	[53]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 440	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.3	5.4	1.8	[45]	B	橙	ナデ		
図29 441	舶載磁器	白磁 碗	底3/4	—	5.0	[2.7]	[52]		灰 透明			
図29 442	鉄製品	釘	完形	6.1	0.5	0.4	4					
図29 443	鉄製品	釘	完形	5.6	0.2	0.3	1					
図29 444	鉄製品	釘	一端欠	[4.2]	0.3	0.3	[1]					
図29 445	鉄製品	釘	一端欠	[5.4]	1.0	0.9	[14]					
図29 446	木製品	漆塗り 盆	小片	[9.5]	[4.0]	1.0						内面朱塗 外面黒色系漆
図29 447	在地土器	ロクロ かわらけ・小	口1/4～ 底完存	7.6	5.0	2.0	[49]	B	黄橙	ナデ	板状	
図29 448	在地土器	ロクロ かわらけ・小	ほぼ 完形	7.5	6.4	1.5	[45]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 449	在地土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	7.8	6.1	1.6	[39]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 450	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/8～ 底完存	12.2	7.5	3.3	[148]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 451	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.2	8.1	3.0	[146]	B	橙	ナデ	板状	
図29 452	在地土器	ロクロ かわらけ・大	口1/3～ 底完存	(12.2)	7.5	3.4	[152]	B	黄灰	ナデ	板状	
図29 453	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.4	8.7	3.0	[156]	B	橙	ナデ	板状	内外面黒塗
図29 454	在地土器	ロクロ かわらけ・大	ほぼ 完形	12.5	8.3	3.1	[153]	B	橙	ナデ	板状	
図29 455	貝製品	漆パレット	一部欠	[6.4]	[6.8]	2.0						ハマグリ殻の内面に黒漆付着

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 系材/表面	内産 調整	外産 任意	出土遺構・ 胎土ほかの特長
				口径・長さ	底径・幅	総高さ						
図29 456	石製品	砥石	一端欠	(4.3)	2.0	2.3	[37]		淡緑			上野紙沢中砥 玉研ぎか
図29 457	鉄製品	火箸	一端欠	(20.0)	0.4	0.5	[19]					
図30 458	在土土器	ロクロ かわらけ・小	3/5	7.7	6.2	1.4	[45]	B	灰	ナデ	板状	
図30 459	在土土器	ロクロ かわらけ・小	3/4	8.0	5.2	1.9	[49]	B+E	黄灰	ナデ	板状	
図30 460	在土土器	ロクロ かわらけ・大	3/5	13.2	7.8	3.6	[160]	B	黄灰	ナデ	板状	
図30 461	鉄製品	毛抜き	完形	7.4	1.8	0.2 0.6	8					
図30 462	銅製品	銭	完形	外径 2.5	方孔径 0.6	0.1	3					紹聖元寶 北宋1094年 行書
図30 463	木製品	箸	完形	23.5	0.7	0.6						
図30 464	木製品	用途不明 棒状	完形	18.8	0.8	0.7						
図30 465	在土土器	手づくね かわらけ・小	完形	8.2	6.6	1.7	59	B	赤橙	ナデ	—	胎土に埋付く 底部の一部褐色に着色
図30 466	在土土器	ロクロ かわらけ・中	2/3	10.1	6.6	2.8	[73]	C	橙	ナデ	板状	ビ
図30 467	在土土器	ロクロ かわらけ・大	2/3	11.7	7.7	3.3	[125]	B	黄橙	ナデ	—	
図30 468	石製品	碓	一端欠	(6.8)	5.7	1.2	[65]		黒褐色			鳩尾碓
図30 469	鉄製品	用途不明	小片	[4.6]	[4.5]	0.7	[44]					
図30 470	鉄製品	釘	一端欠	(7.6)	1.1	0.7	[8]					
図30 471	鉄製品	刀子カ	一端欠	(9.5)	1.1	0.4	[10]					
図30 472	鉄製品	刀子カ	一端欠	(8.6)	1.0	0.3	[8]					
図30 473	土製品	有孔円盤	完形	2.5	2.1	1.0	5		黄橙			
図30 474	銅製品	銭	完形	2.4	0.6	0.1	3					皇宋通寶 北宋1038年 篆書
図30 475	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	4					大観通寶 北宋1107年 真書
図30 476	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口2/3～ 底完存	7.6	5.6	1.7	[52]	B+E	黄	ナデ	板状	
図30 477	在土土器	ロクロ かわらけ・小	口1/2～ 底完存	8.4	5.9	1.9	[55]	B+E	橙	ナデ	板状	
図30 478	国産陶器	常滑 片口鉢	口～ 体片	—	—	[7.4]	[194]		褐			II類
図30 479	国産陶器	瀬美 壺	体部片	—	—	[7.8]	[259]		灰			
図30 480	鉄製品	掛金具	完形	16.4	2.9	0.6	4					
図30 481	鉄製品	釣針カ	不明	2.3	2.1	0.2	1					
図30 482	石製品	墓石	完形	1.8	1.7	0.4	2		暗灰			
図30 483	鉄製品	用途不明 板状	小片	[6.1]	[3.2]	0.9	[39]					
図31 484	木製品	漆塗り 灯明台	台座 完存	上端径 10.2	下端径 6.0	高さ 4.7						納穴を除き全面黒色系漆塗り
図31 485	木製品	漆器 輪	—	—	(7.2)	[4.0]						内面朱漆でシギを手描き
図31 486	木製品	漆器 皿	4/5	9.3	6.2	1.5						内面朱漆で千鳥文を手描き
図31 487	木製品	漆器 皿	体部4/5	(9.4)	(7.2)	1.4						内全面黒色系漆地に朱漆
図31 488	木製品	漆器 皿	小片	(9.0)	(7.9)	1.5						内面朱漆で手描き文
図31 489	木製品	漆器 皿	1/2	(11.0)	(5.9)	2.4						内外面朱漆で波・花弁を手描き
図31 490	木製品	漆器 輪	体部片	—	—	[4.0]						内外面朱漆で龍目と帯・線で構成する文様を手描き

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	流量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内産 調整	外産 任成	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図31 491	木製品	漆器 皿	体部片	—	—	[1.2]						内面朱漆で洲浜・橘・松・不明 草文を手描き
図31 492	木製品	漆器 皿	1/2強	8.6	6.9	0.9						
図31 493	木製品	漆器 皿	口径3/4 底完存	9.3	7.3	1.4						内外面黒色系漆塗り
図31 494	木製品	漆器 椀	体へ 底1/2弱	—	(7.2)	[4.2]						内面朱漆で雲と菱?を手描き
図31 495	木製品	漆器 皿	口小片	—	—	[1.4]						内外面朱漆で植物文を手描き
図31 496	木製品	漆器 皿	1/4	(8.5)	(6.8)	0.9						内面朱漆で手描き施文
図31 497	木製品	漆器 皿	底部片	—	(5.6)	[0.4]						内面朱漆で竹垣・蔓草文を手 描き
図32 498	木製品	漆器 椀	体4/5	—	—	[4.4]						内外面朱漆で五弁花・双葉文 のスタンプ
図32 499	木製品	漆器 皿	—	[28.5]	—	1.4						内面朱漆 外面黒色系漆
図32 500	木製品	漆器 椀	4/5	(12.4)	(7.3)	3.5						内面朱漆塗り 外面朱漆でカ タバミ文を手描き
図32 501	木製品	漆器 皿	2/3	(9.0)	(6.3)	1.2						木地に下地彫が深く残る
図32 502	木製品	漆塗 蓋	ほぼ 完形	11.9	10.3	3.6						外面菊花文の平均径 3mm幅の銅覆で縁取り
図32 503	木製品	漆器 皿	2/3	(8.5)	(6.4)	1.3						内面朱漆で雲と実、背景に籠 目文を手描き
図32 504	木製品	漆器 皿	1/4	(9.0)	—	[1.2]						
図32 505	木製品	漆器 皿	小片	(9.0)	(6.3)	1.2						
図32 506	木製品	漆塗 盆	小片	[9.5]	[4.0]	1.0						内面朱漆 外面黒色系漆
図32 507	木製品	漆器 皿	2/3	(10.0)	(7.0)	1.1						内面朱漆の籠丸文スタンプ
図32 508	木製品	漆器 皿	3/4	9.8	6.5	1.4						
図32 509	木製品	漆器 皿	2/3	9.4	5.3	2.0						
図32 510	木製品	柳	両端欠	[5.9]	3.7	0.9						
図32 511	鉄製品	用途不明 環状	完形	6.3	7.9	0.9	43					表面黒色系漆塗り 表面キザミ文様

遺物番号	種別	器種	残存率	流量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内産 調整	外産 任成	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ						
図24 補1	銅製品	銭	完形	外径 2.3	方孔径 0.6	0.1	4					葛柿元寶 北宋1056年 真書
図24 補2	銅製品	銭	完形	外径 2.4	方孔径 0.7	0.1	4					元豊通寶 北宋1078年 行書

第六章 調査成果のまとめ

今回の調査では、中世に属する4枚の遺構面を確認し、概ね鎌倉時代後半における土地利用の変遷を追うことができた。現在の地表面から深いレベルでの検出となり、当初計画のままでは掘削位置が不足する状況が生じたため、安全面への配慮から、下位の遺構面ほど掘削範囲を狭めて調査する結果となった。こうした状況のため、各面の遺構展開については限定的とならざるを得なかったが、溝や柱穴などの展開から、全時期を通じて土地区画の軸線が一定であったことを確認でき、この規制に基づいて簡素な建物などの構築・改修を繰り返していた状況が把握できた。

最も新しい1 a面では、Ⅱ・Ⅲ区の東部において西側よりも一段高い整地面が設けられ、この面上に浅い小穴が一定の軸線に沿って並んでいた。現地調査時には基壇上の礎石抜き取り穴と考えていたが、各穴の間隔が狭く、また不揃いであったことから、本報告では建物痕跡の他、常滑甕などを据え置いた貯蔵穴としての可能性にも言及した。Ⅱ区南東隅の溝1上層で出土した常滑甕（広口壺＝図12-5）は、その名残かもしれない。常滑6b～7型式に当たり、この所産年代である13世紀後葉～14世紀前葉を1 a面の大よその上限年代として比定することができようか。小穴には鎌倉石や伊豆石をとまなう例も見られたので、ここに礎石建ちの上屋建物が存在した可能性は排除しないでほしい。

1 b面の溝1 bは2面溝1を踏襲し、さらに1 a面の溝1に続く。この埋土中から出土した瀬戸鉦皿（図12-15）は前Ⅲ様式と見られるので、1 b面は、この所産年代である13世紀第3四半期を上限年代として考えることができる。

2面では、小規模な溝や板壁（土留め板）で仕切られた整地面が検出された。Ⅱ区西部では土間状の精緻な硬化面を確認していることから建物内部であった可能性が考えられるが、建物本体を支えるための遺構を確認できていないため、断言はできない。ⅠC区土坑1では、埋土の有機質（繊維質）腐植土から箸などの木製品とともに、完形に準じたロクロかわらけ小皿が一定量出土している。口径7cm台の前半でまとまりをもち、3 b面のかかわり集中例より、わずかに小さい傾向が見られる。4面土坑4の一括出土例は、既述のとおり低平で体部の開きが大きいことから、変化の幅としては小さいが、4面→3 b面→2面と続くロクロかわらけ小皿の型式差を読み取ることができる。他の窯産品が共伴しないため年代観を絞り込むことは難しいが、4面直上では手づくねかわらけ小皿の完形資料が1点のみが出土しているので（図30-465）、4面を手づくね生産が終了する際の時期に位置付けることができるかもしれない。その年代観については研究者間で見解が分かれるが、大よそ13世紀中葉～後半の中で捉える見方が大勢的であろう。

4面を中世における当地点の土地利用開始期と捉え、先述した1 b面の年代観との相対で考えれば、13世紀中葉に当てることができようか。続く3 b面→3 a面は13世紀後半における変遷と捉え、2面→1 b面を13世紀後葉～末、1 a面を14世紀初頭～前葉という時期に当て、南北朝～室町時代に形成された層序は、後世の耕作などによって削平された可能性を考えている。土地利用の開始期については、鎌倉税務署用地の発掘調査（図1-地点③）でも同様の所見が示されているので、当地点周辺では共通した遺跡動向として認識しておきたい。他方、同地点では南北朝～室町期における遺構展開も把握されているので、第二章で述べたような、当該期の佐助ヶ谷に鎌倉府要人の居館があったとする史料を一定程度は裏付ける成果といえるだろう。今後、谷戸内での調査成果の蓄積に留意したい。

第二章で述べたように、本地点の西隣地である図1-地点⑥では佐助川の旧流路と思しき中世段階の

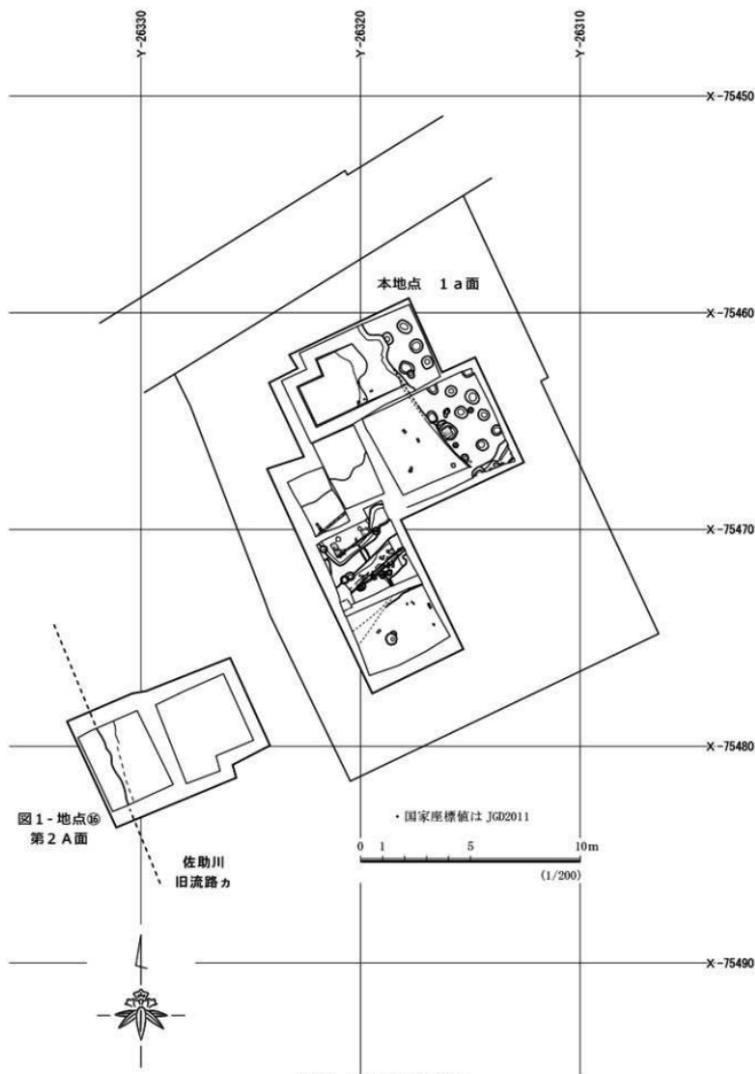


图 33 隣接地点合成図

落ち込みが検出されている。本地点の調査前は、この東岸となる落ち込みが検出される可能性を考えていたが、予測通りの結果とはならなかった。本地点と地点⑤の調査区間に挟まれた5mほどの未調査域に東岸の立ち上がりがあったことになるだろう。⑤では標高12.1m前後の第2A面のほぼ全域が河川の埋土であったというから、高低差を考慮すると本地点の1a面か、それより上位の遺構面に対応する河川であった可能性が考えられる。ちなみに、地点⑤の中世基盤層検出レベルは、最も高いところで11.3mを測り、本地点のV層検出レベルに比べて20cmほど高く、河川はさらに下位のレベルへと落ち込む。地点間の層序については明確な対比が難しいが、中世基盤層の高い側に河川が流れていたことになるから、中世には人工的な流路の改変・固定がなされていた可能性も想定できよう。

図33には、試みに本地点-1a面と地点⑤-第2A面の遺構図を合成して示した。

(参考文献は、表2および第一章末に掲載した)



1. 発掘調査着手前（北から）



2. I区 表土掘削状況（南西から）



3. I A区 1b 面 全景（南西から）



4. I A区 1b 面下 全景（南西から）

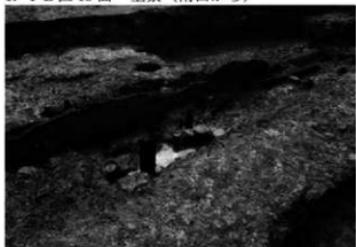


5. I A区 2 面下 全景（南から）

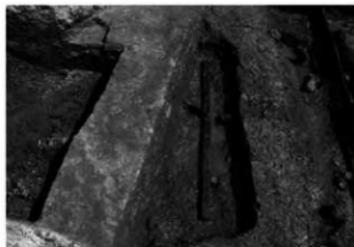
図版 2



1. 1 B区 1b面 全景 (南西から)



2. 1 B区 1b面 溝 1b 護岸材 (北東から)



3. 1 B区 1b面 竪穴 1 (西から)



4. 1 B区 1b面下 全景 (南西から)



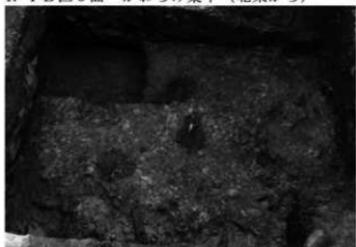
5. 1 B区 2面下時 竪穴 1 基礎部分 (南西から)



1. 1 B区 3面 かわらけ集中 (北東から)



2. 1 B区 3面 かわらけ集中 (北から)



3. 1 B区 3面 遺構プラン (北東から)



4. 1 B区 3面 遺構プラン (南西から)



5. 1 B区 3面 全景 (南西から)

図版 4



1. I B区4面 全景 (北西から)



2. I C区1b面 全景 (北東から)



3. I C区2面 全景 (南東から)



4. I C区2面下 全景 (南西から)



5. I C区2面下 遺物出土状況 (漆器蓋)



1. IC区3面 全景(南西から)



2. IC区4面 全景(南西から)

図版 6



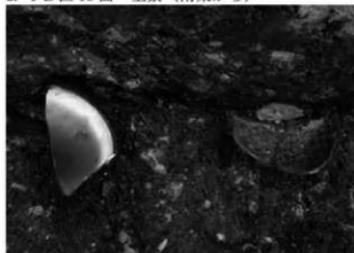
1. 1D区1b面 全景 (南西から)



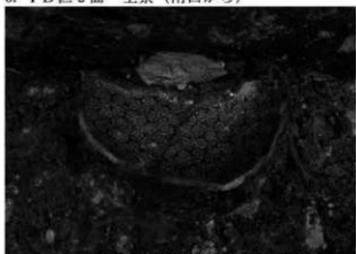
2. 1D区1b面 全景 (南東から)



3. 1D区2面 全景 (南西から)



4. 1D区2面上 遺物出土状況 (南西から)



5. 1D区2面上 遺物出土状況 (漆器碗)



6. 1D区3面 全景 (南西から)



7. 1D区4面 全景 (北東から)



8. 1D区4面上 遺物出土状況 (かわらけ)



1. II区1a面 遺構プラン(北西から)



2. II区1a面時 作業状況(南西から)



3. II区1a面 全景(北西から)



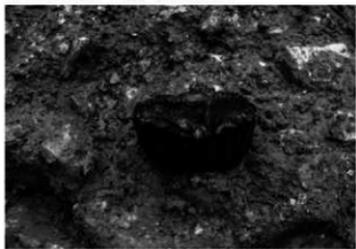
4. II区1a面 溝1a 遺物出土状況(常滑甕)



5. II区1a面 切石検出状況



1. II区1b面 全景（北西から）



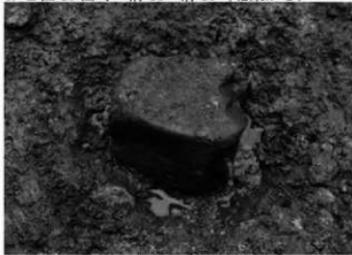
2. II区1b面 遺物出土状況（捺器台座）



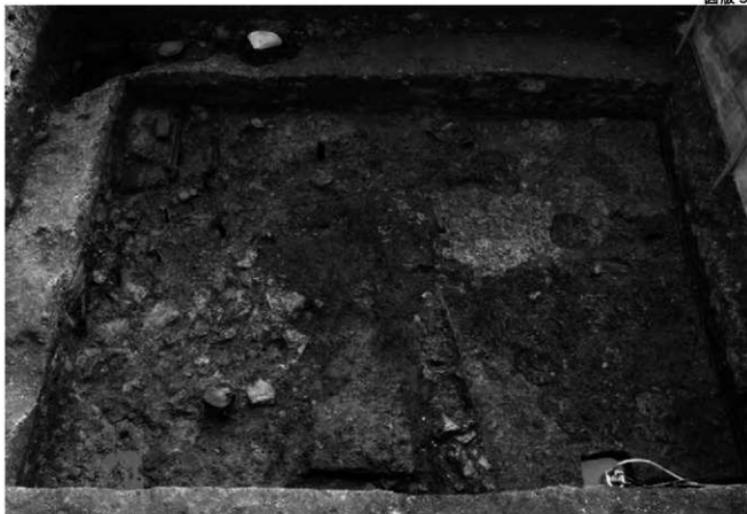
3. II区1b面時 溝1b・溝1c（北東から）



4. II区1b面時 溝1b・溝1c（北から）



5. II区1b面 遺物出土状況（鯨椎骨）



1. II区2面 遺構プラン (北西から)



2. II区2面 全景 (北西から)



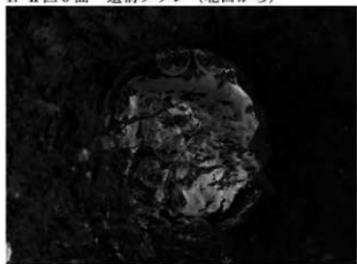
1. II区 2面下 全景 (北西から)



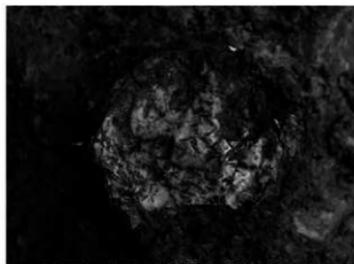
2. II区 3面炭層上 全景 (北西から)



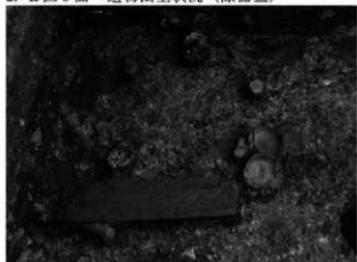
1. II区3面 遺構プラン (北西から)



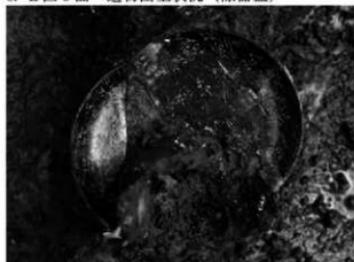
2. II区3面 遺物出土状況 (漆器皿)



3. II区3面 遺物出土状況 (漆器皿)



4. II区3面 遺物出土状況



5. II区3面 遺物出土状況 (漆器皿)

図版 12



1. II区3面 全景(北西から)



2. II区4面 全景(北西から)



1. III区 1a 面 全景 (北西から)



2. III区 1a 面 全景 (南西・低位から)

図版 14



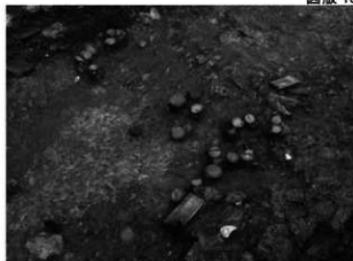
1. III区2面 全景（北西から）



2. III区3面 全景（北西から）



1. III区3面 全景（北東から）



2. III区3面上 遺物出土状況（南から）



3. III区3面上 遺物出土状況（東低位から）



4. III区4面上 遺構検出状況（北東から）



5. III区4面 遺構プラン（北西から）



1. III区4面 全景(北西から)



2. III区4面 全景(南西から)



1. III区4面 ビット内 礎板と柱材 (北西から)



2. III区4面上 遺物出土状況 (北低位から)



3. III区4面下 (北東から、ビットは3・4面遺構)



4. III区南壁 土層断面 (北西から)



5. III区東壁 土層断面 (南西から)



Ⅱ区 1a面 ピット7

図 12-2



Ⅱ区 1a面 溝 1a



7



8



9

I B区 1b面 溝 1b



11



13



14



図 13-17



20

I B区 1b面

19 竪穴 1



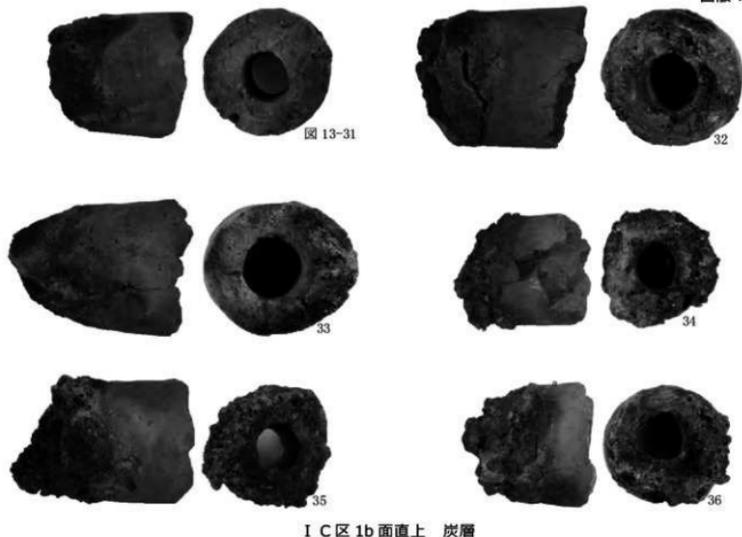
21



27

I B区 1b面 竪穴 2

縮尺：約 2/5



I C 区 1b 面直上 炭層



I D 区 1b 面
土坑 3

II 区 1b 面
板壁 1

I B 区 2 面 溝 1

I B 区 2 面 溝 1 下層

I C 区 2 面直上
落ち込み

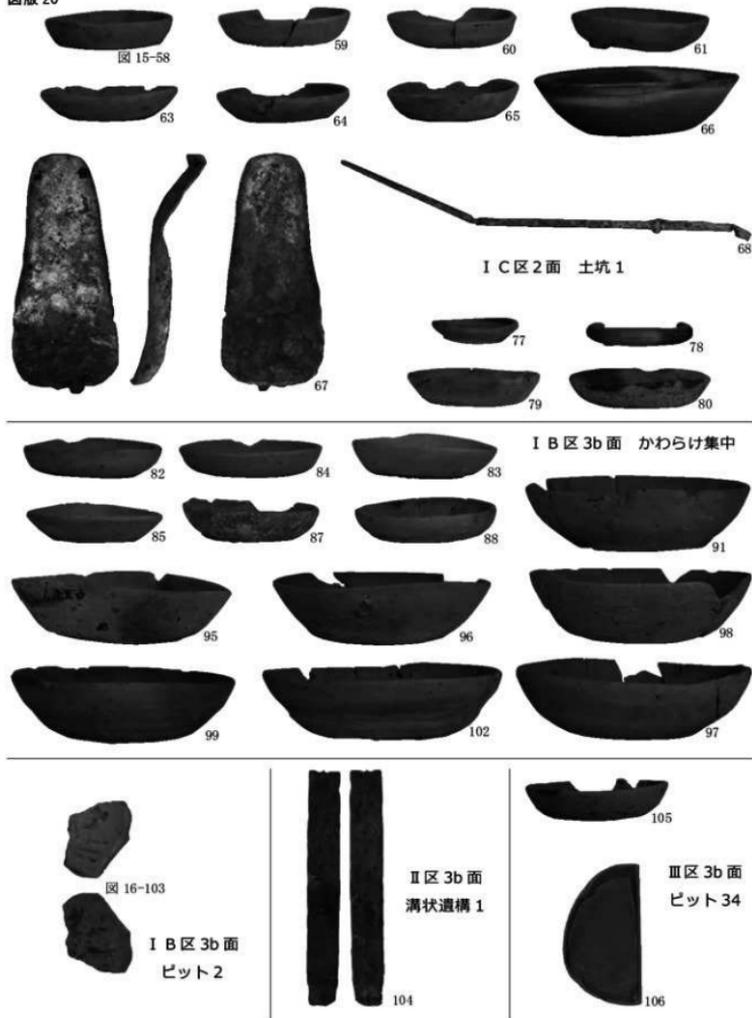
II 区 2 面 溝 3

II 区 2 面 北西部土間状

I A 区 3a 面
土坑 1

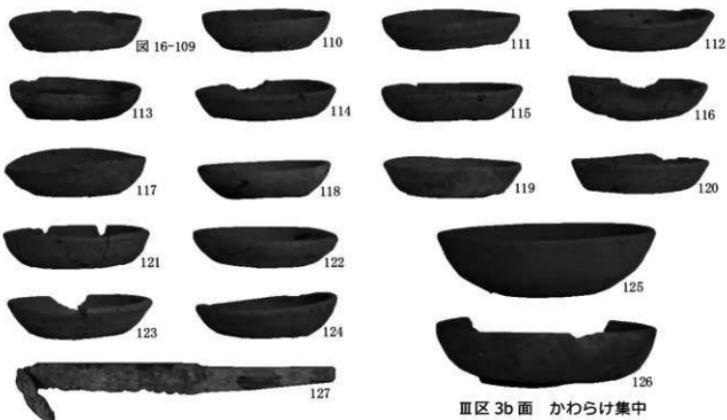
縮尺：約 2/5

図版 20



縮尺：約 2/5

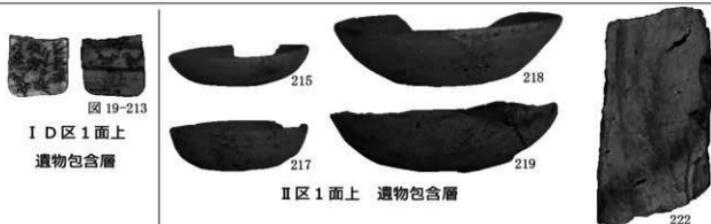
(67 は実寸大)



图版 22

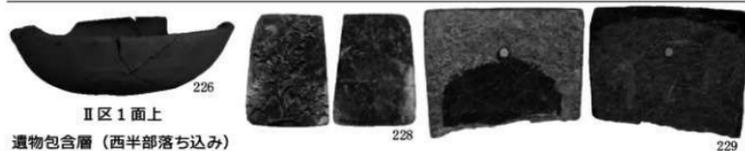


I C 区 1 面上 遺物包含層



I D 区 1 面上
遺物包含層

II 区 1 面上 遺物包含層



II 区 1 面上

遺物包含層 (西半部落ち込み)



III 区 1 面上

遺物包含層 (西半部落ち込み)



図 20-236

237

242

238

II 区 1a-1b 面

I C 区 1b 面直上

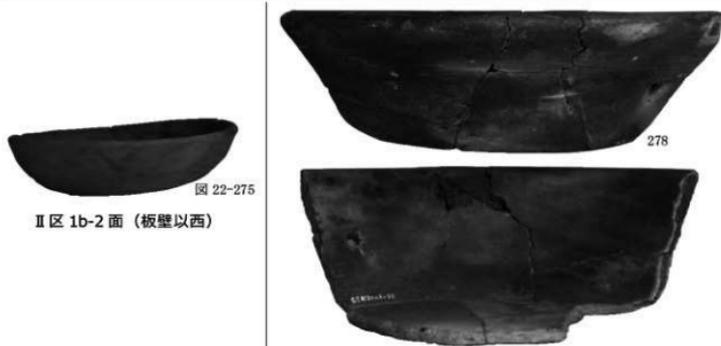
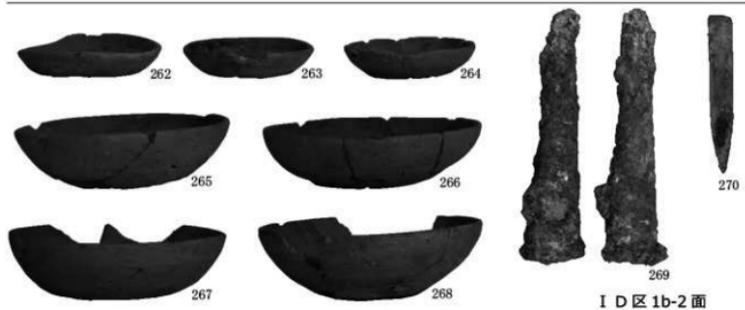
243

244

I D 区 1b 面上

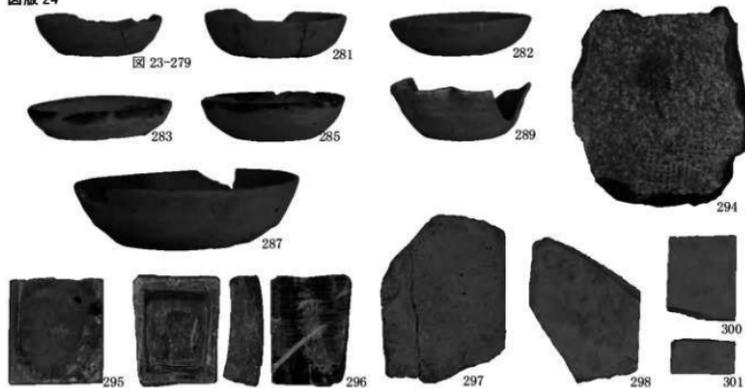
253

縮尺：約 2/5



縮尺：約 2/5 (257・258 は実寸大)

図版 24

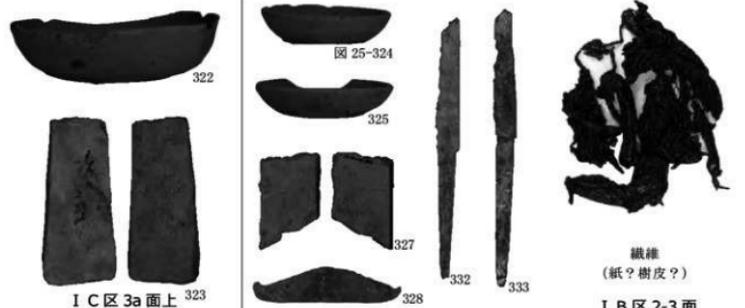


Ⅲ区 1b-2 面



Ⅲ区 1b-2 面 +3-4 面

Ⅲ区 2 面上 まぐそ層



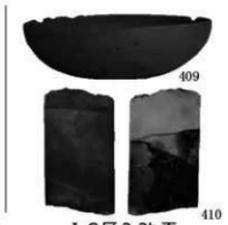
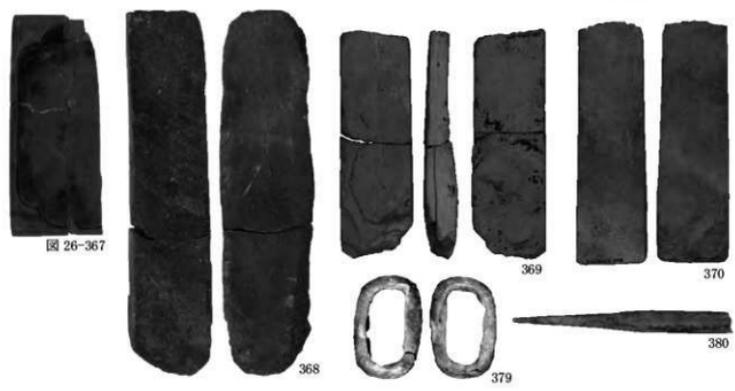
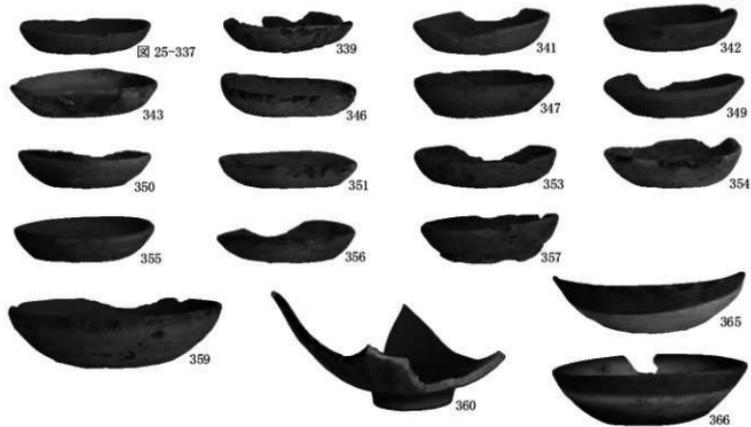
I C 区 3a 面上 323

織維
(紙? 樹皮?)

I B 区 2-3 面

I D 区 2-3 面

縮尺：約 2/5

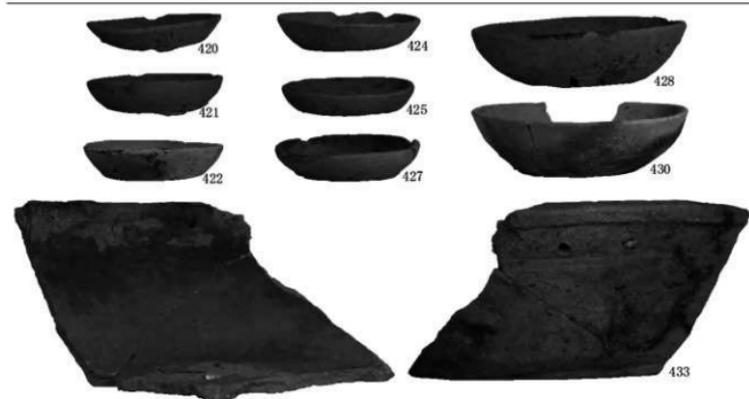


Ⅲ区 2-3 面

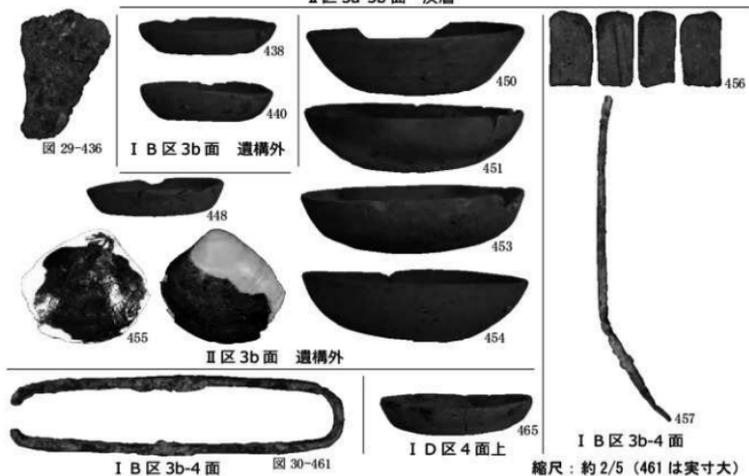
I C 区 2-3b 面

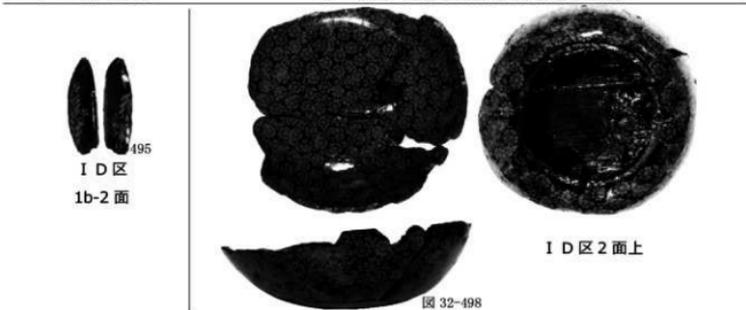
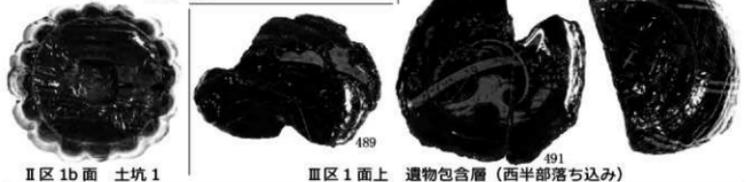
縮尺：約 2/5 (379 は実寸大)

图版 26



II 区 3a-3b 面 炭層





縮尺：約 2/5

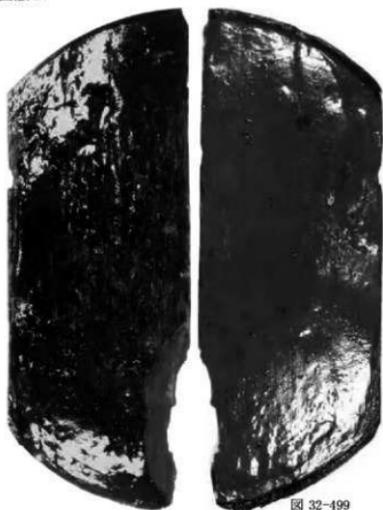


图 32-499

Ⅱ区 2 面上 (板壁 1 以西)



I C 区 2-3 面

502

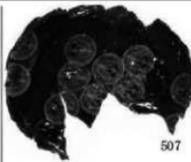


I B 区 3b 面上

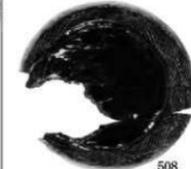
506



Ⅲ区 3b-4 面



507



508

Ⅲ区 3b 面上



Ⅲ区 4 面上

511

縮尺：約 2/5 (502・511 は約 1/2)

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちようさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	令和3年度調査報告							
巻次	38 (第2分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	押木弘巳/押木弘巳							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-0012 鎌倉市御成町12番18号							
発行年月日	西暦2022年3月25日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
むさしおおじしゅうへんいせき 武蔵大路周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 扇ガ谷三丁目 451番の一部	14204	194	35° 19' 38"	139° 32' 57"	20191210 ～ 20200508	96.35	個人専用住宅 (住状改良工事)
さすけがやついでせき 佐助ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市 佐助一丁目 601番6	14204	203	35° 19' 9"	139° 32' 37"	20200901 ～ 20201225	113.00	個人専用住宅 (鋼管杭工事)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
むさしおおじしゅうへんいせき 武蔵大路周辺遺跡	都市 城館跡	中世	築地状遺構・井 戸・溝・土坑・土 間状遺構・切石 列・囲壁	土器・陶磁器・金属製 品・木製品・漆器	東西・南北の築地状 遺構で仕切られた区 画を確認。1000個体 を超えるかわらけ集 積や、優美な漆器・ 木製形代などを検 出。
さすけがやついでせき 佐助ヶ谷遺跡	城館跡 社寺跡	中世	掘立柱建物・溝・ 竪穴状遺構・土坑	土器・陶磁器・金属製 品・木製品・漆器	旧佐助川東岸の平坦 地に4枚の中世遺構 面を形成。金属製の 縁皿とツマミを付けた 平毒絵の漆器蓋は 優品。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 38

令和3年度発掘調査報告

(第2分冊)

発行日 令和4年(2022年)3月25日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 丸庄有限会社

第2分冊 正誤表

箇所	誤	正
143頁 図53 1253	残存率：完形	残存率：3/4